

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第596集

こ や の
小屋野遺跡発掘調査報告書

築川ダム建設事業関連遺跡発掘調査

2012

岩手県盛岡広域振興局土木部築川ダム建設事務所
(公財) 岩手県文化振興事業団

小屋野遺跡発掘調査報告書

築川ダム建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、築川ダム建設事業に関して平成21・22年度に発掘調査された盛岡市小屋野遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。今回の調査により、本遺跡には縄文時代後期を主体とする集落跡が存在することが明らかとなりました。これは、本遺跡のみならず、築川流域における縄文期の集落様相や変遷を考える上で貴重な資料となるものであります。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県盛岡地方振興局土木部築川ダム建設事務所、盛岡市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成24年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 池田 克典

例 言

- 1 本報告書は、岩手県盛岡市川目第5地割122-82ほかに所在する小屋野遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、築川ダム建設事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県盛岡広域振興局土木部築川ダム建設事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、岩手県盛岡地方振興局土木部築川ダム建設事務所の委託を受けた(財)岩手県文化振興事業埋蔵文化財センター（平成23年4月1日から公益財団法人）が実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳における遺跡番号はLE28-0263、遺跡略号はYKN-09・YKN-10である。
- 4 調査に関わる期間、面積、担当者は次のとおりである。

平成21年度

野外調査…期 間：平成21年8月3日～11月13日

面 積：2,780㎡

担当者：丸山浩治、鳥居達人、北村忠昭、小林弘卓

室内整理…期 間：平成21年11月2日～平成22年3月31日

担当者：丸山浩治、鳥居達人

平成22年度

野外調査…期 間：平成22年7月20日～11月17日

面 積：6,030㎡

担当者：濱田 宏、丸山直美、菅野 梢

室内整理…期 間：平成22年11月1日～平成23年3月31日

担当者：濱田 宏

- 5 報告書の執筆は、第I章を岩手県盛岡広域振興局土木部築川ダム建設事務所、Ⅱ～Ⅳ章の一部を丸山が行い、それ以外は編集・構成を含め濱田が担当した。
- 6 試料の分析・鑑定は次の機関・団体に委託した。
放射性炭素年代測定（AMS測定）……………株式会社加速器分析研究所
炭化種子・種実同定……………古代の森研究舎
石器石材鑑定……………花崗岩研究会
- 7 調査および報告書作成にあたり、次の方から御指導・ご助言をいただいた。
佐藤山起夫（岩手大学）、佐藤宏之（東京大学）
- 8 発掘調査資料は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 9 調査成果は当センターホームページ、調査概報等に発表してきたが、本書の内容が優先するものである。

凡 例

1 遺構実測図の用例は下記のとおりである。

(1) 遺構実測図の縮尺は基本的に次のとおりである。ただし一部異なるものもあるため、各図にスケールおよび縮尺を付した。

竪穴住居・土坑・溝断面	1 : 50
土器埋設遺構・焼土遺構・炭化物集中・カマド状遺構	1 : 30
溝・小溝群	1 : 100および1 : 200

(2) 推定線は破線で示した。

(3) 層位の表記には、基本層序にローマ数字、各遺構埋土に算用数字を使用した。

(4) 土層色調の観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。混入物量(%)の目安もこれを参考にした。

(5) 図面中の土器は「p」、石器および礫は「s」の略号で表記した。

(6) 挿図中で使用した網掛けおよびスクリーントーンの主な用例は図中に示したとおりである。

2 遺物実測図の用例は下記のとおりである。

(1) 各遺物の縮尺は基本的に次のとおりである。ただし一部異なるものもあるため各図にスケールおよび縮尺を付した。

土器	1 : 3および1 : 4
ミニチュア土器・土製品・石製品・鉄製品	1 : 2
剥片石器・銭貨	2 : 3
礫石器	1 : 3

(2) 計測値は、残存値の場合()で表記した。

3 国土地理院発行の地形図を転載したものは、図中に図幅名と縮尺を付した。

4 引用・参考文献は巻末にまとめて記した。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と環境	2
1 遺跡の位置	2
2 地形と地質	2
(1) 地形	2
(2) 地質	4
3 基本層序	4
4 周辺の遺跡	4
III 調査と整理の方法	10
1 野外調査	10
(1) 作業経過	10
(2) グリッド・基準点の設定	11
(3) 粗掘・遺構検出	11
(4) 遺構の調査方法	12
(5) 遺構の名称	12
(6) 写真撮影	12
2 室内整理	14
(1) 作業経過	14
(2) 遺物の整理方法	14
(3) 写真撮影	15
IV 検出遺構	20
1 竪穴住居	20
2 土坑	33
3 土器埋設遺構	62
4 焼土遺構	63
5 炉跡	71
6 炭化物集中	72
7 カマド状遺構	73
8 小溝群	85

9	溝	85
10	集石	90
11	柱穴状土坑	93
V 出土遺物		96
1	土器・土製品	96
2	石器・石製品	98
3	鉄製品	99
VI 自然科学的分析		170
1	平成21年度 小屋野遺跡における放射性炭素年代測定 (AMS測定)	170
2	平成22年度 小屋野遺跡における放射性炭素年代測定 (AMS測定)	173
3	岩手県盛岡市小屋野遺跡出土テフラの同定について	174
4	小屋野遺跡から出土した炭化種実	176
VII 総括		178
1	遺物	178
2	遺構	178
報告書抄録		249

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧	8	第4表	柱穴状土坑一覧表	93
第2表	第1・2次調査遺構番号表	12	第5表	土器・土製品・鉄製品観察表	161
第3表	第1・2次調査新旧遺構名対応表	13	第6表	石器・石製品観察表	168

図 版 目 次

第1図	遺跡の位置(1)……………	1	第42図	RF031~035・040・042・044焼土遺構……………	83
第2図	遺跡の位置(2)……………	2	第43図	RF033・034・036~041焼土遺構・ RF043炉跡……………	84
第3図	周辺の地形……………	3	第44図	RG001小溝群……………	86
第4図	基本層序……………	5	第45図	RG001・002・004~006溝……………	87
第5図	地形分類図……………	6	第46図	RG002~006溝……………	88
第6図	周辺の遺跡……………	7	第47図	RH001・002・005集石……………	91
第7図	基準点・グリッド・トレンチ配置図……………	16	第48図	RH003・004集石……………	92
第8図	遺構配置図……………	17	第49図	柱穴状小土坑群(1)……………	94
第9図	遺構配置図-部分図①……………	18	第50図	柱穴状小土坑群(2)……………	95
第10図	遺構配置図-部分図②……………	19	第51図	土器・土製品(1)……………	100
第11図	RA001竪穴住居……………	21	第52図	土器・土製品(2)……………	101
第12図	RA002竪穴住居……………	22	第53図	土器・土製品(3)……………	102
第13図	RA003竪穴住居……………	24	第54図	土器・土製品(4)……………	103
第14図	RA004(1)竪穴住居……………	25	第55図	土器・土製品(5)……………	104
第15図	RA004(2)竪穴住居……………	27	第56図	土器・土製品(6)……………	105
第16図	RA005竪穴住居……………	28	第57図	土器・土製品(7)……………	106
第17図	RA006竪穴住居……………	29	第58図	土器・土製品(8)……………	107
第18図	RA007・008竪穴住居……………	31	第59図	土器・土製品(9)……………	108
第19図	RA009竪穴住居……………	32	第60図	土器・土製品(10)……………	109
第20図	RD001~007土坑……………	34	第61図	土器・土製品(11)……………	110
第21図	RD002・004~007土坑……………	37	第62図	土器・土製品(12)……………	111
第22図	RD008~010・013土坑……………	39	第63図	土器・土製品(13)……………	112
第23図	RD011・012・017・018土坑……………	41	第64図	土器・土製品(14)……………	113
第24図	RD014~016・019・020・032土坑……………	43	第65図	土器・土製品(15)……………	114
第25図	RD021・023~025・029・035・036土坑……………	45	第66図	土器・土製品(16)……………	115
第26図	RD022・026~028・041土坑……………	47	第67図	土器・土製品(17)……………	116
第27図	RD030・031・033・034土坑……………	50	第68図	土器・土製品(18)……………	117
第28図	RD037~039・042・046・ 054・055・059・060土坑……………	52	第69図	土器・土製品(19)……………	118
第29図	RD040・043・044・050・051土坑……………	55	第70図	土器・土製品(20)……………	119
第30図	RD045・047~049・052・053・057土坑……………	57	第71図	土器・土製品(21)……………	120
第31図	RD056・058土坑……………	60	第72図	土器・土製品(22)……………	121
第32図	RP001・002土器埋設遺構……………	62	第73図	土器・土製品(23)……………	122
第33図	RF001・007~010焼土遺構……………	74	第74図	土器・土製品(24)……………	123
第34図	RF002~004・014焼土遺構……………	75	第75図	土器・土製品(25)……………	124
第35図	RF005・006・011~013焼土遺構……………	76	第76図	土器・土製品(26)……………	125
第36図	RF015~018炭化物集中……………	77	第77図	土器・土製品(27)……………	126
第37図	RF019カマド状遺構……………	78	第78図	土器・土製品(28)……………	127
第38図	RF020カマド状遺構……………	79	第79図	土器・土製品(29)……………	128
第39図	RF021焼土遺構……………	80	第80図	土器・土製品(30)……………	129
第40図	RF022~025焼土遺構……………	81	第81図	土器・土製品(31)……………	130
第41図	RD026~030焼土遺構……………	82	第82図	土器・土製品(32)……………	131

第83回	土器・土製品 (33)	132	第98回	石器 (4)	147
第84回	土器・土製品 (34)	133	第99回	石器 (5)	148
第85回	土器・土製品 (35)	134	第100回	石器 (6)	149
第86回	土器・土製品 (36)	135	第101回	石器 (7)	150
第87回	土器・土製品 (37)	136	第102回	石器 (8)	151
第88回	土器・土製品 (38)	137	第103回	石器 (9)	152
第89回	土器・土製品 (39)	138	第104回	石器 (10)	153
第90回	土器・土製品 (40)	139	第105回	石器 (11)	154
第91回	土器・土製品 (41)	140	第106回	石器 (12)	155
第92回	土器・土製品 (42)	141	第107回	石器 (13)	156
第93回	土器・土製品 (43)	142	第108回	石器 (14)	157
第94回	土器・土製品 (44)	143	第109回	石器 (15)	158
第95回	石器 (1)	144	第110回	石器 (16)	159
第96回	石器 (2)	145	第111回	石製品・鉄製品	160
第97回	石器 (3)	146			

写真図版目次

写真図版1	航空写真	183	写真図版27	RF001・002土器埋設遺構、 RF001・002焼土遺構	209
写真図版2	調査前風景、基本層序	184	写真図版28	RF003~006焼土遺構	210
写真図版3	RA001竪穴住居	185	写真図版29	RF007~010焼土遺構	211
写真図版4	RA002竪穴住居	186	写真図版30	RF011~014焼土遺構	212
写真図版5	RA003竪穴住居	187	写真図版31	RF015~018炭化物集中	213
写真図版6	RA004竪穴住居	188	写真図版32	RF019~020カマド遺構、作業風景	214
写真図版7	RA005竪穴住居	189	写真図版33	RF021~024焼土遺構	215
写真図版8	RA006竪穴住居	190	写真図版34	RF025~028焼土遺構	216
写真図版9	RA007竪穴住居	191	写真図版35	RF029~032焼土遺構	217
写真図版10	RA008竪穴住居	192	写真図版36	RF033~036焼土遺構	218
写真図版11	RA009竪穴住居	193	写真図版37	RF037~040焼土遺構	219
写真図版12	RD001~004土坑	194	写真図版38	RF041・042・044焼土遺構、 RF043炉跡	220
写真図版13	RD005~008土坑	195	写真図版39	RG001小溝群、002溝	221
写真図版14	RD009~012土坑	196	写真図版40	RG003~006溝	222
写真図版15	RD013~016土坑	197	写真図版41	RH001~005集石	223
写真図版16	RD017~020土坑	198	写真図版42	土器・土製品 (1)	224
写真図版17	RD021~024土坑	199	写真図版43	土器・土製品 (2)	225
写真図版18	RD025~028土坑	200	写真図版44	土器・土製品 (3)	226
写真図版19	RD029~032土坑	201	写真図版45	土器・土製品 (4)	227
写真図版20	RD033~036土坑	202	写真図版46	土器・土製品 (5)	228
写真図版21	RD037~040土坑	203	写真図版47	土器・土製品 (6)	229
写真図版22	RD041~044土坑	204	写真図版48	土器・土製品 (7)	230
写真図版23	RD045~048土坑	205	写真図版49	土器・土製品 (8)	231
写真図版24	RD049~052土坑	206	写真図版50	土器・土製品 (9)	232
写真図版25	RD053~056土坑	207			
写真図版26	RD057~060土坑	208			

写真図版51	土器・土製品 (10)	233	写真図版59	土器・土製品 (18)	241
写真図版52	土器・土製品 (11)	234	写真図版60	石器 (1)	242
写真図版53	土器・土製品 (12)	235	写真図版61	石器 (2)	243
写真図版54	土器・土製品 (13)	236	写真図版62	石器 (3)	244
写真図版55	土器・土製品 (14)	237	写真図版63	石器 (4)	245
写真図版56	土器・土製品 (15)	238	写真図版64	石器 (5)	246
写真図版57	土器・土製品 (16)	239	写真図版65	石器 (6)	247
写真図版58	土器・土製品 (17)	240	写真図版66	石器 (7)・石製品・鉄製品	248

I 調査に至る経過

小屋野遺跡は、「道路改築事業築川道路」の道路改良工事に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

一般国道106号線は、宮古市を起点とし、盛岡市へ至る主要幹線道路であり、東北縦貫自動車道と三陸縦貫自動車道の高規格幹線道路と一体となって、全国的な広域交通ネットワークを形成する地域高規格道路「宮古盛岡横断道路」に指定されている。

築川道路は、築川ダム建設に伴う付替国道としての位置付けのほか、現道の急カーブ・幅員狭小などの隘路を解消し、主要幹線道路としての機能確保のために平成7年度に地域高規格道路の整備区間に指定され、平成8年度に事業着手したものである。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取扱いについては、盛岡広域地方振興局土木部築川ダム建設事務所から平成18年12月13日付盛地上築第86号「埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により、岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は、平成18年12月27～28日に試掘調査を実施し、平成19年1月4日付教生第1350号「埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により、工事着手するには小屋野遺跡の発掘調査が必要となる旨の回答が当事務所へあった。

その結果を踏まえて、当事業所は岩手県教育委員会と協議し、調整を受けて平成21年度（平成21年度7月3日付）及び平成22年度（平成22年6月4日付）に、財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（岩手県盛岡広域振興局土木部築川ダム建設事務所）



第1図 遺跡の位置(1)

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置(第1図)

小屋野遺跡が所在する盛岡市は、岩手県のほぼ中央に位置する。近世初期に盛岡藩が設置されて以来、その城下町として栄え発展してきた街であり、岩手県の県庁所在地である。平成18年には北に隣接する玉山村と合併し、総面積888.47km²、人口は30万人を越え、平成20年4月1日に中核市の指定を受けている。

遺跡は、盛岡市川目第5地割122-82ほかに所在し、JR東北本線盛岡駅の南東約9.2kmに位置する。川目地区は市の東部にあたり、北上山地の北西部に位置する。地形図上では、国土地理院発行の2万5千分の一地形図「盛岡」(N J - 54 - 13 - 14 - 2)の図幅に含まれ、北緯39度40分12秒、東経141度14分00秒に位置している。

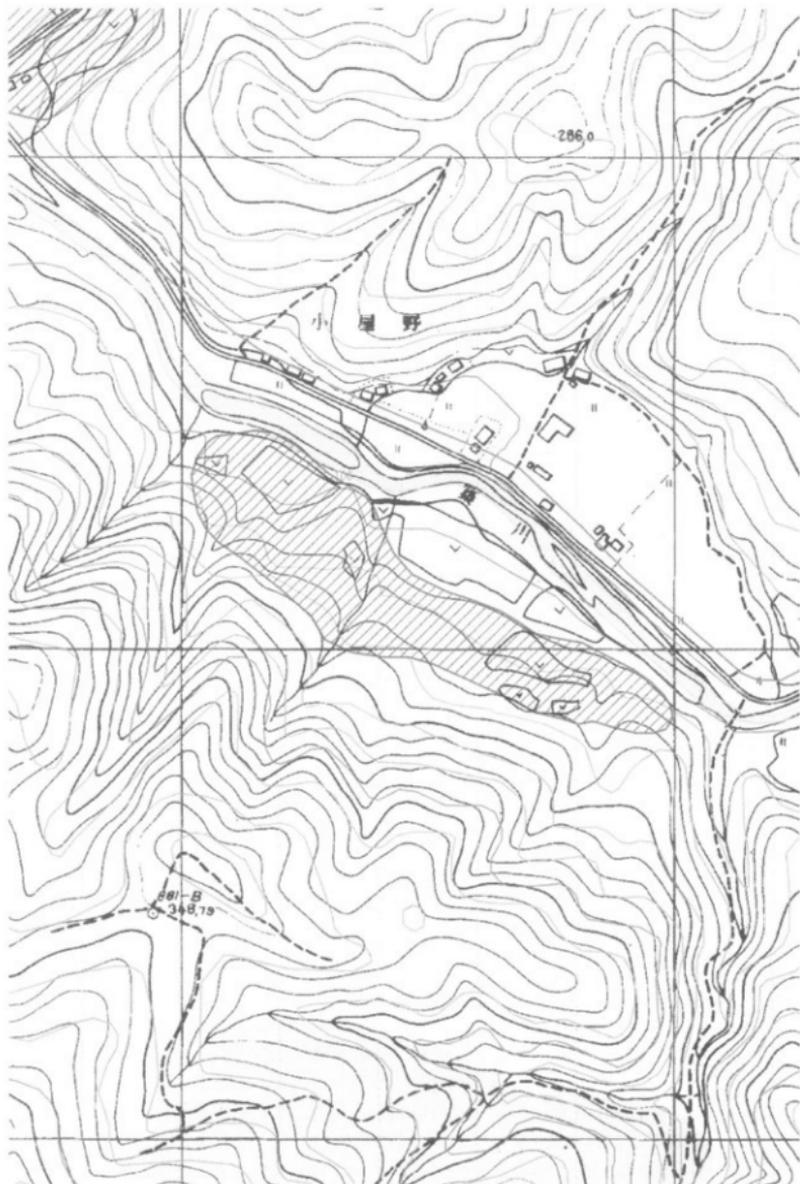
2 地形と地質(第2図)

(1) 地形

小屋野遺跡のある盛岡市東部は、地質構造上、北上山地の主要な境界となる早池峰構造体の西縁部にあたる。盛岡市東部の早池峰構造体に属する山地は、高森山(標高626m)を中心とする高森山山地と、朝島山(標高607m)を中心とする朝島山山地の中起伏山地、さらに西に続く大日向山山地、岩山(標高341m)や大森山(標高381m)を含む建石山山地などの小起伏山地、および四十四田丘陵



第2図 遺跡の位置(2)



第3図 周辺の地形 (S=1/5,000)

で構成される。これらの山地縁辺には、中津川・鑿川・乙部川などの北上川支流の河川や、山間部から流れるその支流や沢などにより浸食された丘陵地や中位・低位の段丘が発達する。

小屋野遺跡は、北に建石山山地、南に朝島山山地などの小・中起伏山地に囲まれ、これらの山間部を流れる鑿川によってできた低位段丘上および鬼ヶ瀬山北西麓に発達した小規模な扇状地上に立地している。標高は190～215mである。

(2) 地 質

遺跡の所在する川目地区を含む盛岡市東部の早池峰構造体の古生界の岩層は、チャート・チャートラミナイト珪質頁岩などを伴う他地域と異なり、砂子沢層・川日層にみられるような、おもに頁岩・砂岩・塩基性の火山岩類で基盤が構成され、これに表層堆積物として泥岩・輝緑凝灰岩がみられる。

3 基本層序

本遺跡付近は、鑿川の開析作用に加えて鬼ヶ瀬山北西麓から発達した扇状地形成時の崖錐堆積が複雑に混在しており、層相は一様ではない。広域に分布する基本層序をまとめると下記ようになる。

I層：10YR2.5/2 黒褐色 シルト 現表土

II層：10YR4/3 におい黄褐色 シルト 礫（～20cm）40% 崖錐性礫層

III層：10YR2.5/2 黒褐色 シルト 礫（～10cm）10% 旧表土

IV層：10YR4/4 褐色 シルト 礫（～10cm）30% 調査区南東部では同層中にTo-aテフラが成層する 近世～古代の遺構検出面

V層：10YR3/2 黒褐色 シルト 弥生時代～縄文時代晩期・後期後葉の遺物包含層

VI層：10YR3/4 暗褐色土 シルト V層下の崖錐性堆積物を含む層

VII層：10YR3/4 暗褐色 シルト 縄文時代後期前葉から中葉を主体とする遺構包含層

VIII層：10YR2/2.5 黒褐色 シルト 縄文時代後期の遺構検出面

IX層：10YR4/6 褐色 シルト 礫（～10cm）10% 縄文時代後期～中期の遺構検出面（地山）

なお、混入する礫は基本的に角～垂角礫で、円礫は少ない。斜面下位にあたる北東側では概して少量かつ小径で、逆に斜面上位の南西側では多量かつ大径となる傾向がみられる。

また、層厚も一様ではなく、斜面下位に比して上位が厚い。地表面からVIII層上面までの厚さは前者で約1m、後者では約3mと大差がある。

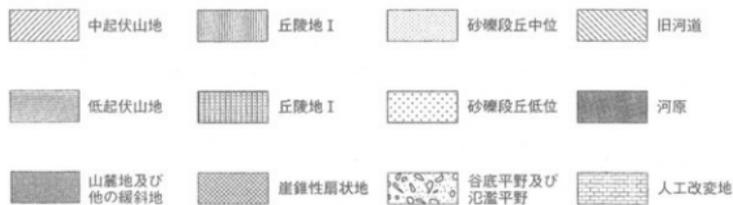
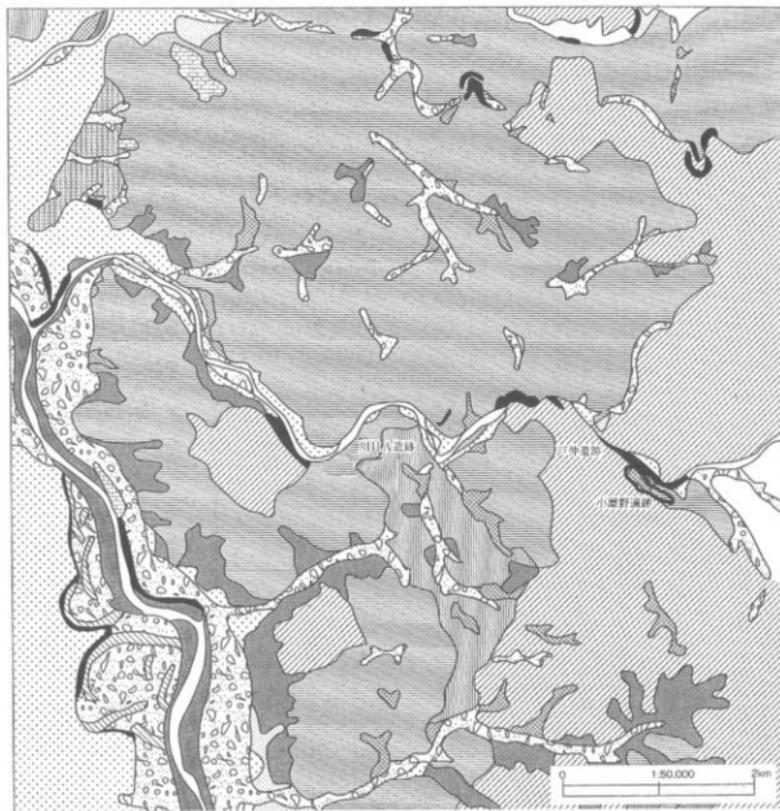
主要な遺構検出面は、IV層（近世～古代）、V～VI層（弥生時代～縄文時代晩期）、VII層（縄文時代後期）、VIII層（縄文時代後期）、IX層（縄文時代後期～中期）の各上面である。

4 周辺の遺跡（第4図、第1表）

平成20年3月現在、岩手県遺跡情報検索システムに登録されている盛岡市内の遺跡は740箇所である。このうち、縄文時代の遺跡は464箇所を数え、北上川やその支流の河川、山間部から流れる沢などにより浸食された丘陵地や中位・低位の段丘上で多く確認されている。

第6図および第1表には、鑿川流域とその周辺地域において、縄文時代の遺構あるいは遺物が確認されている134箇所の遺跡の位置を示した。以降、縄文期の遺跡について記述する。

鑿川は、盛岡市東部、北上山地の分水嶺となる桐ノ木山（1,209m）北西支稜より流れ、最大支流



第5図 地形分類図



第6図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	発掘事項	No.	遺跡名	種別	発掘事項
1	横山田	敷布地	縄文土器(後期)	66	金野川1	散布地	縄文土器(後期)
2	黒川日輪	集落跡	縄文早期整穴住居跡群、縄文土器(早・後・晩期)、99-01-07号敷布により6枚にわたる縄文	67	船越1	散布地	縄文土器、土器、石器
3	アキトリ	散布地	縄文土器(中期)	68	黒崎3	散布地	縄文土器
4	鹿野	集落跡	縄文土器、土器、95-97号敷布調査	69	伊目	散布地	縄文土器(早・中期)
5	大塚	集落跡	縄文土器(後・晩期)	70	湧沢	散布地	縄文土器
6	大久保	散布地	縄文土器(中・後期)	71	千代森等の群	散布地	縄文土器
7	横久保	集落跡	縄文土器(中期)、整穴住居跡	72	南ノ沢A	散布地	縄文土器
8	修ノ木平	集落跡	縄文中期の大量落、75-03まで敷布委により40枚にわたる縄文	73	南ノ沢B	散布地	縄文土器
9	坂狭	集落跡	縄文土器(早-晩期)、96-04号敷布調査	74	南ノ沢C	散布地	縄文土器
10	内田	集落跡	縄文土器(早-晩期)、土坑、埋設土器、99-02号敷布調査	75	川田A	集落跡	縄文早・中・後期編布、後晩期型石遺物、縄文土器(早-晩期)、00号敷布、06-09号埋設土器調査
11	寺河	散布地	縄文土器(中・後期)	76	川田B	散布地	土坑、縄文土器(中・晩期)
12	築木平	散布地	縄文土器(中・後期)	77	川田C	集落跡	縄文中期大量落、94-95号敷布調査
13	エドヨ山	散布地	縄文土器(中期)	78	川田D	散布地	縄文土器
14	大塚	集落跡	縄文後期整穴住居3種、縄文土器(早-晩期)、97号敷布調査	79	戸仲	集落跡	96-08号縄文調査
15	笠ノ平	散布地	縄文土器(早-晩期)	80	小籠野	散布地	表内遺跡、09-10号埋設土器
16	尚	散布地	縄文土器	81	宇賀沢	散布地	縄文土器(早・中・後・晩期)、06号埋設土器
17	八石	散布地	縄文土器	82	チキノ沢	散布地	縄文土器
18	よろこひ	散布地	縄文土器	83	大井沢A	散布地	縄文土器
19	安倉	散布地	縄文土器	84	大井沢B	散布地	縄文土器
20	小真内南	散布地	縄文土器	85	大井沢C	散布地	縄文土器
21	中津川Ⅱ	散布地	縄文土器	86	磯沢A	散布地	縄文土器
22	大庭寺	散布地	縄文土器	87	磯沢B	散布地	縄文土器
23	山江川	集落跡	縄文中期編布、縄文土器(中・後期)、98号埋設土器	88	磯沢C	散布地	縄文土器
24	巻子	散布地	縄文土器(前期)	89	磯沢D	散布地	縄文土器
25	樋ノ口	散布地	縄文土器(前期)	90	鬼ヶ原山跡A	洞穴	縄文土器(前期)
26	山田	散布地	縄文土器(後期)	91	木沢	散布地	
27	中山	安倉跡	縄文土器(中期)、88号敷布調査	92	沢川1	散布地	縄文土器
28	砂野	集落跡	縄文中期整穴住居3種、縄文土器(中期)、88号敷布調査	93	沢川2	散布地	縄文土器(晩期)
29	金野	散布地	縄文土器(中・後期)	94	祖本跡田	散布地	縄文土器(晩期)
30	以石	散布地	縄文土器(中・後期)	95	沢川3	散布地	縄文土器
31	立石	散布地	縄文土器(中・後期)	96	下川貝	散布地	縄文土器
32	沢田	散布地	縄文土器(前-晩期)	97	アヌノ沢	散布地	縄文土器
33	津手森	散布地	縄文土器(中・後期)	98	原田沢	散布地	縄文土器
34	門	散布地	縄文土器(中・後期)	99	鹿野A	散布地	縄文土器
35	宇野野	散布地	縄文土器	100	細野B	散布地	縄文土器
36	川口寺沢	散布地	縄文土器	101	流沢	散布地	縄文土器
37	たたら山	散布地	縄文土器	102	相沢	散布地	縄文土器
38	箕山南	散布地	縄文土器(早-晩期)	103	霧	散布地	縄文土器
39	下川	散布地	縄文土器(中・後期)	104	平沢	散布地	縄文土器(中期)
40	明田	散布地	縄文土器	105	千代木沢岩跡	洞穴	縄文土器(中・後・晩期)
41	川原	集落跡	フラスコ状土坑、縄文土器(中期)、01号敷布調査	106	高見	散布地	縄文土器(早・中・晩期)、石器、石斧
42	滝ノ上A	散布地	縄文土器	107	千代森	集落跡	縄文土器(早・中・後・晩期)、遠矢土器、83-84号埋設土器
43	滝ノ上B	散布地	縄文土器	108	下池	散布地	縄文土器(後期)
44	下八木田	散布地	縄文土器(早-晩期)	109	高野	散布地	縄文土器(後期)
45	上八木田	散布地	縄文土器(中期)	110	高野	散布地	縄文土器(後期)
46	上八木田Ⅱ	集落跡	縄文前期-中期編布、縄文土器(前期)、91号埋設土器	111	渡野	散布地	縄文土器(時期不詳)
47	上八木田Ⅲ	集落跡	縄文土器(早・中・後・晩期)、91号埋設土器	112	開田	散布地	縄文土器(中期)
48	上八木田Ⅳ	集落跡	94号住居、縄文土器(後-晩期)、90号埋設土器	113	滝	散布地	縄文土器、石斧、石鏃
49	上八木田Ⅴ	集落跡	土坑、縄文土器(中・後期)、94号埋設土器	114	沢	散布地	縄文土器(早・中・後・晩期)
50	上八木田Ⅵ	集落跡	フラスコ状土坑、縄文土器(早-晩期)、90号埋設土器	115	大沢田	散布地	縄文土器、石器
51	高野A	散布地	縄文土器(中・後期)	116	沢川田	散布地	縄文土器
52	高野B	散布地	縄文土器(中・後期)	117	沢川田	散布地	縄文土器
53	高野C	散布地	縄文土器(前期)	118	沢川田	散布地	縄文土器(後-晩期)
54	法野	散布地	縄文土器(中・後期)	119	野田	散布地	縄文土器(中・後・晩期)、石鏃、石斧、石斧、土器
55	法野	散布地	縄文土器	120	乙野六八丁	散布地	縄文土器(早・中・後・晩期)
56	アノト	散布地	縄文土器(後期)	121	東土田	散布地	縄文土器(中期)
57	アノト	散布地	縄文土器	122	高野	散布地	縄文土器(中期)
58	新湯1	散布地	縄文土器、石器	123	高野	散布地	縄文土器、石斧、石鏃
59	新湯Ⅱ	散布地	縄文土器(中期)	124	城内	散布地	縄文土器(晩期)
60	新湯Ⅲ	散布地	縄文土器	125	寺長野	散布地	縄文土器(中期)
61	新湯Ⅳ	散布地	縄文土器	126	赤宮野田	散布地	縄文土器、石斧
62	新湯Ⅴ	散布地	縄文土器(中期)	127	赤石	散布地	縄文土器(中・後期)
63	高寺1	散布地	縄文土器(前期、中期)	128	南山宅	散布地	縄文土器
64	高寺2	散布地	縄文土器(後期)	129	百目木	集落跡	縄文土器(中・後期)
65	金野川Ⅱ	散布地	縄文土器	130	観心寺	散布地	縄文土器
				131	下木林	散布地	縄文土器(晩期)
				132	三手跡田	集落跡	縄文土器(晩期)
				133	下谷塚前	散布地	縄文土器(中期)
				134	下池	散布地	縄文土器(早・中・後・晩期)、石鏃、石斧、石鏃

である根田茂川と合流して水量を増し、盛岡市安庭付近で北上川と合流する。築川は急流で知られ、その流れは丘陵地や高位段丘面を開削して、流域沿いに中・小規模な低位段丘面や谷底平野を形成する。

上流域の築川地区や根田茂川流域では、小規模な谷底平野や崖水性扇状地などで遺跡が確認されている。現在まで本格的な調査は行われていないが、『盛岡市史第一巻』(草間1958)によると、築川地区の待間口遺跡(93)、組木新田遺跡(94)からは晩期の土器が出土したことが知られている。根田茂川流域では、赤坂遺跡(104)で中期、手代木沢岩陰遺跡(105)で中～晩期、鬼ヶ瀬山洞穴(90)で後期の土器などが出土している。この地域では、今後、新たな遺跡の存在や遺跡範囲の拡大が確認される可能性が十分に考えられる。

中～下流域では、小起伏山地の山麓や緩斜面地、中・小規模な低位～高位段丘上で遺跡が確認されている。早期～前期の遺跡では、宇曾沢遺跡(81)、川目A遺跡(75)、川目C遺跡(77)、小山遺跡(27)などがある。築川左岸の低位段丘上に位置する川目A遺跡では、標高188～189mの高位面(第6次調査区)から、早期中葉(明神裏Ⅲ式)、前期前葉(大木2式)、前期後葉(大木5式)の堅穴住居、前期後葉(大木5式)を中心とする遺物包含層などが検出されている(岩文理2009)。宇曾沢遺跡でも少量ながら早期中葉の土器が出土している(岩文理2008)。

中期の遺跡では、川目C遺跡、川目A遺跡、戸仲遺跡(79)、小山遺跡、砂溜遺跡(28)、仁反田遺跡(41)などがある。築川右岸の高位段丘上に位置する川目C遺跡では、大木7b～8b式期を主体とする多数の堅穴住居や土坑などが検出された。また、膨大な遺物とともに、ヒスイ製大珠やコハク原石、黒曜石製石器、天然アスファルトなど交易によってもたらされたと考えられるものも多数出土している。これらのことから、川目C遺跡は築川流域における縄文時代中期の拠点的な集落と考えられている(盛岡市教育委員会1996)。築川を挟んで対岸に位置する川目A遺跡でも、前述した第6次調査区から、複式炉を有する中期後葉～末葉の堅穴住居が検出されている。これより上流に位置する戸仲遺跡では、築川縁にて複式炉を有する大木9～10式期の堅穴住居が8棟検出されている。これらの堅穴住居群はおそらく該期集落の南縁にあたると思われ、さらに北側の高位部へ広がっていたものと考えられる。加えて、堅穴住居より古期の陥し穴状遺構が多数検出されており、居住域としての利用以前は狩猟場であったことが判明している(岩文理2009b)。また、下流域に位置する小山・砂溜・仁反田・和田遺跡は「小山遺跡群」として包括されているが、この遺跡群でも中期の遺構や遺物が多数確認されている。小山遺跡では中期中葉(大木7a～8b式)を主体とした土器などが出土しており、砂溜遺跡では前期末葉～中期初頭の大型住居や遺物包含層などが検出されている。仁反田遺跡では前期末葉～中期の多数のラスコ状土坑などが検出されている(盛岡市教育委員会1989)。

後～晩期の遺跡では、川目A遺跡が特筆される。岩手大学の草間俊一教授による3度の調査により、後晩期の配石遺構や遺物が出土することが知られていた遺跡である(草間1954・1955・1958)。平成18年からイカ年にわたり当センターが実施した緊急発掘調査では、大規模な遺物包含層や多数の配石遺構などが確認されており、遺跡の内容が明らかにされつつある。また、戸仲遺跡でも後期後葉から晩期中葉を主体とした遺物が出土するとともに、配石遺構、土坑、柱穴状土坑などが検出されている(岩文理2008・2009a)。

このほか、周辺地域には、中期後葉～後期初頭の拠点的な集落と考えられる柿ノ木平遺跡(8)、中期中葉の集落である山王山遺跡(23)、中期末葉の堅穴住居が検出された上八木田I遺跡(46)、後期初頭の堅穴住居などが検出された大藪遺跡(14)などが位置している。なお、柿ノ木平遺跡、山王山遺跡では、底部穿孔された「伏壺」を伴う堅穴住居が確認されている。

Ⅲ 調査と整理の方法

1 野 外 調 査

(1) 作 業 経 過

平成21年度当初、本道路の調査範囲は5,700㎡、調査期間は3ヶ月という予定であった。しかし、調査開始直後の試掘結果から、検出面数(5面)と土量が大幅に想定を超過することが判明した。加えて、残土の搬出が不可能な環境であったため調査区内で多量の残土を反転処理するほかなく、一度に調査可能な範囲が調査区の約1/3に制限されることとなった。以上のような要因から、予定期間での終了が困難となり、結果的に平成21年度の調査終了範囲は2,780㎡に止まった。

この他、当初調査区の北西側隣接地が事業用地内に当たっており、平成21年10月現在で未試掘であったことから試掘調査が計画され、委託を受けた当センターが11月11～12日にこれを実施した。結果、主に緩斜面部から遺構・遺物が確認され、3,106㎡が要本調査対象範囲となり、平成22年度にこれを実施することとなった。

平成22年度調査は、21年度未了面積2,920㎡を含む6,030㎡の調査を実施した。よって、二カ年の総本調査面積は8,810㎡となる。

平成21年度 (調査終了面積2,780㎡)

8月3日	調査開始。資材搬入。
8月4日	雑物撤去、重機による表土除去開始(佐々木建設㈱ 8月26日まで)。人力試掘開始(9月4日まで)。
8月10日	遺構検出開始(11月4日まで)。
8月12日	遺構精査開始(11月13日まで)。
8月20日	基準点打設(㈱北日本朝日航洋)。
9月2日	実測開始(11月13日まで)。
9月9日	調査区南西部斜面の重機によるトレンチ掘削と遺構・遺物検出実施。
9月10日	重機による中間堆積層除去開始(9月24日まで)。
10月21日	盛岡地方振興局土木部築川ダム建設事務所長他3名現場視察。
11月2日	重機による中間堆積層除去開始(11月4日まで)。
11月5日	残土反転開始(11月13日まで)。
11月9日	終了確認実施。次年度への調査延長と調査区北西側隣接地の試掘実施が決定される。
11月11日	調査区北西側隣接地の試掘開始(11月12日まで)。
11月12日	次年度調査のための養生作業開始(11月13日まで)。
11月13日	今年度調査終了。撤収。

平成22年度 (調査終了面積6,030㎡)

7月20日	当初の予定より数日早く調査を開始。資材搬入。
7月21日	昨年度調査区を被覆したブルーシートと雑物の撤去開始。
8月2日	遺物包含層の掘削開始。遺構精査も併行して実施。

8月4日	重機による土砂運搬、表土掘削開始（梨子建設 8月20日まで）。
8月31日	立木伐採、調査範囲に関する協議（県教委・委託者）。
9月2日	調査の主体を遺構精査に切り替え。
9月7日	重機による2回日の表土掘削・無遺物層掘削開始（9月17日まで）。
9月21日	岩手大学学生2名調査参加（9月30日まで）。
10月12日	重機による3回目の無遺物層掘削開始（10月15日まで）。
10月15日	調査の進捗状況と調査期間についての協議（県教委・委託者）。 調査は11月中旬以降まで延長されることが決まる。
11月2日	岩手日報記者、現地公開についての取材。
11月6日	現地公開（参加者45名）。
11月15日	終了確認（県教委・委託者）。重機による埋め戻し開始（11月16日まで）。
11月17日	調査終了。資材積み込み後、撤収。

（2）グリッド・基準点の設定

グリッドの設定には国土座標（世界測地系）を用い、その基点は $X = -36,450,000$ 、 $Y = 34,200,000$ とした。その上で、盛岡市教育委員会の方法に準じ 50×50 mの大グリッドを設定し、さらにこれを 2×2 mの小グリッドに区割りした。大グリッドは、原点を起点に西から東へA・B・C・・・のアルファベット、北から南へⅠ・Ⅱ・Ⅲ・・・のローマ数字を付し、グリッドの呼称は「ⅧE」などのように、それらの組み合わせとした。小グリッドは、西から東をa～yのアルファベット、北から南を1～25の算用数字を付し、グリッドの呼称は「ⅧE 1m」などのように、それらの組み合わせとした。

遺構の測量に利用するために、平成21年度調査の際に調査区内に基準点2点と補助点4点を打設した。各基準点および補助点の座標値とそのグリッド名は以下のとおりである。なお、平成22年度調査においてもこれをそのまま利用している。

基準点1	$X = -36,556,000$	$Y = 34,320,000$	$H = 201.185$ m	（ⅢC 4 k グリッド）
基準点2	$X = -36,518,000$	$Y = 34,288,000$	$H = 199.060$ m	（ⅡB 10 t グリッド）
補助点1	$X = -36,556,000$	$Y = 34,310,000$	$H = 200.710$ m	（ⅢC 4 f グリッド）
補助点2	$X = -36,526,000$	$Y = 34,320,000$	$H = 197.803$ m	（ⅡC 14 k グリッド）
補助点3	$X = -36,518,000$	$Y = 34,310,000$	$H = 197.756$ m	（ⅡC 10 f グリッド）
補助点4	$X = -36,496,000$	$Y = 34,288,000$	$H = 197.227$ m	（ⅠB 24 t グリッド）

（3）粗掘・遺構検出

最初に、県教委生文課により実施された試掘結果に基づき、その試掘坑（トレンチ）を再掘削し、遺構・遺物の検出層位と状態、旧地形とその堆積土層の確認と把握を行った。その上で、未試掘箇所には新規にトレンチを設定し、同様の作業を実施している。作業に際しては、遺構・遺物検出箇所付近はその検出面まで、それ以外の部分は最終遺構検出面とされる褐色土～黄褐色土を目安に掘り下げ、層理面に順次検出を行った。結果、扇状地形成に伴う崖錐性堆積層が幾重にも存在しており、層相がそれぞれ異なるため複雑ではあるものの分層し易く、結果的に5面の遺構検出面を確認することとなった。

なお、調査区南西部にあたるⅡBグリッド南西部からⅢA・Bグリッド付近は斜面の傾斜が強く、遺構・遺物の希薄などが予想された。よって、全面掘削を行う前にトレンチ調査を実施することと

し、6箇所のトレンチを設定し精査を行った。結果、いずれも遺構・遺物ともに存在せず、加えて同エリアの斜面下位に隣接するⅡBグリッド南東部も全面掘削・調査の結果同様の状況が確認された。以上のことから、ⅡBグリッド南西部からⅢA・Bグリッドにかけては全面的に掘削せず、調査終了とした。

平成22年度調査では、調査区西側ⅠA・ⅡAグリッド西寄りで遺構・遺物が確認できなかったため、重機により最終面まで掘削した。

(4) 遺構の調査方法

竪穴住居の調査は四分法を、その他の遺構については二分法を原則として、それぞれ堆積土層観察用のセクションベルトを設け、上層を観察しながら精査を進めた。この際、上層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の完掘状況を中心に写真撮影および実測を順次行った。

遺物の取り上げ方は、遺構内出土分については遺構名と出土層位名または相対的層位（上位、中位、下位、床・底面直上、床・底面）を記し、このうち床・底面直上以下出土分については個々に出土位置を記録した。遺構外出土分については、グリッド毎に層位を記して採取した。

(5) 遺構の名称

野外調査で検出した遺構は、検出順に○号住、△号土坑などと命名したが、報告書作成時に盛岡市教育委員会の方法に準じて、遺構名を付け直して掲載した。番号は、遺跡全体で遺構ごとに通し番号を付している。なお、野外調査、室内整理ともに旧遺構名のまま作業しており、図面表記、遺物注記などは旧名のまま変更していない。第1・2次調査の遺構番号表と、新旧遺構名対照表をそれぞれ第2表、第3表に示したので、参照していただきたい。

(6) 写真撮影

写真撮影にあたっては、6×9判モノクロームのフィルムカメラ（FUJI GSW690Ⅲ）とデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 5D）を使用した。撮影にあたっては、撮影状況を記した「撮影カード」を事前に写し、整理時の混乱を防止した。この他第2次調査では、調査終了間際にセスナ機による航空写真撮影を実施している（平成22年11月5日）。

第2表 第1・2次調査遺構番号表

遺構	記号	第1次調査	第2次調査
竪穴住居跡	RA	001～002	003～009
土坑・陥し穴	RD	001～007	008～060
上部埋設遺構	RP	001	002
焼土・柳蔭・炭化物集中・カマド状遺構	RF	001～022	023～044
溝・小溝群（耕作痕跡）	RG	001～006	なし
集石	RH	なし	001～005
柱穴状遺構（小土坑）	PP	1～8	9～91

第3表 第1・2次調査新旧遺構名対応表

No	遺構名	旧遺構名	No	遺構名	旧遺構名	No	遺構名	旧遺構名
1	RA001	1号竪穴住居	39	RD030	32号土坑	77	RF006	7号焼土遺構
2	RA002	2号竪穴住居	40	RD031	33号土坑	78	RF007	8号焼土遺構
3	RA003	4号竪穴住居	41	RD032	34号土坑	79	RF008	9号焼土遺構
4	RA004	5号竪穴住居	42	RD033	35号土坑	80	RF009	10号焼土遺構
5	RA005	6号竪穴住居	43	RD034	36号土坑	81	RF010	11号焼土遺構
6	RA006	7号竪穴住居	44	RD035	37号土坑	82	RF011	12号焼土遺構
7	RA007	8号竪穴住居	45	RD036	38号土坑	83	RF012	13号焼土遺構
8	RA008	13号土坑	46	RD037	39号土坑	84	RF013	15号焼土遺構
9	RA009	3号炉跡	47	RD038	40号土坑	85	RF014	17号焼土遺構 (2009調査分)
10	RD001	1号土坑	48	RD039	41号土坑			
11	RD002	2号土坑	49	RD040	42号土坑	86	RF015	1号炭化物集中
12	RD003	3号土坑	50	RD041	43号土坑	87	RF016	2号炭化物集中
13	RD004	4号土坑	51	RD042	44号土坑	88	RF017	3号炭化物集中
14	RD005	5号土坑	52	RD043	45号土坑	89	RF018	4号炭化物集中
15	RD006	6号土坑	53	RD044	46号土坑	90	RF019	1号焼土遺構・ 1号カマ下状
16	RD007	8号土坑	54	RD045	47号土坑			
17	RD008	9号土坑	55	RD046	48号土坑	91	RF020	7号土坑・ 2号カマ下状
18	RD009	10号土坑	56	RD047	49号土坑			
19	RD010	11号土坑	57	RD048	50号土坑	92	RF021	旧14号焼土遺構
20	RD011	12号土坑	58	RD049	51号土坑	93	RF022	旧16号焼土遺構
21	RD012	14号土坑	59	RD050	52号土坑	94	RF023	17号焼土遺構 (2010調査分)
22	RD013	15号土坑	60	RD051	53号土坑			
23	RD014	16号土坑	61	RD052	54号土坑	95	RF024	18号焼土遺構
24	RD015	17号土坑	62	RD053	55号土坑	96	RF025	19号焼土遺構
25	RD016	18号土坑	63	RD054	57号土坑	97	RF026	20号焼土遺構
26	RD017	19号土坑	64	RD055	58号土坑	98	RF027	21号焼土遺構
27	RD018	20号土坑	65	RD056	59号土坑	99	RF028	22号焼土遺構
28	RD019	21号土坑	66	RD057	60号土坑	100	RF029	23号焼土遺構
29	RD020	22号土坑	67	RD058	61号土坑	101	RF030	25号焼土遺構
30	RD021	23号土坑	68	RD059	24号焼土	102	RF031	26号焼土遺構
31	RD022	24号土坑	69	RD060	PP31	103	RF032	27号焼土遺構
32	RD023	25号土坑	70	RP001	1号土器埋設遺構	104	RF033	28号焼土遺構
33	RD024	26号土坑	71	RP002	2号土器埋設遺構	105	RF034	29号焼土遺構
34	RD025	27号土坑	72	RF001	2号焼土遺構	106	RF035	30号焼土遺構
35	RD026	28号土坑(陥し穴)	73	RF002	3号焼土遺構	107	RF036	31号焼土遺構
36	RD027	29号土坑	74	RF003	4号焼土遺構	108	RF037	32号焼土遺構
37	RD028	30号土坑(陥し穴)	75	RF004	5号焼土遺構	109	RF038	33号焼土遺構
38	RD029	31号土坑	76	RF005	6号焼土遺構	110	RF039	34号焼土遺構

1 野外調査

No	遺構名	旧遺構名	No	遺構名	旧遺構名	No	遺構名	旧遺構名
111	RF040	35号焼土遺構	118	RG003	3号溝	125	RH004	4号集石
112	RF011	36号焼土遺構	119	RG004	4号溝	126	RH005	5号集石
113	RF042	37号焼土遺構	120	RG005	5号溝	PP1~91	PP92・93・94は欠番となったPP5・31・33へそれぞれ付け替え	
114	RF043	1号炉跡	121	RG006	6号溝			
115	RF044	4号炉跡	122	RH001	1号集石			
116	RG001	1号溝	123	RH002	2号集石			
117	RG002	2号溝	124	RH003	3号集石			

*遺構名の前に付けている番号は、遺構配置図（第9・10図）のそれと一致する

2 室内整理

(1) 作業経過

作業人数や期間などの大まかな流れのみ記載する。

平成21年度

平成21年11月2日 整理作業開始。調査員付かず、作業員2名で実施（11月13日まで）。

11月16日 調査担当者1名作業開始（3月31日まで）。

平成22年2月1日 調査担当者1名増員。2名体制で作業開始（3月31日まで）。

3月31日 平成21年度の作業終了。

平成22年度

平成22年11月1日 整理作業開始。作業員3名のみで実施。調査員は野外調査を継続。

11月18日 前日17日に野外調査を終了。調査員1名で室内作業開始（3月31日まで）。

平成23年2月1日 作業員1名増員。

3月1日 作業員1名増員。

3月31日 平成22年度の作業終了。

(2) 遺物の整理方法

遺物は、各種別に分類したのち出土地点ごとに重量計測を行い、接合作業を実施して掲載分と不掲載分に細分類し、前者については仮番号を付し登録を行った。登録にあたっては、種別ごとに異なる種類の番号を付している。その後、報告書掲載遺物が最終的に決定した段階で、新たに各種別共通となる算用数字の連番による掲載番号を付した。

なお、掲載遺物の選択に際しては、各遺物種別共通してまず第1に出土地点を優先し、I層あるいは攪乱出土遺物は基本的に除外した。遺構別および遺物種別毎の出土量については次章に記述している。各遺物種別の掲載基準は下記のとおりである。ただし、遺構内出土遺物は基準外であっても掲載している。

本報告書では、出土遺物量の記載を遺物種により3種類の方法で行っている。基本は「g」あるいは「kg」単位での重量表記で、土器類はすべてこの方法である。前記のように出土地点単位で計量し

全体量を把握するための重量台帳を作成した後、掲載分として抽出したものについては仮番号を付して個々に計量を行い、登録台帳を作成している。土製品、石器、石製品、鉄製品、銭貨は点数記載を主とし、これに重量記載を併記している。土製品、石製品、鉄製品、銭貨については全点に仮番号を付して個々に計量し、登録台帳を作成した。石器は事前にツールと剥片および素材に分類し、ツールについては個々に仮番号を付して登録台帳作成と計量を行っている。剥片および素材については個々の計量はせず出土地点単位で計量し、重量台帳を作成する段階までに留めた。植物遺存体は、出土総量を乾燥重量で記載し、種別が同定されたもののみ点数で表記したのものもある。

縄文土器

- a 掲載遺物の選択基準……文様および形態変化が集中するため口縁部が残存するものを優先している。胴部は器形を復元できるものおよび特徴的な文様を有するもの、底部は底径が復元できるものおよび底面に特徴的な痕跡が見られるものに限定して掲載した。
- b 実測……文様の表現については客観性を重要視し、拓本を多用した。径の推定可能なもの（1/4以上残存）は復元実測を行った。

石器

- a 掲載遺物の選択基準……遺構内出土分以外は完形品を優先して掲載した。点数の多い器種については、完形品であっても不掲載としたものもある。
- b 実測……調整部位や打面・打点など、最低限必要と判断した部位のみ展開し、省力化に努めた。

土製品・石製品・鉄製品・銭貨

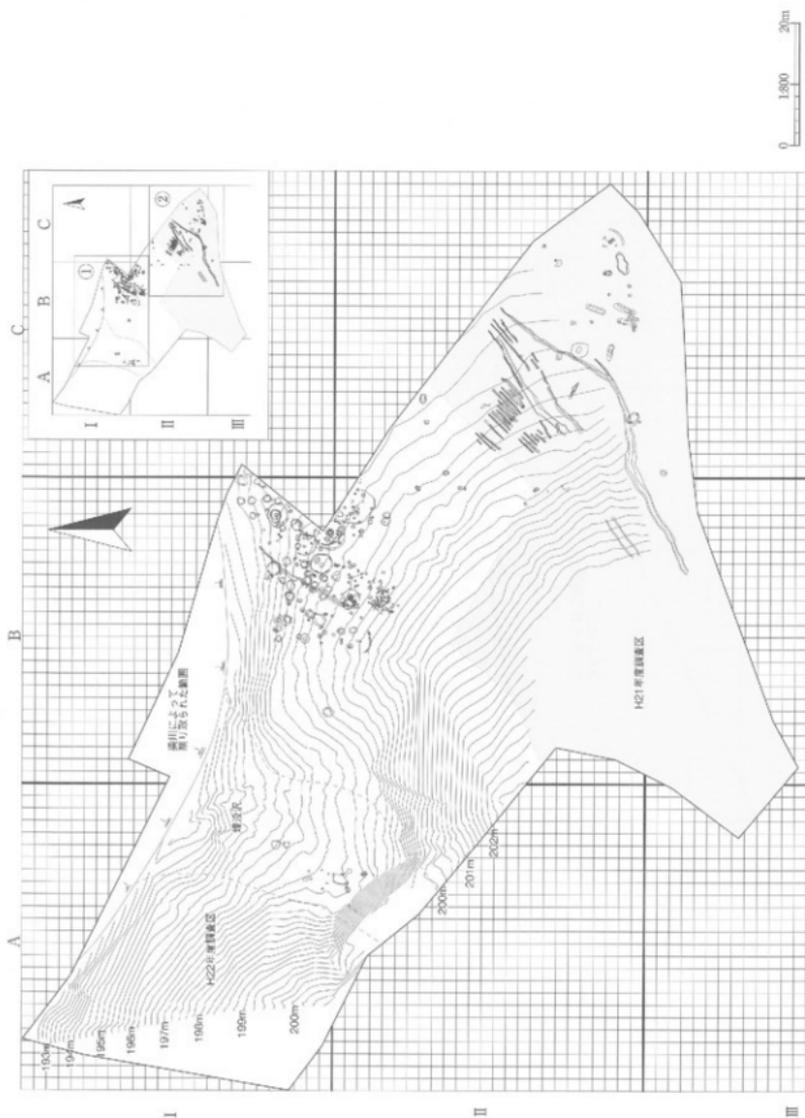
- a 掲載遺物の選択基準……本遺跡では希少であるため全点掲載した。

(3) 写真撮影

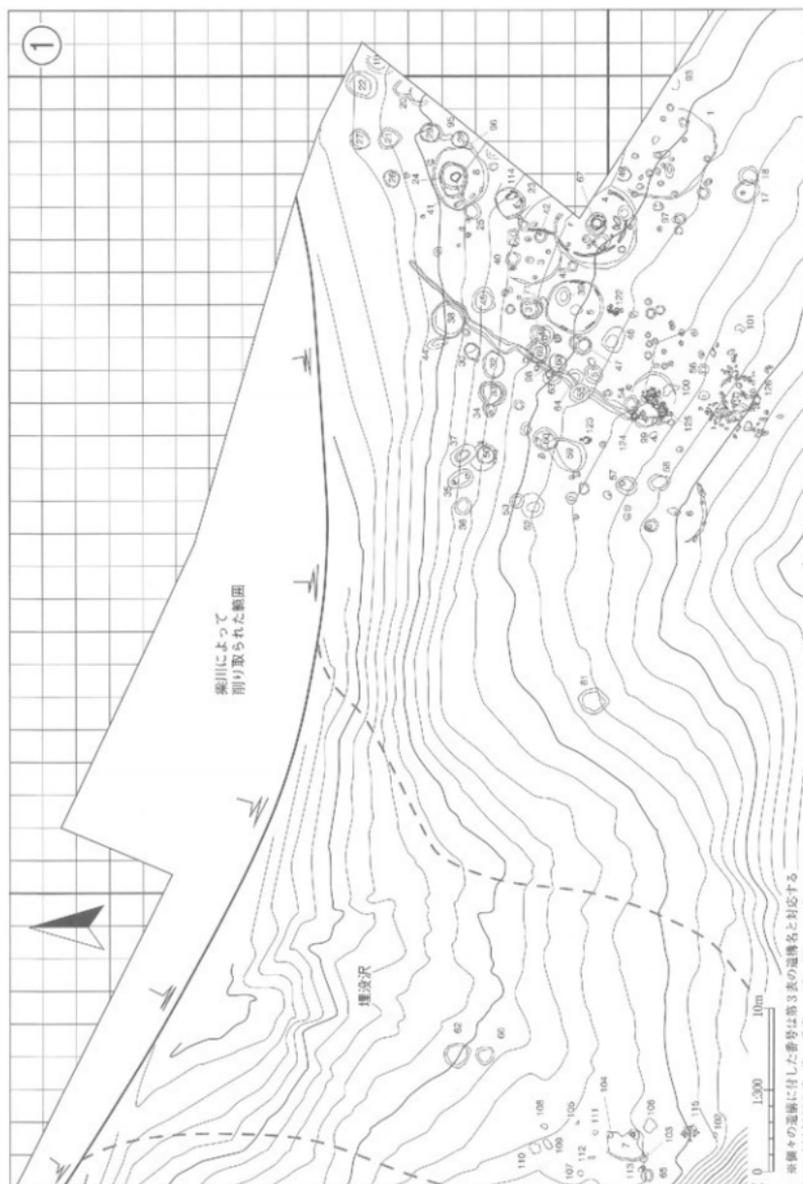
当センター写真室において、専属の撮影技師がデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS1 Mark II）を用い撮影した。



第7図 基準点・グリッド・トレンチ配置図



第8図 遺構配置図



第9図 遺構配置図一部分①



第10図 遺構配置図一部分②

IV 検出遺構

1 竪穴住居

2カ年の調査により、調査区北西寄りの埋没沢西側に1棟、中央部遺構集中区に7棟、東端部に1棟の計9棟を確認した。出土した遺物等の特徴から、時期は縄文時代後期前葉から後葉、晩期中葉、弥生時代～縄文時代晩期の概ね3つに大別できる。以下に詳細を記す。

RA001竪穴住居

遺構（第11図、写真図版3）

〔位置・検出状況〕調査区中央部東側、ⅡB2v～2x、3v～3xなどに跨って位置する。Ⅷ層下～Ⅸ層上面で、地床炉2基を確認したことから竪穴住居跡とした。平成21年度に調査区際に設定したトレンチで一部を確認、次年度に全体を精査したものである。

〔重複関係〕複数の柱穴状土坑と重複するが、新旧は不明である。

〔平面形・規模〕平面形は円形あるいは楕円形をなすものと思われる。北東側のおよそ半分が調査区域外にあり、調査できなかったことによる。北西～南東方向の長さは6mを測る。

〔埋土〕2層に分層した。上位は焼土や炭化物粒を含む暗褐色シルトの早層で、下位は部分的に黒色シルトが堆積している。自然堆積と思われる。

〔床面・壁〕床面は平坦である。壁の立ち上がりは不明瞭で、わずかな段差あるいは断面で予想できる部分をそれと見立てた。

〔炉〕住居の中央部に地床炉を2基検出した。焼土範囲は88×40cmと54×41cmを測り、ともに不整楕円形をなす。燃焼部の厚さは2～8cmで焼け具合は良好である。

〔付属施設〕地床炉のほかに柱穴3個が確認された。

遺物（第51・52・95・97・98・102・107図、写真図版42・60～62・64）

〔土器・土製品〕24点掲載した（1～24）。24は滑車形耳飾りと思われる。土器の時期は、後期前葉から後葉にかけてのものが多く、これを含め、埋土から6,523.8gの土器が出土した。

〔石器〕8点掲載した（14・15・24～26・38・65・92）。この他に58.5gの剥片・素材類が出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期中葉から後葉のいずれかに属する住居跡と思われる。

RA002竪穴住居

遺構（第12図、写真図版4）

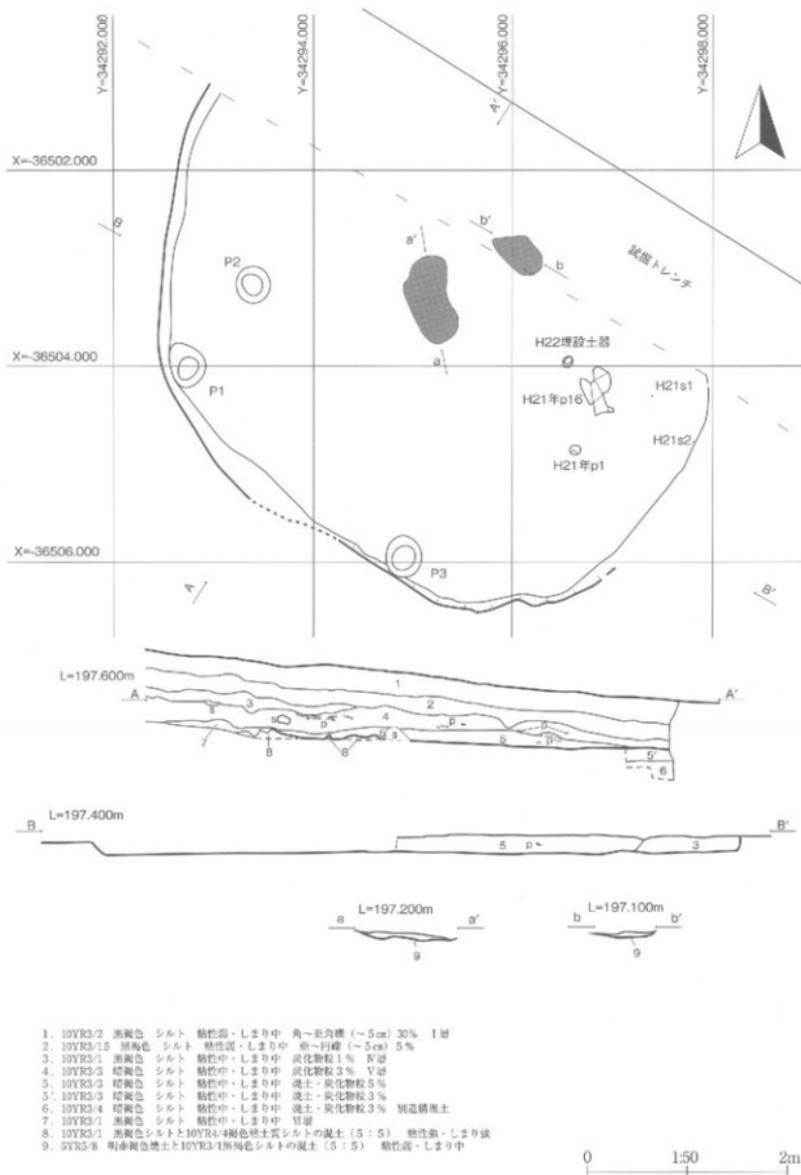
〔位置・検出状況〕ⅡC23tグリッド付近に位置する。Ⅳ層下位で、炉石を確認した。

〔重複関係〕上位にRF008焼土遺構が位置する。本遺構埋土にRA002が形成されたものと考えられる。

〔平面形・規模〕南東部1/4以外の壁が検出されなかったため、規模は不明である。平面形も円形基調である以外は判然としない。

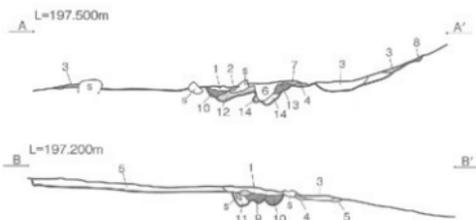
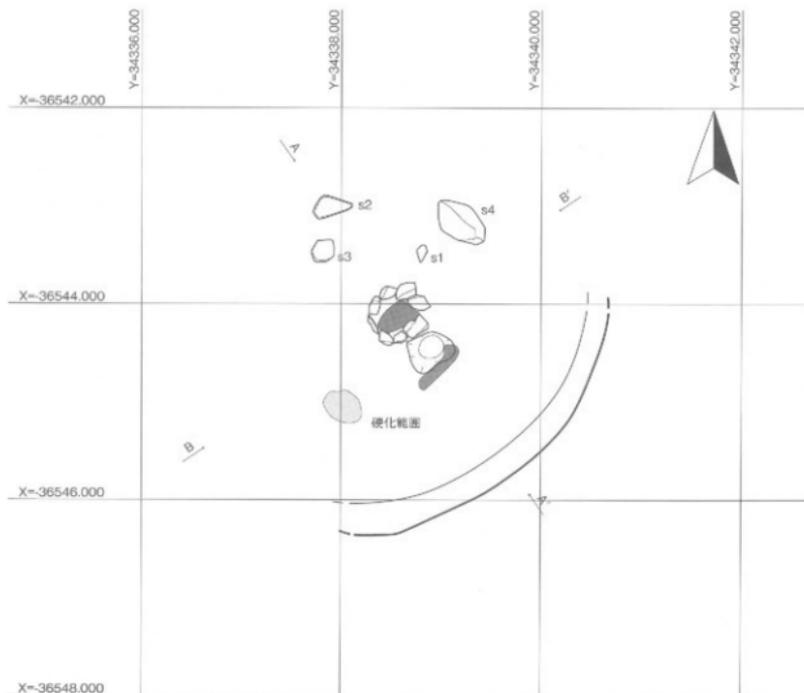
〔埋土〕黒～黒褐色シルトが堆積している。基本層序Ⅳ層起源と考えられ、これに類似する。

〔床面・壁〕床面は概ね平坦である。しまりはほとんど認められず、唯一炉の南西側に径40cm程度の硬化範囲を検出している。南東側が地形に沿って緩やかに立ち上がり、これが壁面の一部をなすものと考えられる。同部分以外の壁は未確認である。



第11図 RA001竪穴住居

1 竪穴住居



1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 砂粒中・しまり弱 5YR4/6赤褐色焼土粒 (~3mm) 5%
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 砂粒中・しまり弱 5YR4/6赤褐色焼土粒 (~5mm) 10%
3. 10YR2/1.5 黒~黒褐色 シルト 粘粒中・しまり弱
4. 10YR2/1 黒色 シルト 粘粒中・しまり弱 10YR4/2灰黄褐色シルトブロック (~1cm) 5% 炭化物粒 (~1cm) 3% 砂積粘土?
5. 10YR2/1 黒色 シルト 粘粒中・しまり弱 炭化物粒 (~5mm) 3%
6. 10YR2/1 黒色 シルト 粘粒中・しまり弱 赤褐色土粒 (~3mm) 1%
7. 10YR2/1 黒色 シルト 粘粒中・しまり弱 5YR3/6赤褐色焼土ブロック (~2cm) 20%
8. 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘粒中・しまり弱
9. 5YR4/8 赤褐色 焼土 粘粒中・しまり弱 焼流形焼土
10. 5YR4/6 赤褐色 焼土 粘粒中・しまり弱 10YR2/2黒褐色シルト含む
11. 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘粒中・しまり弱 離層上方
12. 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘粒中・しまり弱 5YR4/6焼土粒(3mm) 10% 距伊直跡
13. 5YR4/8 赤褐色 焼土 粘粒中・しまり弱 距伊直跡
14. 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘粒中・しまり弱 5YR4/6焼土粒 (~3mm) 5%



第12図 RA002竪穴住居

[炉] 石囲炉である。石組部は68×61cmの楕円形、焼土範囲は38×26cmの長楕円形を呈する。石組の構成層は粘板岩である。

[付属施設] 柱穴等の付属施設は検出されていない。

遺物 (第104・105図、写真図版63)

[土器] s4付近の埋土中から13.9gの破片が出土した。

[石器] 床面から2点(49・93)、炉南東側窪み上位から1点(66)の計3点・15,690.86g出土した。

[植物遺存体] 炉燃焼面直上の土壌(1層)をコラムサンプリングし、土壌水洗選別法を実施した。結果、オニグルミ内果皮破片15点、トチノキ種皮破片1点、イタヤカエデ種子破片1点が検出された。時期 出土遺物の面からは判断が付かない。検出面からは弥生時代～縄文時代晩期頃と予想された。

RA003竪穴住居

遺構 (第13図、写真図版5)

[位置・検出状況] 遺構が集中する調査区中央部のI B24r～23u、24s～24uなどに跨る。Ⅸ層上面までの包含層掘削時に、土器埋設炉を検出した。壁の立ち上がりは数cmを残すのみである。

[重複関係] RA004竪穴住居に切られるほか、RD031・033土坑とも重複する。後者よりは本遺構の方が新しいが、前者とのそれは不明である。

[平面形・規模] 平面形は円形か楕円形をなすものと思われる。上述のとおり、遺構北東側の2/3ほどは壁が立たない。推定される直径は320～300cmぐらいか。

[埋土] 埋土が観察できた箇所はほんのわずかであるが、上下2層に分けた。ともに炭化物粒を含むにぶい黄褐色シルトであるが、後者には小礫が含まれている点で異なる。

[床面・壁] 床面はほぼ平坦で、壁の状況は既に述べたとおりである。

[炉] 住居の中央部西寄りに土器埋設炉を1基検出した。燃焼部の範囲は47×35cmを測り、楕円形をなす。燃焼部の厚さは最大で15cm、焼け具合は良い。

[付属施設] 柱穴4個が見つかった。また、住居跡東側には長さ170cm、幅5～14cm、深さ5cmほどの周溝が確認された。

遺物 (第52・53図、写真図版42)

[土器・土製品] 3点を掲載した(25～27)。26は他の土坑出土の上器と接合している。これらを含め、埋土から2,272.7g出土した。[石器] 出土しなかった。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉から中葉に属する住居跡と思われる。

RA004竪穴住居

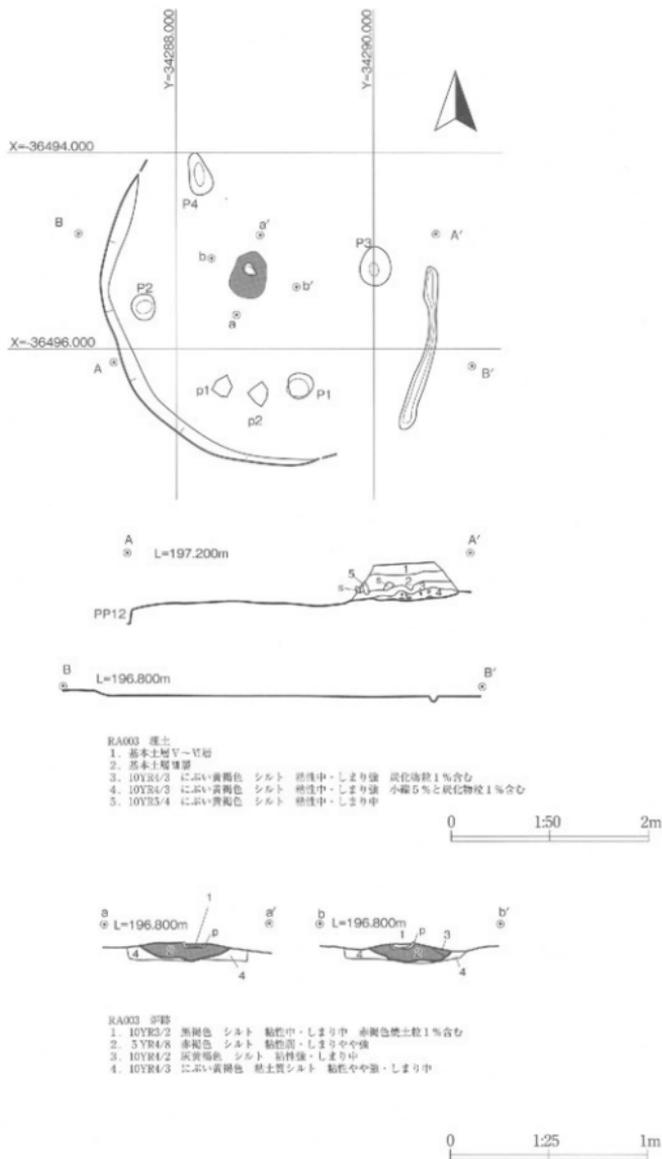
遺構 (第14・15図、写真図版6)

[位置・検出状況] 遺構集中区中央部のI B24t・24u・25t～25v・II B1t～1vに跨って位置する。前年度調査開始時の試掘トレンチにより住居跡の可能性が指摘されていたものである。Ⅸ層上面において円形の暗褐色土プランを確認した。遺構の北東部は調査区域外にある。なお、精査の結果建て替え拉張された住居であることが判明した。以下の記載は拉張後のものである。

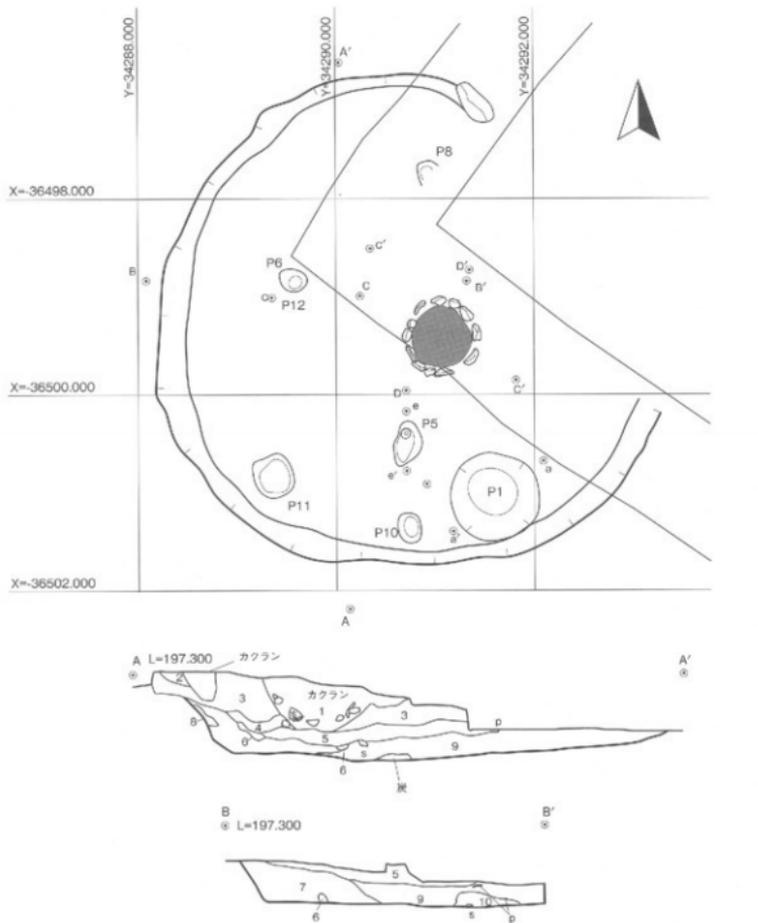
[重複関係] 床面にRD058土坑を確認した。よって本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形と思われ、調査できた範囲で測定した規模は522×514cmである。

[埋土] 大きく3層に分層できる。上位は粘土粒を含む暗褐色土、中位は炭化物を含む暗褐色土、下位は粘性の強い黒褐色土が自然堆積している。土質はいずれも粘土質シルトである。



第13図 RA003竪穴住居



RA004 Ⅰ

1. 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中・しまり強 断面荒丸
2. 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中・しまり強 灰褐色土ブロック含む
3. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 粘土ブロック含む
4. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 極小礫わずかに含む
5. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 炭化物をまばらに含む
6. 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 フロック状
7. 10YR3/5 暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 炭化物粒を含む
8. 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト 粘性強・しまり強 灰砂以下の流山崩落土
9. 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 炭化物をまばらに含む
10. 7.5YR/4 褐色 シルト 粘性中・しまり中 礫の付かない焼土ブロック

第14図 RA004 (1) 竪穴住居

〔床面・壁〕床面は中央部がわずかに凹み、壁は外傾して立ち上がる。壁高は最大で80cmほどである。

〔炉〕住居の中央部やや東寄りに石囲炉を検出した。5×20cmを最大とする角礫が12個円形に配され、形成された燃焼部の広がりには60×61cmを測る。燃焼部の厚さは最大8cmで、焼け具合は良好である。

〔付属施設〕柱穴4個（P5・P6・P10・P11）と貯蔵穴と思われる土坑1基（Pit1）を確認した。

〔拡張前の状況〕上述のとおり建て替え拡張された住居であるが、ここで拡張前の状況に触れる。壁からかなり内側に周溝を有すること、拡張後に伴う石囲炉のわずかに下のレベルにもう1基石囲炉が検出されたことを根拠としている。周溝は10cm程度の幅をもち、踏切れ跡切れに巡る。それから推定される住居の規模は4～4.8mほどである。炉は9個の角礫が円形に配置され、燃焼部焼土は57×50cmの楕円形に広がる。焼土の厚さは8cmで、Ⅸ層は暗赤褐色に変色している。この他、周溝の内側に存在する柱穴4個（P3・P7・P9・P12など）、土坑1基（Pit2）も拡張前に伴うものと判断した。

遺物（第53～55・95～98・101・102・104・107・108図、写真図版42～44・60～65）

〔土器・土製品〕いずれも拡張後の遺物である。38点掲載した（28～50、52～66）。これらを含め、本遺構内から23,297.1g出土した。

〔石器〕11点掲載した。（2・18・27・28・39・56・67・68・80・96・97）。石鏃・石匙・磨製石斧・磨石・台石などの種類がある。この他、92.93gの素材・剥片類が出土した。

〔その他〕拡張後の炉内から骨片（鳥骨？）数gが、同床面からケヤキとクリの炭化材が、拡張前のPit2から粘土塊が出土した。

時期 縄文時代後期前葉から後葉にかけての土器が出土しており、そのいずれかに属するものと思われる。拡張前も後期の中に収まるものと考えられる。

RA005竪穴住居

遺構（第16図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕遺構集中区中央のI B24 r・24 s・25 r・25 sの4グリッドに跨って位置する。Ⅸ層上面までの包含層掘削時に、黒褐色土の円形プランを確認した。

〔重複関係〕RD030土坑と重複する。本遺構の方が新しいかあるいは付属する土坑となる可能性がある。

〔平面形・規模〕平面形は円形で、規模は343×332cmを測る。

〔埋土〕炭化物粒等を含まない暗褐色粘土質シルトの単層である。

〔床面・壁〕床面は東西方向に細かい凹凸を有し、壁は外傾して立ち上がる。壁際に周溝がある。

〔炉〕住居の中央やや西寄りに地床炉をもち、燃焼部は71×54cmの不整形円形をなす。厚さは最大で13cm、焼け具合は良好である。

〔付属施設〕全周しないが幅10cm、深さ5cmほどの周溝が確認された。

遺物（第55図、写真図版44）

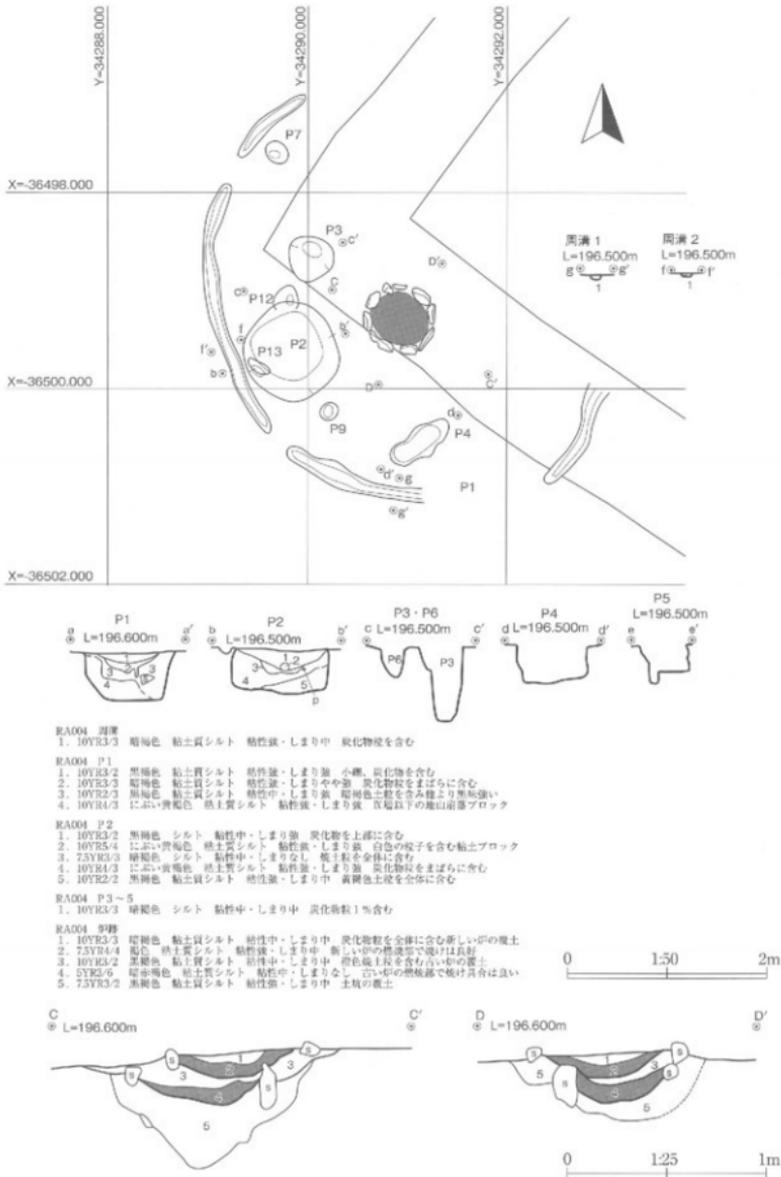
〔土器・土製品〕2点掲載した（67・68）。68は他地点出土の土器と接合している。これらを含め、埋土から429.8g出土した。〔石器〕出土しなかった。

時期 出土遺物から、縄文時代後期中葉から後葉のいずれかに属するものと思われる。

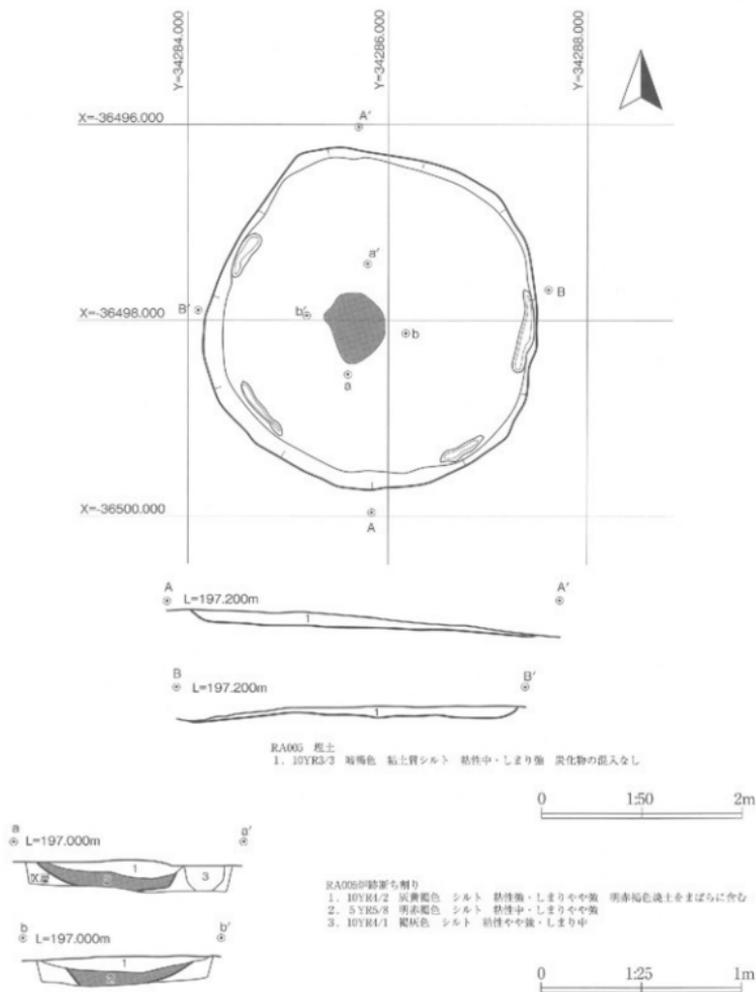
RA006竪穴住居

遺構（第17図、写真図版8）

〔位置・検出状況〕遺構集中部の南西端II B3 k・4 l・4 mなどに跨って位置する。Ⅸ層面までの遺物包含層掘削時に土器埋設炉を確認、南壁の一部を検出したものである。



第15図 RA004 (2) 竪穴住居



第16図 RA005竪穴住居

[重複関係] RA004竪穴住居に切られるほか、RD031・033上坑とも重複する。後者よりは本遺構の方が新しいが、前者とのそれは不明である。

[平面形・規模] 平面形は円形か楕円形をなすものであろう。壁は南壁の一部しか残存しない。

[埋土] 礫を全体に含む黒褐色シルトの単層である。

[床面・壁] 床面は細かい凹凸をもつ。南壁は緩く外傾して立ち上がる。

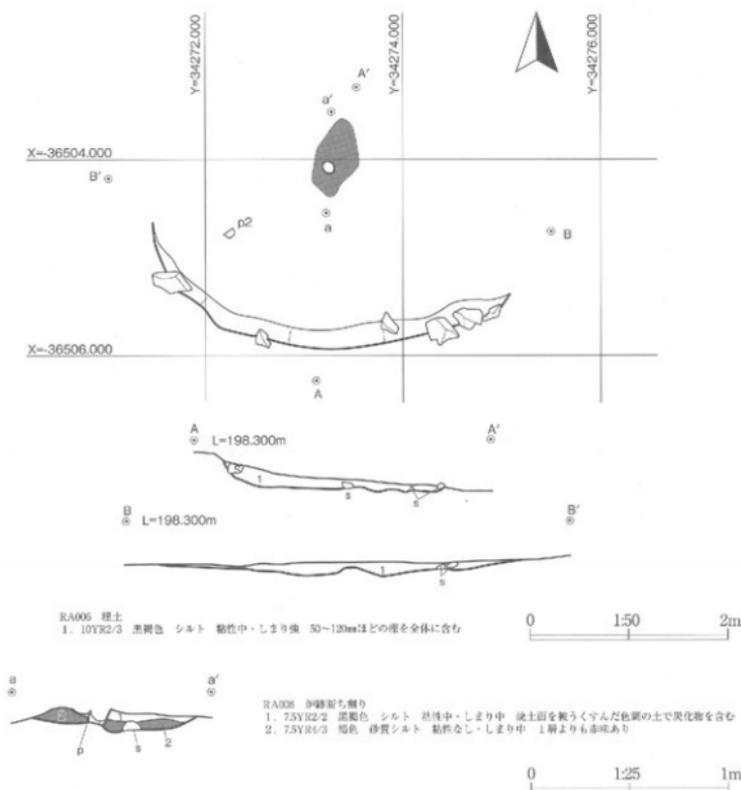
[炉] 土器埋設炉1基を確認した。燃焼部の広がりは80×46cmの不整楕円形をなす。燃焼部の厚さは8cmほどで、あまり焼け具合は良くない。

[付属施設] 確認されない。

遺物 (第55図、写真図版44)

[土器・土製品] 炉内の土器1点232.4g (69) と他に1点掲載した (70)。埋土からは542.2gの土器が出土した。[石器] 不掲載の素材や剥片類が11.33g出土した。

時期 出土遺物の特徴から、縄文時代後期前葉から中葉にかけての遺構と考えられる。



第17図 RA006竪穴住居

RA007竪穴住居

遺構 (第18図、写真図版9)

〔位置・検出状況〕平成22年度調査区中央にある埋没沢の西側ⅡA1q・2q・1r・2rに跨って位置する。晩期中葉の遺物包含層を掘削中に、土器埋設炉を検出、西壁の一部を確認した。

〔平面形・規模〕平面形は円形か楕円形をなすものと思われる。上述のとおり、壁は西側の一部しか残っていない。推定される直径は300cm前後か。

〔埋土〕上下2層に分けられる。上位は小礫を含む灰黄褐色シルト、下位は炭化物粒や焼土ブロックを包む黒褐色粘土質シルトが堆積する。

〔床面・壁〕床面はほぼ平坦で、堅く締まる範囲をそれとした。残存する西壁は緩く外傾している。

〔炉〕土器埋設が1基を確認した。燃焼部の広がりには68×48cmの不整楕円形をなす。燃焼部の厚さは10cm前後で、焼け具合は良好である。

〔付属施設〕確認されない。

遺物 (第56図、写真図版44)

〔土器・土製品〕炉内の土器1点777.5gを掲載した(71)。その他、埋土から646.8gの土器が出土した。

〔石器〕出土していない。

時期 周辺から出土する遺物や炉内埋設土器の特徴から、縄文時代晩期中葉に属すると考えられる。

RA008竪穴住居

遺構 (第18図、写真図版10)

〔位置・検出状況〕遺構集中区の北東部、I B20v～22v・20w～22wなどに跨る。これもⅡ層上面で検出した。当初はもう少し規模が小さいものと判断し、土坑として登録していたものである。

〔重複関係〕床面で検出され、本遺構よりも古いと思われるものはRD015・032土坑、遺構の東壁付近にあるRD019土坑との関係は不明、RF025焼土遺構は検出面から焼土のほうが新しいと判断した。南西部で重複するRD016土坑との新旧は明確にできなかった。

〔平面形・規模〕平面形は不整楕円形で、規模は387×336cmを測り東西方向に若干長い。

〔埋土〕2層に分層した。上位は炭化物粒を含む黒褐色シルトが、下位は焼土粒も含む暗褐色粘土質シルトが薄く堆積する。自然堆積である。

〔床面・壁〕細かい凹凸をもつ床面で、壁は緩やかに立ち上がる。床面には大小の礫が散乱していた。

〔炉〕住居中央部北寄り石囲炉をもつ。9個の礫が配され、内部にある燃焼部は47×34cmの楕円形に広がる。燃焼部焼土は色調で2層に分かれ、厚さは20cm弱である。

〔付属施設〕確認されない。

遺物 (第56・57・103～105・108図、写真図版44・45・63・65)

〔土器・土製品〕土器11点、土製品3点を掲載した(72～85)。76は他の土坑出土の土器と接合した。これらを含め、5,601.1g出土した。

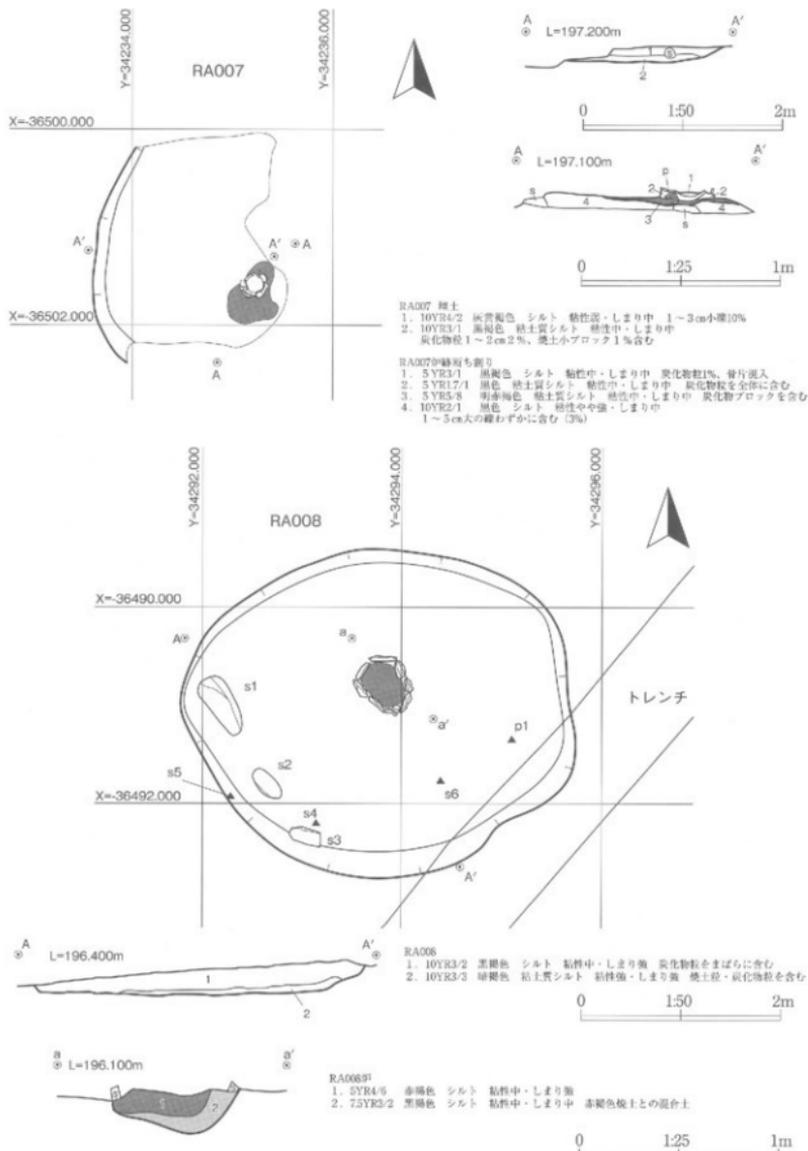
〔石器〕凹石(73)・磨石(81～83)・台石(99・100)の礫石器を8点掲載した。

時期 出土遺物などから、縄文時代後期前葉から後葉のいずれかに属する住居跡と思われる。

RA009竪穴住居

遺構 (第19図、写真図版11)

〔位置・検出状況〕ⅡB1p～3pに跨って位置し、本来はこの西側にも広がっていたものと思われ



第18図 RA007・008竪穴住居

る。包含層掘削時に崖錐性礫を取り除いたが、その際にIX層上面で土器埋設が検出、その後の精査で東壁を確認したものである。

〔平面形・規模〕 平面形は円形か楕円形をなすものと思われる。上述のとおり、遺構の西側ほぼ半分は壁が立たない。推定される直径は250cm前後と思われる。

〔埋土〕 住居跡自体の埋土は、包含層掘削時に掘り切ってしまったため不明である。

〔床面・壁〕 床面は平坦で、残存する東壁は外傾して立ち上がっている。

〔炉〕 住居の中央と推定される箇所に、土器埋設炉1基を確認した。燃焼部の範囲は80×45cmで、不整楕円形をなす。燃焼部の厚さは最大で18cmで、焼け具合は良好である。

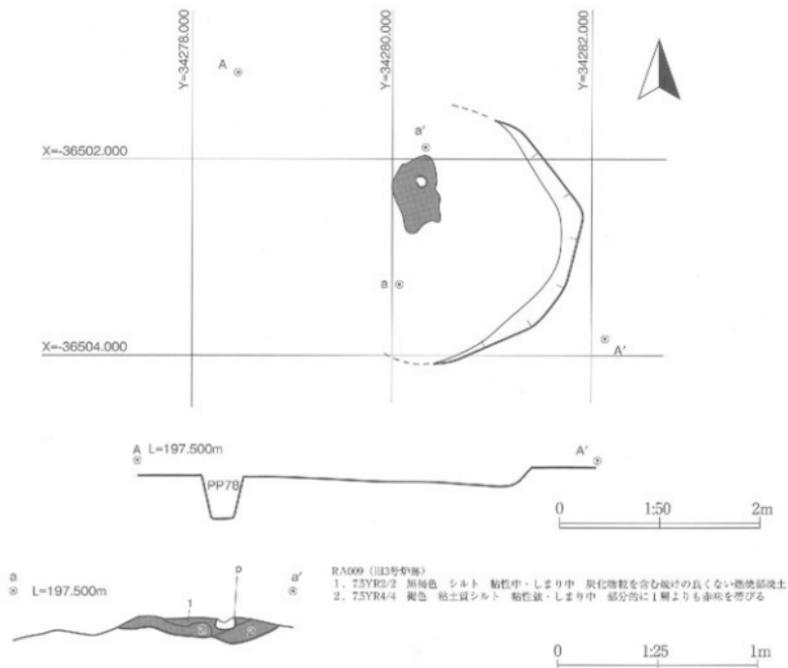
〔付属施設〕 確認されない。

遺物 (第57図、写真図版45)

〔土器・土製品〕 1点掲載した(86)。これを含め、埋土から165.0g出土した。

〔石器〕 出土していない。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉から中葉に属する住居跡と思われる。



第19図 RA009竪穴住居

2 土 坑

RD001土坑

遺構（第20図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕ⅢC2aグリッドに位置する。Ⅲ層中で土色の違いにより検出された。

〔平面形・規模〕平面形は円形を呈し、規模は開口部径105×96cm、底部径62×51cmを測る。

〔埋土〕黒色シルト、黒褐色シルト、黄褐色砂が入り混じる。人為堆積と考えられる。

〔底面・壁〕地山が礫混入層のため底面・壁面とも凹凸が激しい。壁は緩く立ち上がり、断面形は皿状を呈する。検出面からの深さは22cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から古代以降の所産と推定される。

RD002土坑

遺構（第20・21図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕ⅡC24nグリッド付近に位置する。Ⅳ層上面で土色の違いにより検出された。RD001～007土坑と近接する。RD005～007とは輪線も共通する。

〔平面形・規模〕平面形は長楕円形を呈し、規模は開口部径377×100cm、底部径281×43cmを測る。長軸方向はN-22°-Eである。

〔埋土〕Ⅲ～Ⅳ層起源の褐色～暗褐色土主体で、自然堆積と考えられる。

〔底面・壁〕壁から底面まで緩く傾斜しており、平坦面はない。断面形は碗形を呈する。検出面からの深さは40cmである。

遺物（第57図、写真図版45）

〔土器〕埋土下位から縄文土器が10.7g出土し、1点掲載した（87）。

時期 RD005～007土坑と同時期の構築と考えられる。検出面から弥生時代以降の所産と推定される。

RD003土坑

遺構（第20図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕ⅡC20kグリッド付近に位置する。Ⅲ層下位で土色の違いにより検出された。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形を呈し、規模は開口部径299×216cm、底部径107×76cmを測る。

〔埋土〕8層に分層されるが、いずれも斜方向に堆積している。上位層にあたる1～5層は黒褐色～暗褐色シルト主体で、下位層にあたる6～8層は黄褐色シルトが混じる。これらの堆積様相から、斜面下方南東方向に倒れた倒木痕の可能性が高い。

〔底面・壁〕底面は狭く、凹凸が激しい。断面形は碗形を呈する。検出面からの深さは110cmである。

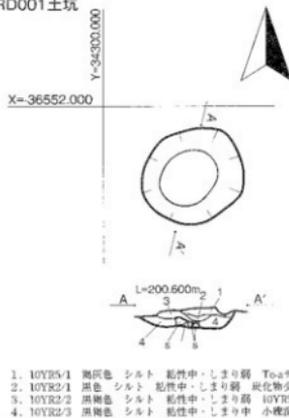
遺物（第57図、写真図版45）

〔土器〕埋土中から縄文土器が118.7g出土し、1点掲載した（88）。

〔石器〕埋土中から敲石1点・597.90gが出土した（90）。

時期 出土遺物は縄文期のものであるが、検出面から弥生時代以降の所産と推定される。

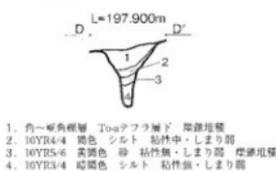
RD001土坑



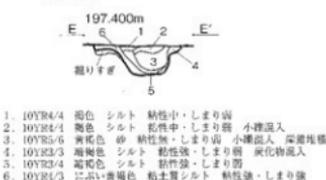
RD002



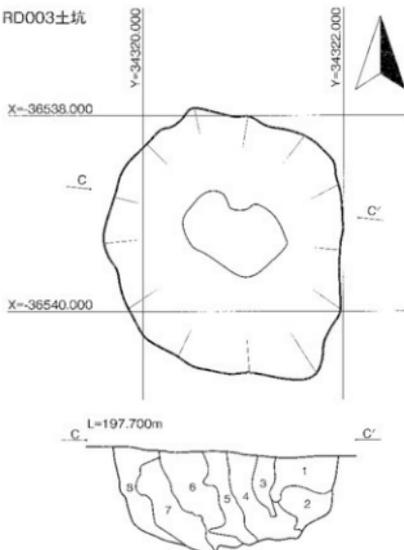
RD004



RD005



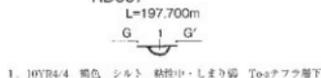
RD003土坑



RD006



RD007



0 150 2m

RD004土坑

遺構 (第20・21図、写真図版12)

[位置・検出状況] II C24mグリッド付近に位置する。III層下位で土色の違いにより検出された。RD002・005～007土坑と近接する。

[重複関係] RD006土坑と重複し、これに切られる。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形を呈し、規模は開口部径141×73cm、底部径43×13cmを測る。長軸方向はN-S2°-Eである。

[埋土] 崖錐堆積層と褐色～暗褐色シルト層が交互に堆積する。自然堆積である。

[底面・壁] 底面は伏く、断面形は漏斗状を呈する。検出面からの深さは64cmである。

遺物 出土していない。

時期 RD006土坑より古期の構築である。検出面から弥生時代以降の所産と推定される。

RD005土坑

遺構 (第20・21図、写真図版13)

[位置・検出状況] II C21nグリッド付近に位置する。III層下位で土色の違いにより検出された。RD002・004・006・007土坑と近接する。RD002・006・007土坑とは軸線も共通する。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形を呈し、規模は開口部径328×88cm、底部径270×55cmを測る。長軸方向はN-21°-Eである。

[埋土] 上位と下位の一部に崖錐堆積層、下位に暗褐色～褐色シルト層が堆積する。自然堆積である。

[底面・壁] 底面に凹凸は少なく、狭いが平坦面を有する。断面形は碗形で、上部が水平気味に開く。検出面からの深さは32cmである。

遺物 出土していない。

時期 RD002・006・007土坑と同時期の構築と考えられる。検出面から弥生時代以降と推定される。

RD006土坑

遺構 (第20・21図、写真図版13)

[位置・検出状況] II C24mグリッド付近に位置する。III層下位で土色の違いにより検出された。RD002・004・005・007土坑と近接する。RD002・005・007土坑とは軸線も共通する。

[重複関係] RD004土坑と重複し、これを切る。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形を呈し、規模は開口部径260×91cm、底部径193×49cmを測る。長軸方向はN-11°-Eである。

[埋土] 崖錐堆積層と暗褐色シルト層が交互に堆積する。自然堆積である。

[底面・壁] 壁から底面まで緩く傾斜しており、平坦面はない。断面形は碗形を呈する。検出面からの深さは30cmである。

遺物

[土器] 埋土中から縄文土器が4.7g出土した。

時期 RD004土坑より新期の構築で、RD002・005・007土坑と同時期と考えられる。出土遺物は縄文期的のものであるが、検出面から弥生時代以降の所産と推定される。

RD007土坑

遺構 (第20・21図、写真図版13)

[位置・検出状況] II C 24 n グリッド付近に位置する。III層下位で土色の違いにより検出された。RD002・004～006土坑と近接する。RD002・005・006土坑とは軸線も共通する。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形を呈し、規模は開口部径184×52cm、底部径155×34cmを測る。長軸方向はN-20°-Eである。

[埋土] 黒褐色シルトの単層である。堆積要因は不明である。

[底面・壁] 壁から底面まで緩く傾斜しており、平坦面はない。断面形は碗形を呈する。検出面からの深さは10cmである。

遺物 (第57図、写真図版45)

[土器] 埋土中から縄文土器が13.0g出土し、1点掲載した(89)。

時期 RD002・005・006土坑と同時期の構築と考えられる。出土遺物は縄文期のものであるが、検出面から弥生時代以降の所産と推定される。

RD008土坑

遺構 (第22図、写真図版13)

[位置・検出状況] II B 4 v・5 v グリッドに跨る。VIII層上位でRD009土坑とともに検出された。

[重複関係] これらは重複するが、本遺構の方がRD009よりも古い。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、規模は開口部径153×128cm、底部径123×103cmを測る。長軸方向はN-50°-Wである。

[埋土] 炭化物粒を含む暗褐色粘土質シルトの単層である。自然堆積と思われる。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。断面形は浅皿状をなす。深さは18cmである。

遺物 (第57図、写真図版45)

[土器] 2点掲載した(90・91)。これを含め、埋土中から縄文土器が106.8g出土した。

[その他] かなり粘性の高い白色粘土塊が数百g出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉に属する土坑と思われる。

RD009土坑

遺構 (第22図、写真図版14)

[位置・検出状況] II B 5 v・5 w グリッドに跨って位置する。

[重複関係] 上述のとおり、RD008のほうが古い。

[平面形・規模] 平面形は略円形で、規模は開口部径123×121cm、底部径86×74cmを測る。

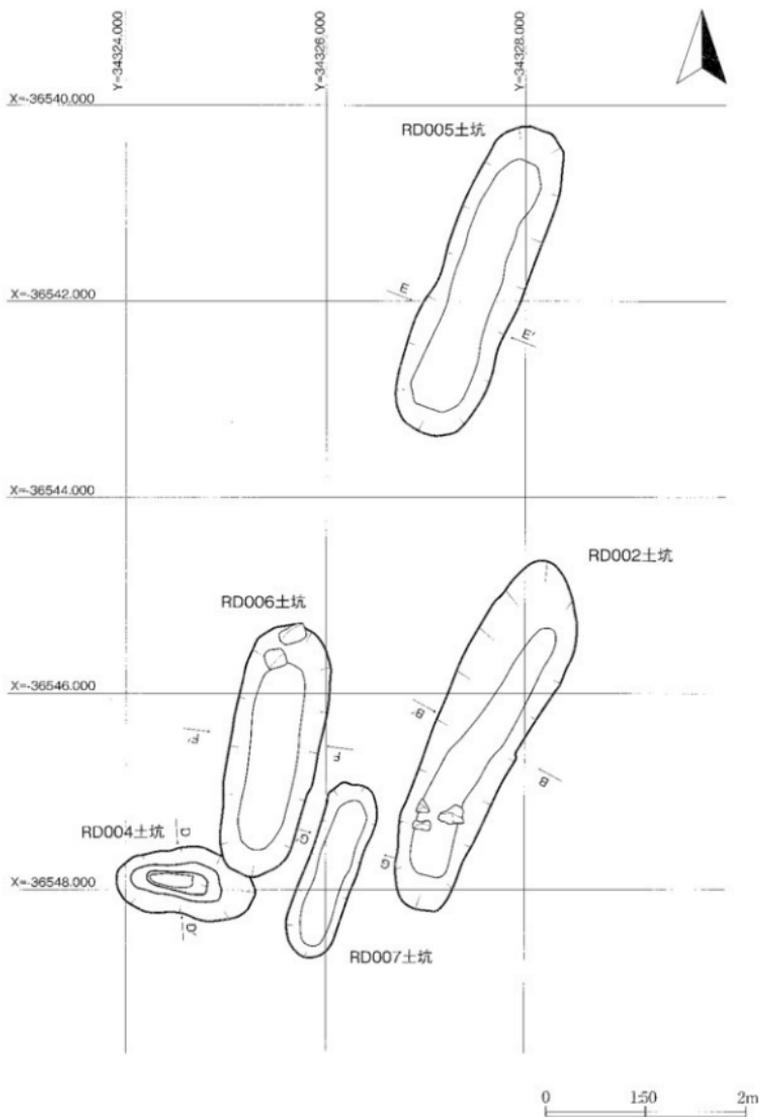
[埋土] 褐色上物粒などを含む暗褐色粘土質シルトの単層である。自然堆積と思われる。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がる。断面形は浅皿状をなす。深さは21cmである。

遺物 (第57図、写真図版45)

[土器] 2点掲載した(92・93)。これを含め、埋土中から縄文土器が76.4g出土した。

時期 RD008との重複関係から、縄文時代後期前葉以降に属する遺構と考えられる。出土遺物は、後期後葉のものが出土しており、当該期の可能性が高い。



第21図 RD002・004～007土坑

RD010土坑

遺構 (第22図、写真図版14)

【位置・検出状況】 I C 19 a グリッド杭付近に位置する。Ⅸ層上面で確認した。

【平面形・規模】 平面形は円形と思われる。規模は開口部径が108cm、底部径が172cmである。

【埋土】 10層に分けられた。上位は炭化物粒や焼土粒を含む暗褐色粘土質シルト、中位は灰黄褐色～暗褐色の粘土質シルト、下位は礫を含む黒褐色上～暗褐色土のシルト質土である。中位に地山崩落ブロックを含む。自然堆積と思われる。

【底面・壁】 断面形は所謂フラスコ状である。底面は平坦で壁はオーバーハングしつつ立ち上がるが、南西側の入り込みが大きい。北東側の壁には凹凸が見られる。検出面からの深さは108cmである。

遺物 (第57図、写真図版45)

【土器】 2点掲載した (94・95)。95は上側の胴部である。これらを含め土器類は389.6g出土した。

【石器】 剥片・素材類が10.79g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉以降後期のいずれかに属する遺構と考えられる。

RD011土坑

遺構 (第23図、写真図版14)

【位置・検出状況】 I B 20 y グリッドにあり、調査区外にも延びている。検出面はⅨ層上面である。

【平面形・規模】 平面形は円形をなすであろう。北側に不整形に延びる箇所があるが、遺構本体には関係しないと思われる。規模は開口部径114cm、底部径124cmを測る。

【埋土】 7層に分層した。上位は炭化物粒を含む暗褐色粘土質シルト、中位は砂を感じる暗黄褐色粘土質シルト、下位はにぶい黄褐色土粘土質シルトである。中位から下位にかけて、Ⅸ層の地山崩落ブロックが見られる。人為堆積か自然堆積かは不明確である。

【底面・壁】 底面は平坦で壁は直立気味に立ち上がる。断面形はフラスコ状で、深さは103cmである。

遺物 (第57図、写真図版45)

【土器】 3点掲載した (96～98)。これを含め、埋土中から縄文土器が1,512.4g出土した。

時期 出土した遺物から、縄文時代後期中葉から末葉に属すると考えられる。

RD012土坑

遺構 (第23図、写真図版14)

【位置・検出状況】 I B 19 w・19 x に跨る。検出面はⅨ層上面である。

【平面形・規模】 平面形は不整形円で、規模は開口部径140×126cm、底部径110×104cmを測る。

【埋土】 黒褐色粘土質シルトの単層で、褐色・にぶい黄褐色の小ブロック、炭化物を含む。

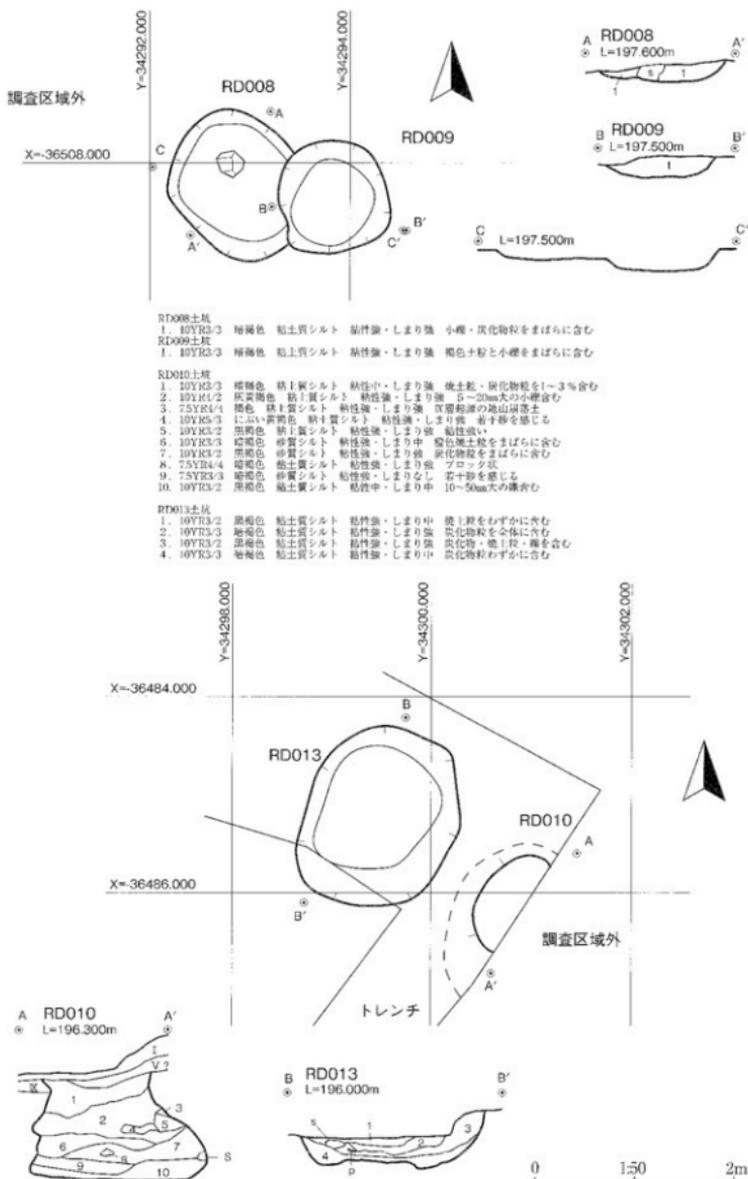
【底面・壁】 底面は細かい凹凸があるが全体的には平坦である。壁は直立気味に立ち上がる。断面形は逆台形、検出面からの深さは31cmである。

遺物 (第58図、写真図版45)

【土器】 6点掲載した (99～104)。うち、102～104はRD013土坑出土のものと同接している。これらを含め、埋土中から縄文土器が626.9g出土した。

【石器】 剥片・素材類が4.40g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉から後葉に属する遺構と考えられる。



第22図 RD008~010・013土坑

RD013土坑

遺構 (第22図、写真図版15)

〔位置・検出状況〕 調査区北東端 I B18y・I C18a に跨っており、南東側でRD010土坑と隣接する。検出面はⅨ層上面であるが、調査区の端に入れたトレンチで遺構北側の検出面を下げすぎている。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形状で、規模は開口部径188×150cm、底部径133×110cmを測る。長軸方向はN-30°-Eである。

〔埋土〕 4層に分層した。上位は焼土粒を含む黒褐色粘土質シルト、下位は炭化物粒を含む暗褐色土。

〔底面・壁〕 底面は中央部が高く、壁側に向かって下がる。断面形は皿状で、深さは32cmを測る。

遺物 (第58・103図、写真図版45・63)

〔土器〕 7点掲載した (105~111)。前述のとおり102~104はRD012土坑出土のものと同接した。これらを含め、埋土中から縄文土器が2,933.5g出土している。

〔石器〕 凹石1点 (74) のほか、剥片・素材類が13.79g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期末葉に属する遺構と考えられる。

RD014土坑

遺構 (第24図、写真図版15)

〔位置・検出状況〕 II B1v・II B1w に跨り、RA001とRA004の間に位置する。検出面はⅨ層上面であるが、これもトレンチの掘削により南東側の壁の一部を失っている。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形、規模は開口部径173×150cm、底部径200×164cmである。

〔埋土〕 3層に分けられるが、上位は焼土粒を含む黒褐色粘土質シルト、中位も焼土粒を含む暗褐色粘土質シルト、下位は暗褐色シルト質土からなる。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は内湾して立ち上がる。断面形はフラスコ状、深さは48cmである。

遺物 (第58・104図、写真図版45・63)

〔土器〕 4点掲載した (112~115) が、113はRF043炉跡出土のものと同接した。これらを含め、埋土中から縄文土器が967.3g出土した。

〔石器〕 凹石1点 (75) のほか、剥片・素材類が10.66g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期中葉から後葉にかけての遺構と考えられる。

RD015土坑

遺構 (第24図、写真図版15)

〔位置・検出状況〕 I B21v・I B21w に跨って位置する。RA008住居跡のかがプランのほぼ中央にあった。検出面はⅨ層中 (RA008床面) である。

〔重複関係〕 RA008の床面で確認されたことから、それよりも古い遺構と思われる。また、埋土の状況からRD032とも重複することが明らかとなったが、本遺構の方が新しいと判断される。

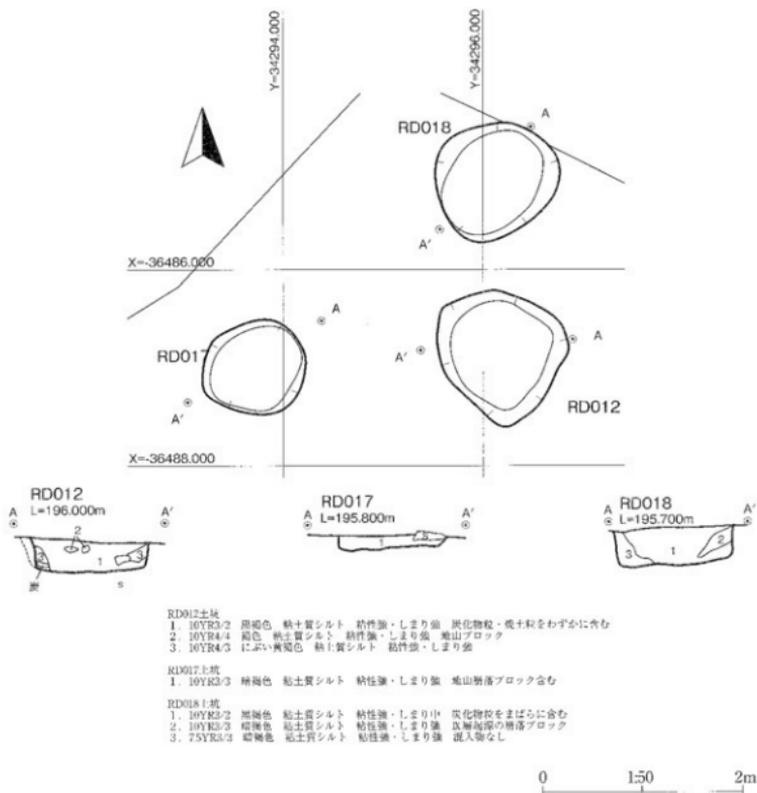
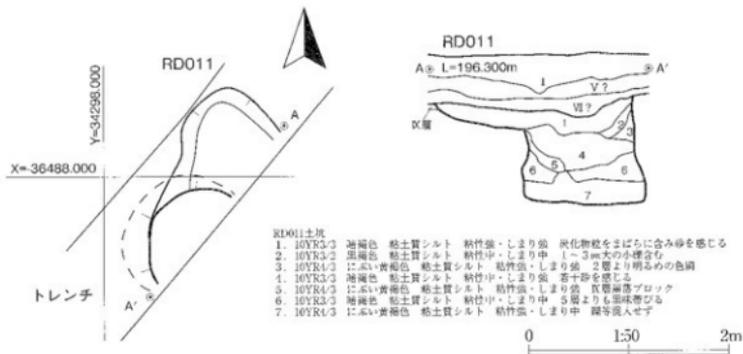
〔平面形・規模〕 平面形は略円形、規模は開口部径167×170cm前後、底部径130×128cmである。

〔埋土〕 10層に分層された。上位は焼土粒・炭化物粒を含む暗褐色シルト質土、中位は焼土粒を含む暗褐色と黒褐色のシルト質土、最下部は砂を含む暗褐色土である。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 底面は平坦、壁は直立気味である。断面形は浅いバケツ状、深さは80cmを測る。

遺物 (第59図、写真図版45)

〔土器〕 6点掲載した (116~121)。これらを含め、埋土中から縄文土器が1,940.8g出土した。



第23図 RD011・012・017・018土坑

時期 縄文時代後期初頭から前葉に属する遺物がみられることから、当該期の遺構と考えられる。

RD016土坑

遺構 (第24図、写真図版15)

〔位置・検出状況〕 I B21u・I B21vなどに跨って位置する。検出面はIX層上面である。

〔重複関係〕 本遺構の北東部がRA008住居跡と重複する。検出時、新旧は不明確であった。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形、規模は開口部径120cm前後×96cm、底部径81×67cmである。

〔埋土〕 黒褐色粘土質シルトの単層で、大量の礫を含む。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、壁は緩く立ち上がる。断面形は浅皿状、深さは30cm前後である。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代のいずれかに属すると思われるが、出土遺物がなく詳細な時期は不明である。

RD017土坑

遺構 (第23図、写真図版16)

〔位置・検出状況〕 I B19v・I B19wに跨る。検出面はIX層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形円形、規模は開口部径107×101cm、底部径97×67cmである。

〔埋土〕 暗褐色粘土質シルトの単層で、礫と地山崩落ブロックを含む。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 底面は傾斜し、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は浅皿状、深さは最大13cm。

遺物 (第59図、写真図版45)

〔土器〕 1点掲載した (122)。これらを含め、埋土中から縄文土器が188.2g出土した。

時期 縄文時代後期前葉の遺物が出土していることから、当該期の遺構としておく。

RD018土坑

遺構 (第23図、写真図版16)

〔位置・検出状況〕 I B18w・I B18xに跨る。検出面はIX層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形円形で、規模は開口部径121×119cm、底部径112×85cmである。

〔埋土〕 炭化物粒を含む黒褐色粘土質シルトを主体とし、壁際に暗褐色土の地山崩落ブロック等を含む。

〔底面・壁〕 底面はわずかに凹凸をもち、壁は直立している。断面形は長方形、深さは37cmである。

遺物 (第59図、写真図版45)

〔土器〕 埋土中から縄文土器が717.5g出土した。1点掲載した (123)。

〔石器〕 剥片・素材類が12.56g出土している。

時期 縄文時代後期初頭の遺物が出土していることから、当該期の遺構としておく。

RD019土坑

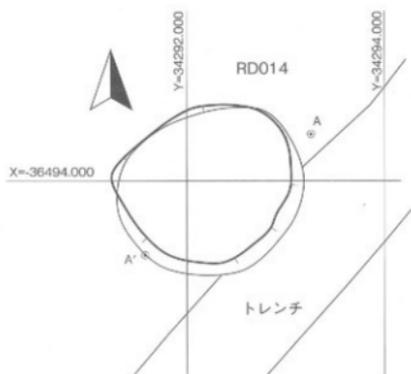
遺構 (第24図、写真図版16)

〔位置・検出状況〕 I B21w・I B21xに跨っている。RA008土坑などととも IX層上面で検出した。

〔重複関係〕 本遺構の西側でRF008住居跡と、北側でRF024焼土遺構と接する。南側でRF025焼土と重複しているが、本遺構のほうが深い。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形で、規模は開口部径103×97cm、底部径94×92cmである。

〔埋土〕 8層に分層した。上位は焼土ブロックを含む暗褐色粘土質シルト、中位は黒褐色シルト、下



RD014土坑

1. 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 腐大量に混入

RD019土坑

- 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 炭化物を2%含む
- 5YR4/6 赤褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中
- 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり中
- 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中
- 10YR3/2 暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 炭化物・焼土較1%含む
- 10YR3/2 暗褐色 シルト 粘性中・しまり中
- 10YR3/2 暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 炭化物・焼土較ともに2%含む
- 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強・しまり中 焼土ブロック1%含む

RD020土坑

- 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 5~10mm程度の小礫を含む
- 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 明黄褐色土のブロック含む
- 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 褐色土小ブロック含む
- 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 暗褐色土全体を含む



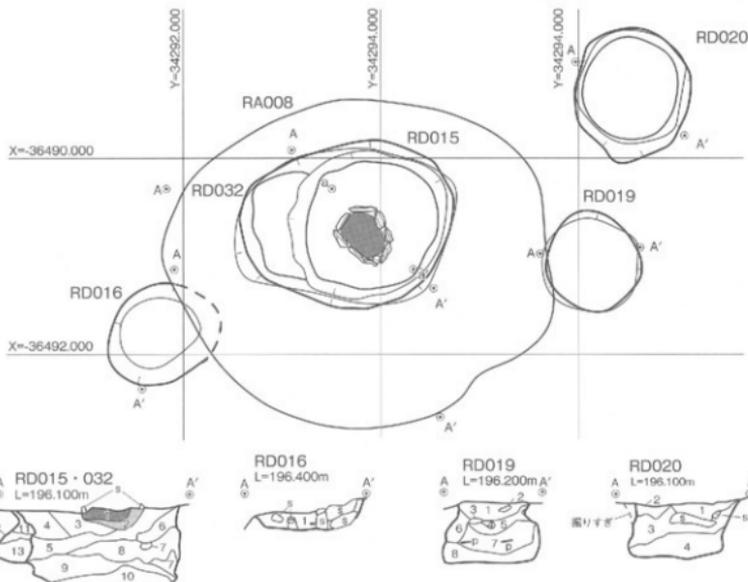
RD014土坑

- 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 焼土・炭化物をわずかに含む
- 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 褐色土段を含む
- 7.5YR4/3 褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 ブロック状で混入散在し

RD015・RD032土坑

- 5YR5/3 暗赤褐色 シルト 粘性中・しまり強 RA008の縁の炭化物層土
- 7.5YR4/3 褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 RA008の中の縁の方と混ざる粘土質土
- 10YR3/7 暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 炭化粉粒・焼土散らすら含む
- 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 炭化粉粒・焼土散らすら含む
- 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 4層よりも炭化物の混入多い
- 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 細小礫がぎっつく
- 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 炭化粉粒の塊状ブロック
- 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 細小礫・炭化物散らすら含む
- 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 褐色土ブロック含む
- 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 褐色土ブロックを含みみず砂を結ぶ
- 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 炭化物散らすら含む
- 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 細小礫わずかに含む
- 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 黄褐色土小ブロック・炭化物散らすら含む

0 1.50 2m



第24図 RD014~016・019・020・032土坑

位は焼土ブロックを含む暗褐色シルト質土からなる。中位以下に土器片を多く含む。自然堆積である。

〔底面・壁〕底面は平坦で、壁は内湾して立ち上がる。断面形はフラスコ形、深さは61cmである。

遺物 (第59図、写真図版60)

〔土器〕埋土中から縄文土器が1,568.2g出土した。1点(124)を掲載した。

〔石器〕石匙(16)1点を掲載した。この他に剥片・素材は出土していない。

時期 縄文時代後期前葉から中葉の遺物が出土していることから、当該期の遺構と考えられる。

RD020土坑

遺構 (第24図、写真図版16)

〔位置・検出状況〕I B20xに位置する。RF024土坑などとともIⅨ層上面で検出した。

〔重複関係〕本遺構の南側でRF024焼土遺構と重複しているが、本遺構のほうが古い。

〔平面形・規模〕平面形は不整形、規模は開口部径137×114cm、底部径102×93cmである。

〔埋土〕大きく4層に分層した。上位から中位にかけては小礫を含む暗褐色粘土質シルト、下位は暗褐色土粒を含む褐色土からなる。人為的に埋め戻された様相をなす。

〔底面・壁〕底面はわずかな凹凸をもつ。北西側の壁はオーバーハングし、南東壁は崩落のためか外傾気味に立ち上がっている。検出面からの深さは55cmである。

遺物 (第59図、写真図版45)

〔土器〕埋土中から縄文土器が738g出土した。1点(125)掲載したが別地点の遺物と接合している。

〔石器〕埋土から剥片が3.74g出土している。掲載遺物は無い。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

RD021土坑

遺構 (第25図、写真図版17)

〔位置・検出状況〕I B21q・I B22qに跨る。IⅨ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕平面形は不整形をなす。規模は開口部径130×87cm、底部径107×77cmを測る。

〔埋土〕3層に分層した。上位は炭化物粒・焼土粒を含む暗褐色シルト、下位は焼土ブロックを含む灰黄褐色粘土質シルトで、西側から褐色上の崩落土が入り込む。人為的に埋め戻されているようである。

〔底面・壁〕底面は西側が下がり、壁はいずれも緩やかに立ち上がる。深さは最大で18cmである。

遺物 (第59・109図、写真図版43・65)

〔土器〕埋土中から縄文土器が1,920.0g出土した。うち2点(126・127)掲載した。

〔石器〕被熱した台石(102)が出土した。3分割になっていたもので、熱を受けて割れたものか。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉以降に属するものと思われ、用途は墓塚とも想定される。

RD022土坑

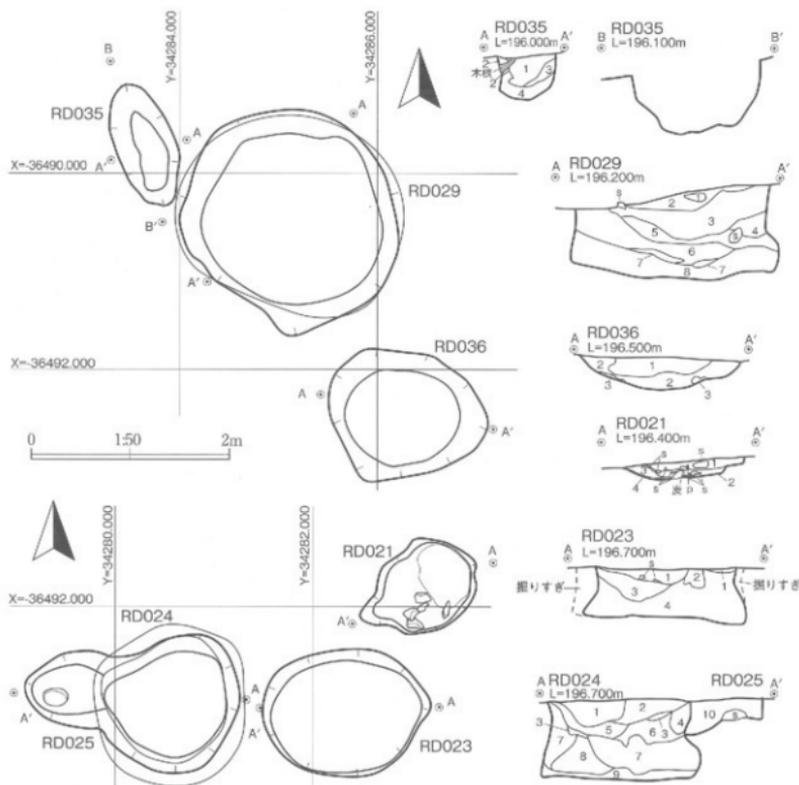
遺構 (第26図、写真図版17)

〔位置・検出状況〕I B23r・I B23sに跨る。RP002土器埋設遺構とともに、IⅨ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕平面形は不整形をなし、規模は開口部径138×110cm、底部径89×81cmである。

〔埋土〕大きく2層に分層した。上位から中位は炭化物粒と小礫を含む暗褐色シルト質土、下位には黄褐色粘土質シルトが堆積し、部分的に地山の崩落ブロックを含んでいる。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕底面は凹凸をもち、壁はオーバーハングする箇所もある。深さは53cmを測る。



RD021土坑

1. 10YR3/2 暗褐色 シルト 粘性中・しまり強
炭化物・炭土粒2%含む
2. 10YR4/2 灰褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
炭化アブロック・炭土ブロックを含む
3. 7.5YR4/4 褐色 シルト 粘性強・しまり強 炭土粒含む

RD023土坑

1. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
5~20mmの礫を全層に含む
2. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
礫の混入が少ない
3. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
小礫のブロック
4. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
50mmの礫を含む
5. 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
礫を含む
6. 10YR4/3 濃い黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
礫の混入が少ない
7. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
瓦礫片の塊状に含む
8. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
瓦礫片の塊状に含む
9. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強
瓦礫下の堆積層
10. 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中・しまり強 混入物少ない

RD024・RD025分土坑 (10層はRD025土坑)

1. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強
礫の小ブロック含む
2. 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強
礫の混入が少ない
3. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
小礫のブロック
4. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
50mmの礫を含む
5. 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
礫を含む
6. 10YR4/3 濃い黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
礫の混入が少ない
7. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
瓦礫片の塊状に含む
8. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
瓦礫片の塊状に含む
9. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強
瓦礫下の堆積層
10. 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中・しまり強 混入物少ない

RD029土坑

1. 7.5YR4/4 褐色 シルト 粘性なし・しまり中
炭土ブロックで塊状は良好
2. 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
褐色土粒を全層に含む
3. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
炭化物・小礫まばらに含む
4. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
B層堆山前層上
5. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
4層より6層間あり
6. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
炭化物とTocs?含む
7. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
1~2層の礫を含む
8. 7.5YR4/3 褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
瓦礫以下の堆山前層ブロック

RD035土坑

1. 10YR3/2 暗褐色 シルト 粘性中・しまり強
礫の小ブロック含む
2. 10YR4/3 濃い黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
アブロック化している層
3. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
年層色土粒を全層に含む
4. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
3層より6層間色土粒の混入少ない

RD036土坑

1. 10YR4/3 濃い黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強
小礫を含む
2. 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
炭化物を含む
3. 10YR4/3 濃い黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
瓦礫層下の堆山前層ブロック

第25図 RD021・023~025・029・035・036土坑

遺物 (第59・60図、写真図版45)

[土器] 埋土中から縄文土器が500.4g出土し、うち6点(128~133)を掲載した。

時期 出土遺物の中に縄文時代後期前葉から後葉に属するものあり、当該期の遺構としておく。

RD023土坑

遺構 (第25図、写真図版17)

[位置・検出状況] I B22p・I B22qに位置する。RD024・025土坑などとともにⅨ層上面で検出した。

[平面形・規模] 平面形は楕円形状で、規模は開口部径171×130cm、底部径154×113cmを測るが、東西の壁を掘り過ぎていたため、本来の規模よりも幾分か大きくなっている。

[埋土] 4層に分層した。上位から中位は焼土粒や小礫を含む暗褐色および黒褐色のシルト質土、下位はぶい黄褐色の粘土質シルトである。自然堆積と思われる。

[底面・壁] 底面はほぼ平坦で、壁は内湾しながら直立気味に立ち上がる。深さは最大で56cmである。

遺物

[土器] 埋土中から縄文土器が253.8g出土した。

[石器] 埋土中から剥片類が8.19g出土した。

時期 出土した土器から縄文時代に属する遺構と思われるが、詳細は不明である。

RD024土坑

遺構 (第25図、写真図版17)

[位置・検出状況] I B22pに位置する。RD025土坑とともにⅨ層上面で検出した。

[重複関係] 本遺構の西側でRD025土坑と重複しているが、本遺構のほうが新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整形、規模は開口部径146×127cm、底部径166×150cmを測る。

[埋土] 9層に分層した。上位から中位は黒褐色と暗褐色の粘土質シルト、それ以下は暗褐色の地山崩落土と焼土粒を含む黒褐色土が見られる。人為的に埋め戻されているようである。

[底面・壁] 底面は凹凸をもち、断面形はいわゆるフラスコ形である。深さは82cmを測る。

遺物 (第60・95図、写真図版45・46・60)

[土器] 5点(134~138)掲載したが、これを含め埋土中から縄文土器が1,645.1g出土した。138は焼成を受けた粘土塊と思われるものである。

[石器] 無茎石礫(1)1点を掲載した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期から晩期のいずれかに属する遺構である。

RD025土坑

遺構 (第25図、写真図版18)

[位置・検出状況] RD024の西側 I B22oに位置する。RD024土坑とともにⅨ層上面で検出した。

[重複関係] 上述のとおりである。本遺構の方が古い。

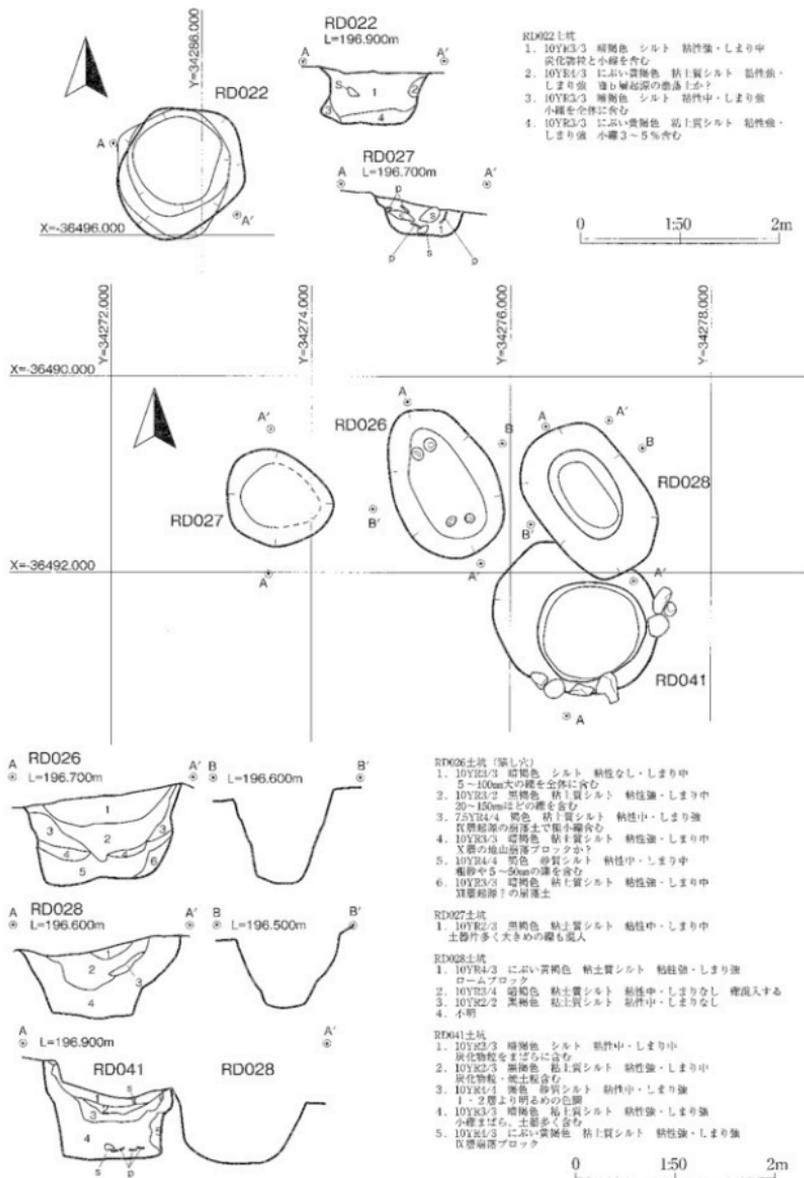
[平面形・規模] 平面形は不整形、規模は開口部径?×76cm、底部径?×50cmである。

[埋土] 黒褐色シルト質土の単層で底面に礫を含む。自然堆積と思われる。

[底面・壁] 底面は大きくRD024側に傾斜する。壁は直立して立ち上がる。深さは最大で32cmである。

遺物

[土器] 縄文土器が27.4g出土している。



第26図 RD022・026~028・041土坑

時期 RD024との重複関係から、縄文時代晩期以前の土坑としておく。

RD026土坑

遺構 (第26図、写真図版18)

〔位置・検出状況〕 I B 21 mに位置する。RD027・RD028土坑とともにⅩ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形で、規模は開口部径157×106cm、底部径121×57cmである。長軸方向はN-29°-Wである。

〔埋土〕 5層に分層した。上位は全体的に礫を含む暗褐色のシルト質土、中位は黒褐色の粘土質シルトおよび壁際にⅩ層起源の崩落土、下位はⅩ層以下と思われる暗褐色の地山崩落土などが堆積する。

〔底面・壁〕 底面は大きな凹凸をもちながら北西側に傾斜し、壁はいずれも外傾しながら立ち上がる。深さは最大32cmを測り、底面の四隅には深さ10cm程度の副穴を有する。

遺物

〔土器〕 埋土上位から縄文土器が457.4g出土している。

時期 逆茂木痕を有する陥し穴状遺構であるが、縄文時代後期に属するものか。

RD027土坑

遺構 (第26図、写真図版18)

〔位置・検出状況〕 I B 21 l・21 mに跨って位置し、RD026などとともに、Ⅹ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形、規模は開口部径110×94cm、底部径?×63cmである。

〔埋土〕 土器片を含む黒褐色土の単層で、自然堆積と思われる。礫も多数含んでいる。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。検出面からの深さは最大で33cmである。

遺物 (第60図、写真図版46)

〔土器〕 埋土中から縄文土器が1,398.1g出土し、うち3点(140~142)を掲載した。

時期 出土遺物に縄文時代後期前葉から中葉に属するものがあることから、当該期の遺構としておく。

RD028土坑

遺構 (第26図、写真図版18)

〔位置・検出状況〕 I B 21 nに位置する。RD026土坑(陥し穴)とともにⅩ層上面で検出した。

〔重複関係〕 遺構の南側でRD041と重複するが、本遺構の方が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は隅丸の楕円形状で、規模は開口部径161×105cm、底部径76×36cmである。長軸方向はN-32°-WでRD026のそれとほぼ同じ方向である。

〔埋土〕 3~4層に分層されたが最下部は観察していない。上位は暗褐色の粘土質シルト、中位は礫を含む暗褐色粘土質シルトが堆積する。自然堆積である。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は外傾しながら立ち上がる。深さは74cm。底面に副穴は認められない。

遺物

〔土器〕 埋土から縄文土器が64.7g出土している。これも時期がわかるような個体が出土していない。

時期 縄文時代の陥し穴状遺構と思われるが、RD026陥し穴と組配列をなしていた可能性がある。

RD029土坑

遺構 (第25図、写真図版19)

〔位置・検出状況〕 I B20 r・21 r・21 s に跨る。RD035土坑などとともIⅨ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形円形、規模は開口部径232×219cm、底部径182×178cmを測る。

〔埋土〕 8層に分層した。上位は焼土粒を含む黒褐色シルト質土、中位は炭化物や礫を含む暗褐色粘土質シルト、下位は小礫を含む暗褐色粘土質シルトが主体である。上位から中位にかけて堆積する暗褐色土中には、十和田中掘テフラと思われるものが含まれている。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 底面は全体的に凹凸をもち、壁は幾分内湾する。検出面からの深さは最大で94cmである。

遺物

〔土器〕 埋土から縄文土器が382.0g出土した。時期がわかるような個体は出土していない。

時期 縄文時代の貯蔵穴と思われるが、詳細な時期は不明である。後期に属する可能性は高い。

RD030土坑

遺構（第27図、写真図版19）

〔位置・検出状況〕 I B24 s に位置する。RA005竪穴住居の床面、Ⅸ層中で検出した。

〔重複関係〕 上述のとおりRA005と重複する。本遺構が住居よりも旧いか竪穴住居に伴う可能性もある。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形楕円形をなし、規模は開口部径113×88cm、底部径67×42cmを測る。

〔埋土〕 3層に分層したが、炭化物粒や小礫を含む黒褐色シルト質土が主体である。最下部に暗褐色粘土質シルトが薄く堆積している。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、壁は緩く外傾して立ち上がる。検出面からの深さは25cmである。

遺物

〔土器〕 埋土から縄文土器が53.0g出土した。

時期 縄文時代の後期に属する可能性がある土坑であるが、詳細な時期は不明である。

RD031土坑

遺構（第27図、写真図版19）

〔位置・検出状況〕 I B22 t・23 t に位置する。RA003竪穴住居北側の床面、Ⅸ層中で検出した。

〔重複関係〕 RA003と重複する。これも本遺構が住居よりも旧いか、竪穴住居に付属する可能性がある。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形で、規模は開口部径65×46cm、底部径93×92cmである。

〔埋土〕 2層に分層した分のみ埋土が残る。下位には炭化物粒を含む暗褐色粘土質シルトが堆積する。

〔底面・壁〕 底面は丸みを帯び、壁は大きくオーバーハングする。断面形はフラスコ状深さは65cm。

遺物 出土していない

時期 縄文時代の後期に属すると思われる土坑で、これもRA003竪穴住居に伴う可能性がある。

RD032土坑

遺構（第24図、写真図版19）

〔位置・検出状況〕 I B21 v に位置する。検出面はRA008竪穴住居の床面、Ⅸ層中である。

〔重複関係〕 先述したとおり、RD015土坑・RA008竪穴住居のいずれよりも古い遺構である。

〔平面形・規模〕 平面形は円形をなすと思われる。規模は開口部径120cm前後、底部径100cm前後か。

〔埋土〕 3層に分層した。上位から黒褐色土、にぶい黄褐色土、暗褐色土の順に堆積する。

〔底面・壁〕 底面は壁際がわずかに持ち上がる。断面形はフラスコ状で、深さは52cmほどである。

〔土器〕埋土中から縄文土器が239.6g出土した。

時期 RD015土坑との重複関係から、縄文時代後期初頭から前葉以前に属する遺構と思われる。

RD033土坑

遺構 (第27図、写真図版20)

〔位置・検出状況〕I B24u グリッド杭付近にあり、RA003竪穴住居の床面、Ⅷ層中で検出した。

〔重複関係〕上述のとおりRA003と重複するが、検出状況から本遺構が住居よりも古いと判断した。

〔平面形・規模〕平面形は略円形で、規模は開口部径94×71cm、底部径61×53cmである。

〔埋土〕炭化物粒と焼土粒を含む黒褐色粘土質シルトの単層である。

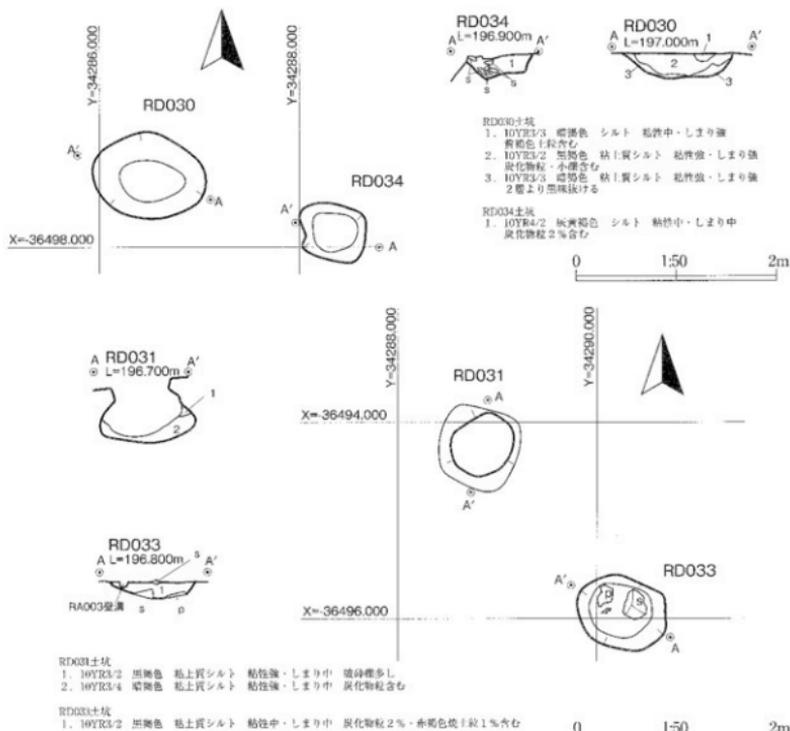
〔底面・壁〕底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は浅皿状、深さは最大で16cmを測る。

遺物

〔土器〕埋土から縄文土器が351.2g出土している。

〔石器〕底面には角礫1個が入れられていた。

時期 縄文時代後期前葉としたRA003竪穴住居より古い土坑と考えられる。詳細は不明である。



第27図 RD030・031・033・034土坑

RD034土坑

遺構（第27図、写真図版20）

〔位置・検出状況〕 I B24 t に位置し、RA004堅穴住居の北西部で隣接する。Ⅸ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形で、規模は開口部径66×56cm、底部径44×38cmである。

〔埋土〕 炭化物粒を含む灰黄褐色シルトの単層である。小礫を含む。

〔底面・壁〕 底面は東側に傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は台形状、深さは20cm前後である。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代のいずれかに属する遺構と思われるが、詳細は不明である。

RD035土坑

遺構（第25図、写真図版20）

〔位置・検出状況〕 I B20 q・21 q に位置する。RD029土坑とともにⅨ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は細身の楕円形で、規模は開口部径130×60cm、底部径83×27cmである。長軸方向はN-21°-Wである。

〔埋土〕 4層に分層した。上位から中位は黒褐色のシルト質土、下位にかけては黒褐色土粒を含む褐色土がみられる。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 底面は凹凸をもち、壁は外傾しながら立ち上がる。深さは最大で65cmである。

遺物（第60図、写真図版46）

〔土器〕 3点（143～145）掲載した。これらを含み、埋土から縄文土器が163.9g出土している。

時期 形状から縄文時代の陥し穴状遺構とする。後期から晩期の上器が出土している。

RD036土坑

遺構（第25図、写真図版20）

〔位置・検出状況〕 I B22 s グリッド杭付近に位置する。検出面はⅨ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形で、規模は開口部径164×145cm、底部径114×98cmである。

〔埋土〕 大きく2層に分層した。上位は小礫を含むにぶい黄褐色シルト、下位は炭化物粒や地山崩落ブロックを含む暗褐色土が堆積する。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状、深さは最大で33cmである。

遺物（第60図、写真図版46）

〔土器〕 1点（146）掲載した。これらを含み、埋土から縄文土器が163.9g出土している。

時期 縄文時代のいずれかに属する遺構と思われるが、後期前葉から中葉か。

RD037土坑

遺構（第28図、写真図版21）

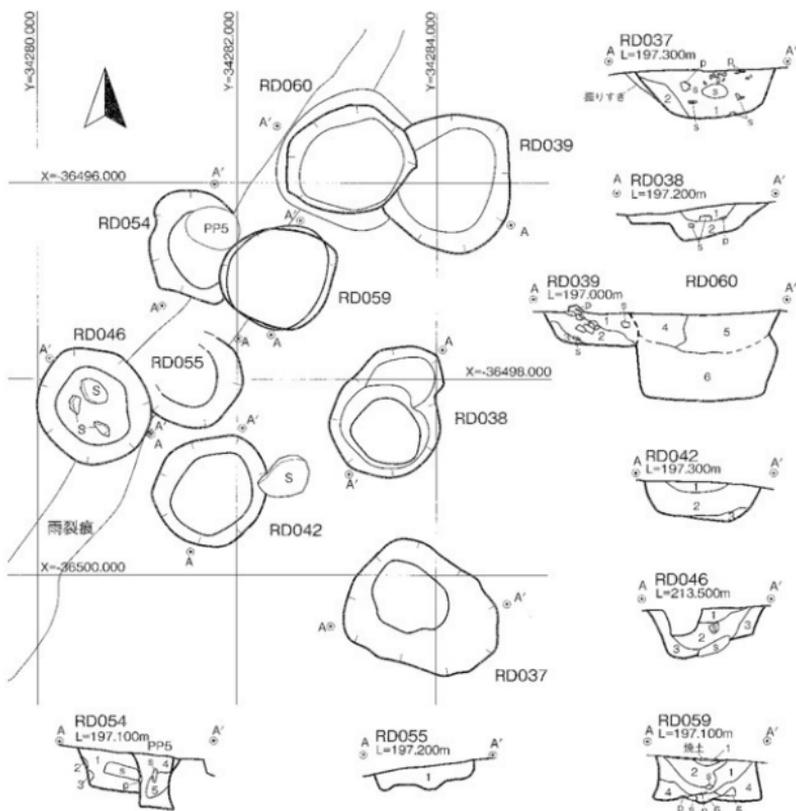
〔位置・検出状況〕 I B25 q・II B1 q・1 r に跨る。崖錐性礫層上面で確認した。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形楕円形で、規模は開口部径158×120cm、底部径80×65cmを測る。

〔埋土〕 2層に分層した。主体は5～100mm大の礫を含む黒褐色シルト質土で、暗褐色土上のブロックを西壁際に含む。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 断面形は台形状で、底面は平坦である。壁は外傾する。検出面からの深さは47cmである。

遺物（第60図、写真図版46）



RD067土坑

1. 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性强・しまり強 5~100mmの棒を大量に含む
2. 10YR5/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性强・しまり強 棒の混入なし

RD068土坑

1. 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中・しまり強 50~100mmの棒を含む
2. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性强・しまり強 棒の混入なし

RD069土坑

1. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 5~10mmの小礫を含む
2. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 5~10mmと50mmの礫を含む
3. 10YR4/3 におい黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 2層より赤褐色を帯びる

RD042土坑

1. 10YR3/2 暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 礫の層の小礫含む
2. 10YR4/3 におい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 炭化物粒をわずかに含む
3. 10YR3/3 暗褐色 粘質シルト 粘性强・しまり強

RD044土坑

1. 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 10mmの棒を含む
2. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 大小の礫を含む
3. 10YR2/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 炭化物上に礫1ヶあり

RD034土坑

1. 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中・しまり強 小礫と50mmほどの礫を含む
2. 10YR4/4 暗褐色 シルト 粘性強・しまり中 地山崩落ブロック
3. 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 小ブロック状

RD055土坑

1. 10YR2/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 10~20mmの小礫多い

RD059

1. 7.5YR4/3 褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 炭化物粒をまばらに含む
2. 5YR4/4 暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 ブロック状
3. 7.5YR4/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまりなし 30~100mmの礫混入
4. 10YR2/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 瓦葺土の遺構上
5. 10YR2/2 暗褐色 シルト 粘性中・しまりなし 炭土粒をみみ味を帯びる
6. 10YR2/2 暗褐色 シルト 粘性強・しまり中 土器片・小礫含む

RD050

1. 10YR3/2 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 炭化物粒をまばらに含む
2. 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 礫の層の小礫を含む
3. 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 小礫含む

0 1:50 2m

第28図 RD037~039・042・046・054・055・059・060土坑

[土器] 147~149の3点掲載した。これらを含め、埋土中からは縄文土器が1,335.0g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉から中葉に属する遺構と考えられる。

RD038土坑

遺構 (第28図、写真図版21)

[位置・検出状況] I B24 q・25qに跨る。東側に隣接するRA005とともに、IX層上面で検出した。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、段差をもつ。規模は開口部径143×110cm、底部径116×90cm。

[埋土] 2層に分けた。上位は暗褐色シルト、上～下位は炭化物粒を含む黄褐色粘土質シルトである。

[底面・壁] 底面は大きな段差を有し、壁は緩く外傾して立ち上がる。深さは9~31cmである。

遺物

[土器] 埋土中から縄文土器が165.1g出土した。

時期 出土した遺物から、縄文時代後期のいずれかに属する土坑と考えられる。

RD039土坑

遺構 (第28図、写真図版21)

[位置・検出状況] I B24 r グリッド杭周辺にあり、RD060とともにIX層上面で確認した。

[重複関係] 先述したRD060と重複している。本遺構のほうが古いと判断した。

[平面形・規模] 平面形は不整形円形をなす。規模は直径140cm前後、底部径111×90cm前後である。

[埋土] 3層に分けられた。上位は小礫を含む暗褐色粘土質シルト、中位は極小礫や50mm大の礫を含む黒褐色の粘土質シルト、下位にはふい黄褐色土が堆積している。自然堆積と思われる。

[底面・壁] 断面形は台形状と思われる。底面は平坦で壁は外傾している。深さは32cm。

遺物 (第61図、写真図版46)

[土器] 150~152の3点掲載した。これを含め、埋土中からは縄文土器が379.8g出土した。

時期 縄文時代後期前葉を主体とする遺物が出土しており、当該期に属する土坑と考えられる。

RD040土坑

遺構 (第29図、写真図版21)

[位置・検出状況] II B 1 v・1 wに位置し、1/3程度が調査区域外にある。検出面はIX層上面である。

[平面形・規模] 平面形は不整形円形をなすものと思われる。規模は直径90cm×?、底部径75×?cm。

[埋土] 2層に分けられる。中央部は小礫を含む暗褐色粘土質シルト、その両側に炭化物粒を含む黒褐色の粘土質シルトが堆積する。人為堆積か自然かは不明である。

[底面・壁] 断面形は長方形、底面は平坦、壁は直立気味に立ち上がる。深さは20cm。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代に属する土坑と考えられるが、詳細な時期は不明である。

RD041土坑

遺構 (第26図、写真図版22)

[位置・検出状況] I B22 nに位置し、重複するRD028陥し穴とともにIX層上面で検出した。プランの東側から南側にかけて、7個の礫が観察された。

[重複関係] 上述のとおり、遺構北側でRD028と重複するが、本遺構の方が古い。

〔平面形・規模〕平面形は円形で、規模は開口部径171×155cm、底部径98×90cmを測る。

〔埋土〕4層に分層した。上位は炭化物粒を含む暗褐色土シルト質土と黒褐色粘土質シルト、中位に砂質の褐色土を挟み、壁際から下位には地山崩落土を含む暗褐色粘土質シルトが堆積する。

〔底面・壁〕底面は平坦で、壁は直立して立ち上がる。検出面からの深さは最大で100cm弱である。

遺物 (第61・105図、写真図版46・63)

〔土器〕2点掲載した(153・154)。これを含め、埋土から縄文土器が1,153.2g出土している。

〔石器〕1点掲載した(85)。磨面と凹みの痕跡をもつものである。

〔粘土塊〕焼けた粘土塊が数g出土した。

時期 縄文時代後期後葉あたりの上坑と考えられる。礫の存在から墓塚の可能性を残す。

RD042土坑

遺構 (第28図、写真図版22)

〔位置・検出状況〕I B 25 p・25 q に跨って位置する。RD038土坑とともにⅨ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕平面形は略円形、規模は開口部径120×108cm、底部径89×72cmである。

〔埋土〕3層に分層した。上位は小礫を含む黒褐色土シルト質土、中位から下位にかけては、炭化物粒を含むにぶい黄褐色粘土質シルトが堆積する。最下部には砂質シルトの暗褐色土がみられる。

〔底面・壁〕底面はわずかに北側に傾斜し、壁は緩く直立気味に立ち上がる。深さは39cmである。

遺物 (第61図、写真図版46)

〔土器〕1点掲載した(155)。これを含め、埋土から縄文土器が207.2g出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代後期中葉に属する土坑と考えられる。

RD043土坑

遺構 (第29図、写真図版22)

〔位置・検出状況〕I B 23 l・23 m・24 l に跨る。重複するRD044土坑とともに、Ⅸ層上面で検出した。

〔重複関係〕上述のとおり、遺構北側でRD044土坑と重複するが、本遺構の方が新しい。

〔平面形・規模〕平面形は略円形で、規模は開口部径150×137cm、底部径79×56cmを測る。

〔埋土〕5～100mm大の礫を含む黒褐色シルト質土の単層である。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕底面は丸みを帯び、壁は緩く外傾して立ち上がる。検出面からの深さは33cmを測る。

遺物

〔土器〕埋土から縄文土器が303.8g出土している。

時期 縄文時代後期に属する土坑と思われるが、詳細な時期は不明である。

RD044土坑

遺構 (第29図、写真図版22)

〔位置・検出状況〕I B 23 l・23 m に跨って位置する。Ⅸ層上面で検出した。

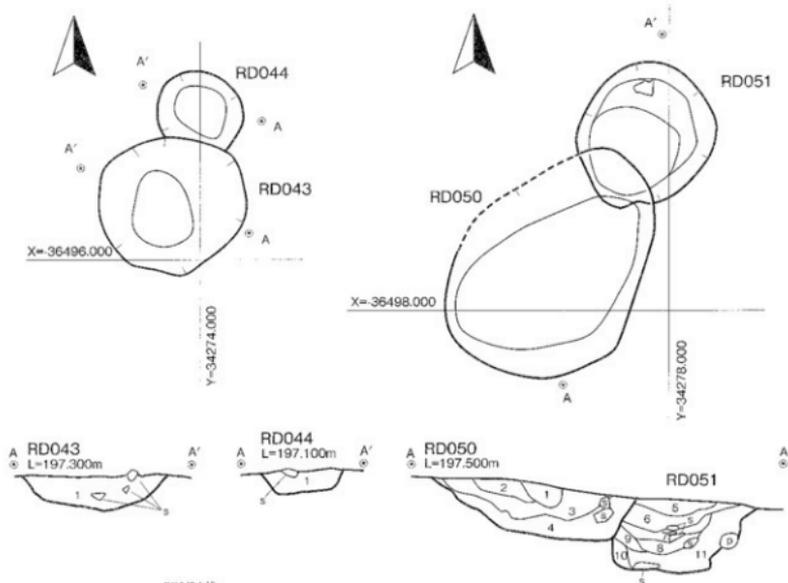
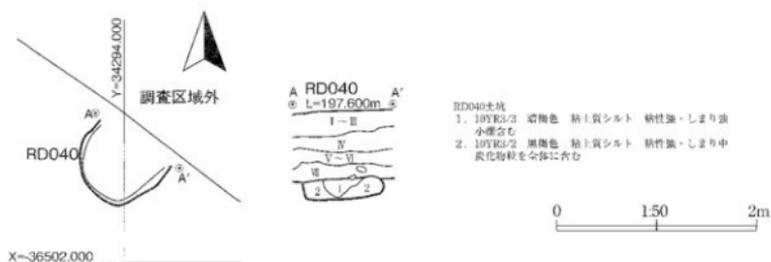
〔重複関係〕上述のとおり。

〔平面形・規模〕平面形は円形で、規模は開口部径89×83cm、底部径60×50cmを測る。

〔埋土〕5～100mm大の礫を含む黒褐色シルトの単層で、RD043土坑と近似する。

〔底面・壁〕底面はわずかに傾斜し、壁は外傾して立ち上がる。検出面からの深さは22cmである。

遺物



第29図 RD040・043・044・050・051土坑

〔土器〕埋土から縄文土器が128.6g出土した。

時期 縄文時代中期末葉から後期に属する土坑と思われる。

RD045土坑

遺構（第30図、写真図版23）

〔位置・検出状況〕ⅡB10・1pに跨る。崖錐性礫層面で検出した。

〔重複関係〕PP78と遺構の西側で接する。

〔平面形・規模〕平面形は不整楕円形、規模は開口部径104×94cm、底部径77×54cmである。

〔埋土〕礫を含む黒褐色シルトの単層である。

〔底面・壁〕底面は丸みをもち、緩やかに立ち上がる。検出面からの深さは最大で18cmを測る。

遺物

〔土器〕埋土から縄文土器が88.0g出土した。

時期 縄文時代後期に属する土坑と思われるが、詳細な時期は不明である。

RD046土坑

遺構（第28図、写真図版23）

〔位置・検出状況〕ⅠB24p・25pに跨る。雨裂跡やRD055土坑とともにⅨ層上面で検出した。

〔重複関係〕遺構北東側でRD055土坑と重複するが、本遺構の方が新しい。

〔平面形・規模〕平面形は略円形で、規模は開口部径122×99cm、底部径80×68cmである。

〔埋土〕3層に分層した。上位中央は黒褐色土シルト、中位は礫を含む暗褐色粘土質シルト、上位の礫層から黒褐色粘土質シルトが堆積する。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕底面は北西側に高くなり、壁は外傾して立ち上がる。深さは28～50cmである。

遺物

〔土器〕埋土から縄文土器が131.7g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期のいずれかに属する土坑と考えられる。

RD047土坑

遺構（第30図、写真図版23）

〔位置・検出状況〕ⅡB4qグリッド杭を中心に置く。Ⅸ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕平面形は円形、規模は開口部径62×60cm、底部径34×29cm。

〔埋土〕掘り上げてしまい不明である。

〔底面・壁〕底面は北西側に傾斜し、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は深バケツ形、深さは56cm。

遺物（第61図、写真図版46）

〔土器〕1点掲載した（159）。これを含め、埋土から縄文土器が32.9g出土した。

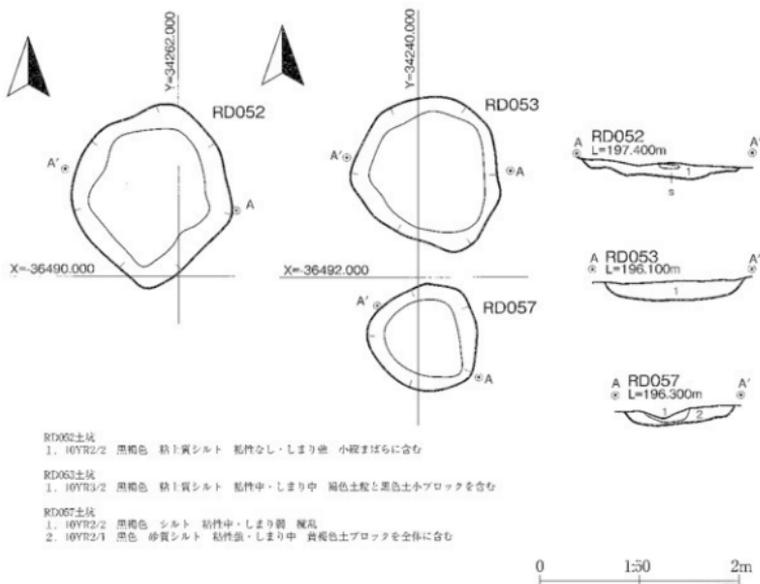
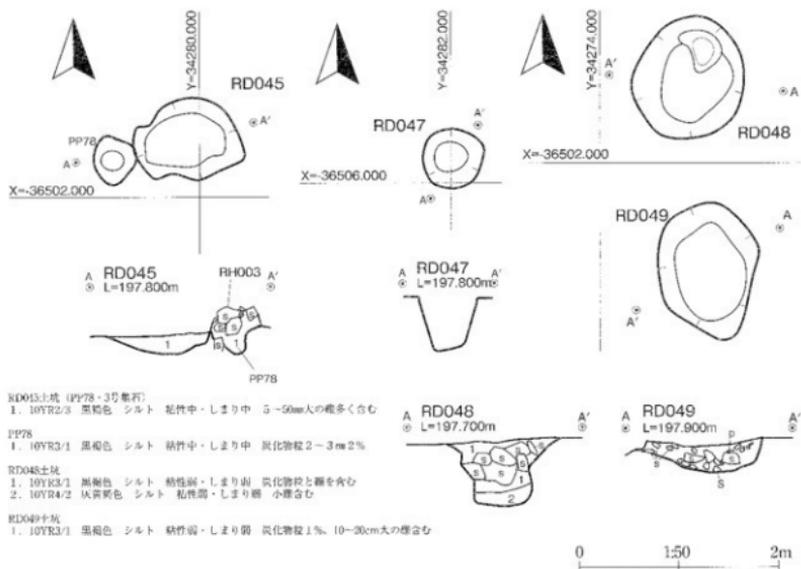
時期 規模等から柱穴とも考えられる縄文時代の遺構としておく。

RD048土坑

遺構（第30図、写真図版23）

〔位置・検出状況〕ⅡB1mに位置し、RA049土坑とともにⅨ～Ⅹ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕平面形は略円形で、規模は開口部径127×111cm、底部径94×70cmである。



第30図 RD045・047~049・052・053・057土坑

〔埋土〕2層に分層できる。上位から下位は炭化物粒や小礫を含む黒褐色シルト、下位は小礫を含む灰黄褐色シルトが堆積する。大きめの礫が含まれていることから、人為堆積と考えられる。

〔底面・壁〕底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。断面形はバケツ形、深さは66cmを測る。

遺物 (第61図、写真図版46)

〔土器〕5点掲載している (160~164)。これらの他、埋土から縄文土器が302.6g出土した。

時期 縄文時代後期初頭から中葉に属する土坑で、墓塚の可能性もあろう。

RD049土坑

遺構 (第30図、写真図版24)

〔位置・検出状況〕ⅡB2mに位置し、Ⅷ~Ⅸ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕平面形は不整形円形である。規模は開口部径139×115cm、底部径69×100cmである。

〔埋土〕炭化物粒や直径10~20cmほどの礫を含む黒褐色シルトの単層である。人為堆積か？

〔底面・壁〕底面は丸みをもち、壁はそのまま緩く立ち上がる。断面形は浅皿状、深さは27cmである。

遺物 (第61図、写真図版46)

〔土器〕埋土から縄文土器が254.6g出土した。

時期 縄文時代後期前葉から中葉ごろの土坑としておく。

RD050土坑

遺構 (第29図、写真図版24)

〔位置・検出状況〕ⅠB24n・25nに跨る。Ⅸ層上面で、重複するRD051土坑とともに検出した。

〔重複関係〕上述のとおりRD051土坑と切り合うが、本遺構の方が新しい。

〔平面形・規模〕平面形は不整形円形をなし、規模は開口部径236×183cm、底部径215×126cmを測る。長軸方向はN-50°-Eである。

〔埋土〕4層に分けられる。上位中央部は、黒褐色シルト質土と小礫を含む褐色シルト質土、中位は小礫を含む暗褐色粘土質シルト、下位は黒褐色土シルト質土が見られる。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕底面はわずかに傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は台形状、深さは52cmである。

遺物

〔土器〕埋土から縄文土器が92.4g出土した。

時期 縄文時代後期前葉から中葉ごろの上坑としておく。

RD051土坑

遺構 (第29図、写真図版24)

〔位置・検出状況〕ⅠB24oグリッドをほぼ中心に置き4つのグリッドに跨る。Ⅸ層上面で検出した。

〔重複関係〕上述のとおり、本遺構の方が古い。

〔平面形・規模〕平面形は略円形、規模は開口部径153×132cm、底部径122×101cmを測る。

〔埋土〕7層に分けられる。上位中央部は礫を含む黒褐色シルトと暗褐色砂質シルト、中位は炭化物粒を含む暗褐色粘土質シルトとにぶい黄褐色粘土質シルト、下位は地山崩落土を含む暗褐色土からなる。

〔底面・壁〕底面はわずかに凹凸を有し、壁は外傾して立ち上がる。断面形は台形状、深さは74cm。

遺物 (第61図、写真図版46)

〔土器〕6点掲載した (165~170)。これらを含め、埋土から縄文土器が1,423.3g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期のいずれかに属するものである。

RD052土坑

遺構（第30図、写真図版24）

〔位置・検出状況〕 I B25 f・25 g に跨って位置する。Ⅸ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形で、規模は開口部径186×157cm、底部径138×115cmである。

〔埋土〕 小礫をまばらに含む黒褐色粘土質シルトの単層である。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 底面は細かい凹凸をもち、壁はそのまま緩く立ち上がる。深さは13cmである。

遺物は出土していない

時期 出土遺物は無いが、検出状況から縄文時代のいずれかに属する土坑としておく。

RD053土坑

遺構（第30図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 I A21 t・21 u に跨って位置する。RD057土坑とともにⅨ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形、規模は開口部径149×148cm、底部径123×122cmである。

〔埋土〕 褐色土粒等を含む黒褐色土粘土質シルトの単層である。自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は浅皿状で、深さは20cm。

遺物（第62図、写真図版46）

〔土器〕 4点掲載した（171～174）。これらを含め、埋土から縄文土器が1,469.9g出土した。

〔石器〕 剥片・素材類が9.30g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期中葉から後葉に属するものと考えられる。

RD054土坑

遺構（第28図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 I B24 p に位置する。Ⅸ層上面で雨裂を掘り上げた際に検出した。

〔重複関係〕 RD059土坑と切り合うが、本遺構の方が新しい。PP5とも重複するが、本遺構の方が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形円形、規模は開口部径118×?cm、底部径79×?。

〔埋土〕 礫を含む暗褐色シルトの単層に、黒褐色土や地山崩落ブロック混入する。自然堆積である。

〔底面・壁〕 底面はわずかに北側に傾斜する。断面形は逆台形で、深さは39cmである。

遺物

〔土器〕 埋土中から縄文土器が94.8g出土した。

時期 縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

RD055土坑

遺構（第28図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 I B24 p・25 p に跨る。これも雨裂を掘り上げた際にⅨ層上面で検出した。遺構北西側のほぼ半分を失っている。

〔重複関係〕 遺構の西側RD046土坑と切り合うが、新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は円形と思われる。規模は開口部径101×?cm、底部径63×?cm。

〔埋土〕 小礫を含む黒褐色シルトの単層で、自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕底面は凹凸があり、壁は直立している。深さは最大で24cmである。

遺物

〔土器〕埋土中から縄文土器が174.4g出土した。

時期 詳細な時期は不明であるが、縄文時代後期に属する可能性がある。

RD056土坑

遺構（第31図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕ⅡA2qに位置し、RA007の斜面上方に隣接する。Ⅲ層下位～Ⅳ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕平面形は円形で、規模は開口部径74×70cm、底部径61×38cmを測る。

〔埋土〕3層に分層した。上位から小礫を含む黒褐色シルト、礫を含まない黒褐色土などが堆積する。

〔底面・壁〕底面に凸部をもつ。深さは最大で48cmである。

遺物（第62図、写真図版46）

〔土器〕1点掲載した(175)。遺構外出土の破片と接合した。これを含め、縄文土器が103.5g出土した。

時期 出土した遺物から、縄文時代晩期中葉に属する土坑と思われる。

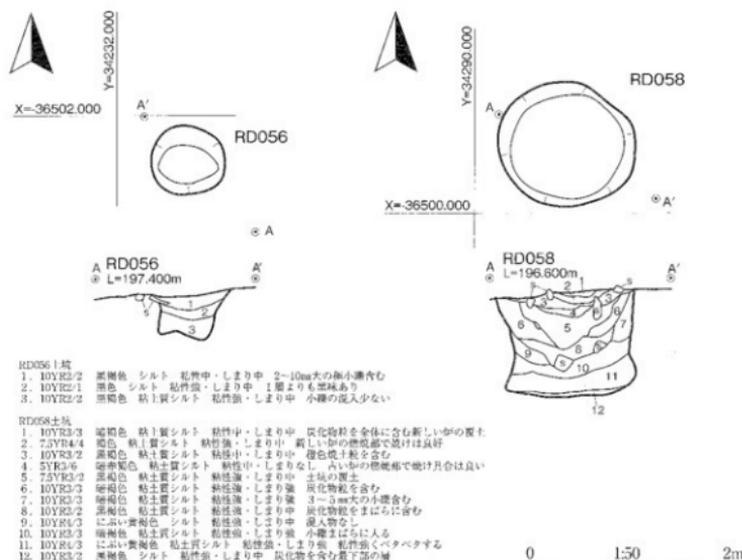
RD057土坑

遺構（第30図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕ⅠA22t・22uに跨る。RD053土坑とともにⅣ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕平面形は略円形で、規模は開口部径113×109cm、底部径97×72cmを測る。

〔埋土〕2層に分層した。上位に攪乱を有する黒色砂質シルトの単層で、自然堆積と思われる。



第31図 RD056・058土坑

[底面・壁] 底面は平坦で、断面形は浅皿状である。深さは15cmである。

遺物 (第62図、写真図版46)

[土器] 6点掲載した (176~181)。これを含め、埋土から縄文土器が296.0g出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代晩期中葉から後葉に属するものと思われる。

RD058土坑

遺構 (第31図、写真図版26)

[位置・検出状況] RA004窪穴住居内 I B 25 u 内にある。RA004の床面精査時にIX層中で検出した。

[重複関係] 検出状況から、住居跡よりも古い遺構である。

[平面形・規模] 平面形は略円形、規模は開口部径140×124cm、底部径109×107cmである。

[埋土] 7層に分層した。上位は炭化物粒を含む黒褐色粘土質シルトや暗褐色粘土質シルト、中位も同様の色調をなす粘土質シルト、下位は粘性の強い暗褐色やにぶい黄褐色の粘土質シルトが見られる。

[底面・壁] 底面はわずかに凹みを有し、壁は外反している。断面形はフラスコ状、深さは110cm。

遺物 (第62図、写真図版46)

[土器] 1点掲載した (182)。これを含め、埋土から縄文土器が532.1g出土した。

時期 住居跡との重複関係から、後期中葉以前の貯蔵用土坑と考えられる。

RD059土坑

遺構 (第28図、写真図版26)

[位置・検出状況] I B 24 q に位置する。当初は雨裂上で検出した焼土遺構としたものである。

[重複関係] 検出状況からRD054よりも本遺構の方が新しい。

[平面形・規模] 平面形は略円形、規模は開口部径112×105cm、底部径108×101cmである。

[埋土] 5層に分層した。中央部には焼土粒を含む褐色粘土質シルトや赤褐色粘土質シルトが、両壁にかけては、黒褐色上の小ブロックを含む地山崩落土が見られる。自然堆積である。

[底面・壁] 底面中央がわずかに凹み、壁は外反する。断面形は長方形で、深さは44cmを測る。

遺物 (第62図、写真図版46)

[土器・土製品] 土製円盤1点を掲載した (183)。これを含め、2389.0gの縄文土器が出土した。

[骨片] 獣骨と思われる骨片数gが出土している。

時期 出土した遺物から、縄文時代後期前葉から中葉の土坑と考えられる。

RD060土坑

遺構 (第28図、写真図版26)

[位置・検出状況] I B 23 q・24 q に跨る。雨裂を掘り上げることで全体が把握されたものである。

[重複関係] 断面観察からRD039よりも本遺構の方が新しいことが判明した。

[平面形・規模] 平面形は略円形である。規模は開口部径128×109cm、底部径107×89cm。

[埋土] 大きく3層に分層した。上位は炭化物粒を含む黒褐色粘土質シルトとⅧB層起源の小礫を含む暗褐色粘土質シルトが、中位から下位にかけても小礫を含む暗褐色土が堆積する。

[底面・壁] 底面は平坦で、直立気味に立ち上がる。断面形は長方形、深さは97cmを測る。

遺物 (第63・99図、写真図版46・61)

[土器] 1点掲載した (184)。これを含め、埋土から1,544.5gもの縄文土器が出土した。

[石器] 使用痕の見られる剥片1点を掲載した (S41)。このほかに、剥片や素材が1672g出土した。
 時期 出土した遺物から、縄文時代後期の上坑と考えられるが詳細な時期は不明である。

3 土器埋設遺構

RP001土器埋設遺構

遺構 (第32図、写真図版27)

[位置・検出状況] II C15e グリッドに位置する。V層上面で土器の検出および土色の違いで確認した。

[重複関係] RG001小溝群の下位に位置するが、直接の重複はない。

[平面形・規模] 西寄りに無文の壺形土器が斜位で埋設されている。開口部平面形は不整な楕円形を呈し、底面は北東側が漏斗状に伸びる。規模は開口部径62×59cm、底部径44×36cmを測る。

[埋土] 黒褐色土主体で、上位に浅く広がる1層には炭化物粒が多量に混入する。焼土は確認されない。

[掘方] 掘方は土器形態に合わせて深く、他は浅い。検出面から掘方底面までの深さは9cmである。

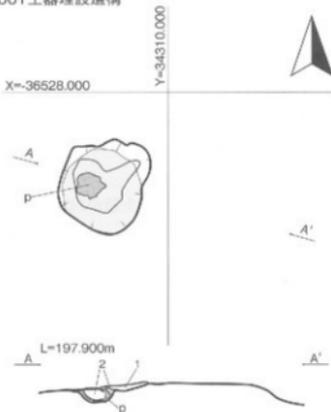
遺物 (第63図、写真図版46)

[土器] 185の埋設土器1点、471.1gと、2層中から破片 (186) 21.6gが出土した。

[植物遺存体] 本遺構1層の土壌をコラムサンプリングし、土壌水洗選別法を実施した。結果、オニグルミ内果皮破片16点、トチノキ種皮破片7点が検出された。いずれも炭化している。

時期 出土土器から縄文時代後期の所産と考えられる。

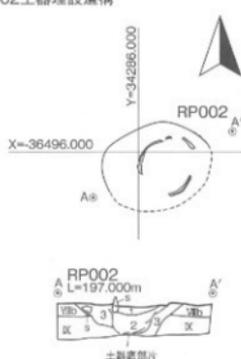
RP001土器埋設遺構



RP001土器埋設遺構

1. 10YR3/1 黒紫色 シルト 粘性中・しまり中
炭化物粒40% 角-半角粒 (≒2cm) 10%
2. 10YR3/2 黒紫色 シルト 粘性中・しまり中
炭化物粒5%

RP002土器埋設遺構



RP002土器埋設遺構

1. 10YR3/2 黒紫色 シルト 粘性強・しまりなし
フカフカでしまりがない
2. 10YR2/3 黒紫色 粘土質シルト 粘性強・しまり強
土器内下で黄褐色土粒を含む
3. 10YR3/3 暗褐色 泥土質シルト 粘性強・しまり強
掘り方直下で小確混入する

0 1:30 1m

第32図 RP001・002土器埋設遺構

RP002土器埋設遺構

遺構（第32図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕 I B24 s グリッド杭付近、RA005竅穴住居とRD022土坑の間に位置する。Ⅲ b 層上面で土器の胴部が見つかった。遺構上部は後世に削平されたと思われる。

〔重複関係〕 上述のような位置関係にあるが、遺構間の重複は認められない。

〔平面形・規模〕 無文の深鉢が正位で埋設される。規模は110×90cm前後と思われる。

〔埋土〕 土器内部は泥入物の違いで2層に分けた。

〔掘方〕 掘方は小礫を含む暗褐色の粘上質シルトで、掘方の底までの深さは17cmである。

遺物（第63図、写真図版47）

〔土器〕 埋設土器1点（188）と掘り方から1点（187）出土した。土器は2,345.0gの出上をみた。

時期 出土遺物から、縄文時代後期のいずれかに属するものとしておく。

4 焼土遺構

RF001焼土遺構

遺構（第33図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕 II C20mグリッドに位置する。Ⅲ層上面で土色の違いにより検出された。

〔平面形・規模〕 平面形はアメーバ状の不整形を呈する。規模は97×72cmを測る。

〔埋土〕 一部に赤褐色焼土範囲が見られるものの、その周囲は同焼土と黒褐色シルト～砂質シルト、暗褐色シルトなどの混合土で、異地性と考えられる。なお、中にTo-aテフラブロックが混在している。

〔断面形〕 皿状を呈し、底面は凹凸が激しい。検出面からの深さは14cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面及びTo-aテフラの存在から平安時代中期以降の所産と推定される。

RF002焼土遺構

遺構（第34図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕 II B17 x グリッド付近に位置する。Ⅳ層下位で土色の違いにより検出された。

RF003・004・014焼土遺構と近接する。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形を呈する。規模は検出面で96×56cm、底面で54×34cmを測る。

〔埋土〕 赤褐色焼土と黒褐色シルトの混合土が南東側に、炭化物の混じる黒色シルトが堆積している。

〔断面形〕 皿状を呈し、底面は凹凸が激しい。検出面からの深さは7cmである。

遺物

〔植物遺存体〕 本遺構1層および2層の土壌をコラムサンプリングし、土壌水選別法を実施した。結果、1層土壌からオニグルミ内果皮破片4点、ミズキ内果皮破片4点が、2層土壌からオニグルミ内果皮破片8点、トチノキ種皮破片5点が検出された。いずれも炭化している。

時期 検出面から縄文時代晩期～弥生時代と推定される。なお、本遺構1層中から採取された炭化物に対し放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施し、2,490±30yrBP（ $\delta^{13}\text{C}$ 補正あり）という結果が得られた。これは、縄文時代晩期から弥生時代の移行期頃に相当し、層位的見解と調和する。

RF003焼土遺構

遺構 (第34図、写真図版28)

〔位置・検出状況〕 II B18 x グリッドにあり、V層上面で検出された。RF002・004焼土遺構と近接する。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈する。規模は34×20cmを測る。

〔焼土の様相〕 色調は赤黒色で、焼成は弱い。赤褐色焼土および炭化物粒が所々に攪乱状に混入する。よって、本遺構は本来的な焼土の下位にあたる部分と考えられる。検出面からの厚さは3cmである。

遺物

〔土器〕 周囲から縄文土器が40.8g出土している。埋土中からではない。

時期 検出面および焼土の状況から、縄文時代晩期～弥生時代と推定される。

RF004焼土遺構

遺構 (第34図、写真図版28)

〔位置・検出状況〕 II B16w グリッドにあり、V層上面で検出された。RF002焼土遺構などと近接する。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形を呈する。規模は検出面で55×45cm、底面で27×14cmを測る。

〔埋土〕 赤褐色焼土と黒褐色シルトの混合土で、異地性と考えられる。

〔断面形〕 皿状を呈し、底面は凹凸が激しい。検出面からの深さは6cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代晩期～弥生時代と推定される。

RF005焼土遺構

遺構 (第34図、写真図版28)

〔位置・検出状況〕 II B11 y グリッドにあり、IV層中で検出された。RF006・012焼土遺構と近接する。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な円形で、南西部が細長く伸びる。規模は69×59cmを測る。

〔焼土の様相〕 現地性の赤褐色（上位）・暗赤褐色（下位）焼土が確認される。検出面からの厚さは4cmである。焼土範囲中央は後世の攪乱が入っており、黒色シルトと赤褐色焼土の混合土となっている。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代晩期～弥生時代と推定される。

RF006焼土遺構

遺構 (第35図、写真図版28)

〔位置・検出状況〕 II C 9 a グリッドに位置し、IV層中で検出された。RF005・012焼土遺構と近接する。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な楕円形を呈する。規模は検出面で95×83cm、底面で73×57cmを測る。

〔埋土〕 赤褐色焼土と黒褐色シルトの混合土で、異地性と考えられる。

〔断面形〕 皿状を呈し、底面は凹凸が激しい。検出面からの深さは13cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代晩期～弥生時代と推定される。

RF007焼土遺構

遺構 (第33図、写真図版29)

〔位置・検出状況〕 II C 18 j グリッドに位置する。IV層中で上色の違いにより検出された。

- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形である。規模は検出面で119×101cm、底面で58×39cmを測る。
- [埋土] 一部に赤褐色焼土範囲が見られるものの、その周囲は下位も含め同焼土と黒褐色シルトの混合土である。よって、異地性と考えられる。
- [断面形] 皿状を呈する。検出面からの深さは11cmである。
- 遺物 出土していない。
- 時期 検出面から、縄文時代晩期～弥生時代と推定される。

RF008焼土遺構

遺構 (第33図、写真図版29)

- [位置・検出状況] II C 22 s グリッドに位置する。IV層中で土色の違いにより検出された。
- [重複関係] 下位にRA002堅穴住居がある。本遺構はRA002の埋土中に形成されたものと考えられる。
- [平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、北西部は缺状を呈する。規模は144×87cmを測る。
- [埋土] 赤褐色焼土と黒色シルト、にぶい黄褐色シルトの混合土で、異地性と考えられる。
- [断面形] 皿状を呈し、東西方向は急角度で立ち上がる。底面は凹凸が激しい。深さは15cmである。
- 遺物 出土していない。
- 時期 検出面から、縄文時代晩期～弥生時代と推定される。

RF009焼土遺構

遺構 (第33図、写真図版29)

- [位置・検出状況] II C 24 p グリッドに位置する。IV層中で土色の違いにより検出された。P 5～7、RF015炭化物集中、RD002・004～007土坑と近接する。
- [平面形・規模] 平面形は不整な方形を呈する。規模は検出面で59×46cm、底面で34×29cmを測る。
- [埋土] 赤褐色焼土と黒色シルトの混合土で、異地性と考えられる。
- [断面形] 皿状を呈する。検出面からの深さは5cmである。

遺物

- [植物遺存体] 本遺構1層の上壤をコラムサンプリングし、土壌水洗選別法を実施した。結果、炭化したクリ果皮破片9点、同子葉破片2点、ブナ科果皮破片23点、トチノキ種皮破片3点が検出された。
- 時期 検出面から、縄文時代晩期～弥生時代と推定される。なお、本遺構1層中から採取された炭化物に対し放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施し、 $2,410 \pm 30 \text{yrBP}$ ($\delta 13\text{C}$ 補正あり)という結果が得られた。これは、縄文時代晩期から弥生時代の移行期頃に相当する年代値で、層位的見解と調和する。RF002焼土遺構でも近似する測定結果が出ているが、1σの暦年代範囲はばらつきがあり年代幅も広く、本遺構出土試料の方が新期となる可能性が高い。

RF010焼土遺構

遺構 (第33図、写真図版29)

- [位置・検出状況] II C 18 r グリッドに位置する。IV層中で土色の違いにより検出された。
- [平面形・規模] 平面形は円形を呈する。規模は検出面で44×40cm、底面で34×28cmを測る。
- [埋土] 赤褐色焼土と黒色シルトの混合土で、異地性と考えられる。
- [断面形] 皿状を呈する。検出面からの深さは10cmである。

遺物

〔植物遺存体〕木遺構1層の土壌をコラムサンプリングし、土壌水洗選別法を実施した。結果、オニグルミ内果皮破片4点、トチノキ種皮破片13点が検出された。いずれも炭化している。

時期 検出面から、縄文時代晩期～弥生時代と推定される。

RF011焼土遺構

遺構（第35図、写真図版30）

〔位置・検出状況〕ⅡB7yグリッド付近に位置する。Ⅳ層下位で土色の違いにより検出された。

〔平面形・規模〕平面形は不整な楕円形を呈する。規模は検出面で95×70cm、底面で34×28cmを測る。

〔埋土〕赤褐色焼土と黒褐色シルトの混合土で、異地性と考えられる。

〔断面形〕皿状を呈し、底面は凹凸が激しい。検出面からの深さは8cmである。

遺物（第63図、写真図版47）

〔土器〕1点掲載した（189）。これを含み、1層から42.7g出土した。

時期 検出面から、縄文時代晩期～弥生時代と推定される。

RF012焼土遺構

遺構（第35図、写真図版30）

〔位置・検出状況〕ⅡB11yグリッド付近にあり、Ⅴ層上位で検出した。RF005焼土遺構等と近接する。

〔平面形・規模〕平面形は不整な楕円形を呈する。規模は検出面で57×47cm、底面で39×25cmを測る。

〔埋土〕赤褐色焼土と黒褐色シルトの混合土で、異地性と考えられる。

〔断面形〕皿状を呈する。検出面からの深さは4cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代後期～晩期頃と推定される。RF005・006焼土遺構より検出面が下位であることから、これよりは古期である。

RF013焼土遺構

遺構（第35図、写真図版30）

〔位置・検出状況〕ⅡC21bグリッド付近に位置する。Ⅴ層上位で土色の違いにより検出された。

〔平面形・規模〕平面形は不整な楕円形を呈する。規模は検出面で22×15cm、底面で20×12cmを測る。

〔埋土〕焼土と黒褐色シルトの混合土で、異地性と考えられる。

〔断面形〕皿状を呈する。検出面からの深さは3cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代後期～晩期頃と推定される。

RF014焼土遺構

遺構（第34図、写真図版30）

〔位置・検出状況〕ⅡB19yグリッドにあり、Ⅴ層上位で検出した。RF003焼土遺構と近接する。

〔平面形・規模〕142×76cmの範囲に6つの焼土が点在する。本来は連続するものと思われる

〔焼土の様相〕暗赤褐色を呈し、焼成が弱い。平面の状態も考え合わせれば、本遺構は本来的な焼土の下位にあたる部分と推定される。焼土の検出面からの厚さは4cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代後期～晩期頃と推定される。

RF021焼土遺構①・②

遺構（第39図、写真図版33）

〔位置・検出状況〕同一遺構名で①・②として報告する。①はⅡC8e、②はⅡC7g・8gに跨る。いずれもⅨ層上面で検出された。

〔平面形・規模〕①は86×63cmの楕円形を、②は165×85cmの不整形円形をなす。

〔断面形〕いずれもごく浅い皿状をなす。

〔焼土の様相〕ともにふい赤褐色をなし、焼成は弱い。焼土の検出面からの厚さは2～6cmを測る。

①・②とも焼土の広がりと同じくらいの凹部を有している。

遺物 1点掲載した(190)。これを含み、遺構の周辺から482.0gの土器片が出土した。

時期 出土した遺物や検出面などから、縄文時代後期を含むそれ以前に属するものと推定される。

RF022焼土遺構

遺構（第40図、写真図版33）

〔位置・検出状況〕ⅡB2y・3yに跨っている。検出面はⅨ層上面である。

〔平面形・規模〕幅45cm前後の楕円形基調と思われる。遺構の北東側は調査区外のため精査できない。

〔断面形〕皿状である。

〔焼土の様相〕明赤褐色をなし、焼成は良好である。検出面からの厚さは16cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代後期を含むそれ以前と推定される。

RF023焼土遺構

遺構（第40図、写真図版33）

〔位置・検出状況〕ⅡC13gグリッド杭付近に位置し、検出面はⅨ層上面である。

〔平面形・規模〕100×180cmの範囲に不整形の焼土が二つ形成される。いずれも細長い。

〔焼土の様相〕橙色焼土粒を含む暗褐色シルトである。焼成はやや良好。厚さは最大で3cm程度である。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代後期を含むそれ以前と推定される。

RF024焼土遺構

遺構（第40図、写真図版33）

〔位置・検出状況〕ⅠB20x・20yに跨り、調査開始直後に設定した土層確認用トレンチで一部を壊している。検出面はⅨ層上面である。

〔平面形・規模〕88×30cm前後の不整形で礫を2つ周辺に置くが、両者の関連は不明である。

〔焼土の様相〕橙色焼土粒を含む暗褐色シルトで、RF023焼土遺構に似る。厚さは最大で3cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代後期を含むそれ以前と推定される。

RF025焼土遺構

遺構（第40図、写真図版34）

〔位置・検出状況〕 I B21wに位置し、これもRF024土坑同様、土層確認用トレンチで検出面は幾分下がりが過ぎている。よって検出面はⅨ層中となる。

〔重複関係〕 RA008竪穴住居とRD019土坑の精査前に検出された遺構で、本遺構はこれらよりも新しい。

〔平面形・規模〕 64×45cmの楕円形である。

〔焼土の様相〕 焼成の良くない暗褐色シルトである。検出面からの厚さは最大で3cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代後期前葉を含むそれ以後と推定される。

RF026焼土遺構

遺構（第41図、写真図版34）

〔位置・検出状況〕 II B2u・3uに跨る。検出面はⅧ層上面で、Ⅸ層面ではPP42を確認した。

〔平面形・規模〕 43×32cmの不整形をなす。

〔断面形〕 ごく浅い皿状である。

〔焼土の様相〕 焼成の良くない褐色シルトである。検出面からの厚さは最大で2cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代後期前葉を含むそれ以後に属するものと推定される。

RF027焼土遺構

遺構（第41図、写真図版34）

〔位置・検出状況〕 I B24qに位置し、検出面はⅧ層中である。

〔平面形・規模〕 97×92cmの台形状である。

〔焼土の様相〕 焼土粒を含む焼成の良くない暗褐色シルトで、厚さは4cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代後期前葉を含むそれ以後に属するものと推定される。

RF028焼土遺構

遺構（第41図、写真図版34）

〔位置・検出状況〕 II B2n・2oに跨る。検出面はⅧ層上面である。

〔平面形・規模〕 53×32cmの楕円形をなす。

〔断面形〕 皿状である。

〔焼土の様相〕 赤褐色と暗赤褐色のシルト質上である。検出面からの厚さは最大で3cmである。

遺物 縄文土器片が17.8g出土した。

時期 出土した遺物から、縄文時代後期前葉を含むそれ以後と推定されるが、詳細は不明である。

RF029焼土遺構

遺構（第41図、写真図版35）

〔位置・検出状況〕 II B2p・3pに跨る。検出面はⅧ層かⅨ層上面である。

〔平面形・規模〕 106×45cmの不整形である。

[断面形] 皿状をなす。

[焼土の様相] 赤褐色焼土粒を含む暗赤褐色のシルト質上2層からなる。厚さは最大で5cmである。

遺物 縄文土器片が778g出土した。

時期 出土遺物、住居跡との重複関係から、縄文時代後期を含むそれ以後と推定される。

RF030焼土遺構

遺構 (第41図、写真図版35)

[位置・検出状況] II B 4 r・5 rに跨る。検出面はⅧ層かⅨ層上面である。

[平面形・規模] 60×34cmの不整形である。

[焼土の様相] 赤褐色焼土粒を含む暗赤褐色土と赤褐色土からなる。厚さは最大で2.5cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属する焼土遺構と考えられるが詳細な時期は不明である。

RF031焼土遺構

遺構 (第42図、写真図版35)

[位置・検出状況] 調査区中央部のII A 4 rに位置し、検出面はⅧ層相当層である。

[平面形・規模] 30×20.5cmの楕円形である。

[焼土の様相] 焼成の良くない暗赤褐色シルトである。厚さは2cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属する焼土遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

RF032焼土遺構

遺構 (第42図、写真図版35)

[位置・検出状況] 調査区中央部のII A 2 qに位置し、検出面はⅧ層相当層である。

[重複関係] RA007竪穴住居の西壁で重複する。新旧関係は掴めなかった。

[平面形・規模] 42×33cmの台形状である。

[焼土の様相] 焼成の良くない暗赤褐色シルトである。厚さは最大で3cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属する焼土遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

RF033焼土遺構

遺構 (第43図、写真図版36)

[位置・検出状況] 調査区中央部のII A 1 rに位置し、検出面はⅧ層相当層である。

[重複関係] RA007竪穴住居の床面にある。これに伴う焼土の可能性も残す。

[平面形・規模] 32×22cmの台形状をなす。

[焼土の様相] 焼成の良くない暗赤褐色シルトである。厚さは最大で2.5cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属する焼土遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

RF034焼土遺構

遺構（第43図、写真図版36）

〔位置・検出状況〕調査区中央部のⅠA25rに位置する。検出面はⅧ層相当層である。

〔平面形・規模〕20×（14）cm。

〔焼上の様相〕焼成の良くない暗赤褐色シルトである。厚さは最大で3.5cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属する焼土遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

RF035焼土遺構

遺構（第42図、写真図版36）

〔位置・検出状況〕調査区中央部のⅡA2r・3rに跨る。検出面はⅧ層相当層である。

〔平面形・規模〕76×59cmの台形状である。

〔焼土の様相〕焼成の良くない暗赤褐色シルトである。厚さは最大で4.5cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属する焼土遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

RF036焼土遺構

遺構（第43図、写真図版36）

〔位置・検出状況〕調査区中央部のⅠA25qに位置する。検出面はⅧ層相当層である。

〔平面形・規模〕34×30cmの円形をなす。

〔焼土の様相〕焼成の良くない暗赤褐色シルトである。厚さは最大で2.5cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属する焼土遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

RF037焼土遺構

遺構（第43図、写真図版37）

〔位置・検出状況〕調査区中央部のⅠA24rに位置する。検出面はⅧ層相当層である。

〔平面形・規模〕41×26cmの楕円形状である。

〔焼土の様相〕小礫を含む明赤褐色シルトである。厚さは最大で2cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属する焼土遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

RF038焼土遺構

遺構（第43図、写真図版37）

〔位置・検出状況〕調査区中央部のⅠA24rに位置する。検出面はⅧ層相当層である。

〔平面形・規模〕69×35cmの長方形形状である。

〔焼土の様相〕小礫を含む明赤褐色シルトである。厚さは最大で2.5cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属する焼土遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

RF039焼土遺構

遺構（第43図、写真図版37）

〔位置・検出状況〕調査区中央部の I A23 r に位置する。検出面はⅡ層相当層である。

〔平面形・規模〕76×63cmの楕円形状である。

〔焼土の様相〕小礫を含む明赤褐色シルトである。厚さは2～4cmを測る。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属する焼土遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

RF040焼土遺構

遺構（第43図、写真図版37）

〔位置・検出状況〕調査区中央部の I A25 r に位置する。検出面はⅡ層相当層である。

〔平面形・規模〕29×28cmの不整形円形をなす。

〔焼土の様相〕小礫を含む明赤褐色シルトである。厚さは最大で2cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属する焼土遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

RF041焼土遺構

遺構（第43図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕調査区中央部の I A25 q に位置する。検出面はⅡ層相当層である。

〔平面形・規模〕41×11cmの不整形長方形である。

〔焼土の様相〕小礫を含む明赤褐色シルトである。厚さは最大2cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属する焼土遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

RF042焼土遺構

遺構（第43図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕Ⅱ A 2 q にあり、RD056土坑の北東に隣接する。検出面はⅡ層相当層である。

〔平面形・規模〕直径26cmの円形と思われる。本遺構の南東側に礫があるが、関連は不明である。

〔焼土の様相〕小礫を含む明赤褐色シルトで、厚さは1cm程度である。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代に属する焼土遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

5 炉 跡

RF043炉跡

遺構（第43図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕I B23 v グリッド杭付近にあり、RD014土坑のプランとともにⅡ層上面で検出した。

〔重複関係〕上述のとおり、RD014土坑と重複するが新旧関係は不明である。

〔形態・規模〕石囲炉で焼土を二箇所有する。大小16個の炉石があるが、北西側が一部途切れる。

焼土の大きさは69×21cm、55×32cmで、前者は炉石の外側に広がっている。

〔焼土の様相・厚さ〕赤褐色焼土粒を含む焼成の悪い黒褐色土である。厚さは8cmほどである。

遺物 67.5gの縄文土器が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代に属するものと思われるが、重複関係にあるRD014土坑の時期である後期中葉から後葉の前後のいずれかとしておく。

RF044炉跡

遺構 (第42図、写真図版38)

〔位置・検出状況〕調査区中央部のⅡA3rに位置し、焼土遺構群とともにⅢb層～Ⅳ層面で検出した。

〔形態・規模〕石囲炉でこれも焼土を二箇所に有し、10個弱の炉石からなる。焼土の大きさは54×19cm、53×29cmである。

〔焼土の様相・厚さ〕焼けのやや良い暗赤褐色シルトで、厚さは最大2cmである。

遺物 出土していない。

時期 縄文時代のいずれかに属するものと思われるが、周辺から出土する遺物が晩期中葉主体であり、その時期に属する可能性が高い。

6 炭化物集中

RF015炭化物集中

遺構 (第36図、写真図版31)

〔位置・検出状況〕ⅡC23rグリッド付近にあり、Ⅳ層中で炭化物量の違いにより検出された。RF008・009焼土遺構と近接する。

〔平面形・規模〕平面形は不整な長楕円形で、規模は検出面で386×172cm、底面で338×154cmを測る。

〔埋土〕黒色シルトと黒褐色シルトの混合土で、炭化物塊・粒を約2割含む。炭化物は全体に散在する。

〔断面形〕皿状を呈する。検出面からの深さは5cmである。

遺物

〔植物遺存体〕本遺構1層の土壌をコラムサンプリングし、土壌水洗選別法を実施した。結果、炭化したトチノキ種皮破片2点が検出された。

時期 検出面から、縄文時代晩期～弥生時代と推定される。本遺構1層中から採取された炭化物に対し放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施し、2270±30yrBP(δ13C補正あり)という結果が得られた。これは、弥生時代前期から中期頃に相当する年代値であり、層位的な見解と大きく乖離しない。

RF016炭化物集中

遺構 (第36図、写真図版31)

〔位置・検出状況〕ⅡC14iグリッド付近に位置する。Ⅳ層中で炭化物量の違いにより検出された。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形を呈する。規模は検出面で55×36cm、底面で38×19cmを測る。

〔埋土〕黒褐色シルト主体で、炭化物塊・粒を約5割含む。炭化物は全体に散在する。

〔断面形〕V字形に近い。検出面からの深さは21cmである。

遺物

〔植物遺存体〕本遺構1層の土壌をコラムサンプリングし、土壌水洗選別法を実施した。結果、炭化したトチノキ種皮破片3点が検出された。

時期 検出面から、縄文時代晩期～弥生時代と推定される。

RF017炭化物集中

遺構 (第36図、写真図版31)

[位置・検出状況] II C16 f グリッドに位置する。V層上面で炭化物量の違いにより検出された。

[平面形・規模] 平面形は楕円形を呈する。規模は検出面で38×32cm、底面で20×18cmを測る。

[埋土] 黒褐色シルト主体で、炭化物粒を約2割含む。炭化物は全体に散在する。

[断面形] 皿状を呈する。検出面からの深さは3cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代後期～晩期頃と推定される。

RF018炭化物集中

遺構 (第36図、写真図版31)

[位置・検出状況] II C24 e グリッド付近に位置する。V層中で炭化物量の違いにより検出された。

[平面形・規模] 平面形は不整な楕円形で、規模は検出面で222×170cm、底面で200×110cmを測る。

[埋土] 黒褐色シルト主体で、炭化物粒を少量含む。炭化物は全体に散在する。

[断面形] 皿状を呈する。検出面からの深さは9cmである。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、縄文時代後期頃と推定される。

7 カマド状遺構

RF019カマド状遺構

遺構 (第37図、写真図版32)

[位置・検出状況] II C23 k グリッド付近に位置する。III層上面で焼上の存在により検出された。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形を呈し、規模は開口部径269×87cm、掘方の底部径69×37cmを測る。長軸方向はN-77°-Wで、RF020カマド状遺構と近似する。

[埋土・焼土] 上位から、暗褐色シルト～砂質シルト層、炭化物層、焼土層、炭化物層、灰層の順に堆積している。焼土は、短軸方向にはU字形に広がり、中央で途切れる。厚さは最大で15cmを測る。

[底面・壁] 明瞭ではないが長軸方向には段を有する。短軸方向は概してU字形を呈する。

遺物

[植物遺存体] 本遺構埋土最下位の炭化物層(4層)をコラムサンプリングし、土壌水洗選別法を実施した。結果、完形のモモ核1点が検出された。

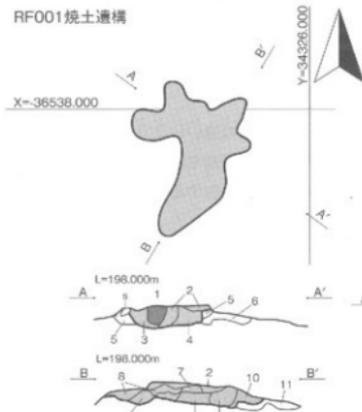
時期 検出面及び形態からは、古代～中世の構築と推定される。なお、炭化物層(4層)中から採取された炭化物に対し放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施し、580±30yrBP(δ13C補正あり)という結果が得られた。これは14世紀頃に相当する年代値で、本遺構は中世の所産と考えられる。

RF020カマド状遺構

遺構 (第38図、写真図版32)

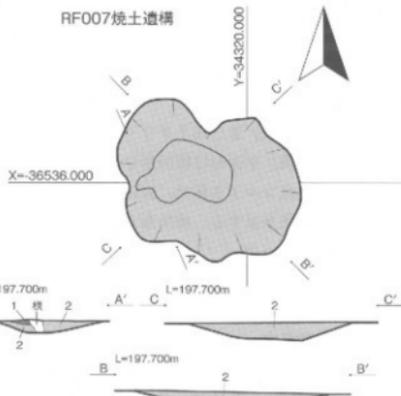
[位置・検出状況] II C20 h グリッド付近に位置する。V層上面で検出した。

RF001焼土遺構



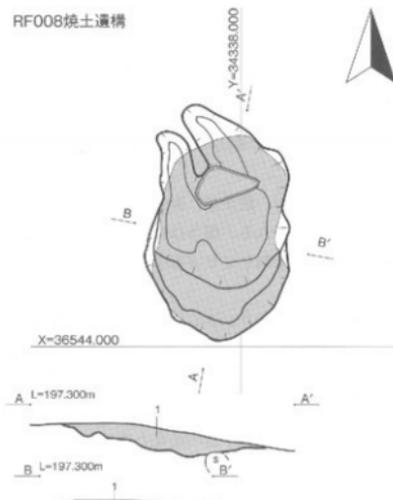
1. 5YR5/8赤褐色 凝土・粘性弱・しまり弱 小窪盛入
2. 5YR5/8赤褐色土と10YR3/2茶褐色砂質シルトの混り 粘性弱・しまり弱
3. 10YR4/3 灰白・黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり弱 5YR5/8赤褐色焼土ブロック10%
4. 5YR5/8赤褐色土と10YR4/3に灰黄褐色砂質シルトの混り (5:5) 粘性弱・しまり弱 炭化物約10%
5. 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中・しまり中 小窪盛入
6. 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり中 小窪盛入 (高さ5cm)
7. 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 5YR5/8赤褐色焼土ブロック20%
8. 10YR2/6 黄褐色テフラ (Toa) ブロック10%
9. 10YR3/4暗褐色シルトと5YR5/8赤褐色焼土の混り 粘性弱・しまり中
10. 10YR3/4暗褐色シルト 粘性中・しまり中 5YR5/8赤褐色焼土混入
11. 小窪と10YR4/3に灰白・黄褐色砂質シルトの混り (7:3) 粘性弱・しまり中

RF007焼土遺構



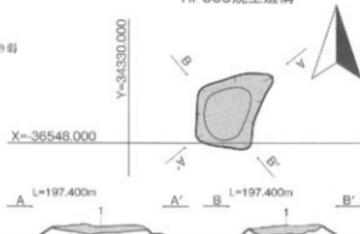
1. 25YR4/6赤褐色 シルト 粘性中・しまり中 最上段は5YR3/4暗赤褐色
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中・しまり弱 25YR4/6赤褐色焼土 (高さ5cm) 5% 炭化物約5%

RF008焼土遺構



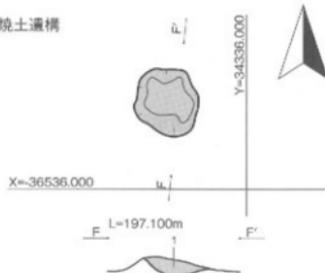
1. 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中・しまり弱 25YR4/6赤褐色焼土ブロック (高さ5cm) 20% 炭化物約10% 10YR4/3に灰黄褐色シルトブロック (高さ5cm) 10%

RF009焼土遺構



1. 10YR2/1黒色シルトと25YR4/6赤褐色シルト (焼土) の混り (7:3) 粘性中・しまり中 炭化物約5% 最上はブロック状 (高さ5cm)

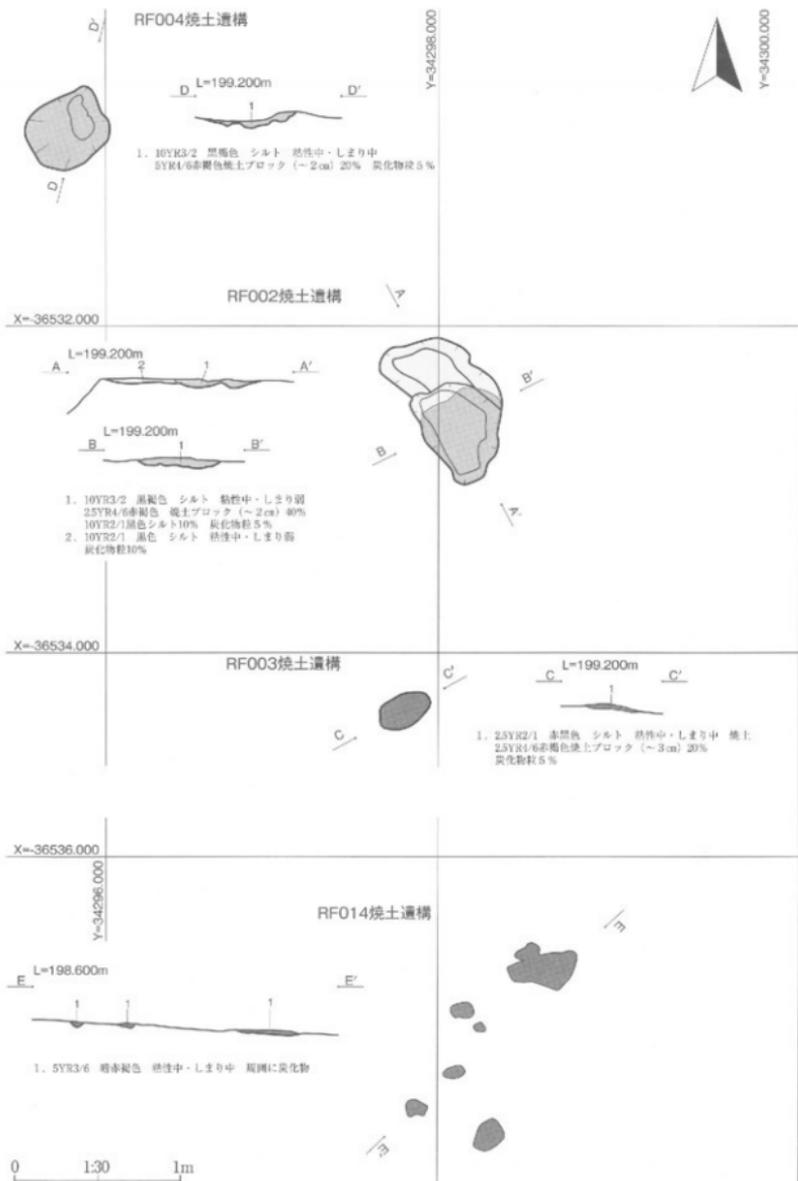
RF010焼土遺構



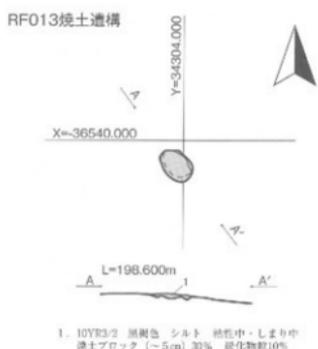
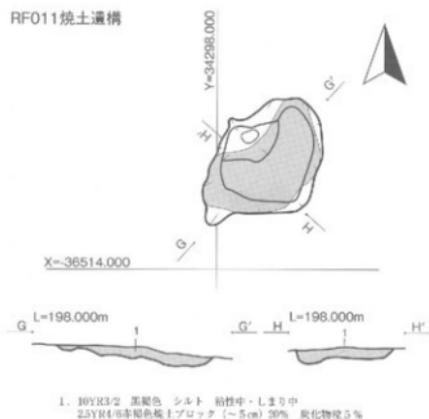
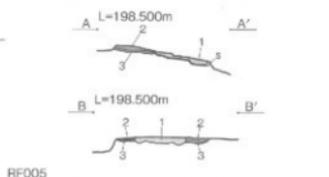
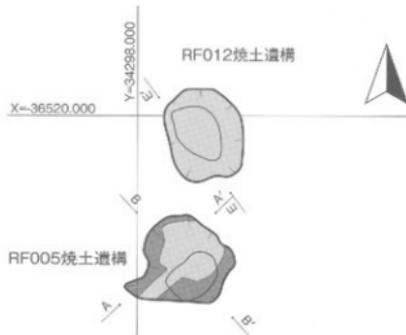
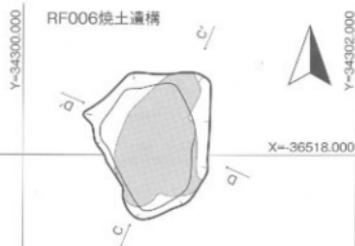
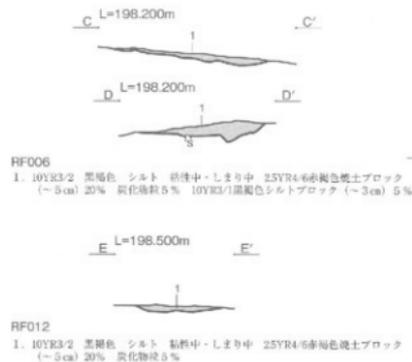
1. 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中・しまり弱 25YR4/6赤褐色焼土ブロック (高さ5cm) 10% 炭化物約5%



第33図 RF001・007~010焼土遺構

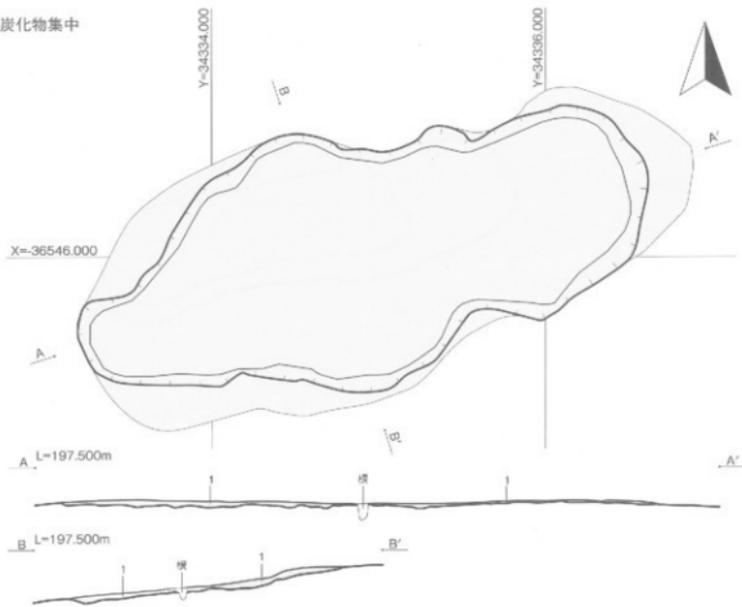


第34図 RF002~004・014焼土遺構



第35図 RF005・006・011~013焼土遺構

RF015炭化物集中

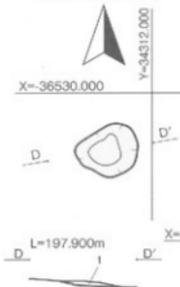


1. 10YR2/1黒色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混在・しまり帯 炭化物(～1cm) 20% 一部に塊あり(10ca)

RF016炭化物集中



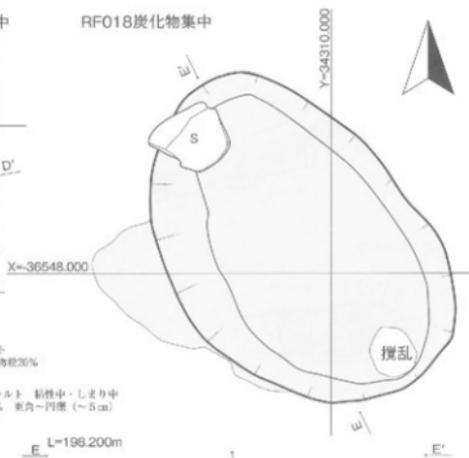
RF017炭化物集中



1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中・しまり帯 炭化物20%

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中・しまり帯 炭化物(～5cm) 20% 束角～円環(～5cm) 10%

RF018炭化物集中

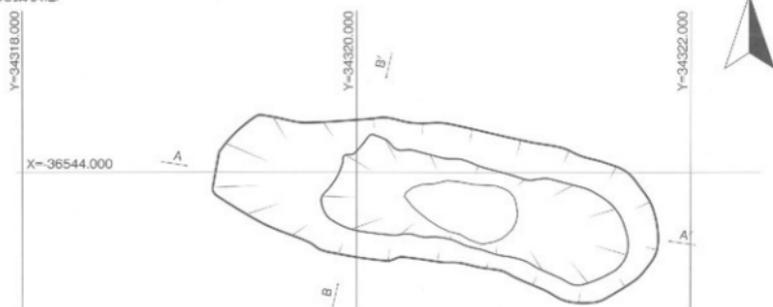


1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中・しまり帯 炭化物少量混入(一部塊を含む)

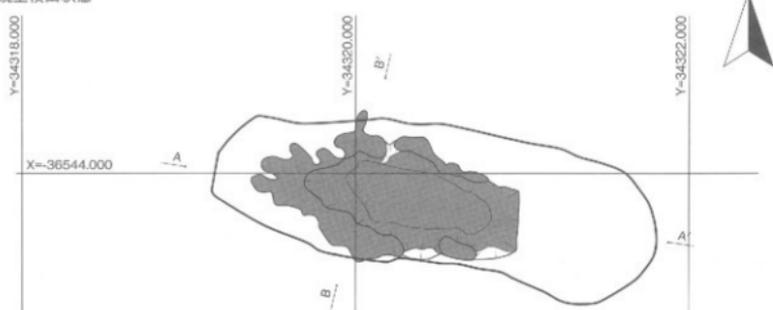
0 1:30 1m

第36図 RF015～018炭化物集中

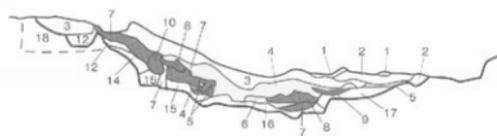
完掘状態



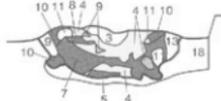
残土検出状態



A L=198.600m



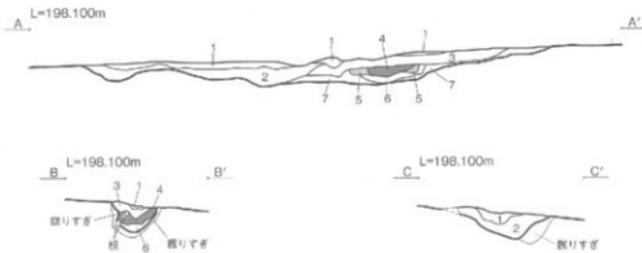
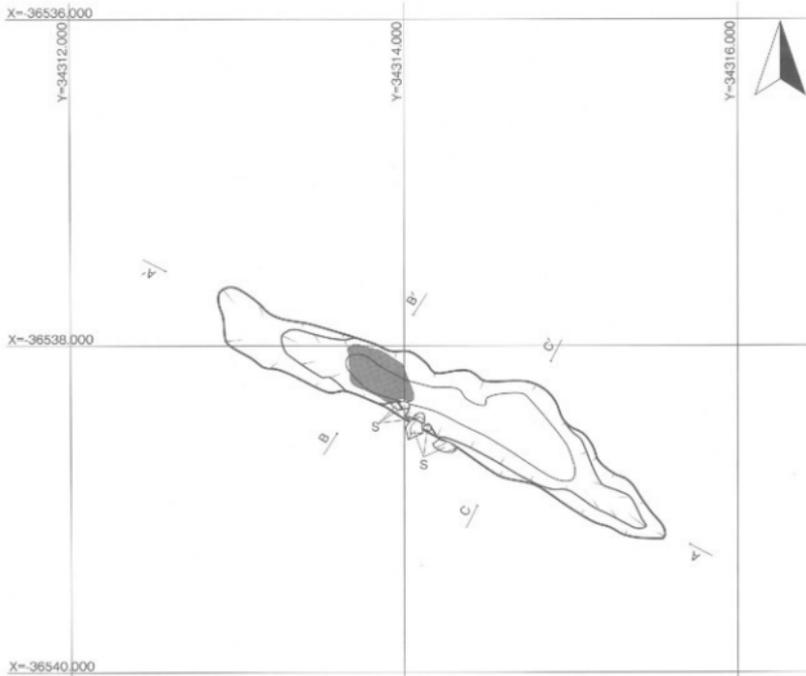
B L=198.600m



1. 10YK3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性中・しまり中 炭化物20% 小礫少量
2. 10YK3/3 暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 炭化物塊状に中量 残土形状に10%
3. 10YK3/4 暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり弱 炭化物5%
4. 炭化燐屑
5. 灰層
6. 炭化物と灰の混在層
7. 25YR4/6 赤褐色 砂質シルト(細) 粘性弱・しまり強 残土細層
8. 25YR4/6 赤褐色 砂質シルト(細) 粘性弱・しまり強 残土
9. 25YR4/8 赤褐色 砂質シルト(粗) 粘性弱・しまり強 残土 炭化物・炭酸塩
10. 5YK3/6 暗赤褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり弱 炭化物・褐色砂少量
11. 10YK3/2 暗褐色 シルト 粘性強・しまり強 炭化物50% 残土数10%
12. 10YK3/4 暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり弱 残土数20%
13. 7.5YK3/2 黒褐色 砂質シルト 粘性強・しまり強
14. 10YK3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 残土段層状
15. 10YK3/2 暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 炭化物少量
16. 10YK3/4 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 小礫少量
17. 7.5YK3/4 暗褐色 シルト 粘性強・しまり強
18. 10YR4/4 褐色 シルト 粘性強・しまり強 燐屑

0 1:30 1m

第37図 RF019カマド遺構



1. 10YR3-1 照褐色 シルト 柱状中・しまり中 垂直-角礫 (~2cm) 10% 炭化粒数3%
2. 10YR3-2 照褐色 シルト 柱状中・しまり中 垂直-角礫 (~2cm) 10% 炭化粒数1%
3. 10YR3-15 照褐色 シルト 柱状中・しまり中 垂直-角礫 (~2cm) 10% 炭化粒数3%
4. 2.5YR4-G 赤褐色 シルト 柱状中・しまり弱 炭上 垂直層 (~5cm) 10%
5. 2.5YR4-G 赤褐色 シルト (概上) と10YR3-1照褐色シルトの混在 (5:5) 柱状中・しまり弱 垂直層 (~5cm) 10%
6. 10YR2-1 照色 シルト 柱状中・しまり弱 垂直層 (~2cm) 10%
7. 10YR2-2 照褐色 シルト 柱状中・しまり中 垂直層 (~2cm) 10%

0 1:30 1m

第38図 RF020カマド状遺構

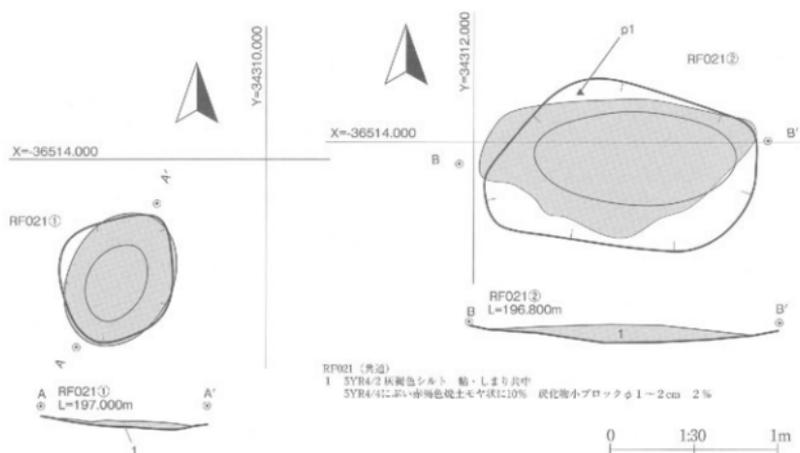
〔平面形・規模〕平面形は不整な長楕円形を呈し、規模は開口部径306×60cm、掘方の底部径154×34cmを測る。長軸方向はN-61°-Wで、RF019カマド状遺構と近似する。

〔埋土・焼土〕上位から、黒褐色シルト層、焼土層、黒色～黒褐色シルト層の順に堆積している。炭化物は各層に混在するものの、単純層として成層していない。焼土は、中央西側に形成されており、短軸方向はU字形を呈する。焼土の厚さは最大で9cmを測る。

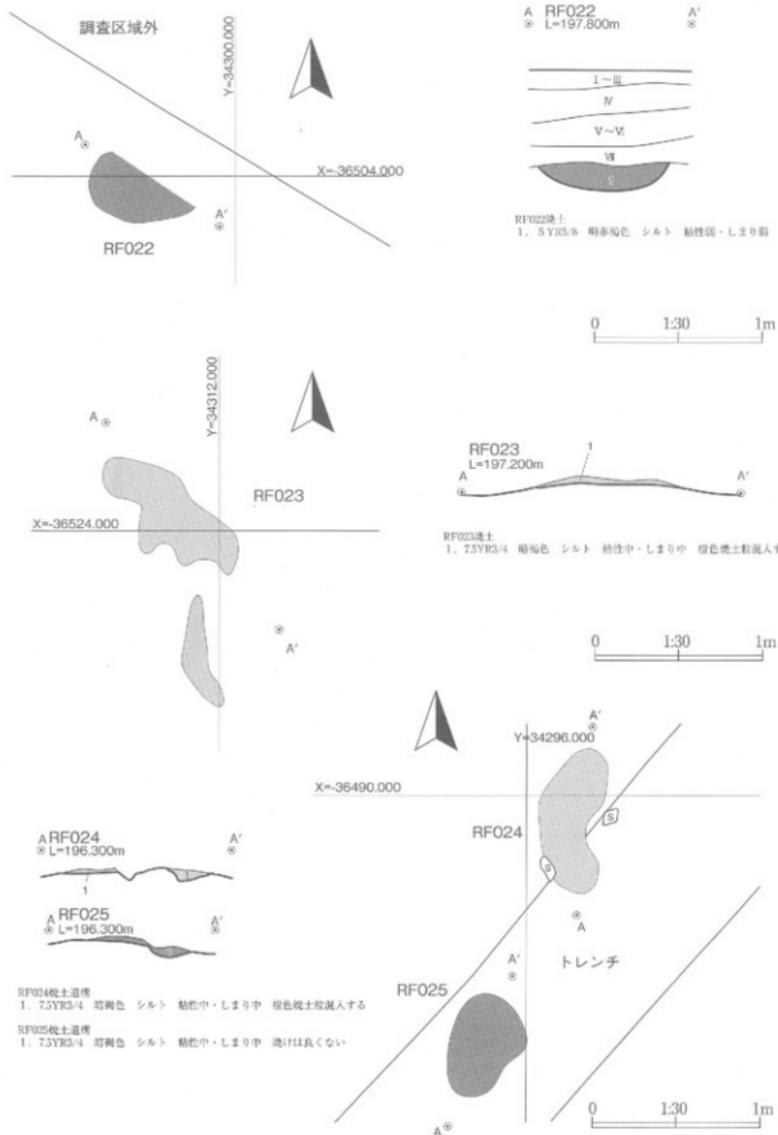
〔底面・壁〕長軸方向は皿状をなす。焼土形成部を含めた中央部が低く窪む。概してU字形を呈する。
遺物

〔植物遺存体〕焼土層（4層）直上の3層中土壌をコラムサンプリングし、土壌水洗選別法を実施した。結果、オニグルミ内果皮破片2点、トチノキ種皮破片20点が検出された。いずれも炭化している。

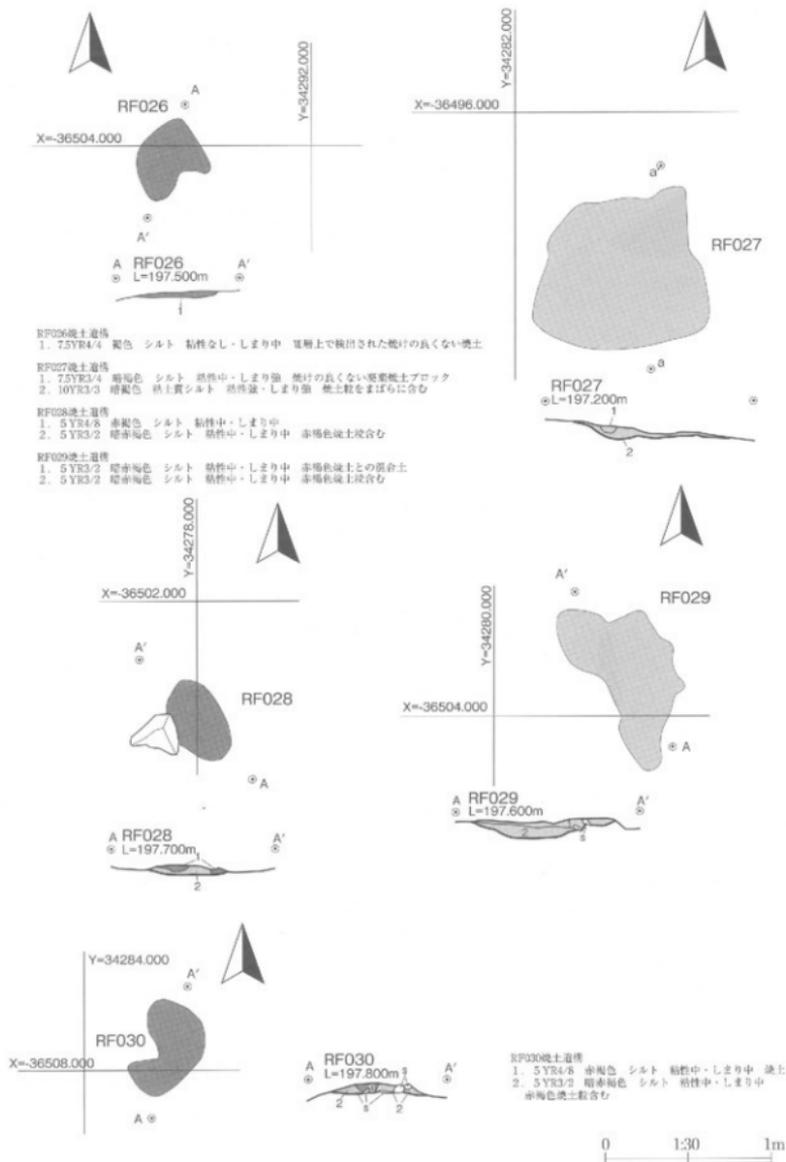
時期 検出面は異なるが、RF019カマド状遺構と同じく中世に構築されたものと推定される。



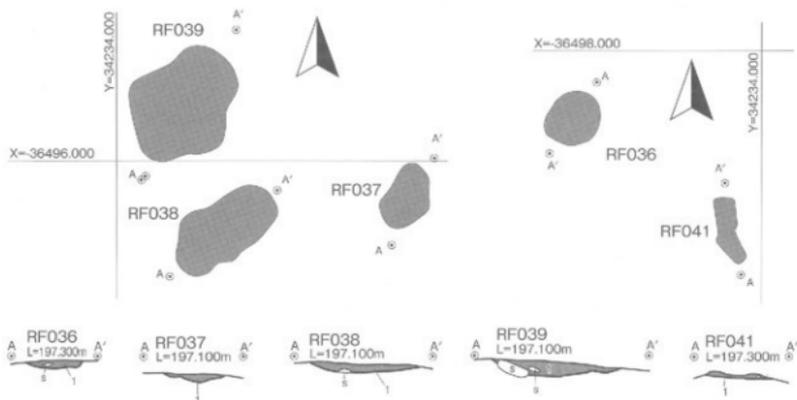
第39図 RF021焼土遺構



第40図 RF022～025焼土遺構



第41図 RD026～030焼土遺構



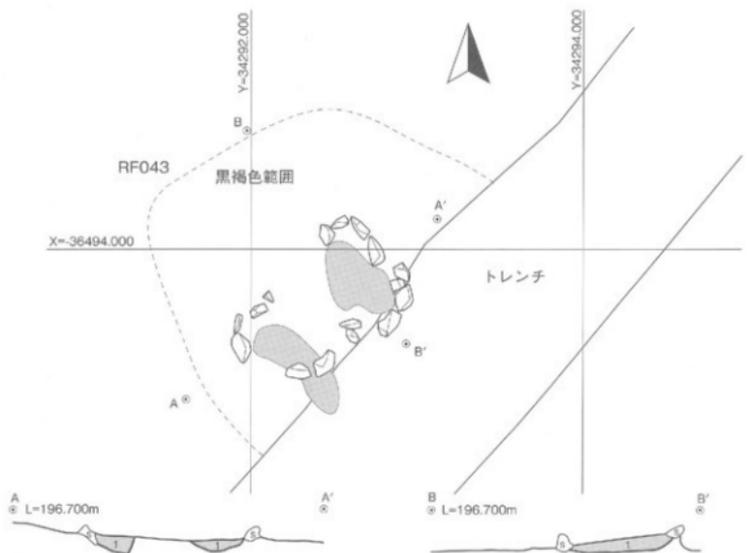
RF036跡土遺構

1. 5 YR3/4 暗赤褐色 シルト 粘性中・しまりなし いずれも焼けが良くない焼土

RF037-039・041跡土遺構

1. 5 YR5/8 暗赤褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 1~2cmの小礫含む

0 1:30 1m



RF043跡土

1. 10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 赤褐色磁土粒2%含む

0 1:30 1m

第43図 RF033・034・036~041焼土遺構・RF043炉跡

8 小溝群

RG001小溝群

遺構 (第44・45図、写真図版39)

[位置・検出状況] II C 12~19・c ~ m グリッドに位置する。III層上面で土色の違いにより検出された。

[重複関係] RG006溝と重複し、これに切られる。

[平面形・規模] 検出範囲は163mfを測る。ただし、北東側は遺構が途中で消失しており、本来の構築面積はこれより広い。溝は31条検出された。長軸方向は、1~14・16~29 がN-41°~46°-Eの範囲に収まり、15・30・31だけがN-70°-E前後と異なる。個々の規模は、検出長1.16~9.91m・幅21~61cmを測る。溝の心心間距離は、17~178cmと多様であるが、20cm前後、50~70cm前後、90~120cm前後、160~180cm前後の4グループに分けられる。うち、50~70cm前後が70%を占めており、これが本来のスパンである可能性が高い。つまり、20cm前後のものは複数回の構築行為の結果(溝間に次回の溝を構築)と、90~120cm前後、160~180cm前後のものは途中の溝が消失し検出できなかった結果とそれぞれ捉えることが可能である。前者の可能性については、溝同上の重複箇所が存在することもその傍証となる(12・13、22②・23)。なお、溝の検出面からの深さは、最大で20cmを測る。

[埋土] 角~垂角礫と暗褐色シルトの混合土が大半を占める。崖錐性の堆積と考えられるものである。上位には、暗褐色・灰黄褐色砂が堆積している箇所があり、ラミナが発達している。

[断面形] 開口部が外反するラッパ型である。

遺物 (第111図、写真図版66)

[土器] 埋土中から縄文土器が23.9g出土した。

[鉄製品] II C 14 c グリッドで埋土中から釘が1点出土した(F1)。

時期 検出面からは古代以降と推定される。釘の製作年代は近世と考えられ、埋土出土遺物ではあるものの当該期まで下る可能性がある。

9 溝

RG002溝

遺構 (第45・46図、写真図版39)

[位置・検出状況] III C グリッド北東からII C グリッド中央部に位置する。III層上面で確認された。

[重複関係] II C 22 i グリッド付近でRG003溝と分岐する。

[平面形・規模] 南西から北東方向に向かって延びており、平面形は緩いS字状を呈する。規模は、検出長52.84m・幅1.76mを測る。

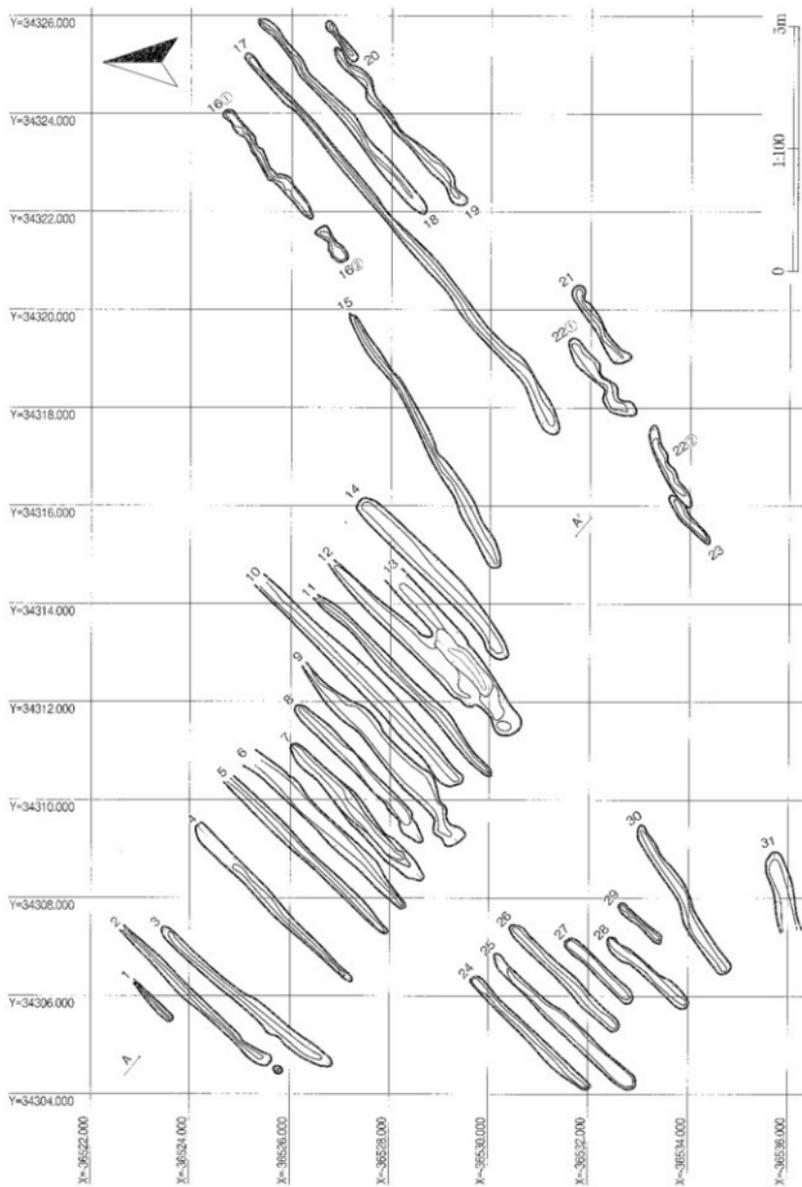
[埋土] 崖錐堆積と考えられる角~垂角礫と黒色シルトの混合土が主体を占める。

[断面形] 概ね逆台形を呈する。検出面からの深さは、最大で51cmを測る。

遺物

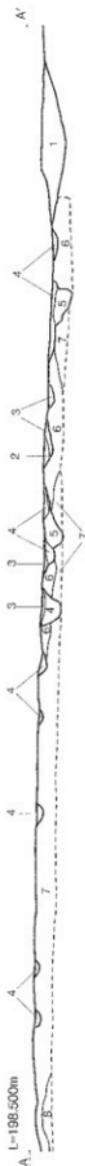
[土器] 埋土中から縄文土器が33.5g出土した。

時期 検出面から、古代以降と推定される。



第44图 RGO01小溝群

RG001小溝群・RG006溝



1. 角一帯角縁 (L=10m) と10YR2.2暗褐色シルトの底土 (6:4) 粘質中・しまり中 磁気集積 RG006溝上

2. 10YR4.2 灰褐色砂 粘質中・しまり弱 本成沼底 (クニナカ池) RG006溝上

3. 10YR2.3 暗褐色砂 粘質中・しまり弱 本成沼底 (クニナカ池) RG001溝上

4. 角一帯角縁 (L=20m) と10YR2.2暗褐色シルトの底土 (6:4) 粘質中・しまり弱 磁気集積 RG001溝上

5. 角一帯角縁 (L=6m) と10YR2.2暗褐色シルトの底土 (7:3) 粘質弱・しまり弱 磁気集積 RG001溝上

6. 10YR2.3暗褐色シルトと角縁 (L=5m) の底土 (6:4) 粘質弱・しまり中 磁気集積

7. 10YR2.2 暗褐色シルト 粘質中・しまり中 角縁 (L=5cm 10%)

8. 角一帯角縁 (L=20m) と10YR2.2暗褐色シルトの底土 (7:3) 粘質弱・しまり中 磁気集積

RG002溝 (中央西)



1. 角一帯角縁 (L=10m) と10YR2.1暗褐色シルトの底土 (7:3) 粘質弱・しまり弱 下に10YR2.4暗褐色シルト (小溝底) 磁気集積

RG002溝 (中央東)・003溝



1. 10YR2.3 暗褐色シルト 粘質中・しまり弱

2. 角一帯角縁 (L=10m) 磁気集積

3. 10YR2.4暗褐色シルトと小溝の底土 (5:5) 粘質弱・しまり弱 磁気集積

RG002溝 (西)



1. 角一帯角縁と10YR2.1暗褐色シルトの底土 (7:3) 粘質弱・しまり弱 磁気集積

2. 角一帯角縁と10YR2.1暗褐色シルトの底土 (5:5) 粘質弱・しまり弱 磁気集積

3. 角一帯角縁磁気集積強しくは溝の溝底にのみあるものか

RG002溝 (東)



1. 角一帯角縁 (L=10m) 磁気集積

2. 10YR2.3 暗褐色砂質シルト 粘質中・しまり弱

RG004溝



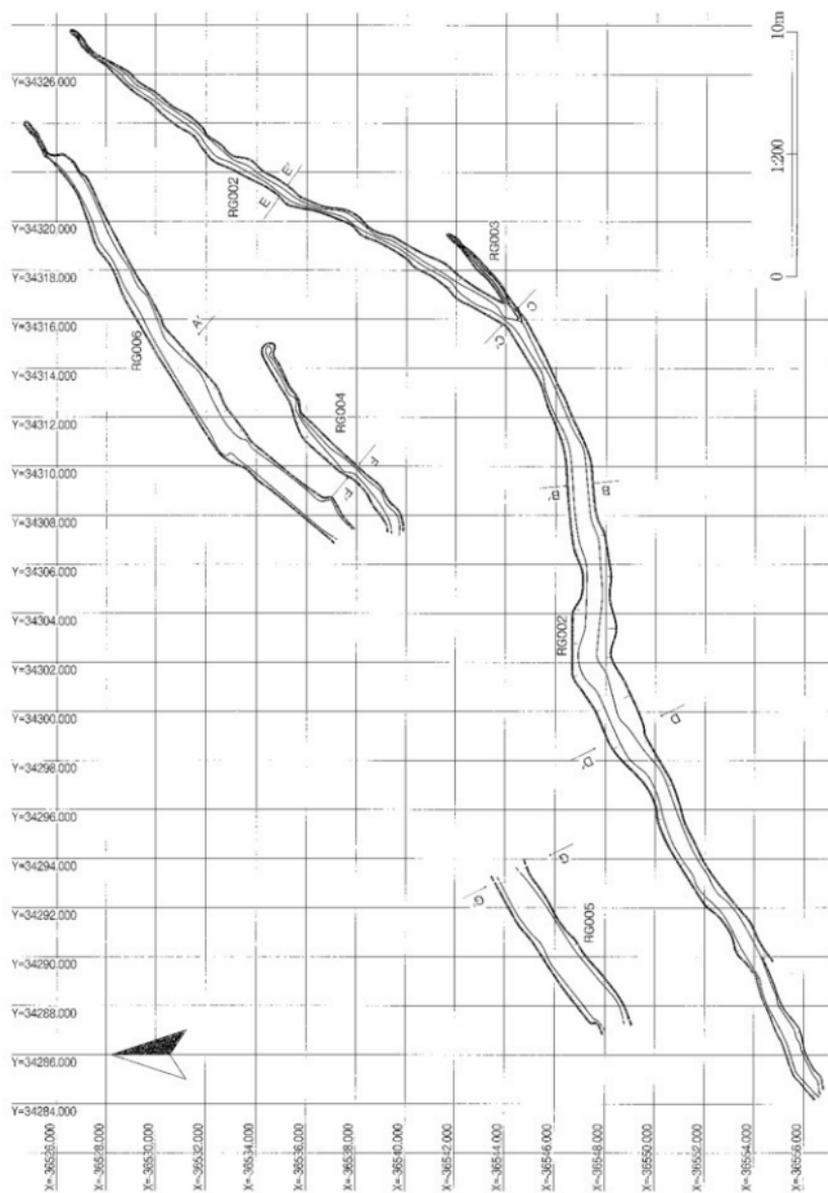
1. 10YR2.1暗褐色シルト (10%)、10YR2.2暗褐色シルト (40%) と膠の底土

2. 小溝底 粘質弱

RG005溝



1. 角一帯角縁 (L=20m) と10YR2.2暗褐色シルトの底土 (7:3) 粘質中・しまり弱 磁気集積



第46図 RG002~006溝

RG003溝

遺構 (第45・46図、写真図版40)

[位置・検出状況] II C21~23・i~j グリッドに位置する。Ⅲ層上面で土色の違いにより確認された。

[平面形・規模] 南西から北東方向に向かって直線的に延びる。規模は検出長3.66m・幅36cmを測る。

[埋土] 小礫と暗褐色シルトの混合土で、崖錐性堆積と考えられる。

[断面形] 椀形を呈する。検出面からの深さは、最大で13cmを測る。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、古代以降と推定される。

RG004溝

遺構 (第45・46図、写真図版40)

[位置・検出状況] II C18~20・d~h グリッドに位置する。Ⅲ層上面で土色の違いにより確認された。

[平面形・規模] 南西から北東方向に向かって延びており、平面形は緩いS字状を呈する。規模は、検出長9.26m・幅70cmを測る。

[埋土] 黒色シルト、黒褐色シルトと礫の混合土で、崖錐堆積と考えられる。

[断面形] 椀形を呈する。検出面からの深さは、最大で27cmを測る。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、古代以降と推定される。

RG005溝

遺構 (第46図、写真図版40)

[位置・検出状況] II B22~25・s~v グリッドに位置する。Ⅲ層中で土色の違いにより確認された。

[平面形・規模] 南西から北東に向かって直線的に延びる。規模は、検出長8.00m・幅1.61mを測る。

[埋土] 角~亜角礫と黒褐色シルトの混合土で、崖錐性堆積と考えられる。

[断面形] 椀形を呈する。検出面からの深さは、最大で57cmを測る。

遺物 出土していない。

時期 検出面から、古代以降と推定される。

RG006溝

遺構 (第46図、写真図版40)

[位置・検出状況] II C14~19・d~k グリッドに位置する。Ⅲ層上面で土色の違いにより確認された。

[重複関係] RG001小溝群と重複し、これを切る。

[平面形・規模] 南西から北東方向に向かって延び、平面形は緩いS字状をなす。規模は、検出長21.13m・幅1.33mを測る。

[埋土] 角~亜角礫と黒褐色シルトの混合土で、崖錐性堆積と考えられる。

[断面形] 皿形を呈する。検出面からの深さは、最大で30cmを測る。

遺物 (第111図、写真図版66)

[土器] 埋土中から縄文土器が39.7g出土した。

[鉄製品] 埋土中から踏鉄が1点出土した (F2)。

時期 検出面からは古代以降と推定されるが、踏鉄の製作年代は近現代と考えられる。

10 集石

RH001集石

遺構（第47図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕 I B 1 r にあり、Ⅹ層上面で複数の礫が集中していたことから集石とした。

〔平面形・規模〕 本遺構は南北方向に細長く広がり、構成礫は径10～30cm程度のものが15個観察される。その規模は長さ100cm、幅75cmを測る。

〔下部の施設〕 Ⅹ層以下に土坑等は認められない。

遺物は出上していない。

時期 検出面から縄文時代に属すると思われるが、人為的に配されたものかは不明である。

RH002集石

遺構（第47図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕 遺構集中部西側の I B 25 n に位置し、RD024の南東側に隣接する。

〔平面形・規模〕 これも南北方向に細長く、全部で11個の礫からなる。礫は角礫で、長さは最大で30cm弱を測る。配石の規模は長さ70cm、幅50cmほどである。

〔下部の施設〕 検出面であるⅩ層以下に土坑等は認められない。

遺物は出土していない。

時期 検出面から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明である。これも人為的に配されたものかわからない。

RH003集石

遺構（第48図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕 遺構集中部よりも山側の II B 1 o・2 o に位置する。RH004とは南東方向50cmに隣接するが、関連があるものかどうかは判断出来なかった。

〔重複関係〕 RD054土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。また、礫の下からはPP78が見つかったが、本遺構の方が新しいあるいは伴うものと考えられる。

〔平面形・規模〕 全部で14個の礫からなるが、北側と南側の大きく二つに分けられる。前者は、円礫のまわりに複数の礫が配され、直径は50cm程度である。南側は4個の礫が長さ80cm、幅30cmに広がる。

〔下部の施設〕 検出面であるⅣ層からⅩ層上面以下に土坑等は認められない。

遺物は出土していない。

時期 検出面から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明である。

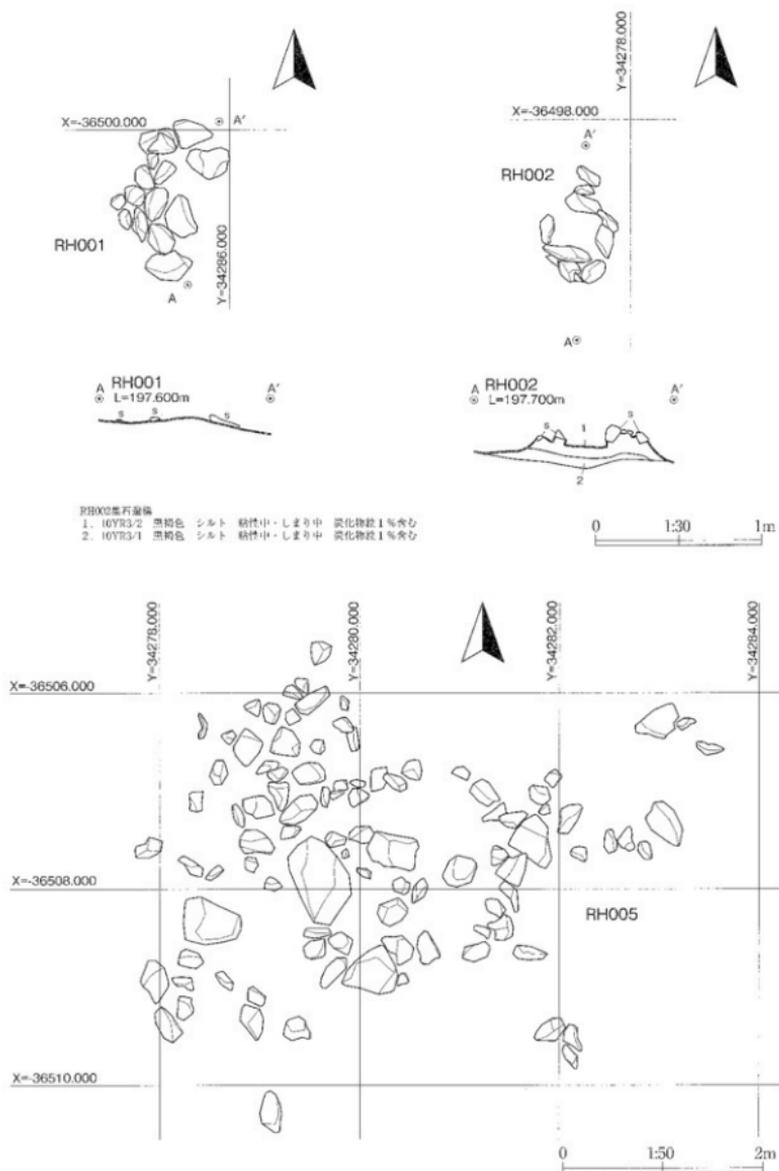
RH004集石

遺構（第48図、写真図版41）

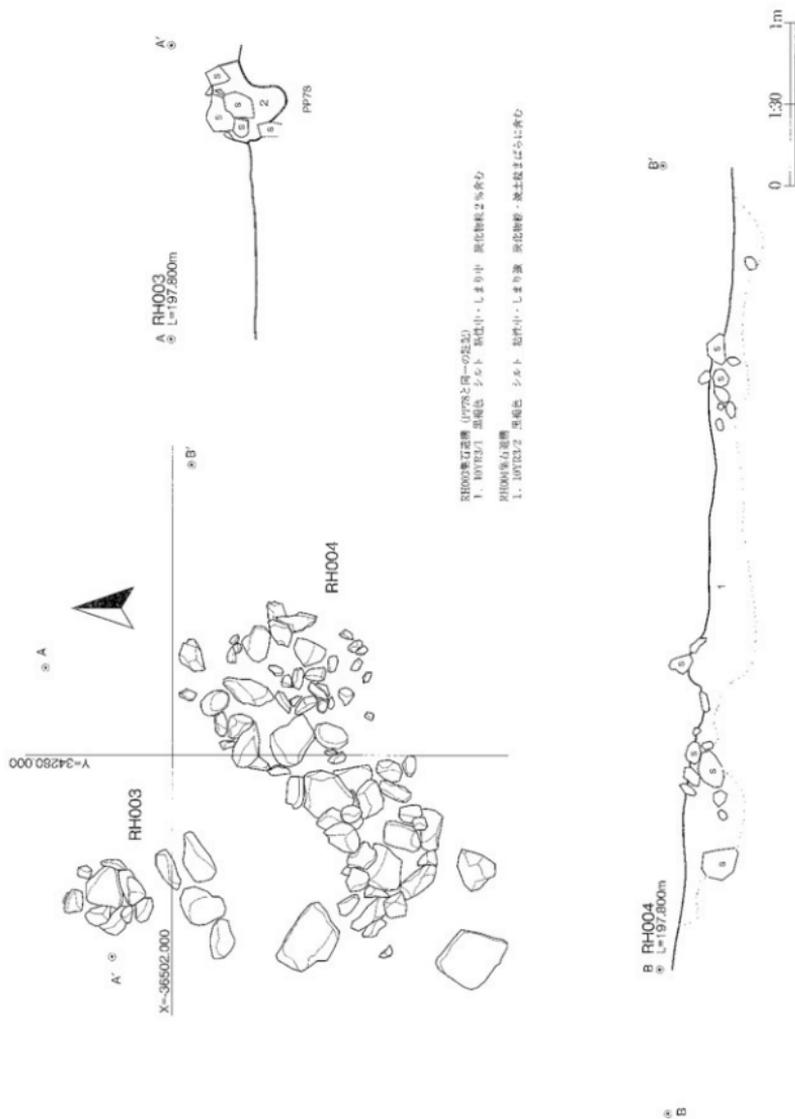
〔位置・検出状況〕 遺構集中部よりも山側の II B 2 o・2 p に跨って位置する。RH009竪穴住居内にあるが、本遺構の下からその住居に付属する土器埋設炉を検出している。

〔重複関係〕 上述の重複関係にあり、本遺構の方が新しいと判断出来る。

〔平面形・規模〕 80個あまりの礫からなる。それらは北東から南西方向に延び、南西端に長さ50cmほ



第47図 RH001・002・005集石



第48図 RH003・004集石

どの巨礫を2個有する。その規模は長さ280cm、幅80cmを測る。礫は2cmから最大で40cmを測る。

[下部の施設] 検出面であるⅧ層からⅨ層上面以下に土坑等は認められない。

遺物 (第64図、写真図版47)

[上器] 2点掲載した(195・196)。これを含め、この周辺から1,246.6gの縄文土器が出土した。

時期 検出面から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明である。

RH005集石

遺構 (第47図、写真図版41)

[位置・検出状況] ⅡB4のグリッド周辺の5グリッドに跨っている。検出面はⅧ層上面で、当初は意図的に配された集石の可能性のあるものとして精査した。

[平面形・規模] 全部で100個あまりの礫が見られ、その規模は長さ370cm、幅200cmを測る。礫の大きさは10cmから最大で50cmとこれも区々である。

[下部の施設] 断ち割ったが土坑等は認められなかった。

遺物は出土していない。

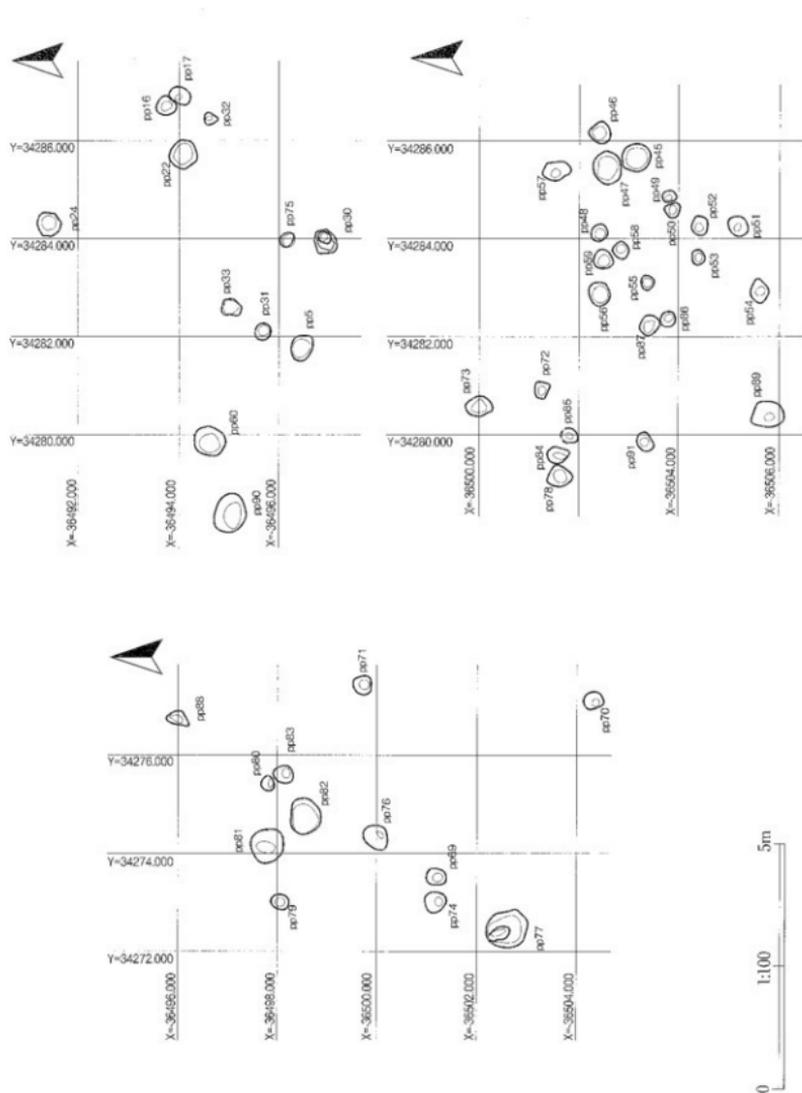
時期 精査の結果、扇状地内に起こった崖崩れ時の崖線性堆積物の集石と思われる、かつ礫の下にも土坑等が確認できなかったことから、人為的なものではないと判断するに至った。

11 柱穴状土坑

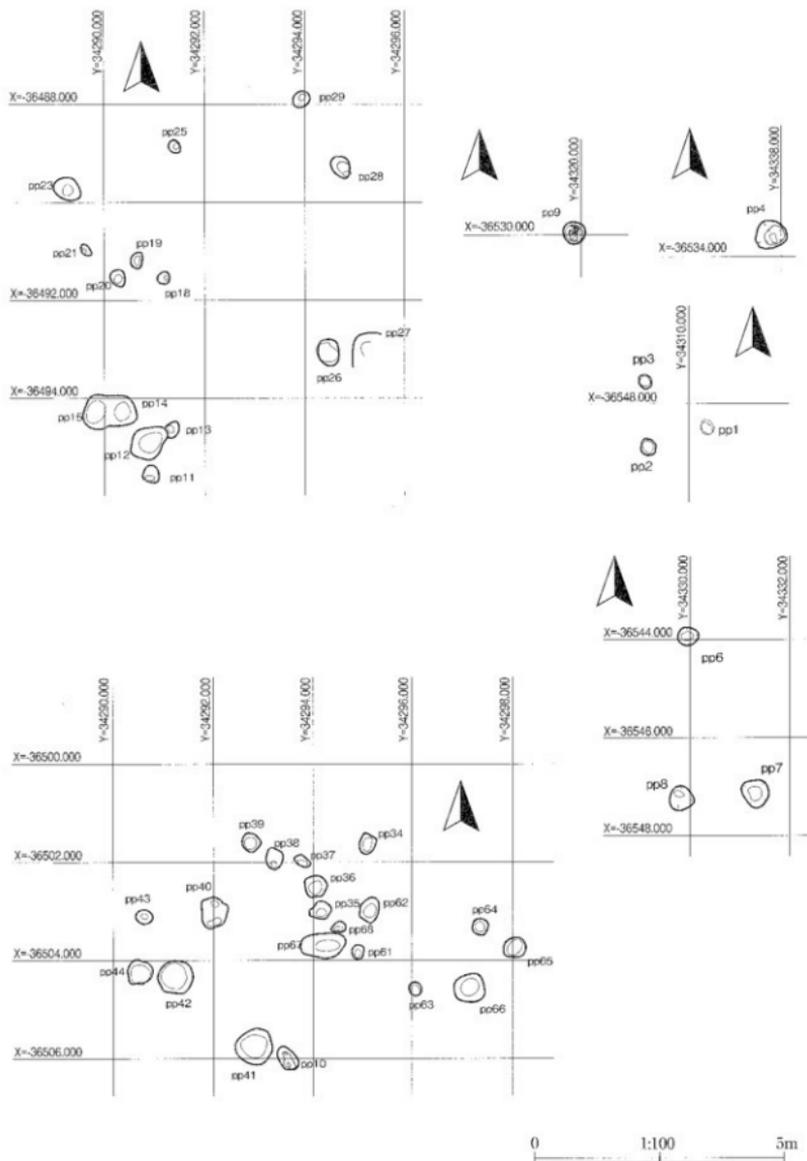
2カ年の調査で91個の柱穴状土坑を確認した。本遺構と土坑の区別は、概ね直径40cmを目安としたが、それに拠らないものも複数ある。遺構個々の詳細については第4表を参照のこと。

第4表 柱穴状土坑一覧表

No.	グリッド	幅(cm)	長さ(cm)	No.	グリッド	幅(cm)	長さ(cm)	No.	グリッド	幅(cm)	長さ(cm)
1	ⅡC2f	32.1×36.7	18.4	32	ⅠB23a	27.7×21.8	38.2	63	ⅡB3v	28.4×25.3	44.4
2	ⅡC2e	36.2×32.3	15.2	33	ⅠB23q	42.1×36.9	36.3	64	ⅡB2x	34.6×32.9	25.2
3	ⅡC2a	30.5×25.9	16.0	34	ⅡB1w	42.2×35.5	12.7	65	ⅡB2x	46.1×32.2	13.0
4	ⅡC17a	63.8×37.6	56.0	35	ⅡB2w	46.0×37.5	38.5	66	ⅡB3x	64.1×62.0	23.7
5	ⅠB21p	54.9×41.5	45.3	36	ⅡB2w	46.7×45.9	12.4	67	ⅡB2v	91.5×51.4	28.1
6	ⅡC2o	42.8×37.7	16.8	37	ⅡB1v	34.2×20.4	21.4	68	ⅡB2w	30.7×22.0	30.7
7	ⅡC21p	58.7×52.1	16.0	38	ⅡB1v	44.6×34.7	27.8	69	ⅡB11	40.7×36.1	29.8
8	ⅡC24o	50.1×30.3	21.6	39	ⅡB1v	40.0×37.0	10.9	70	ⅡB3s	41.4×36.7	35.1
9	ⅡC15i	46.0×44.3	9.6	40	ⅡB2u	64.6×34.0	23.0	71	ⅠB22m	40.2×38.9	24.8
10	ⅡB3v	52.3×33.6	17.2	41	ⅡB3v	76.2×70.6	13.4	72	ⅡB1p	35.6×32.2	20.2
11	ⅠB23b	37.0×32.6	32.9	42	ⅡB3u	72.4×68.9	13.1	73	ⅡB1p	54.2×41.2	19.6
12	ⅠB23a	83.0×64.7	22.2	43	ⅡB2u	34.4×27.3	13.6	74	ⅡB11	44.7×41.3	46.9
13	ⅠB23b	36.6×27.7	20.1	44	ⅡB3u	54.1×49.3	33.5	75	ⅠB22r	31.9×25.2	33.6
14	ⅠB23a	74.5×69.2	20.3	45	ⅡB2r	61.6×57.2	13.2	76	ⅠB25m	35.9×46.3	30.1
15	ⅠB23i	73.4×27.4	14.1	46	ⅡB2s	45.4×43.9	15.0	77	ⅡB21	87.6×75.6	20.6
16	ⅠB22a	60.3×29.4	13.4	47	ⅡB2r	67.8×55.3	9.9	78	ⅡB1o	34.2×44.5	47.1
17	ⅠB22a	44.1×32.4	22.3	48	ⅡB2r	36.4×32.3	17.9	79	ⅠB251	36.6×30.2	32.1
18	ⅠB21a	36.0×24.2	10.8	49	ⅡB2r	28.7×24.5	26.8	80	ⅡB24m	30.3×25.8	29.1
19	ⅠB21u	33.8×23.7	12.1	50	ⅡB2r	32.3×30.6	28.8	81	ⅡB24m	73.1×68.0	40.5
20	ⅠB21u	33.9×28.9	21.6	51	ⅡB3r	44.5×37.9	11.6	82	ⅡB25m	75.7×66.7	62.6
21	ⅠB21t	27.1×17.1	24.5	52	ⅡB3r	40.3×33.9	22.4	83	ⅡB25m	41.4×36.1	49.0
22	ⅠB22r	59.2×56.2	12.8	53	ⅡB3r	31.4×24.8	30.4	84	ⅡB1o	44.3×34.9	56.5
23	ⅠB22o	58.3×44.6	28.6	54	ⅡB3q	30.0×31.9	31.7	85	ⅡB1o	54.3×23.4	23.8
24	ⅠB21r	50.7×45.9	21.1	55	ⅡB2q	30.6×25.3	9.3	86	ⅡB2q	33.4×30.2	29.3
25	ⅠB22o	28.2×22.2	9.0	56	ⅡB2q	49.1×40.8	40.1	87	ⅡB2q	42.4×37.2	46.1
26	ⅠB22e	55.6×43.4	30.5	57	ⅡB1r	37.0×37.8	37.4	88	ⅠB23b	47.7×28.6	29.2
27	ⅠB22w	87.3(55F)	18.2	58	ⅡB2q	36.3×32.8	10.9	89	ⅡB3p	64.8×54.8	40.7
28	ⅠB22w	48.4×35.7	31.4	59	ⅡB2q	41.8×34.4	28.0	90	ⅠB23o	80.7×62.1	28.0
29	ⅠB19v	36.4×30.8	11.1	60	ⅠB23o	65.1×61.0	26.9	91	ⅡB2o	40.0×29.4	21.3
30	ⅠB24q	53.1×46.9	16.0	61	ⅡB2w	29.2×34.2	23.1				
31	ⅠB23q	34.7×31.8	41.3	62	ⅡB2w	62.5×38.2	15.6				



第49图 柱穴状小土坑群 (1)



第50图 柱穴状小土坑群(2)

V 出土遺物

平成21・22年度調査で出土した遺物は、縄文土器（一部弥生土器含む）・土製品類が当センター収納用大コンテナ（容量40%）30箱、重量にして389,785.1g、石器・石製品類（剥片・素材含む）が大コンテナ8箱、重量184,209.54gに及び、その他には掲載した鉄製品2点、銭貨（元豊通寶）1点、近世の陶磁器片6点、炭化種実（オニグルミなど）数点がある。

なお、平成21年度調査中に実施した既知の遺跡範囲とその隣接地を対象とした試掘調査時の出土遺物（土器）1,081.4gもここに含めている。

1 土器・土製品（第51～94、第5表、写真図版42～59）

土器については下記に示した基準で分類し、遺構内、遺構外の順に第5表に掲載した。その「分類ほか」の項で括弧内に土器型式名を略して記載した。

なお、ミニチュア土器は土製品類に含め、それらとともに「分類外」としている。

- 第Ⅰ群 縄文時代中期に属するもの
 - 1類 中葉から後葉
 - 2類 末葉から後期初頭
- 第Ⅱ群 縄文時代後期に属するもの
 - 1類 初頭から前葉
 - 2類 前葉から中葉
 - 3類 後葉から末葉
- 第Ⅲ群 縄文時代晩期に属するもの
 - 1類 初頭から前葉
 - 2類 中葉
 - 3類 後葉から末葉
- 第Ⅳ群 弥生時代に属するもの
- 第Ⅴ群 I～IV群に分類できないもの
 - 1類 無文土器
 - 2類 注口土器
 - 3類 主に地文のみの、いわゆる祖製土器
 - 4類 時期が不明確な土器群

以下に各群の型式名等を記す。第5表「分類ほか」の項目には、これらを略した形で記載した。

第Ⅰ群 1類…大木8・9式。

2類…大木10a・10b式と門前式の一部。

第Ⅱ群 1類…門前式の一部、南境式、十腰内1式など。

2類…宝ヶ峯式、十腰内2～4式、手稲式など。

3類…風張式など、いわゆる「甬付土器第Ⅰ～Ⅳ段階」で分類されるもの。

第Ⅲ群 1類…大洞B1とB2式、BC式。

2類…大洞C1とC2式古及び新段階。

3類…大洞A1とA2、A'式。

第Ⅳ類…弥生後期の大王山式で、口縁部に交互刺突を有し肩部に弧状の沈線が描かれるもの。

第Ⅴ群 1類…一部器形から想定される時期を記載した。

2類…無文の注口土器が大半であるが、器形などから大方の時期を示したものがある。

3類…深鉢で口端部の形状と胴部の丸み（鈴木2001）に着目し、おおよその時期を記載した。

4類…細片などで時期が不明なものを一括した。

遺構内（1～199）

遺構内から出土した土器は199点掲載した。堅穴住居と土坑の出土遺物を中心に見ていく。

RA001では6や7が比較的新しく、縮付土器の第Ⅲ段階にあたるもの。RA003では25～27のすべてが平行沈線を基調とする後期前葉のものが見られる。RA004の出土土器には、34のような胴部に入組文と刻目列、口縁に小突起が付くものと、54のような平行沈線と刺突からなるものがある。前者は縮付土器第Ⅲ段階、後者は十腰内2式併行としたが、こちらは器形が後葉の縮付土器段階に似ており、もう少し新しいものか。59は刻目のある貼瘤が付く後期後葉の注口土器。RA005の68は数珠の沈線が交差し帯状をなす鉢形土器の胴部で、宝ヶ峯Ⅲ群などに見られる個体。RA006の69は口縁部を欠くが前葉の特徴である平行沈線文が明瞭なもの。RA007の71は、上げ底で胴部下端から丸みを持って立ち上がる晩期中葉の深鉢。RA008では縮付土器第Ⅱ段階の深鉢（73）や壺形土器（82）、無文の鉢形土器（78）などがある。RA009の86は炉内に埋設されたもので、後期前葉のよく磨かれた胴部下端から底部の破片である。

土坑から出土した土器も、後期前葉から末葉にかけてと晩期中葉が主体である。RD011の98は平行沈線間に刻目が付く後期後葉の小ぶりの深鉢である。RD013の106・108～111はいずれも後期末葉の縮付土器第Ⅳ段階の深鉢口縁部で、入組帯状文には三叉文様の106やクランク状の110が見られる。これらにはもはや貼瘤は付かない。RD014の113は貼瘤が盛行する第Ⅱ段階の深鉢口縁部である。RD018の123は縦位の隆帯内に刺突が並ぶ。門前式あたりとしたがもう少し新しいか。RD024の138は焼けた粘土塊としか判断されないもの。RD051は後期前葉から中葉の土器が多い。165はほぼ定形の入組文を有する深鉢、167・169は宝ヶ峯Ⅱ群あたりに相当するものか。RD053とRD057では、刻目と平行沈線が盛行する（174・178など）ものと工字文系（180・181）のものがある。RD056出土の175は、晩期中葉大洞C1あるいはC2下段階の皿形土器である。RD058の182はRA004以前の土坑埋土から出土したものであり、それに見合った時期とせざるを得なかったかいかか。

RP002の埋設土器188の掘り方から、脚付の皿（187）が出土した。器面の内側には沈線による曲線が描かれる。胎土は粗く厚ぼったい感じである。

柱穴は、PP76から出土したいわゆる樽掛状文の注口土器（197）がある。注口部を欠き、器面外面との接合部にはアルファルト痕が明瞭に付着している。

遺構外（200～570）

遺構外出土の掲載土器は371点である。遺構外においても、遺物の時期は遺構内出土のものと大きく変わらない。出土地点に着目しても、晩期の土器は当該期の遺構周辺ⅠA・ⅡA区に集中し、それ以外の後期の土器は、調査区中央北側の遺構集中区から出土したものがそのほとんどを占めている。また、後期以前の土器は、中期中葉から末葉までのものがわずかに認められる程度で、主に調査区東側のⅡC区から出土している。

出土層位で見ると、第Ⅳ・Ⅴ層からは後期後葉から晩期、弥生の、第Ⅶ・Ⅷ層からは後期前葉から中葉の土器が出土する傾向が固めるが、調査の際は明瞭に分層できたわけではなく、層を跨って出土しているものも多い。

器種には、深鉢形・浅鉢形の大小、壺形、皿形などがあり、その他には注口土器や香炉形土器（265・273・347・428）、器面の内側にも縄文が施文される台付きの浅鉢（451）など、特殊な器形のものがある。無文土器は、壺形や鉢形のほか、徳利形をしたもの（237）や431や444のような椀形のものが見られる。541は壺としたがどうか。

弥生土器（205）はⅠA21q区のⅤ～Ⅵ層から出土したもので、口縁部の交互刺突や肩部の弧状沈線文から、後期天王山式に相当するものと思われる。弥生土器はこの1点のみの掲載となったが、破片は他にも出している。

土製品は全部で32点出土し、全点掲載した。内訳は、土偶4点（61・95・283・292）、滑車形耳飾り2点（24・65）、土製円盤3点（85・183・391）、土玉2点（84・227）と焼成粘土塊1点（138）で、残りはミニチュア土器20点である。

土偶は64や283・292のように脚部が多いが、95は円形の刺突列を有する臀部付近の破片である。ミニチュア土器は壺形や台付鉢、粗製土器を模したものなど器種に富むが、時期は縄文時代後期に属するものが大半である。

2 石器・石製品（第95～111図、第6表、写真図版60～66）

今回出土した石器・石製品の総数は184点、総重量は先述のとおりおよそ184kgである。このうち、本書に掲載したものは109点・127.5kg、不掲載は75点・56.5kgで、後者には敲磨器・凹石、白石類などの礫石器が多い。以下に掲載遺物を種類毎に記す。

石鏃（S1～15）

15点出土し、全点掲載した。基部形状から分類する。S1～6は無茎鏃で、このうちS2は有茎鏃の基部が折れたものの可能性があるもの。これ以外はいわゆる門基である。S7は円基無茎とした全長の長いもの。S8～15は有茎鏃で、S8・9・11は基部を、S10・11・12は先端部を欠いている。石質はS4が瑪瑙製である他は、珪質頁岩を含む頁岩製である。S8にはアスファルトの付着痕が見られる。

石匙（S16～23）

8点出土した。縦型2点（S16・17）、横型6点（S18～23）で、いずれも明瞭なつまみ部を有する。S20・23は刃部も両面から加工されるもの、S22はつまみ付近にアスファルトが付着する。いずれも素材は頁岩である。

削器類（S24～36）

左右の一ないし二側縁あるいは下端に主要な刃部を有し、それが筥状に作られるものを削器類として一括した。13点出土している。S24～33は縦、それ以下S36までは横や楕円基調の素材を用いている。S32が瑪瑙製で他はすべて頁岩製である。

ピエス・エスキーユ（S37）

頁岩製の、いわゆる楔型石器である。両面に調整が施され、両極剥離をなす。

二次加工がある剥片（S38～40）

刃部調整が小さいもので、3点掲載した。S40のみ2側縁に調整が認められる。いずれも石質は頁岩である。

使用痕のある剥片 (S41~44)

素材の縁辺に何らかの使用痕が観察されるものを一括した。4点掲載した。

石核 (S45~47)

3点出土した。S45は両極に剥離面を有するもの、S46はサイコロ状の残核である。S47はチャート製で写真のみ掲載している。

石核石器未製品 (S48)

輝緑凝灰岩製で、未製品と判断されるものである。

石鏃 (S49~51)

3点出土し、全点掲載した。S49は未製品と思われるもの。S50と51は形状も石質も異なる。

打製石斧 (S52~55)

4点出土した。いずれも石質が異なる。S53は未製品か。

磨製石斧 (S56~63)

8点出土した。石質には砂岩・細粒閃緑岩・蛇紋岩があり、S56・59・60・62は刃部を、S61は基部を欠く。S63は大きさから実用とは思われず、ミニチュア製品とした。

礫器 (S64)

1点出土した。蛇紋岩製である。

敲磨器・凹石類 (S65~91)

敲石・磨石・凹石およびそれらの痕跡が複合する石器を一括し、27点掲載した。

S66~72は敲石で、磨面を持つもの (S66・67)、凹みを有するもの (S68) のほか、S72のような打製石斧の未製品と思われるものもあり、粘板岩・デイサイト・閃緑岩などが用いられている。S73~79は凹石で、S79には磨面も観察される。石質は、頁岩・デイサイト・輝緑凝灰岩などである。S80~91は磨石で、これに敲面も有するもの (S81・91) もある。石質は、花崗岩・閃緑岩・砂岩・玢岩などが認められる。

石皿・台石 (S92~107)

大小16点掲載した。石質は、花崗閃緑岩・頁岩・砂岩・玢岩・斑岩・安山岩 (軽石) などが認められた。台石という用途によるものか、素材にはあまりこだわりがないようである。

石剣・石棒類 (S108・109)

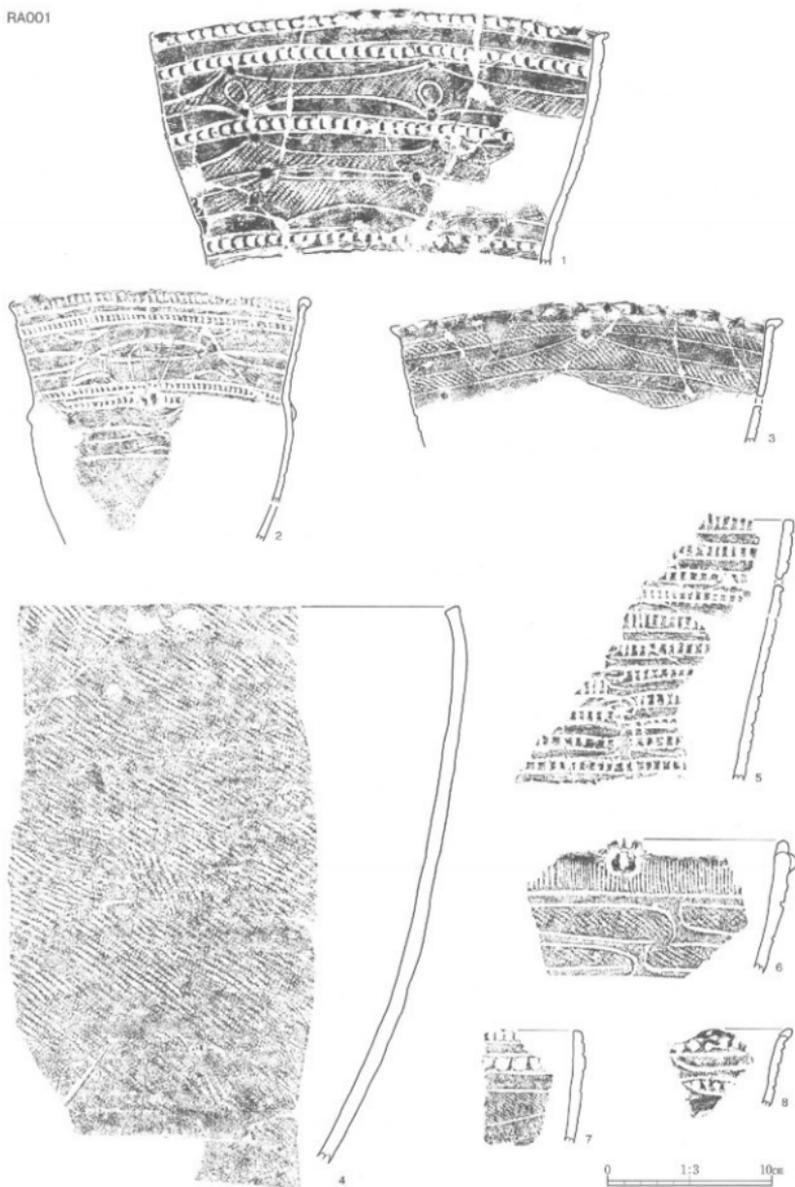
2点とも粘板岩製で、S108は薄く扁平である。S109は断面形が棒状をなすが上下を欠き、節理に沿って縦に割れる。残る器面は良く磨かれている。

3 鉄製品 (第111図、写真図版66)

2点掲載した。RG001小溝状遺構からは角釘 (F1) が、RG006溝跡からは蹄鉄 (F2) が出土した。

角釘は長さ7.3cm、幅0.5cm、厚さは0.2~0.4cmを計り、先端を欠いている。断面形は真四角ではなく、わずかに平べったい。形状から、製作年代は近世と考えられる。蹄鉄は後ろ側を欠き、鋸を入れる孔は錯で塞がる。現存長7cm前後、幅10.8cm、厚さは0.5~0.8cmほどで、近・現代に製作されたものであろう。

RA001



第51図 土器・土製品(1)

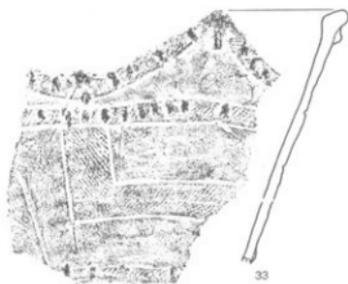
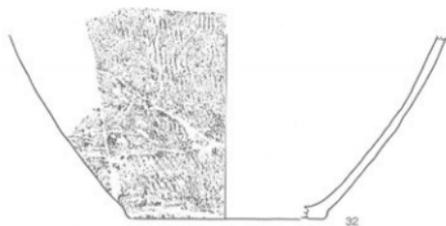
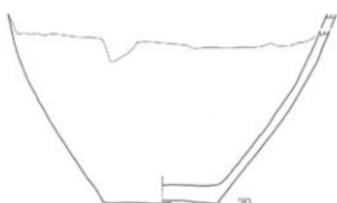
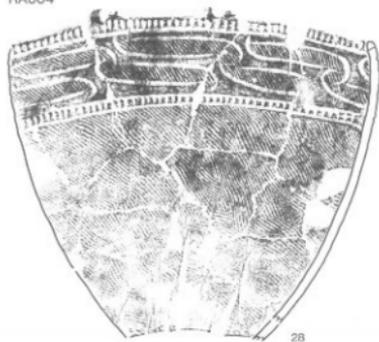


第52図 土器・土製品(2)

RA003



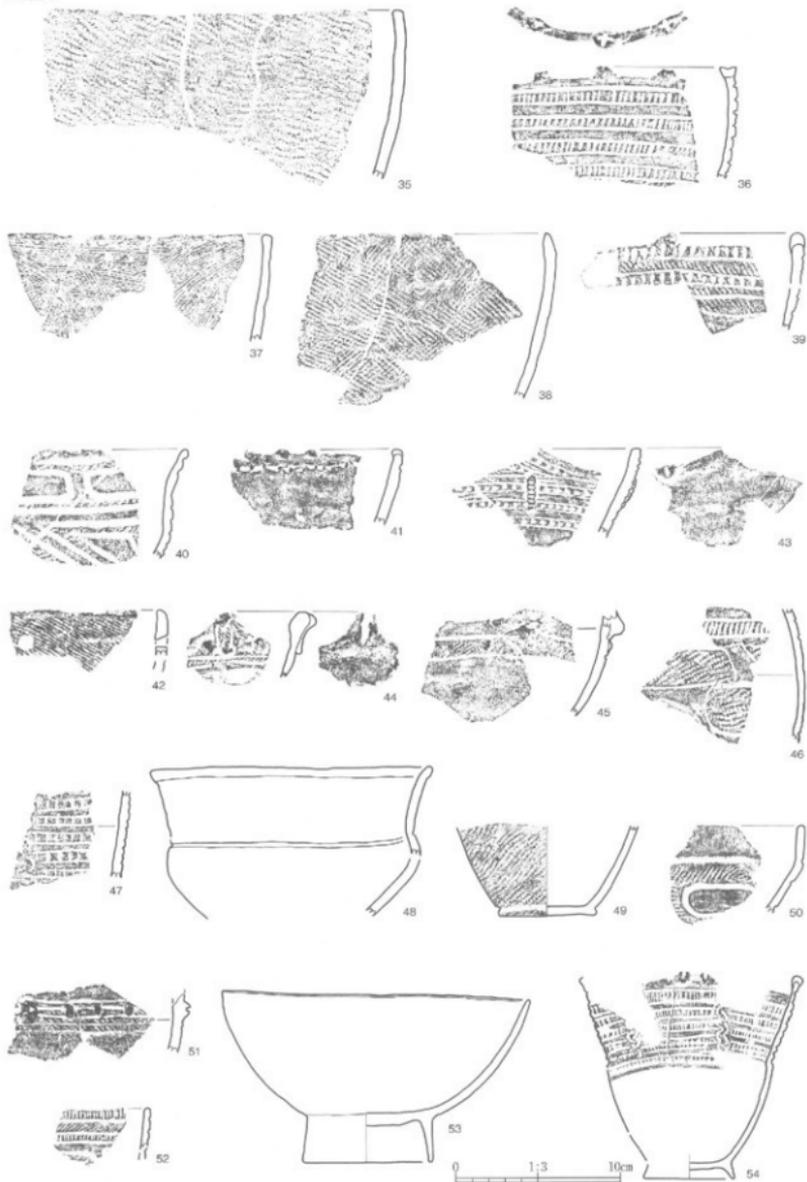
RA004



0 1:3 10cm

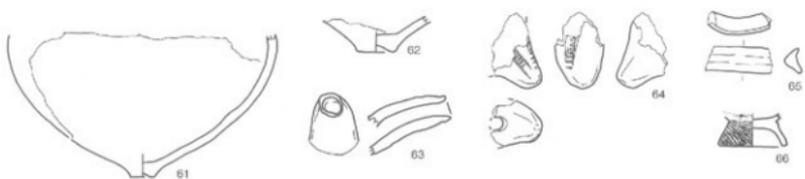
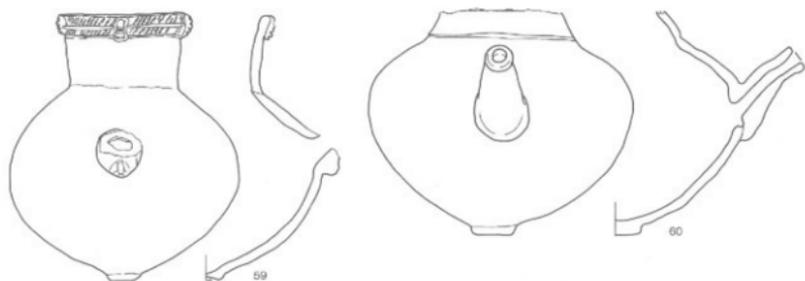
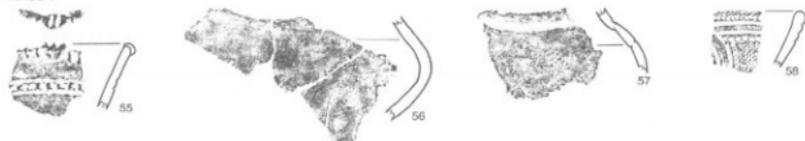
第53図 土器・土製品 (3)

RA004



第54図 土器・土製品(4)

RA004



RA005



RA006

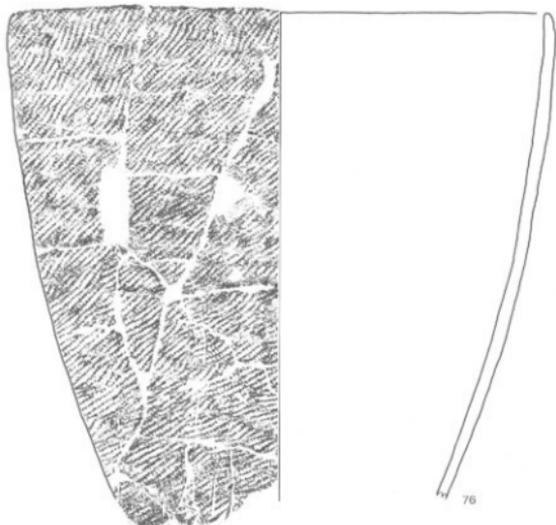
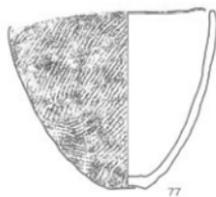


第55図 土器・土製品(5)

RA007



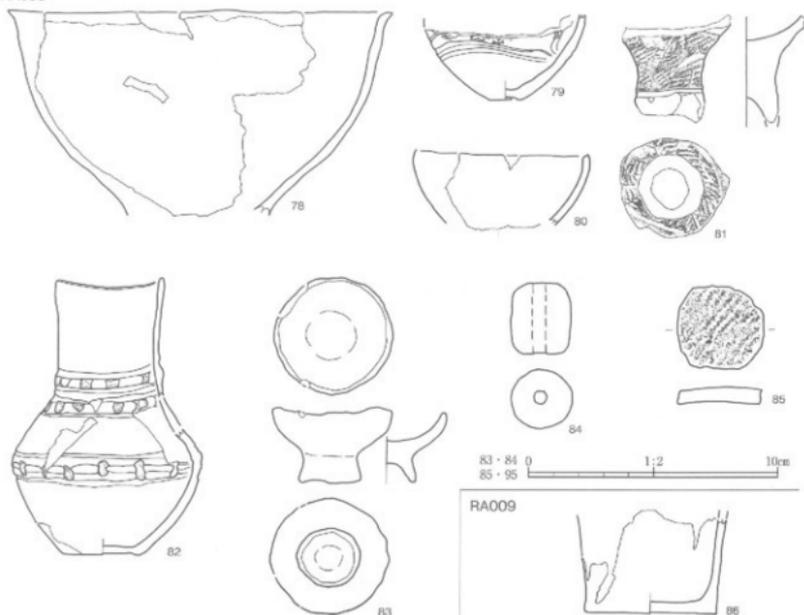
RA008



0 1:3 10cm

第56図 土器・土製品(6)

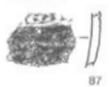
RA008



RA009



RD002



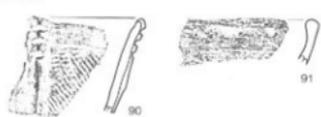
RD003



RD007



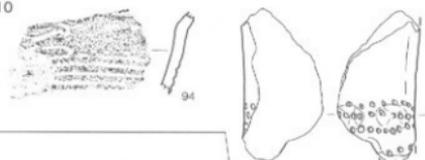
RD008



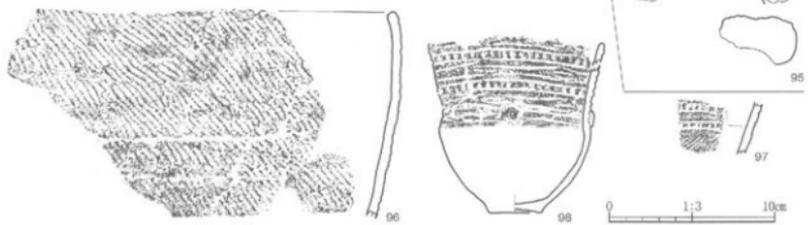
RD009



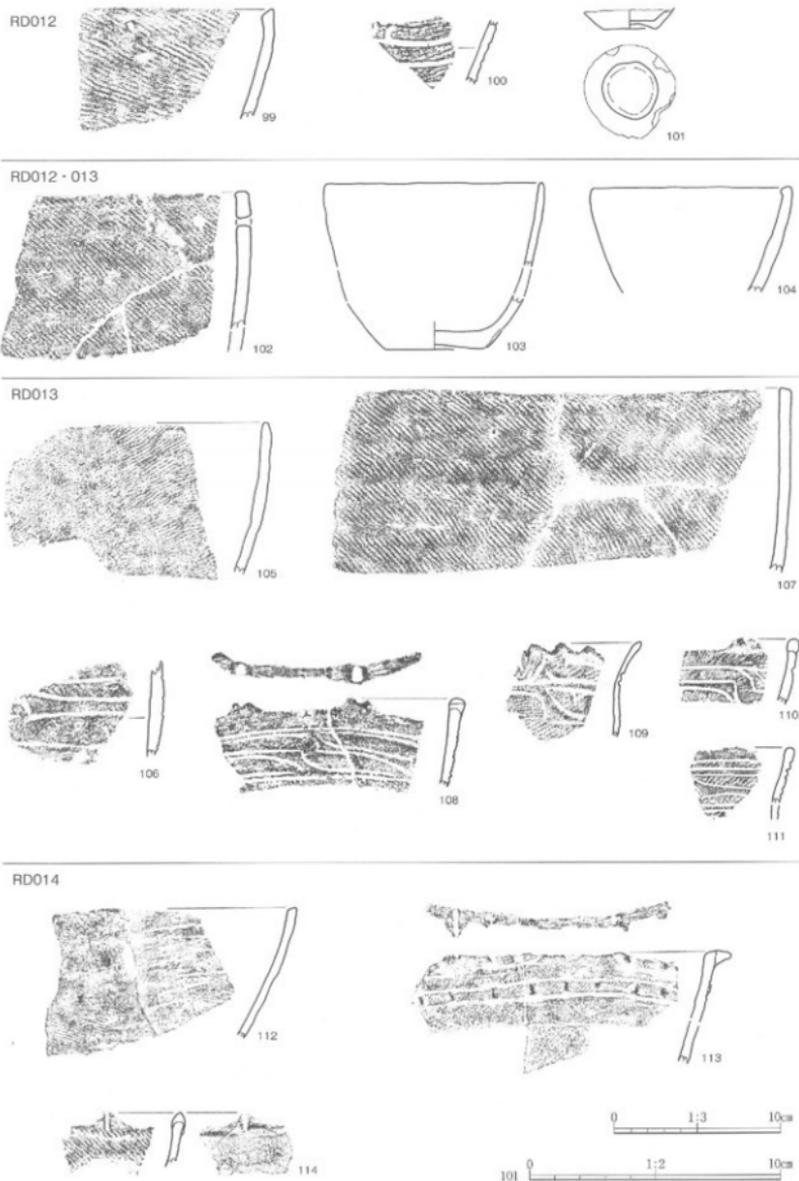
RD010



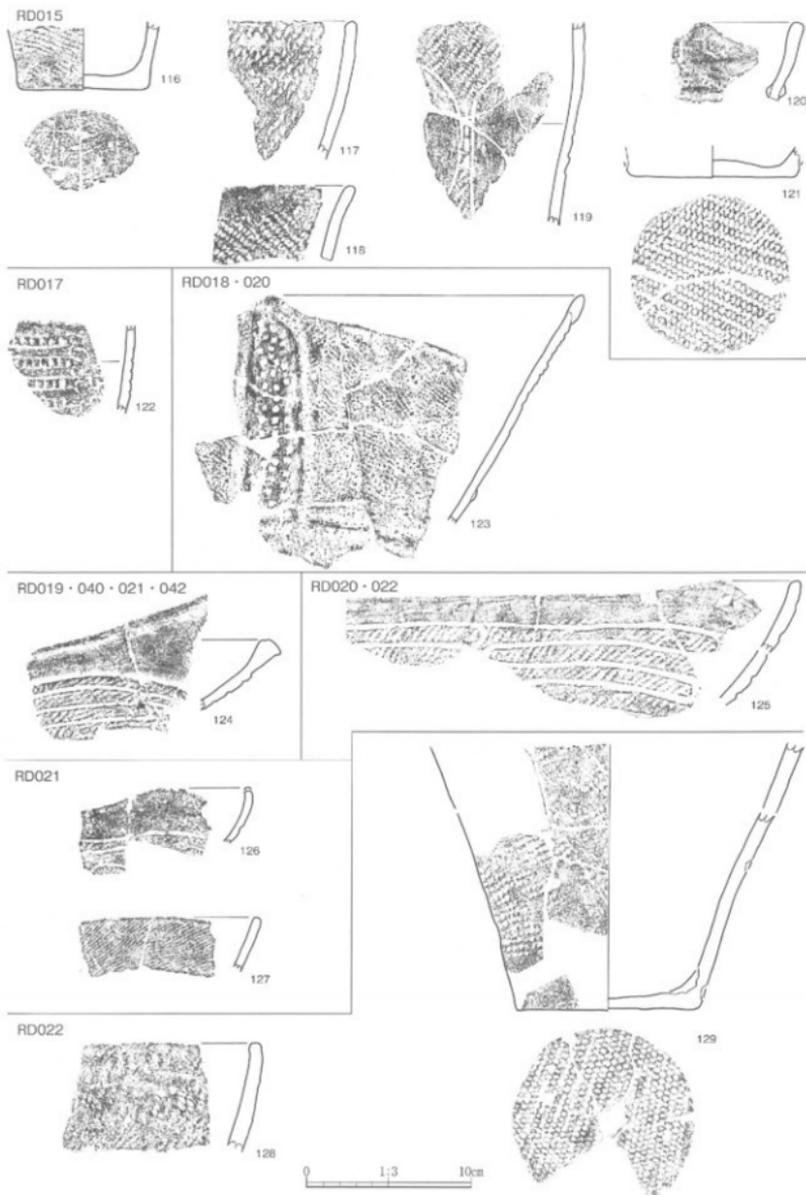
RD011



第57図 土器・土製品(7)



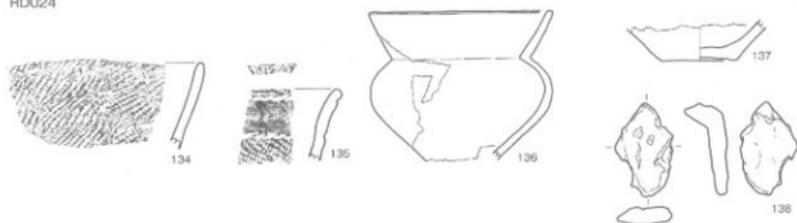
第58図 土器・土製品(8)



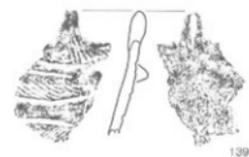
第59図 土器・土製品(9)



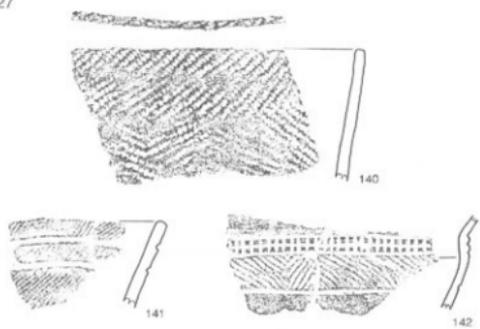
RD024



RD026



RD027



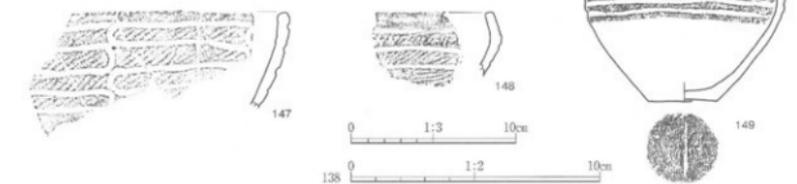
RD035



RD036



RD037

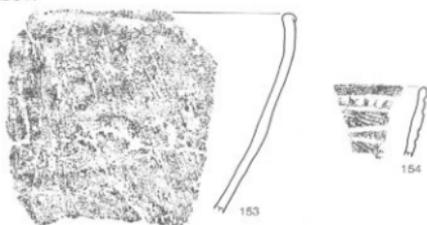


第60図 土器・土製品 (10)

RD039



RD041



RD042



RD043



RD044



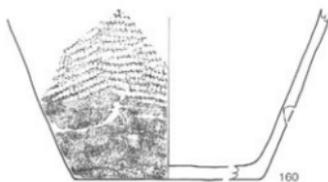
RD045



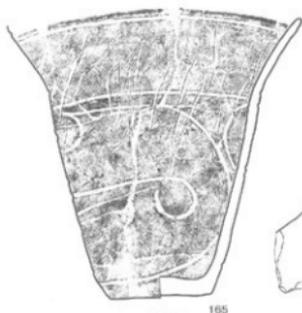
RD047



RD048



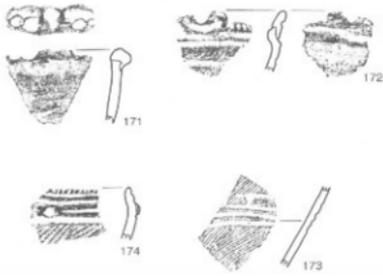
RD051



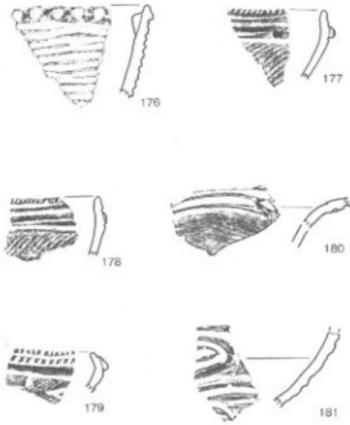
0 1:3 10cm

第61図 土器・土製品 (11)

RD053



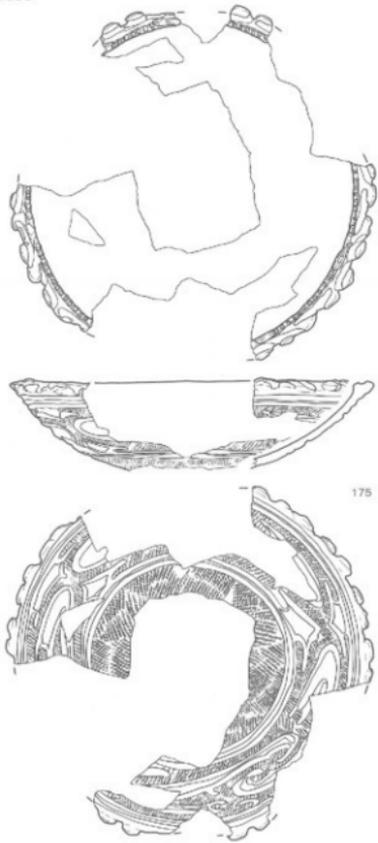
RD057



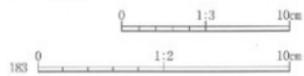
RD058



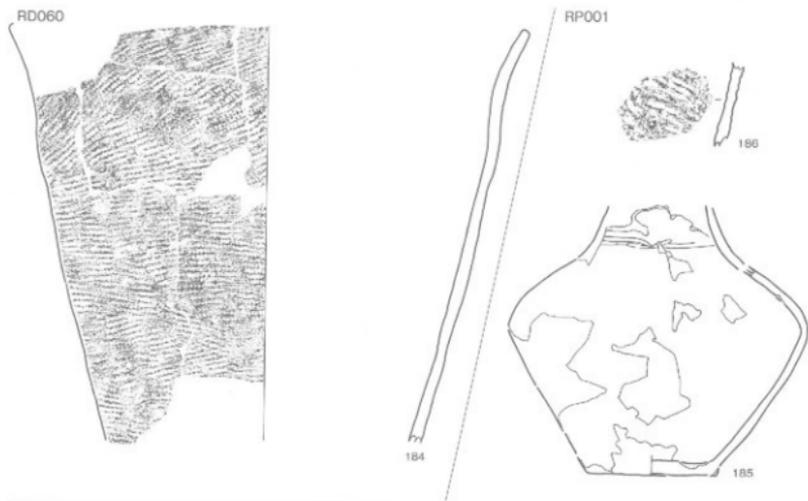
RD056



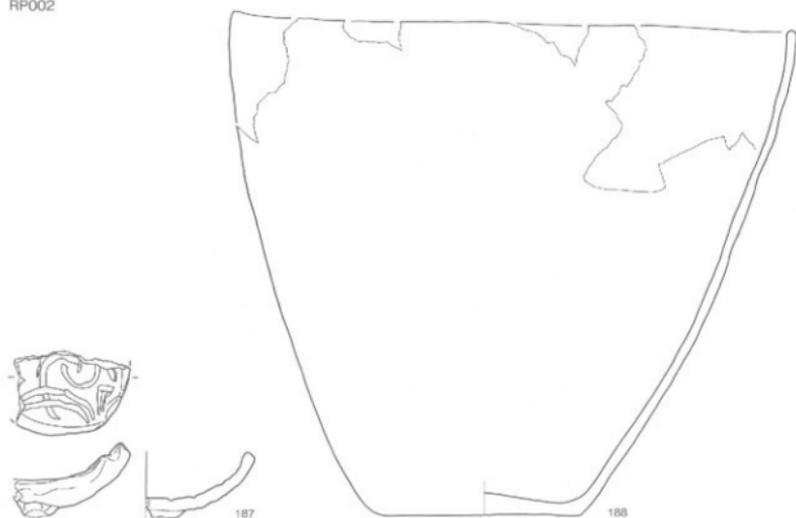
RD059



第62図 土器・土製品 (12)



RP002



RF011



RF021



RG001

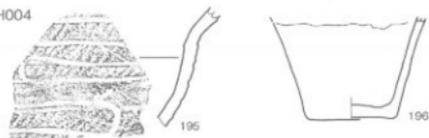


第63圖 土器・土製品 (13)

RG006



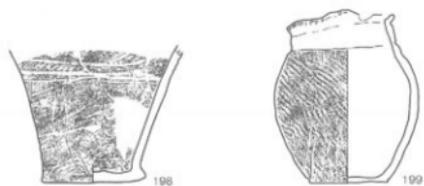
RH004



PP76



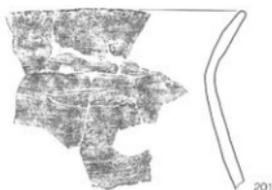
PP81



IA20p



IA20q



0 1:3 10cm

第64図 土器・土製品 (14)

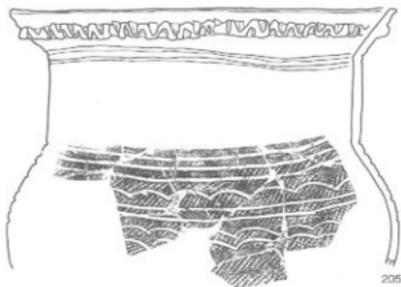
IA21q



203



204



205

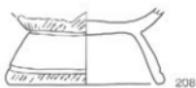


206

IA21r



207



208



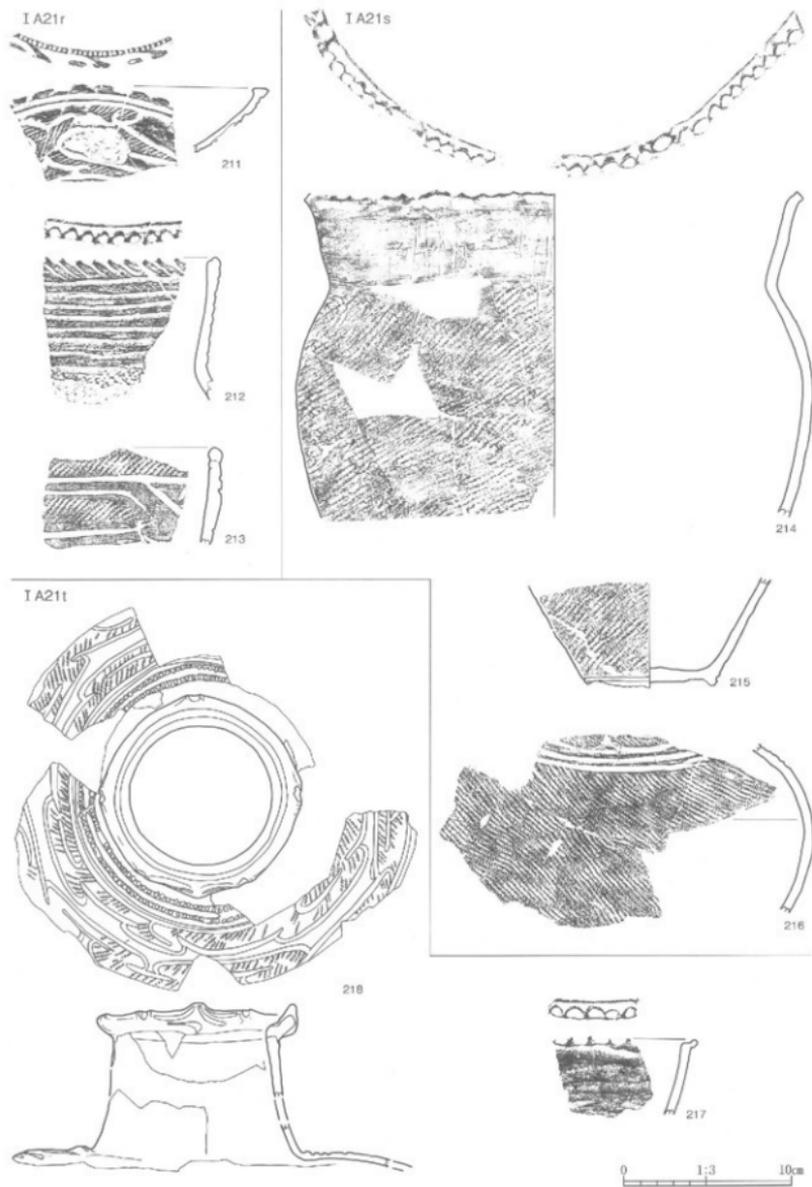
209



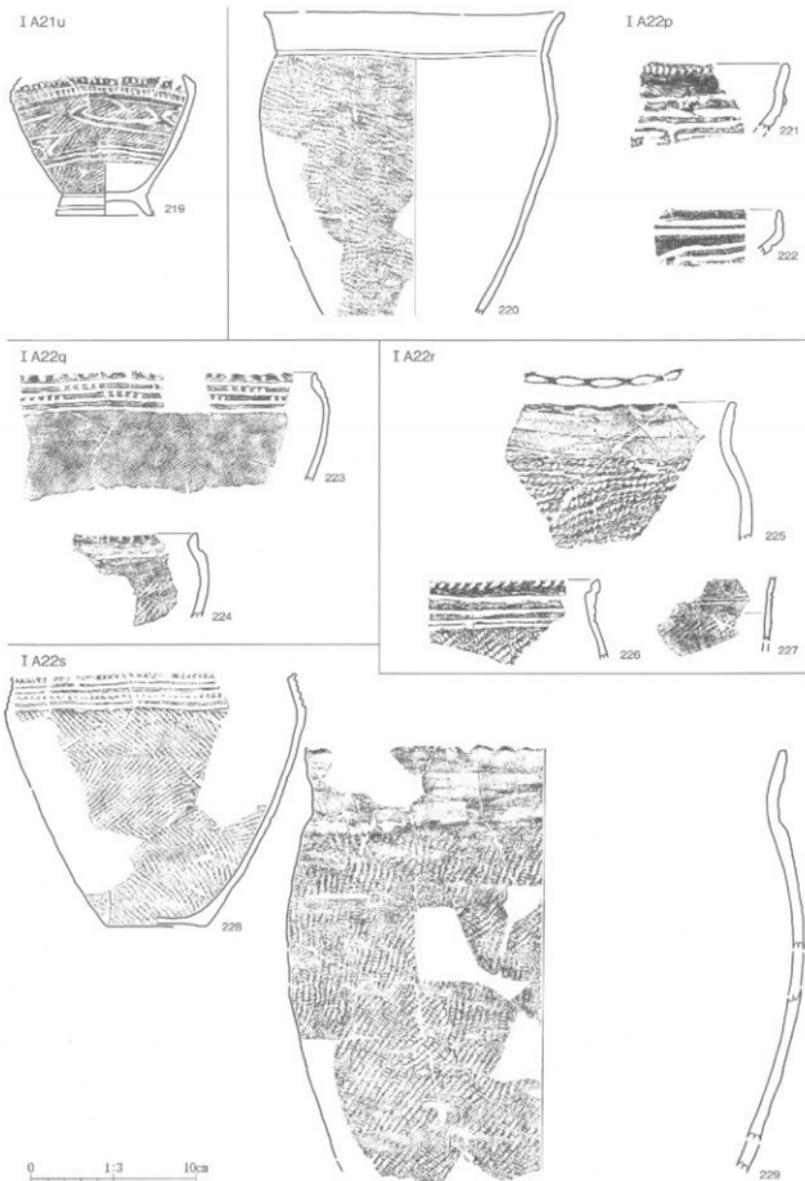
210

0 1:3 10cm

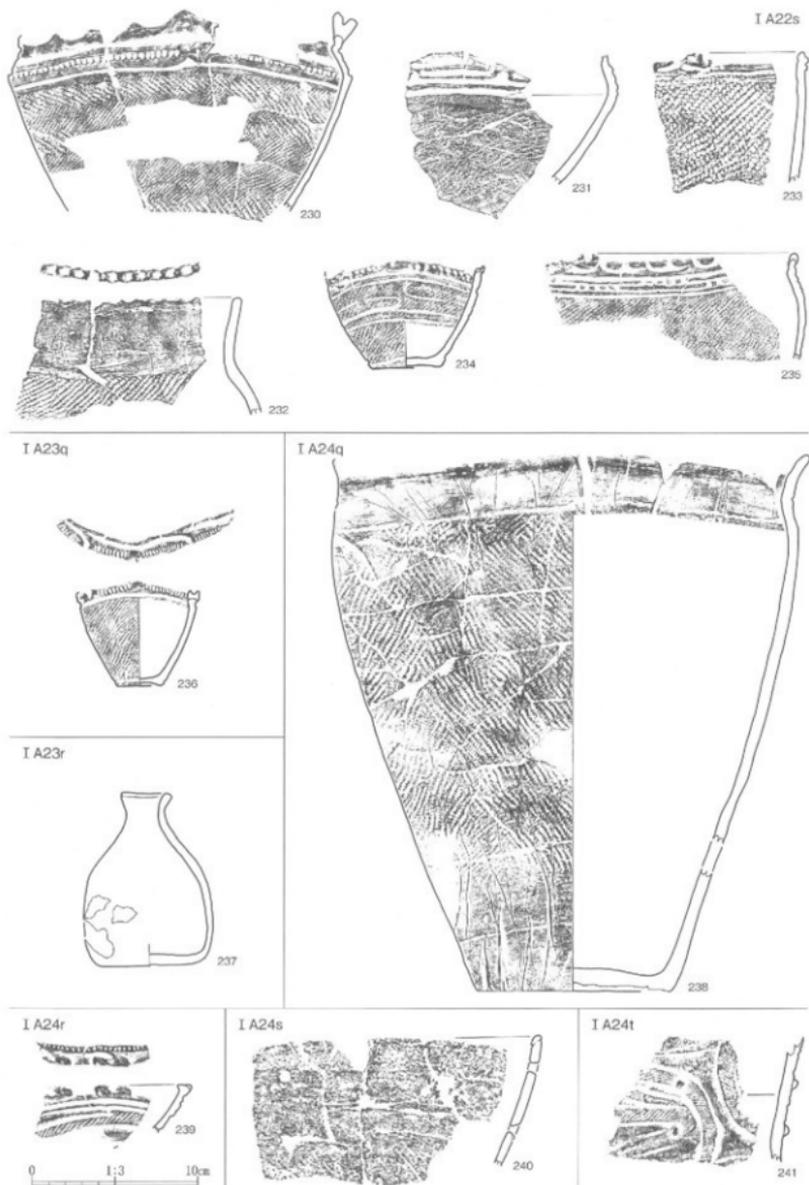
第65図 土器・土製品 (15)



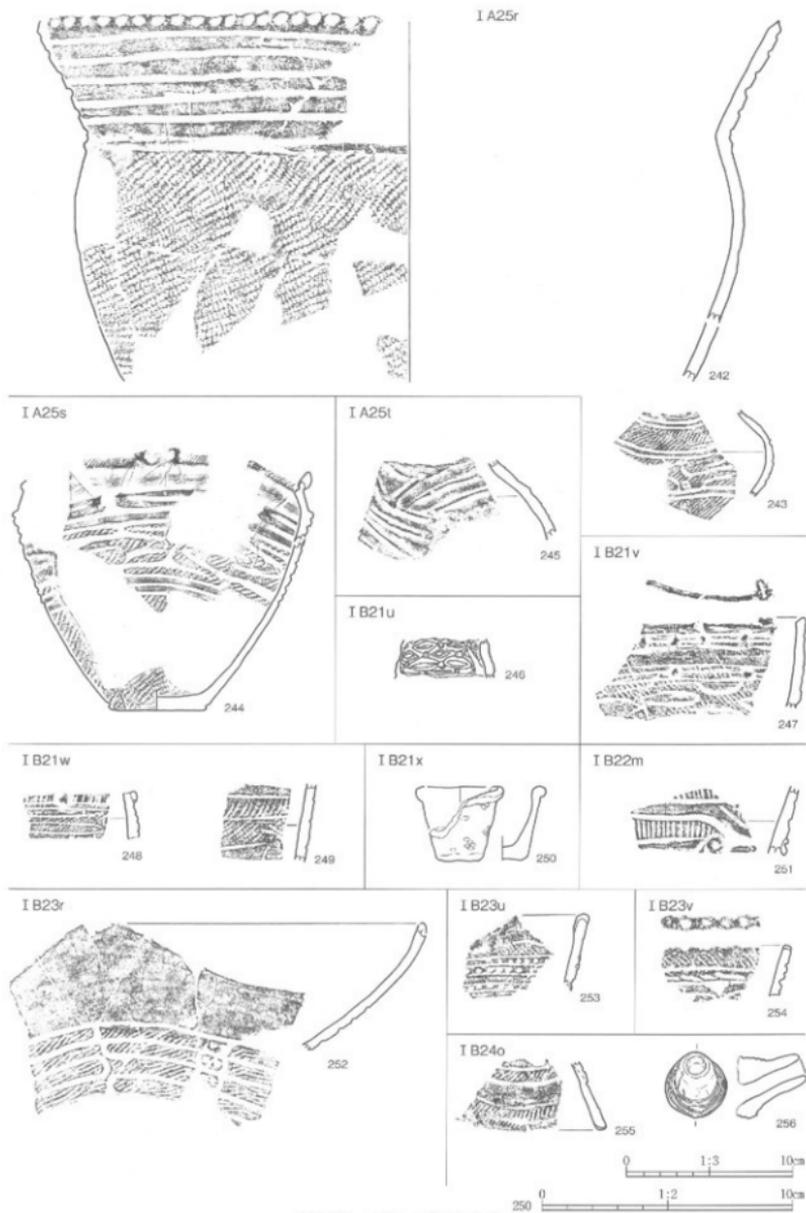
第66図 土器・土製品 (16)



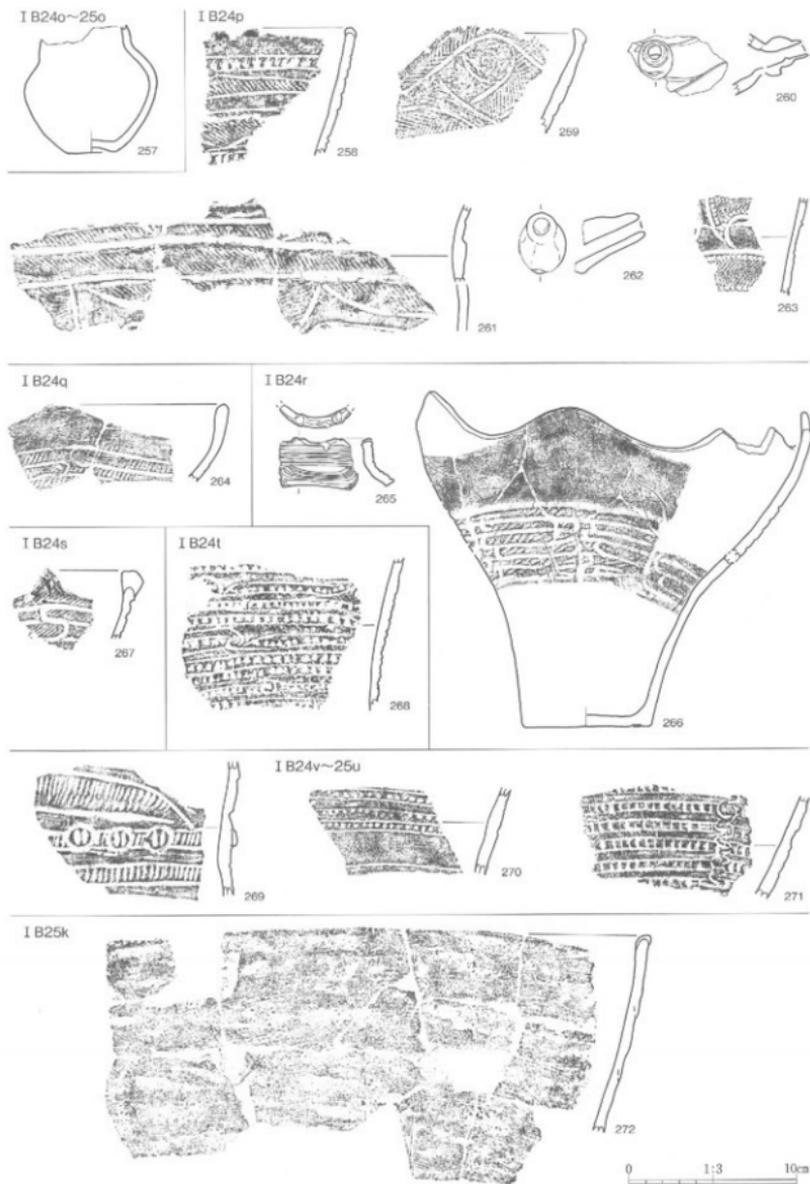
第67圖 土器・土製品 (17)



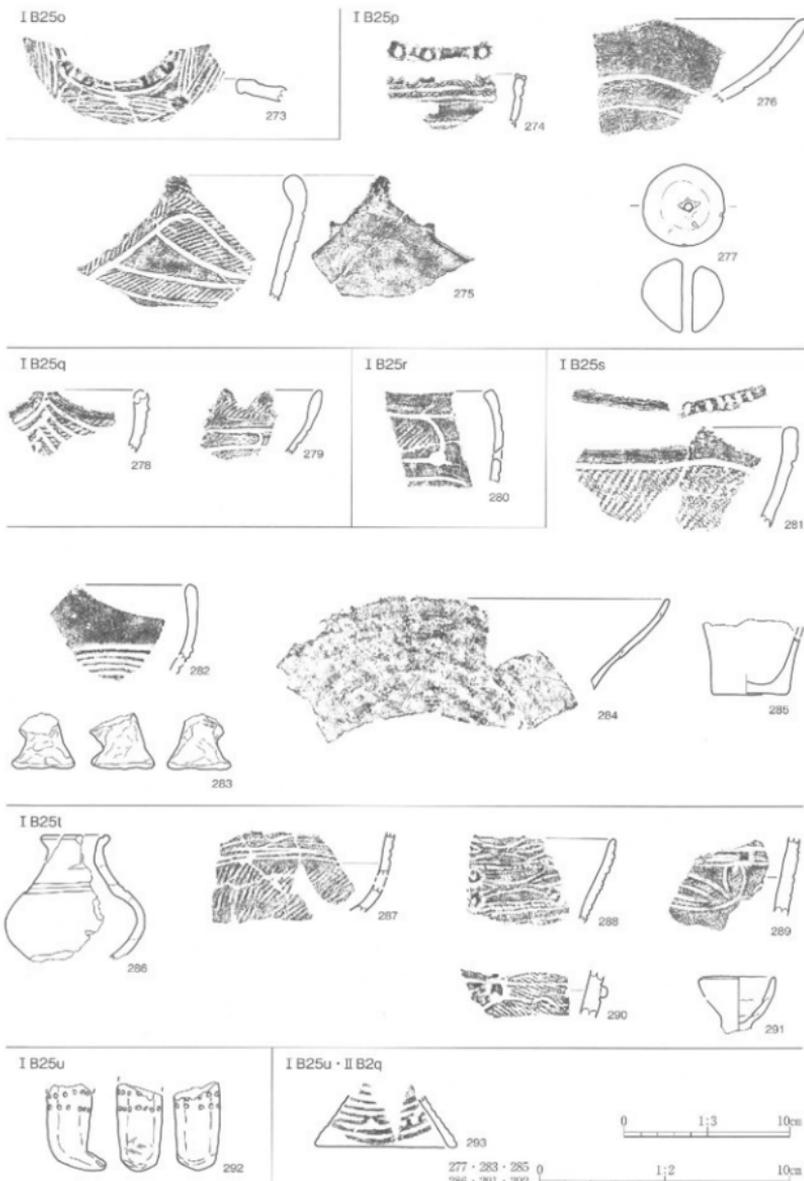
第68図 土器・土製品 (18)



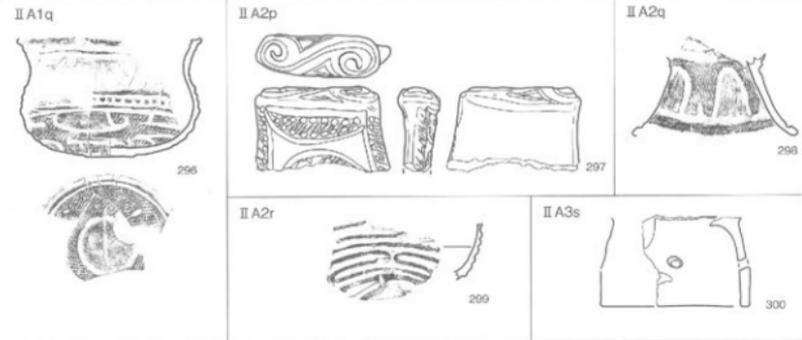
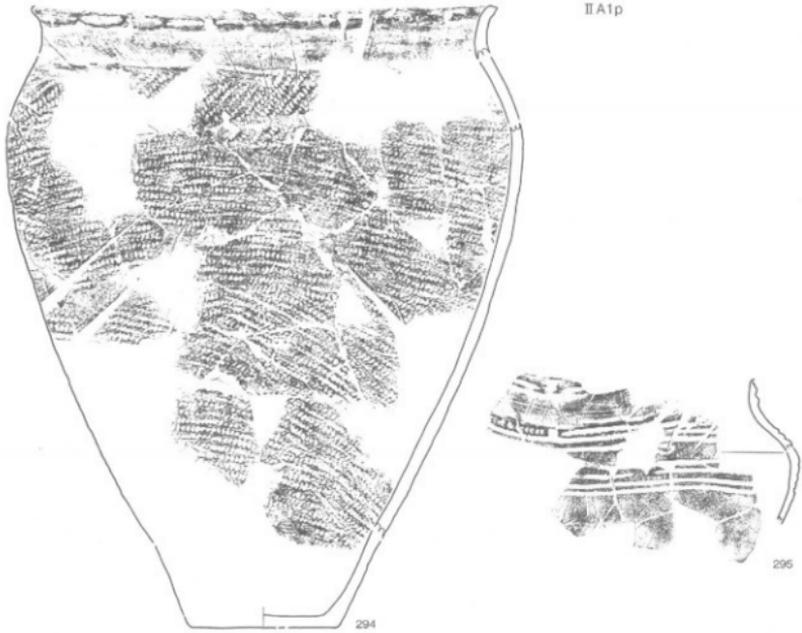
第69図 土器・土製品 (19)



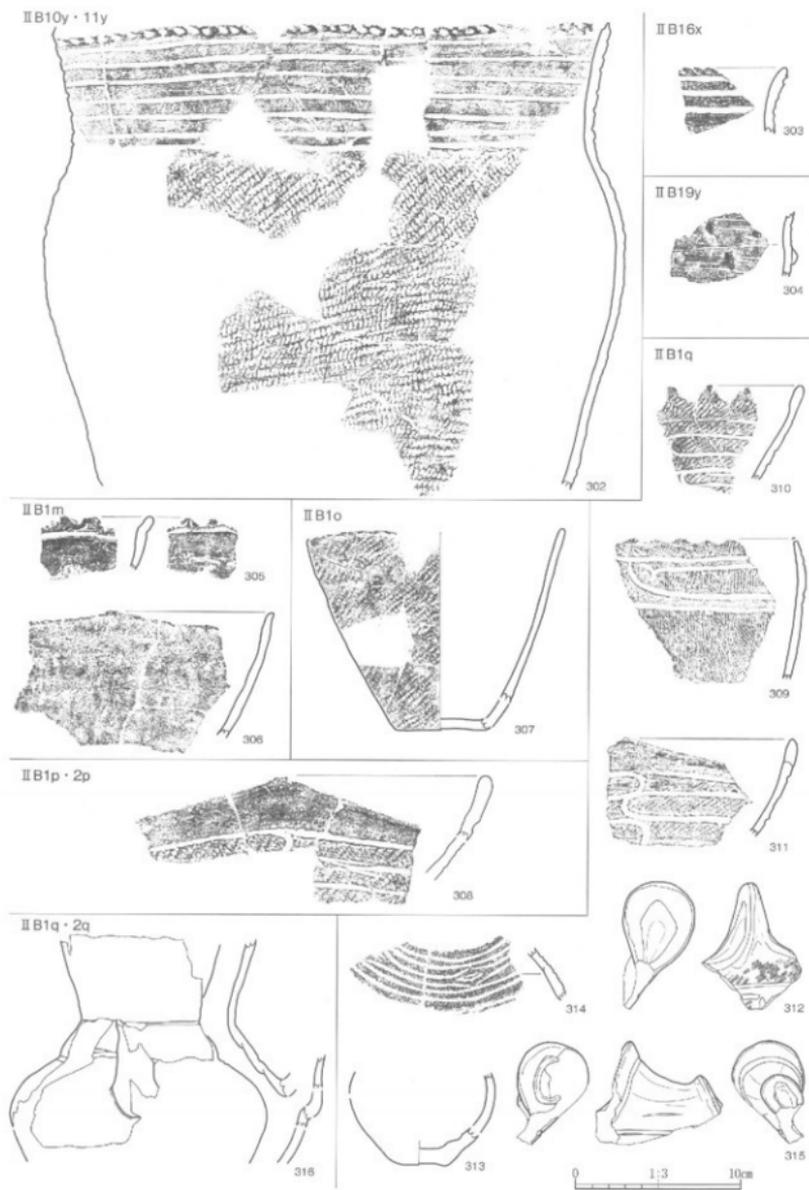
第70図 土器・土製品 (20)



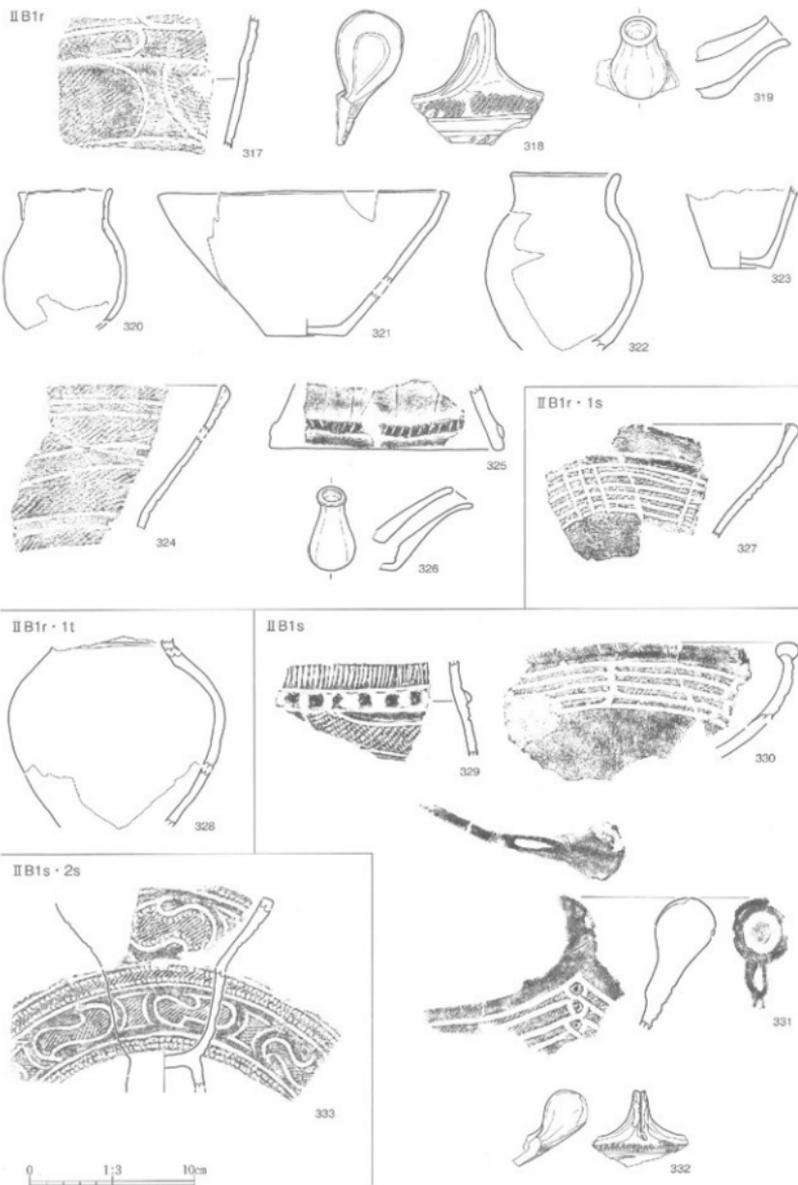
第71図 土器・土製品 (21)



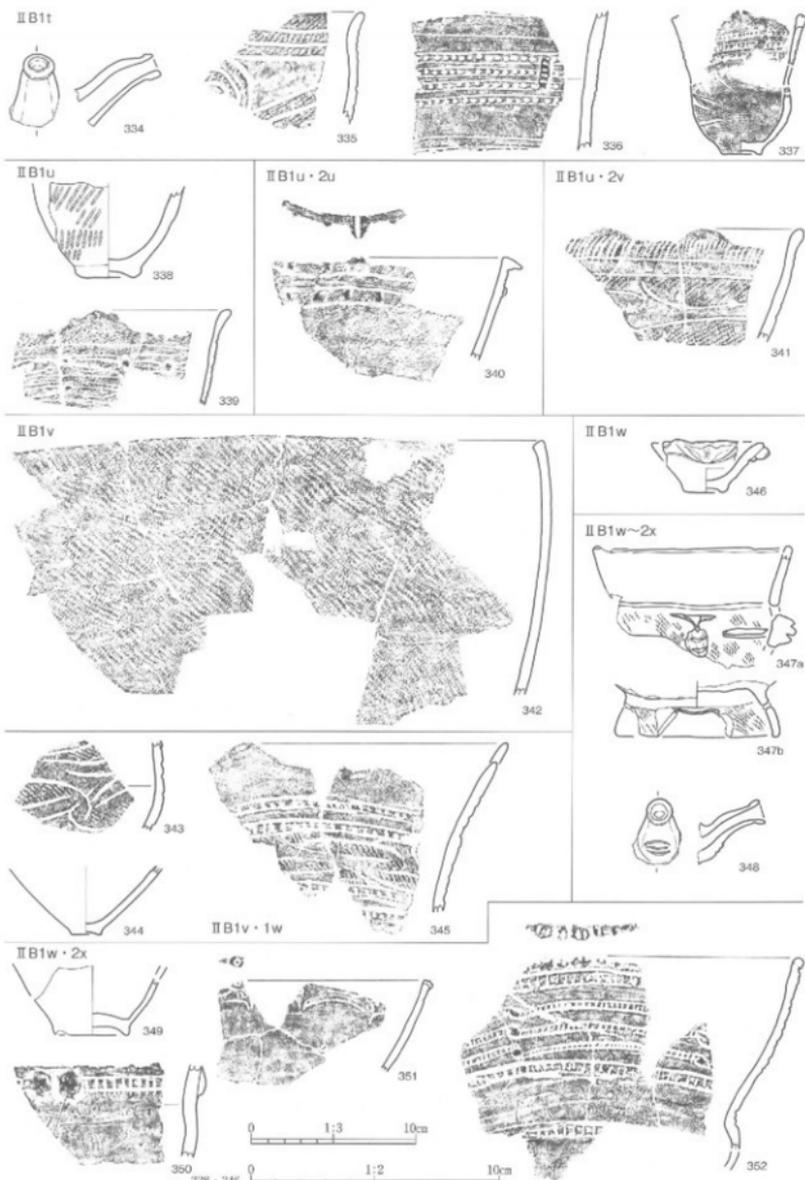
第72図 土器・土製品 (22)



第73図 土器・土製品 (23)



第74圖 土器・土製品 (24)



第75図 土器・土製品 (25)

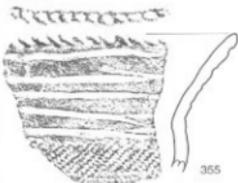
II B2i~ II C3a



II B2i



II B2m



II B2o



II B2o



357



360

II B2r



362



358



361



363

II B2r · 3r



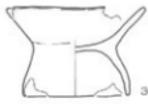
II B2t



365



367



368

0 1:3 10cm

361

0 1:2 10cm



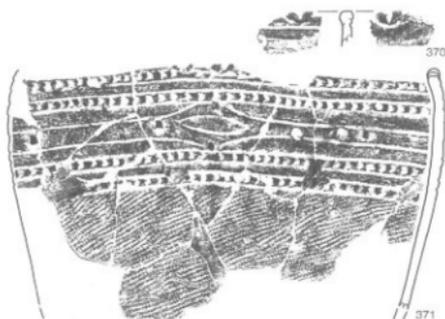
366

第76図 土器・土製品 (26)

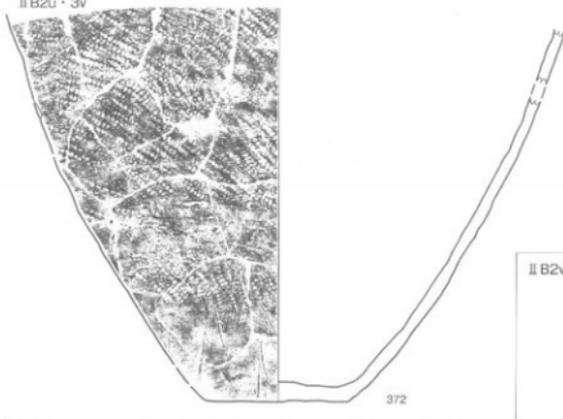
II B2t · 3t



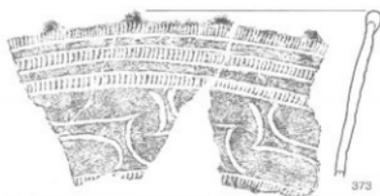
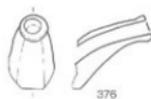
II B2u



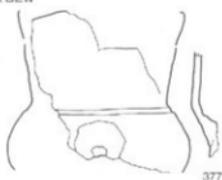
II B2u · 3v



II B2v

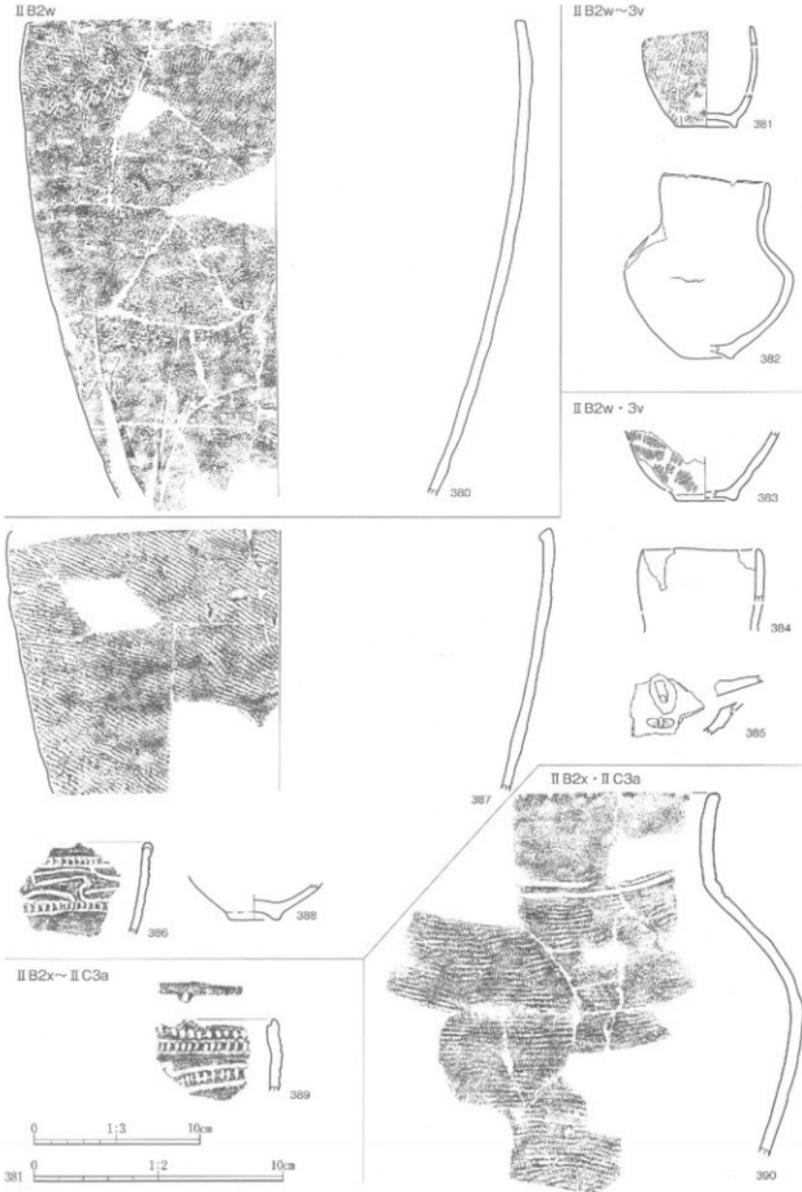


II B2w

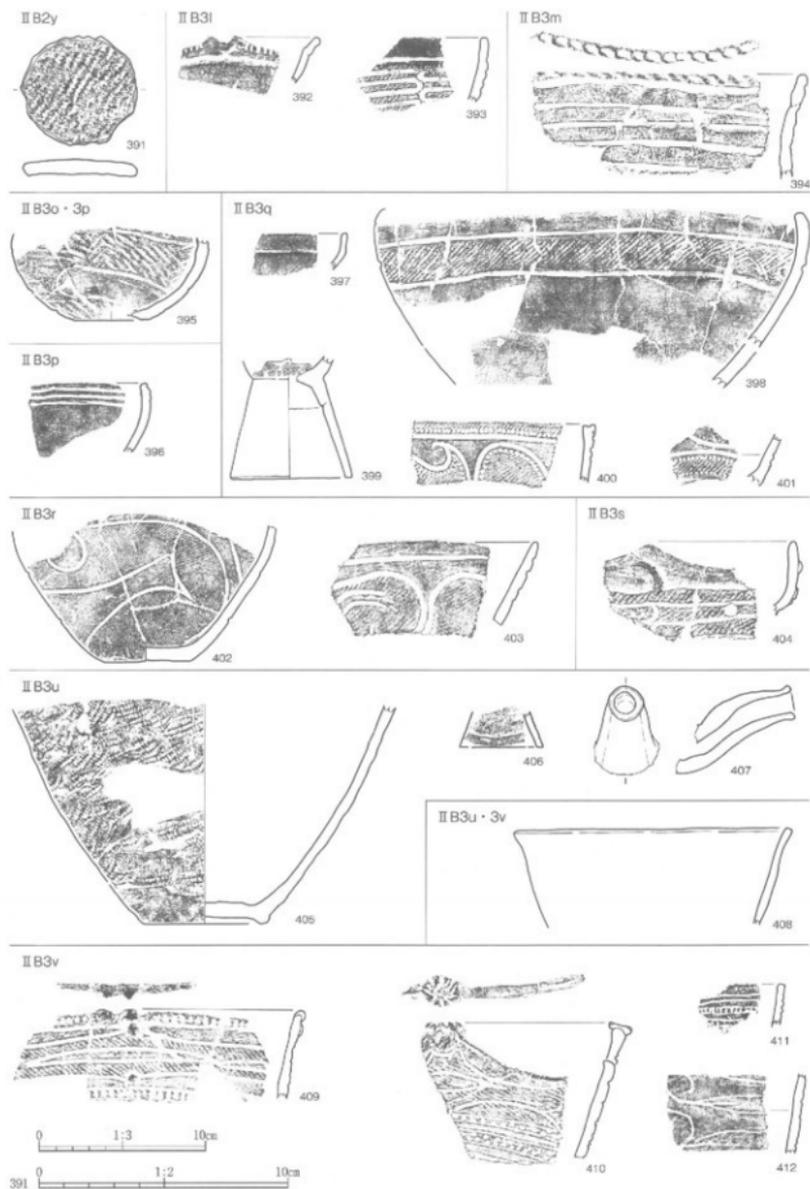


0 1:3 10cm

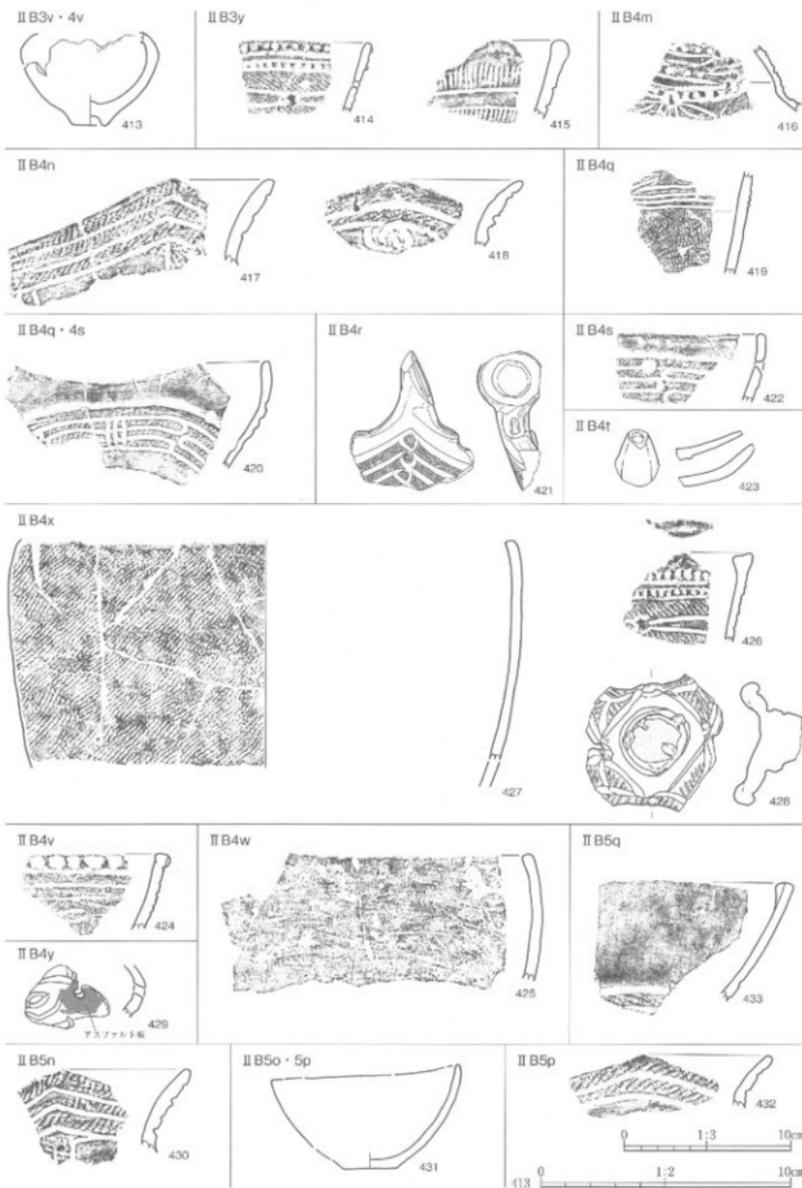
第77圖 土器・土製品 (27)



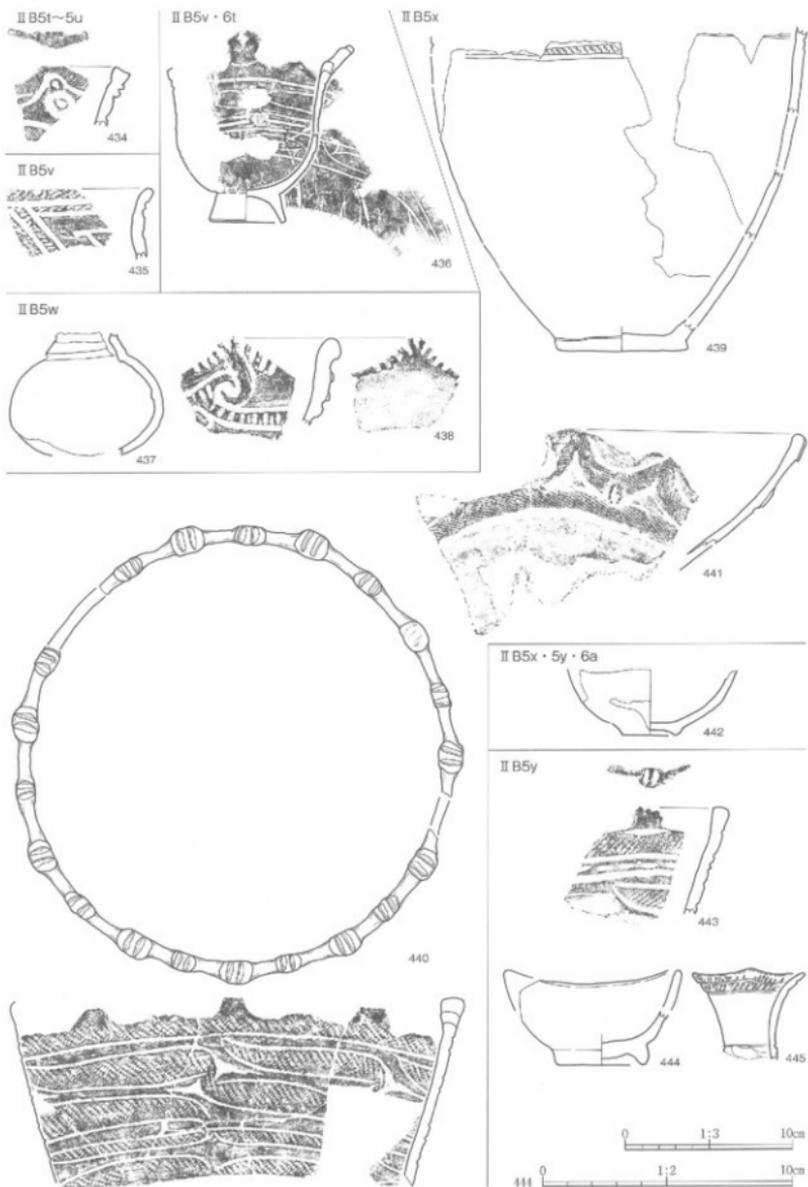
第78圖 土器・土製品 (28)



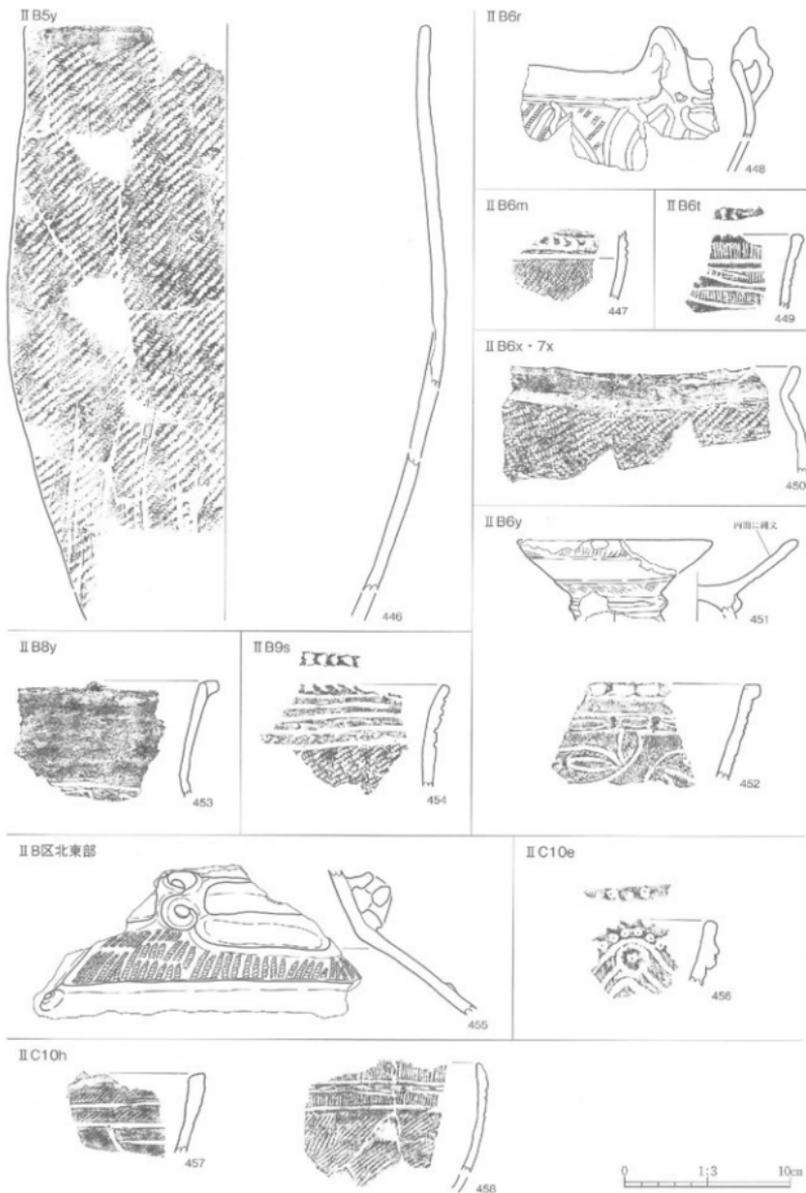
第79図 土器・土製品 (29)



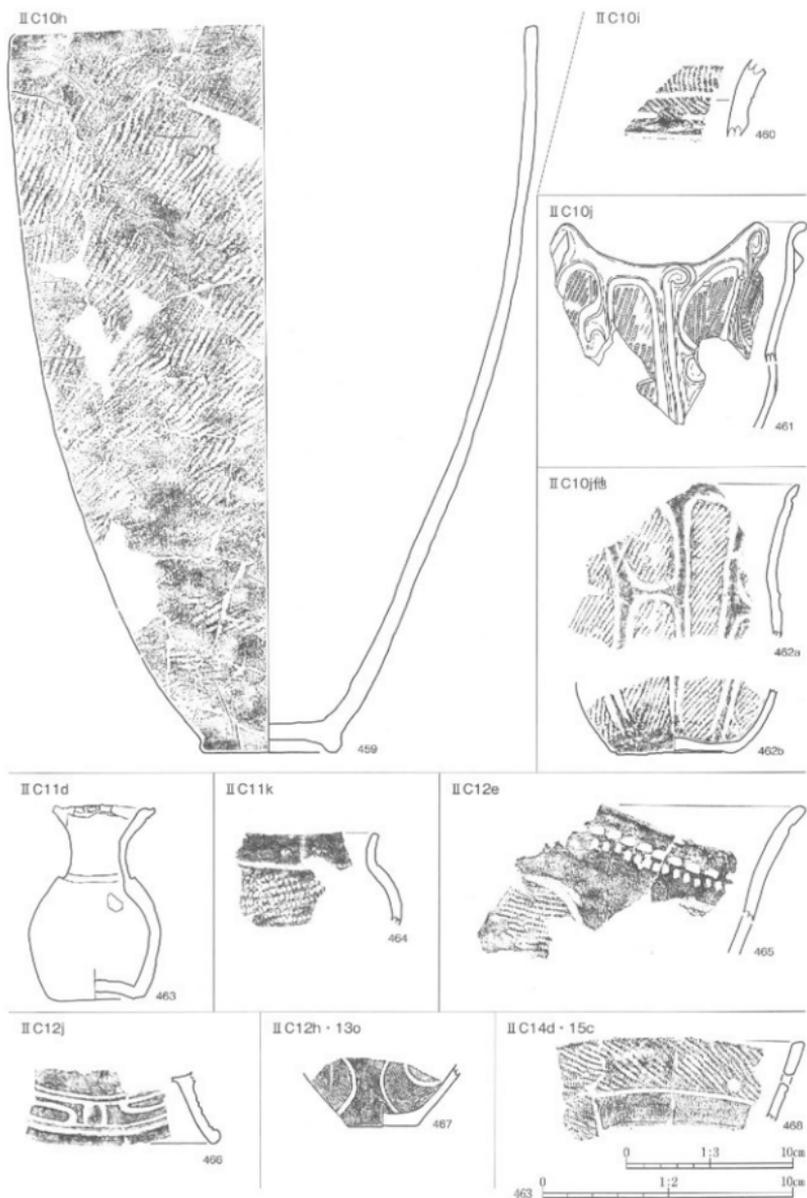
第80図 土器・土製品 (30)



第81図 土器・土製品 (31)



第82図 土器・土製品 (32)

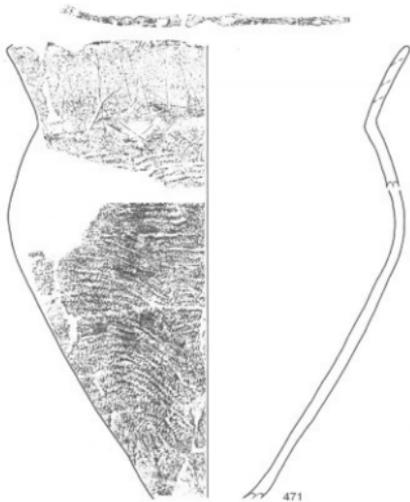


第83図 土器・土製品 (33)

II C14j



II C15j



II C15b



II C15m

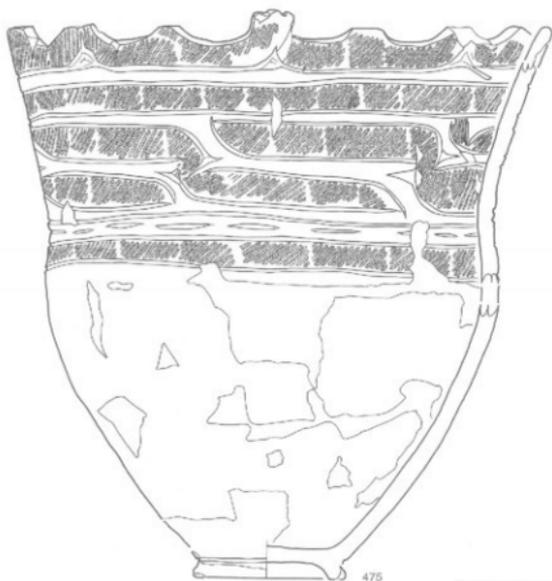


II C15o



第84図 土器・土製品 (34)

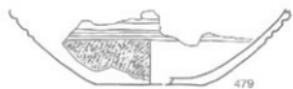
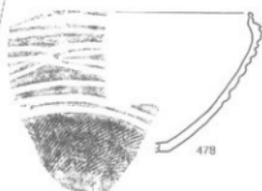
II C15r~16s



II C16a

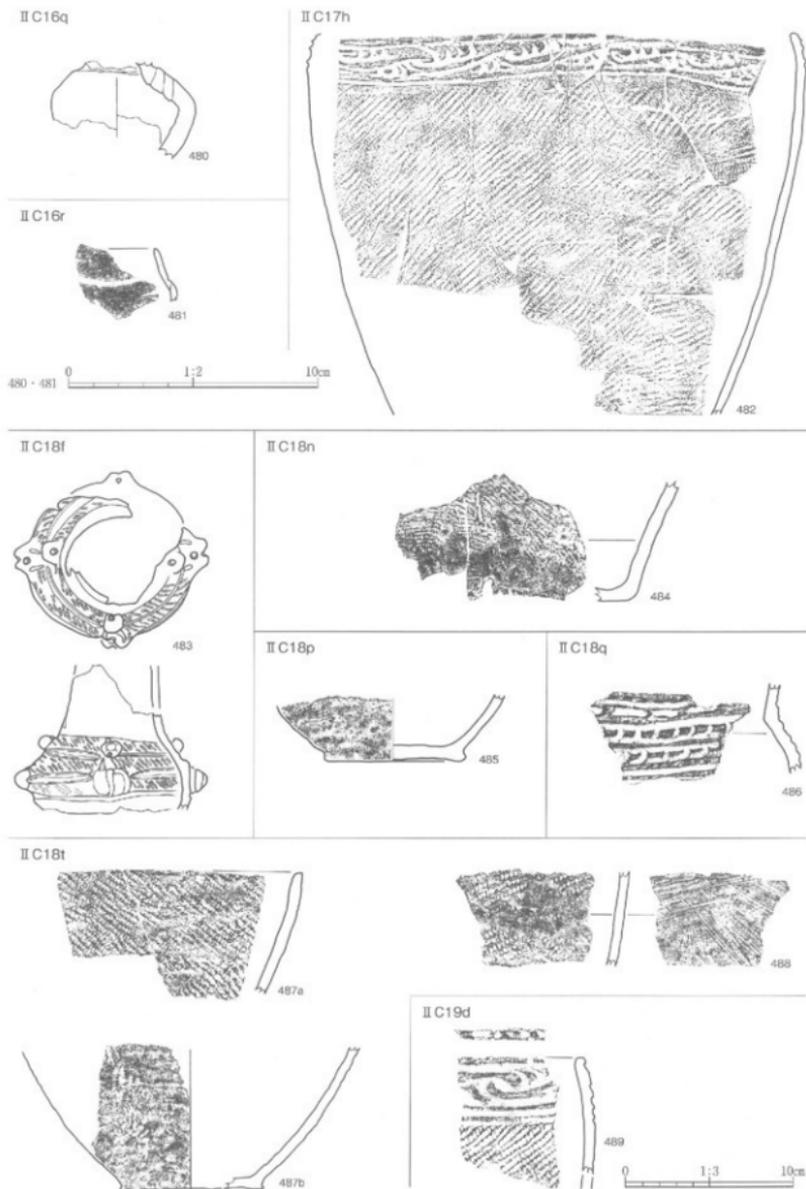


II C16q

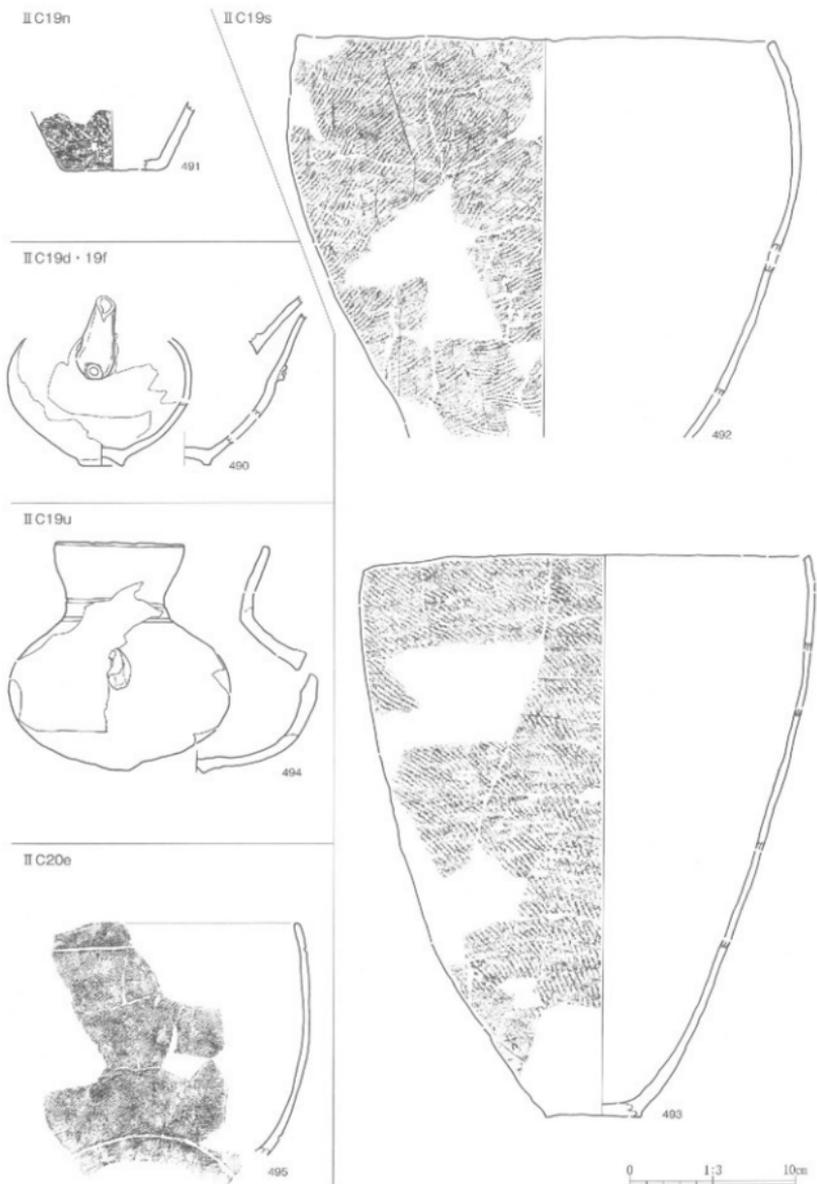


0 1:3 10cm

第85図 土器・土製品 (35)



第86図 土器・土製品 (36)



第87図 土器・土製品 (37)

II C20h



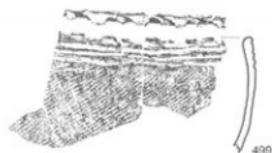
II C20i・20j



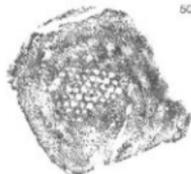
II C20j



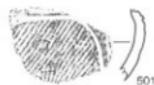
II C20n



II C21a



II C21b



II C21e



II C21m



0 1:3 10cm

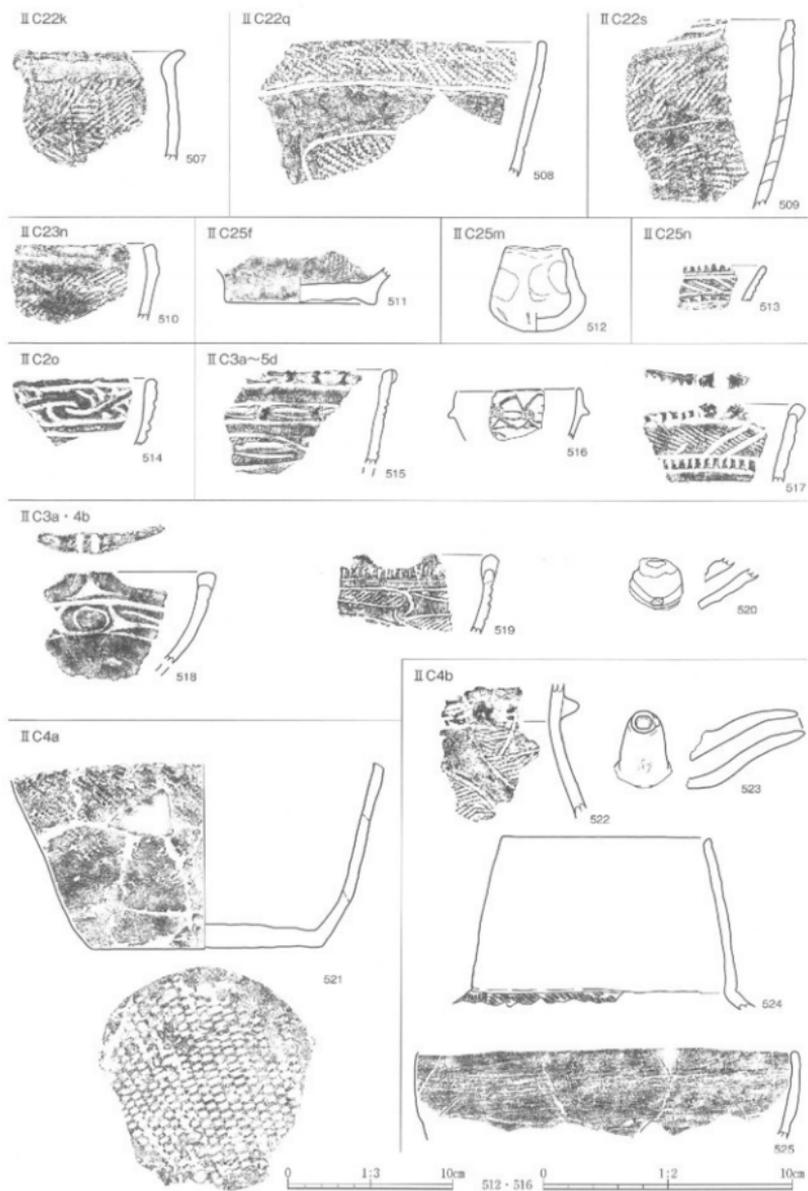
II C21o



II C21p



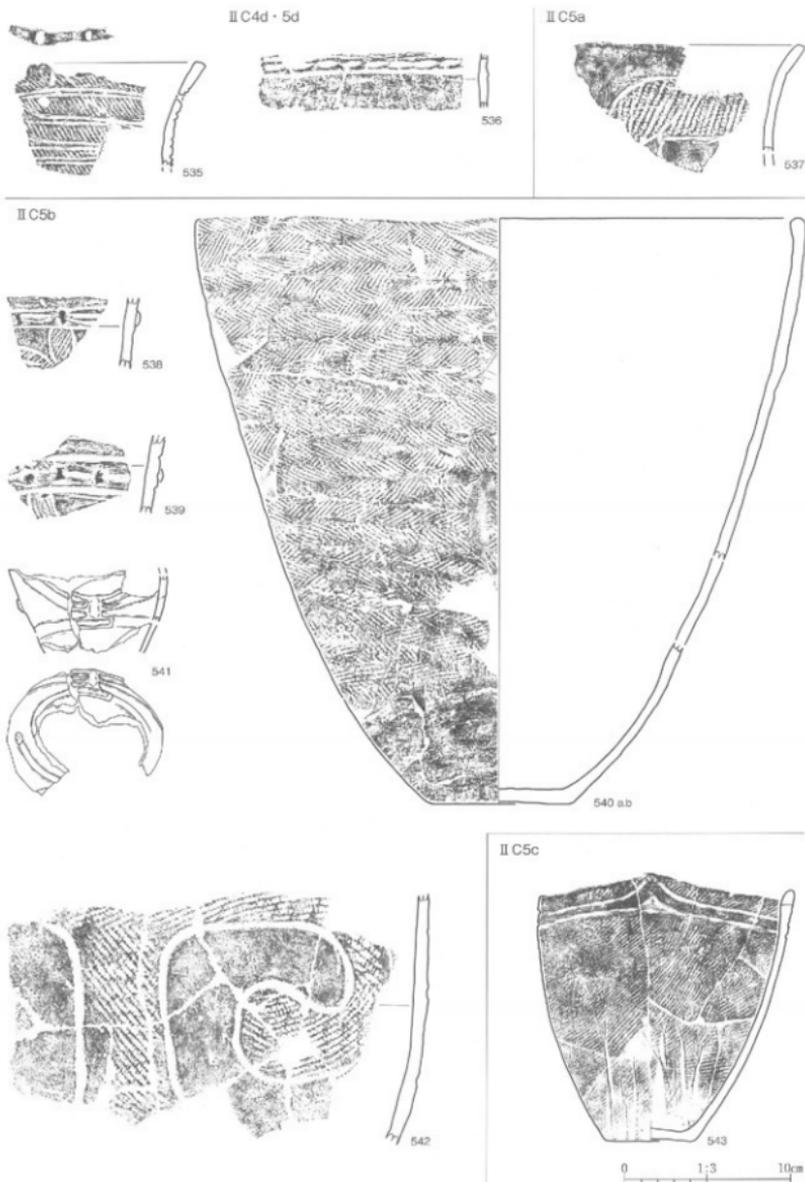
第88図 土器・土製品 (38)



第89圖 土器・土製品 (39)



第90図 土器・土製品 (40)

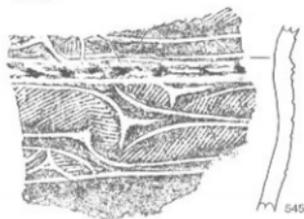


第91図 土器・土製品 (41)

II C5c



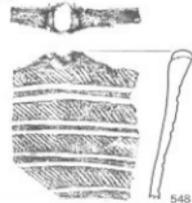
II C5d



II C5d · 6f



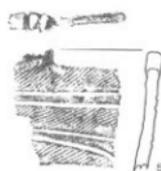
II C6c



II C6b



II C6d



0 1:3 10cm

第92図 土器・土製品 (42)

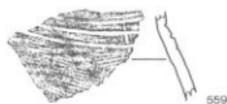
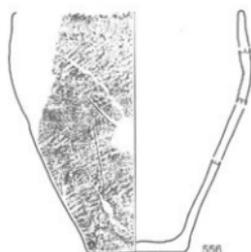
II C6d



II C6e



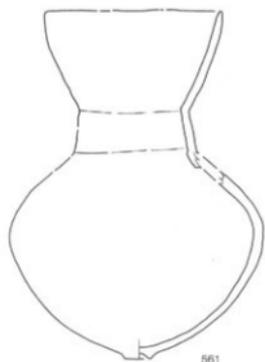
II C6f~8h



II C7a



II C7b~7c



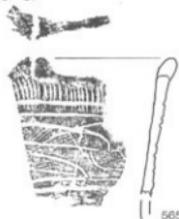
II C7 d



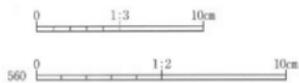
II C7e



II C8e・8f

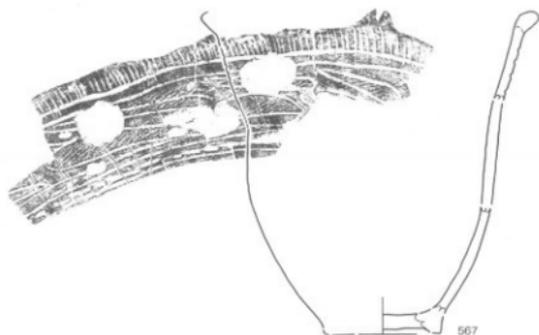


II C9b

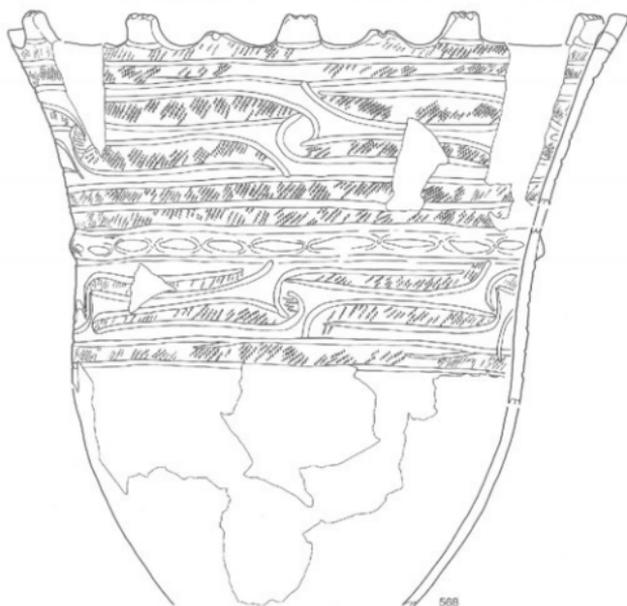


第93図 土器・土製品 (43)

II C9e



II C9h



II C9h · 10h

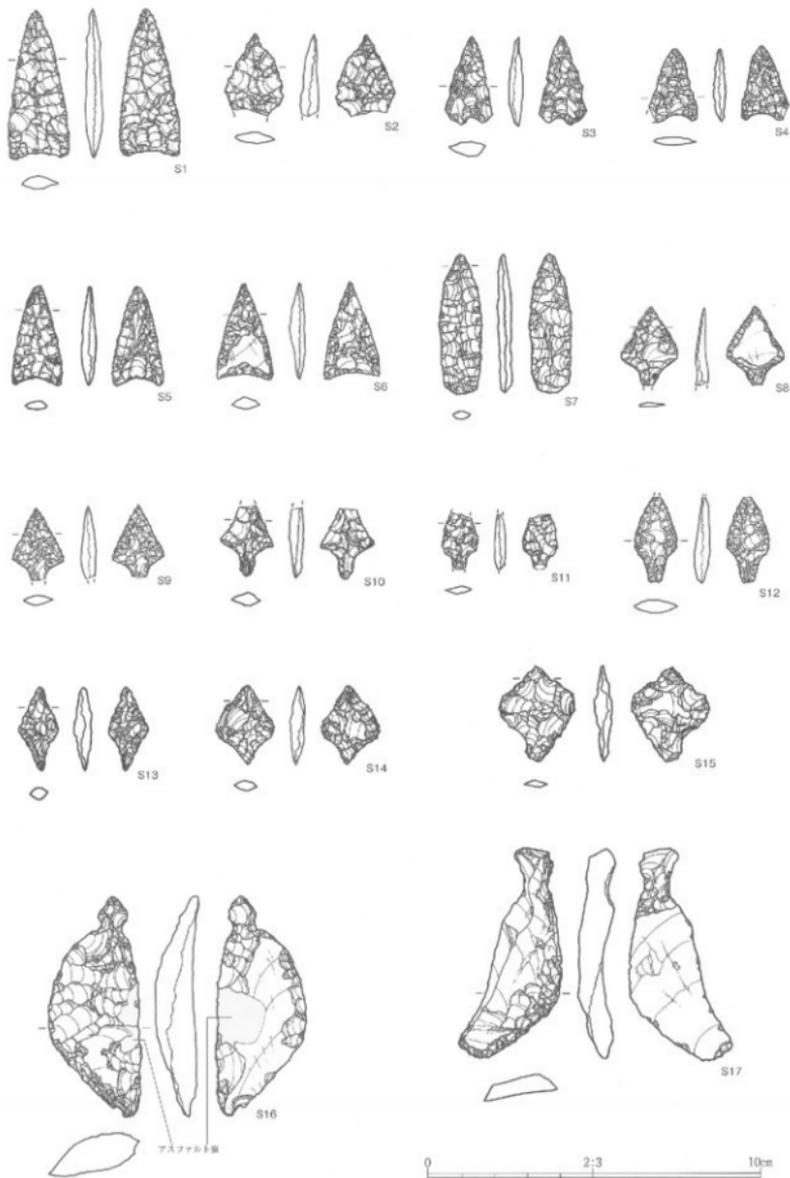


II C9i

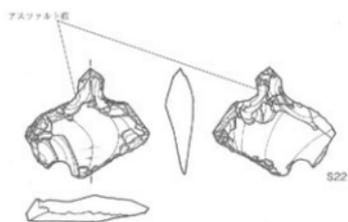
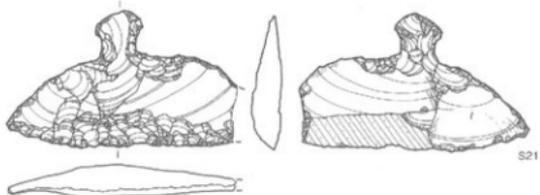
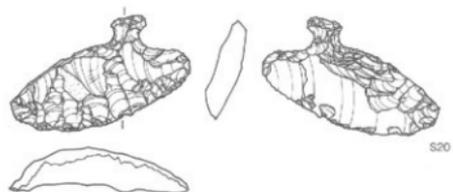
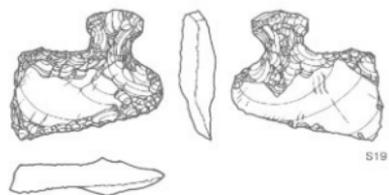
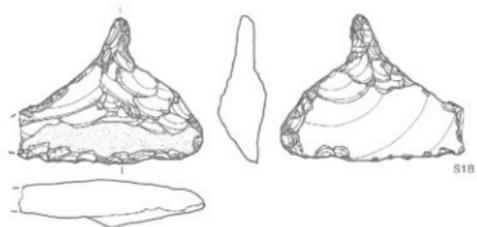


0 1:3 10cm

第94図 土器・土製品 (44)



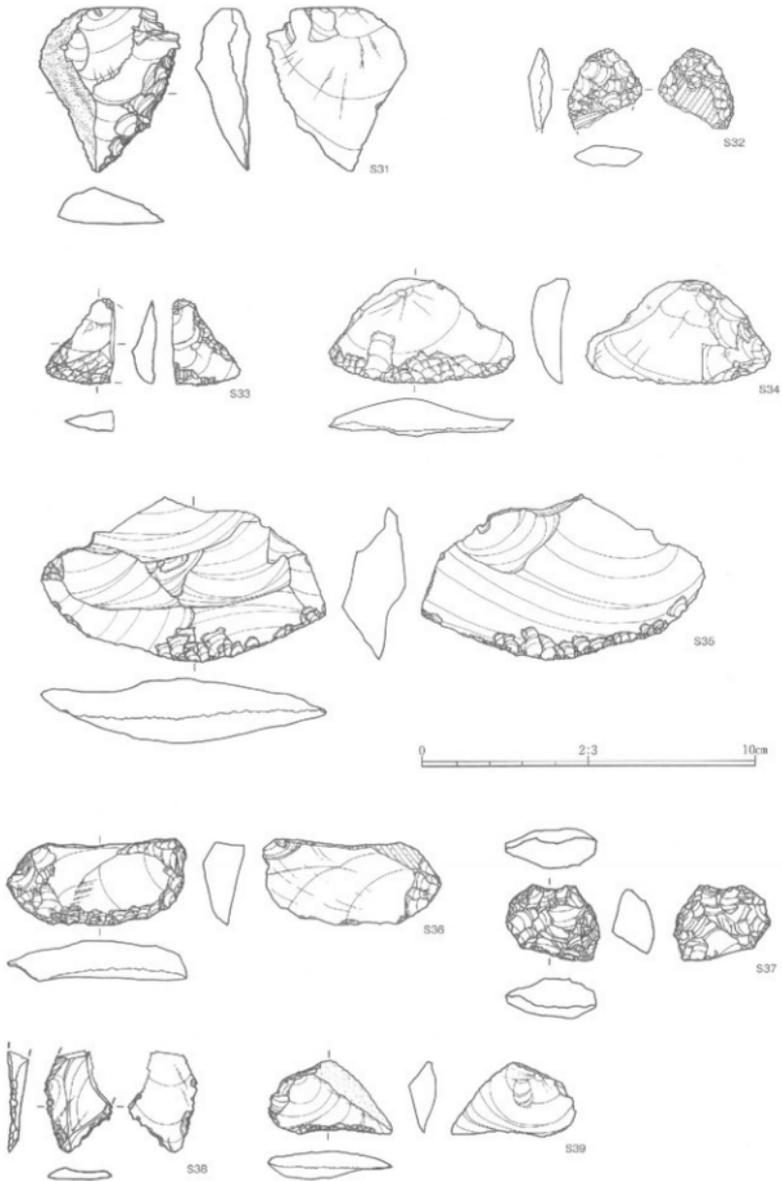
第95図 石器 (1)



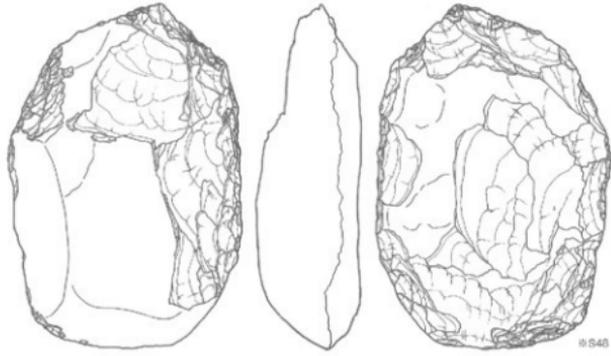
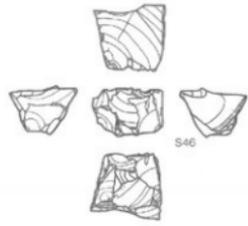
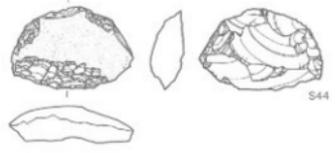
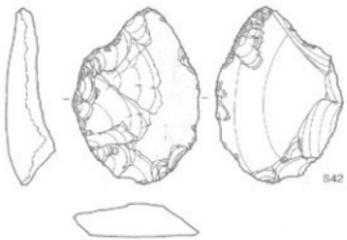
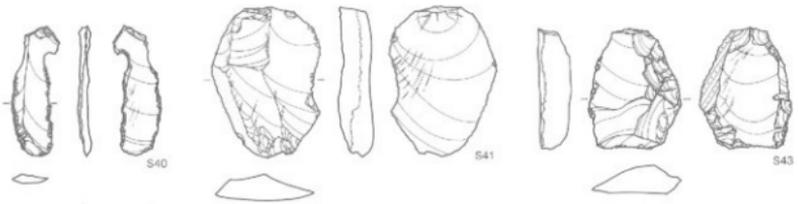
第96図 石器(2)



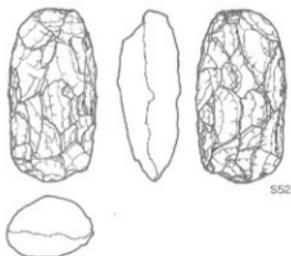
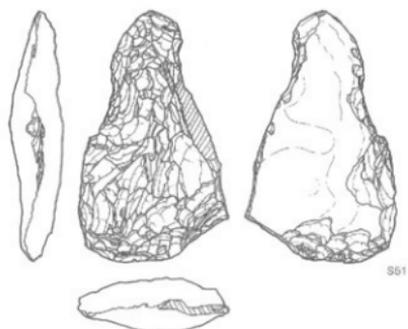
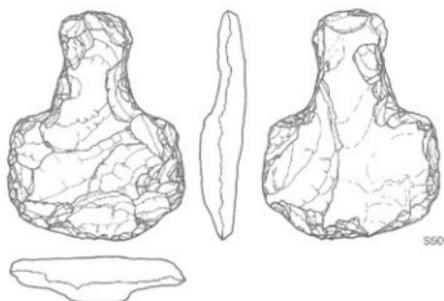
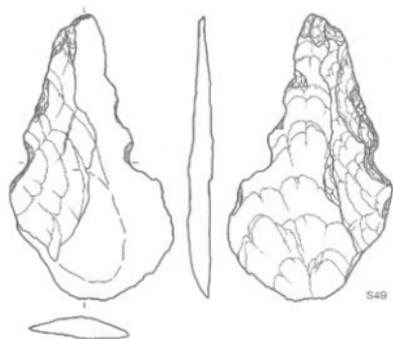
第97図 石器 (3)



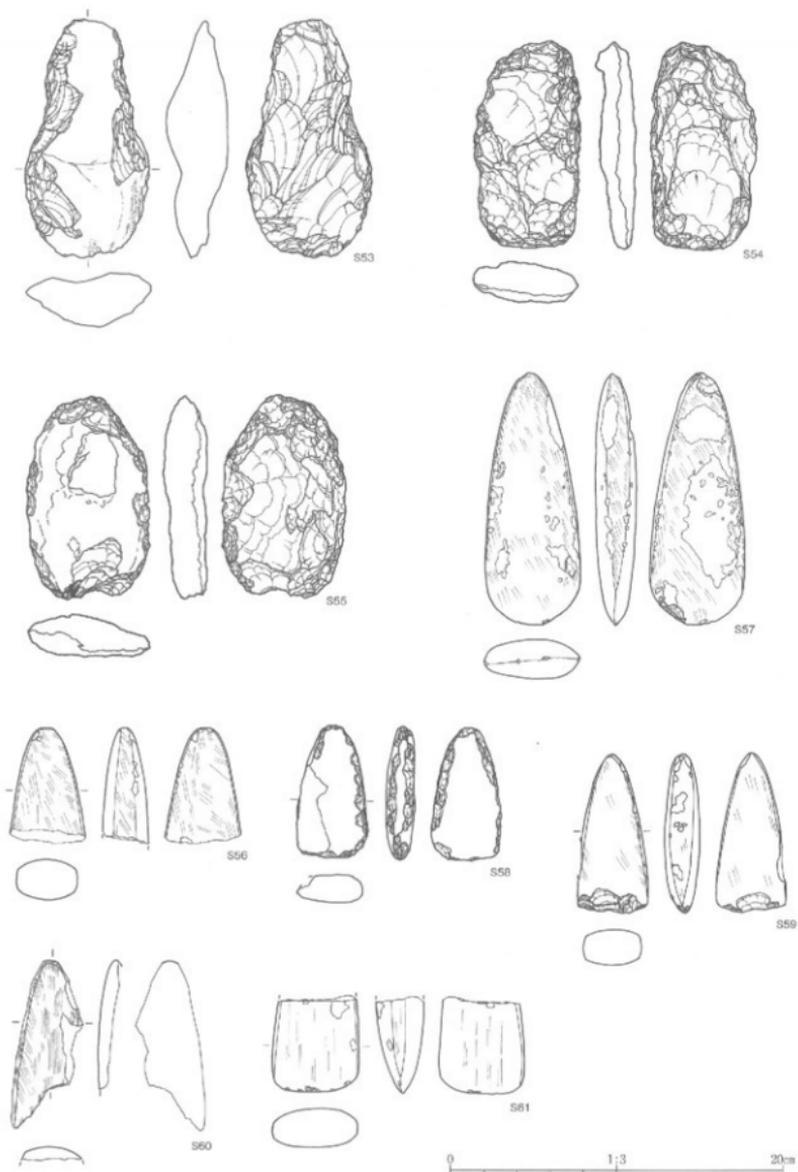
第98図 石器 (4)



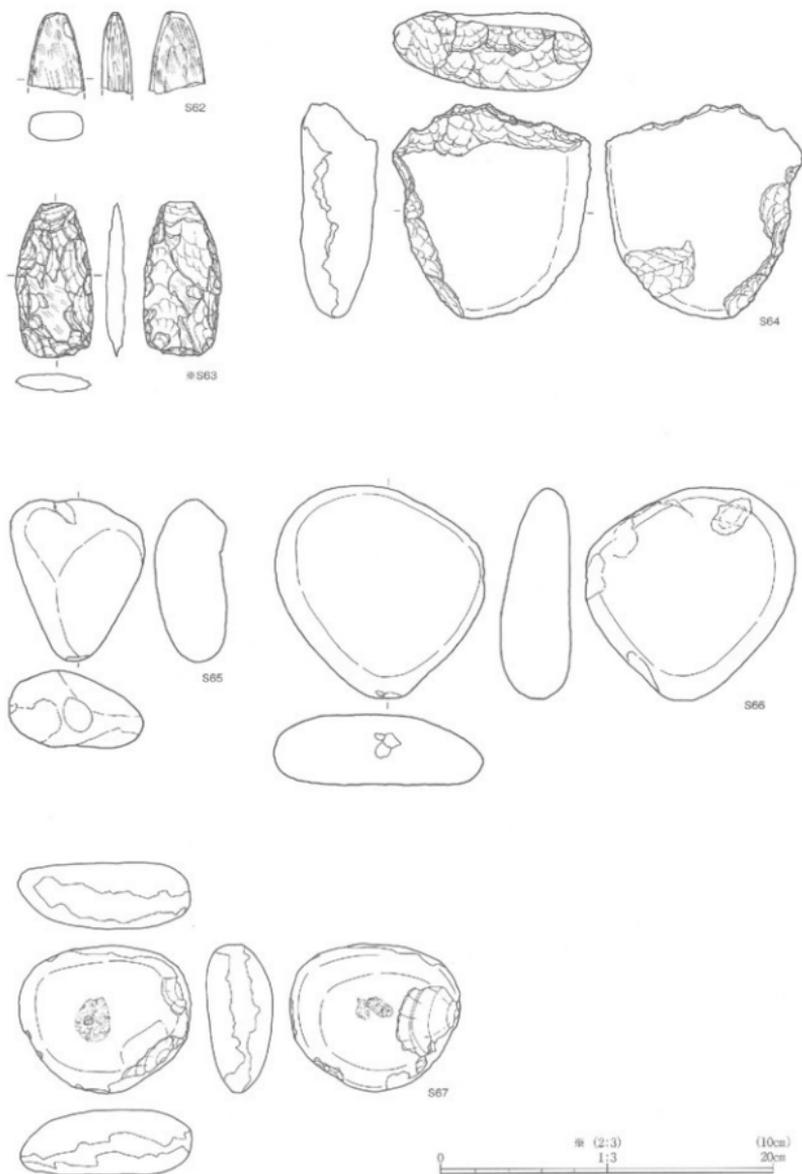
第99図 石器 (5)



第100回 石器 (6)



第101图 石器 (7)



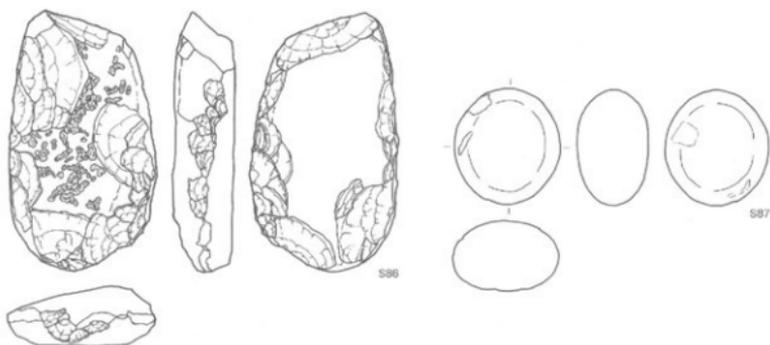
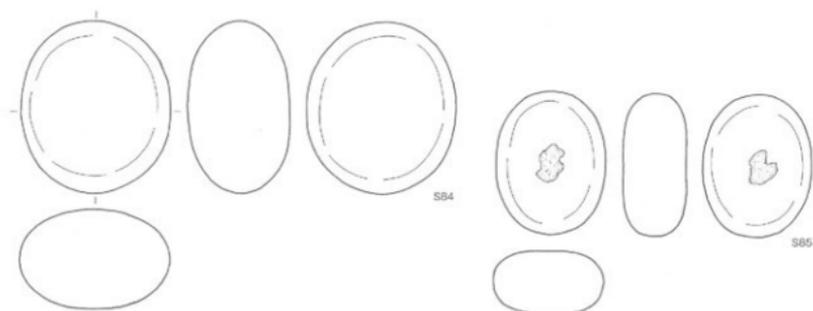
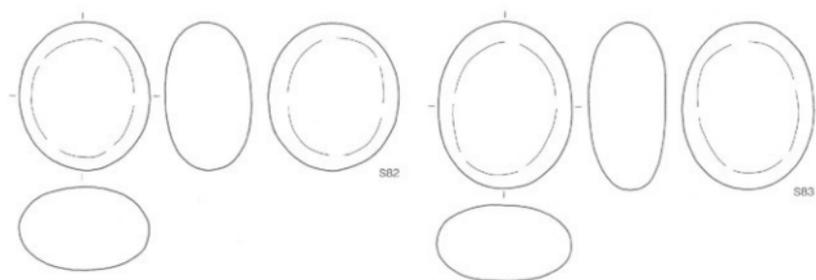
第102図 石器 (8)



第103圖 石器 (9)

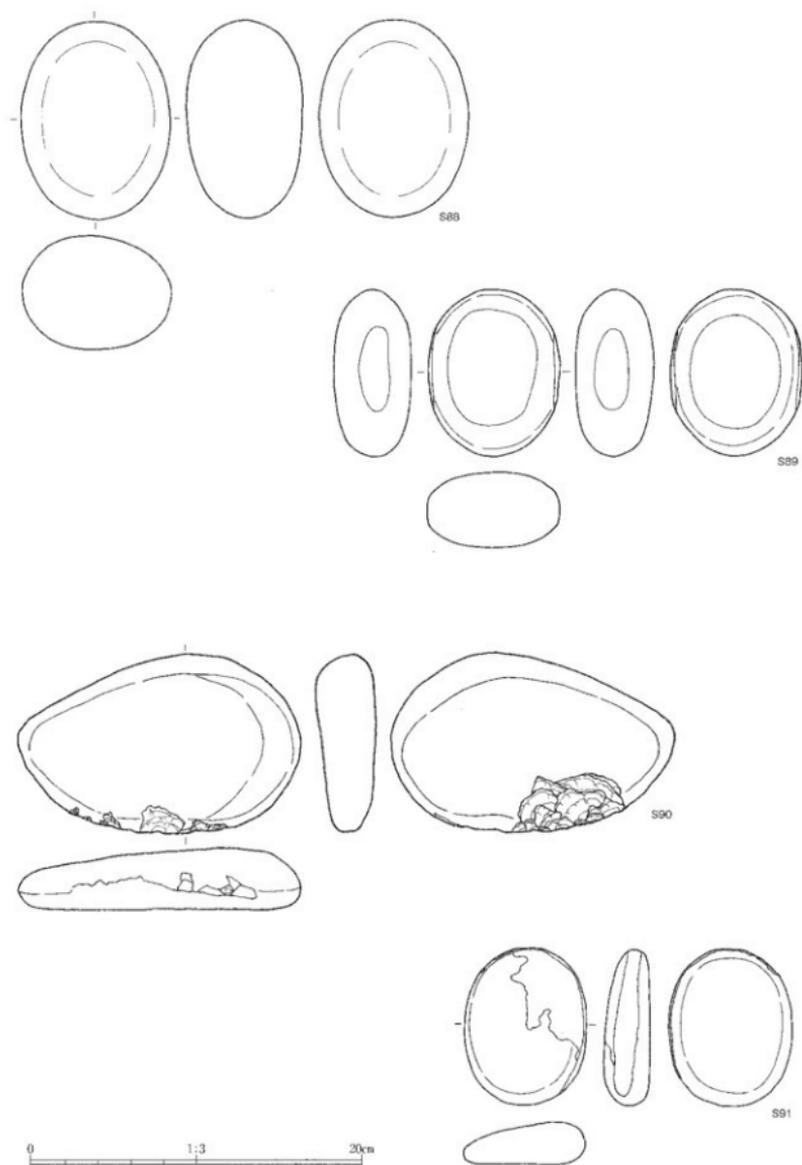


第104図 石器 (10)

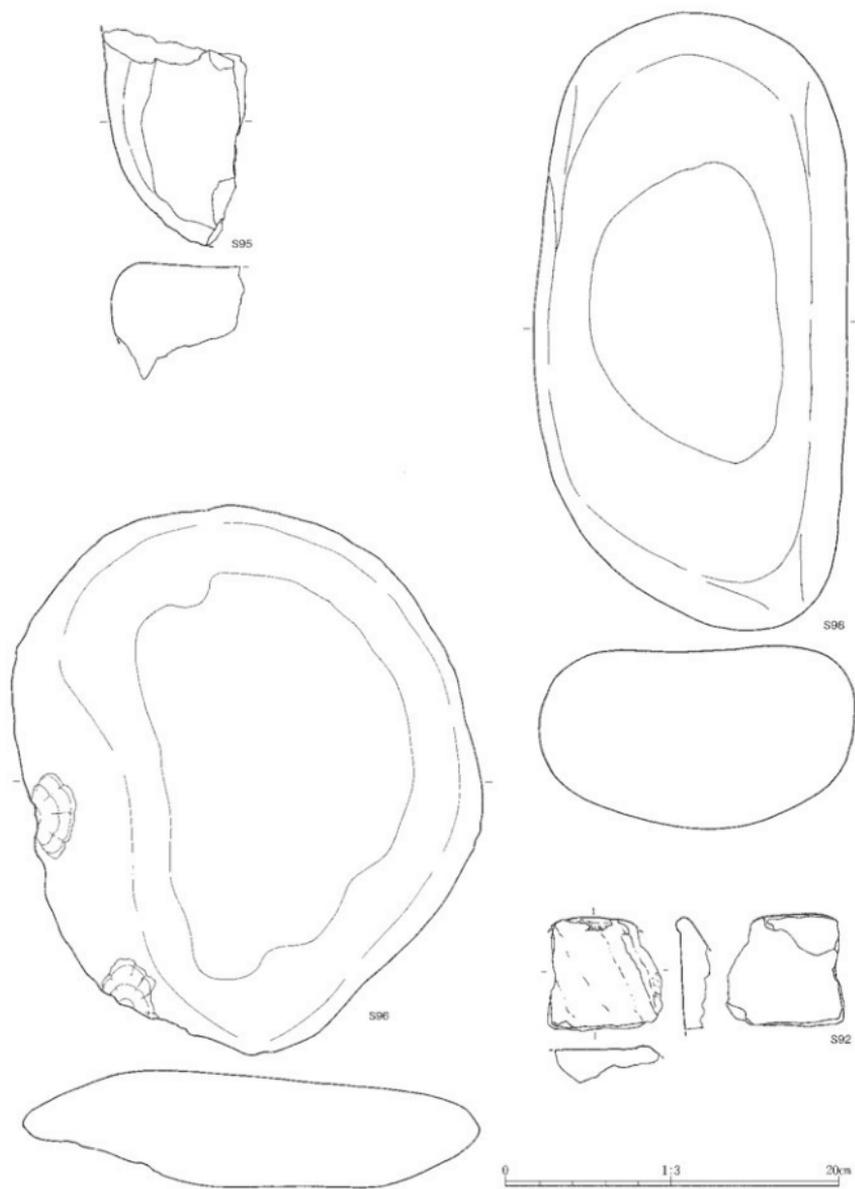


0 1:3 20cm

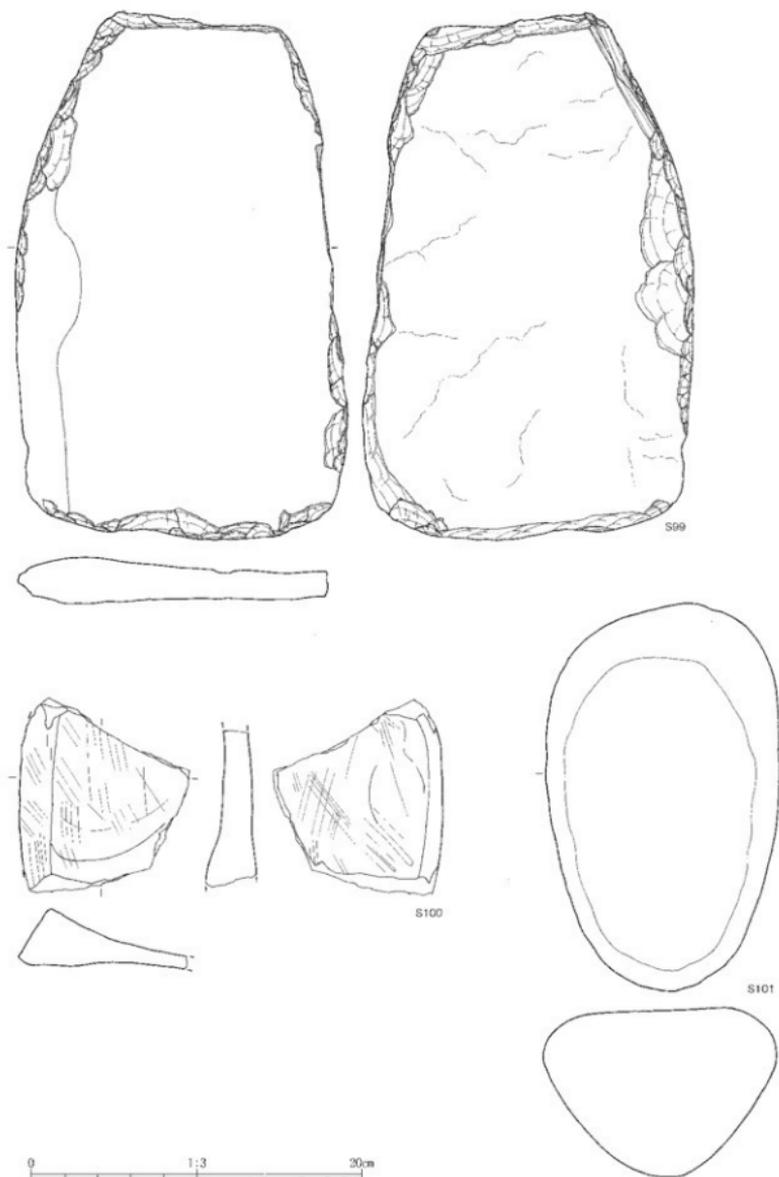
第105図 石器 (11)



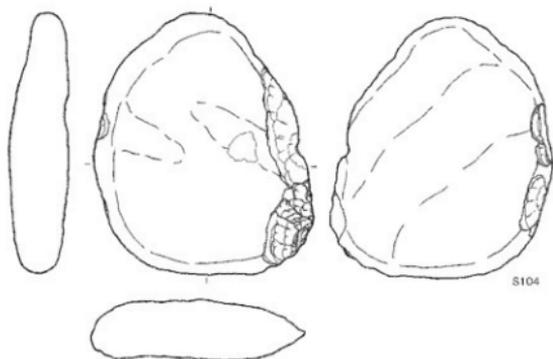
第106図 石器(12)



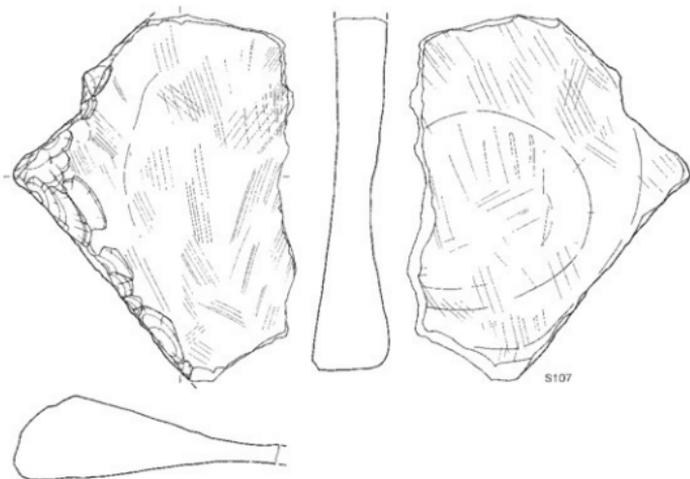
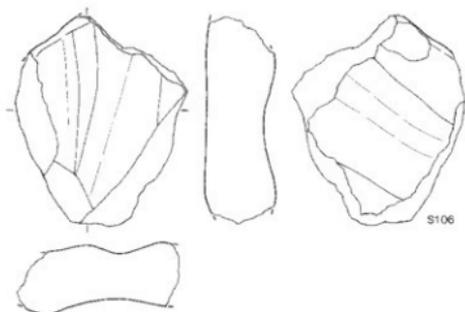
第107图 石器 (13)



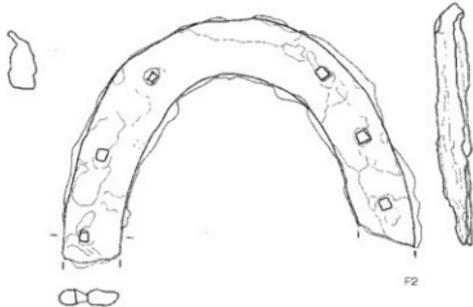
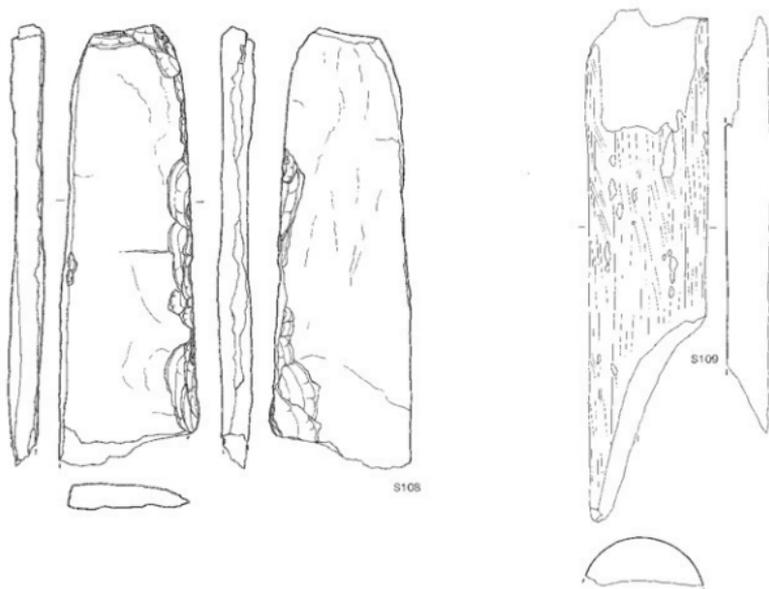
第108図 石器 (14)



第109圖 石器 (15)



第110回 石器 (16)



0 2.5 10cm

第111圖 石製品・鉄製品

第5表 土器・土製品・鉄製品観察表

No.	品名	種類	出土地点	器種	部位	文章の種類ほか	電文・捺印	分類ほか	時期	
1	51	42	RA001	RA001ほか遺構外	漆片	口~胴	小突起, 尾端, 瓦線文, 漆片工具の連続刻文	L, R	Ⅱ3(Ⅱ2中期)	後期後葉
2	51	42	RA001	RA001ほか遺構外	漆片	口~胴	小突起, 尾端, 瓦線文, 漆片工具の連続刻文	無記入	Ⅱ3(Ⅱ2中期)	後期後葉
3	51	42	RA003	墓上	漆片	口	胎痕, 瓦線文	R, L(0段多葉)	Ⅱ3(Ⅱ2中期)	後期後葉
4	51	42	RA001	Q3埋土P3	漆片	口~胴	胎痕	R, L	V3	後期前~後葉
5	51	42	RA001	P6	漆片	口~胴	平行瓦線間に連続する斜列, 漆片孔	R, L	Ⅱ3(Ⅱ2中期)	後期後葉
6	51	42	RA001	墓前土15	漆片	口~胴	斜列突起, 漆片再突列, 平行漆片文	L, R	Ⅱ3(Ⅱ2中期)	後期前~中葉
7	51	42	RA001	塚上1層	漆片	口	斜列, 平行漆片文	R, L	Ⅱ3(Ⅱ2中期)	後期後葉
8	51	42	RA001	墓上1層	漆片	口	内外面, 平行漆片文(縦列)	R, L	Ⅱ3(Ⅱ2中期)	後期前~中葉
9	51	42	RA001	塚上Q3	漆片	口	口唇部に斜列, 斜列の突入部刻文	V3(Ⅱ埋土?)	Ⅱ3(Ⅱ2中期)	後期後葉?
10	52	42	RA001	塚前	付片漆	片	無文	R, L	V1	後期後葉?
11	52	42	RA001	墓上	付片漆	片	沈積層に平行刻文	L, R	Ⅱ2か3	後期前~中葉
12	52	42	RA001	塚上	漆片	口	コブ, 平行漆片, 斜列状瓦線文	R, L	Ⅱ2	後期前~中葉
13	52	42	RA001	塚上	漆片	胴	斜列, 平行漆片文	R, L	Ⅱ2か3	後期前~中葉
14	52	42	RA001	塚上	漆片	胴	コブ	R, L	Ⅱ3(Ⅱ埋土?)	後期後葉?
15	52	42	RA001	P3	漆片	胴	小突起突起	R, L	Ⅱ3(Ⅱ埋土?)	後期後葉?
16	52	42	RA001	Q埋土	漆片	口	斜列, 小突起	R, L	V4	後期後葉
17	52	42	RA001	Q埋土	漆片	口	突起(孔あり)	R, L(0段多葉)	V5	後期
18	52	42	RA001	塚前P1	付片漆	片	胎痕に瓦線と胎痕, ミガキ, 輪郭線	V2(Ⅱ埋土?)	V2	後期後葉?
19	52	42	RA001	P1	付片漆	片	胎痕	V2	V2	後期後葉?
20	52	42	RA001	塚前P6	付片漆	片	胎痕	V2	V2	後期
21	52	42	RA001	塚上	付片漆	片	胎痕	V2	V2	後期
22	52	42	RA001	塚前クワリーニング坑	付片漆	片	内外面ミガキ	V1	V1	後期
23	52	42	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
24	52	42	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
25	52	42	RA001	P3, 遺構外	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
26	52	42	RA001	RA003P2ほか	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
27	53	43	RA001	P1	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
28	53	43	RA001	塚上	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
29	53	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
30	53	43	RA001	Q埋土, P2	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
31	53	43	RA001	ベルト土1	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
32	53	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
33	53	43	RA001	Q埋土, P3	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
34	53	43	RA001	Q2	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
35	53	43	RA001	Q2	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
36	53	43	RA001	P1	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
37	54	43	RA001	塚上土1層	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
38	51	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
39	54	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
40	54	43	RA001	Q埋土, P12	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
41	54	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
42	54	43	RA001	塚上土1層	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
43	54	43	RA001	Q2, 4埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
44	54	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
45	54	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
46	54	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
47	54	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
48	51	43	RA001	ベルト内側土, 遺構外	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
49	54	43	RA001	Q埋土, P7	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
50	54	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
51	54	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
52	54	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
53	54	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
54	54	43	RA001	ベルト内側土, 遺構外	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
55	43	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
56	55	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
57	55	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
58	55	43	RA001	Q埋土, P9	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
59	55	43	RA001	Q埋土, P10	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
60	55	43	RA001	ベルト内側土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
61	55	43	RA001	ベルト内側土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
62	55	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
63	55	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
64	55	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
65	55	43	RA001	ベルト	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
66	55	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
67	55	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
68	55	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
69	55	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
70	55	43	RA001	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
71	56	44	RA006	歩道設土器	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
72	56	44	RA006	ベルト	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
73	56	44	RA006	塚上, 遺構外	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
74	56	44	RA006	ベルト	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
75	56	44	RA006	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
76	56	44	RA006	Q埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
77	56	44	RA006	ベルト	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
78	57	44	RA008	塚上	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
79	57	44	RA008	P3, 1埋土	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
80	57	44	RA008	塚上	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期
81	57	44	RA008	ベルト	漆片	口	胎痕	V1	V1	後期

No.	図面	断面	所上地点	名称	部位	支棟の種類ほか	竣工・取付	分類ほか	時期
82	57	44	RA008	ベルト	横	11-底	床下上に据、ミガキ	Ⅱ 3 (特2ア)	後期前半
83	57	45	RA008	ベルト	11-テラス	口	(口幅1.5cm、奥行2.5cm、高さ2.5cm)	分類外	後期
84	57	45	RA008	北平子下	土製品	子倉	外形(長さ2.8cm、高さ2.2cm)	分類外	後期
85	57	45	RA008	北平子下	土製品	土製内箱	(幅3.5cm)	分類外	後期
86	57	43	RA009	帯土壁	土製品	制一底	外箱(ミガキ、木)	Ⅱ 2 (ア)	後期前半
87	57	43	RA009	押土下段	漆	制	沈積、ミガキ	V 4	後期?
88	57	43	RA009	壁土中	漆	11	赤褐色羽状斑文、内面肥厚	Ⅱ 2 (イ)	後期前半
89	57	45	RA007		漆	口	入組文	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
90	57	45	RA008	壁土	漆	11	突起、床下上に位置の面、沈積	Ⅱ 1 (特2)	後期前半
91	57	43	RA008		漆	口	無文、内面肥厚	V 1	後期前半
92	57	43	RA009		漆	口	指刺、補修孔	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
93	57	43	RA009		漆	口	平行沈積、垢箱	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
94	57	43	RA010	壁土	漆	製	平行沈積	Ⅱ 2 (イ)	後期前半
95	57	45	RA010	押土	漆	土製	土製、横 管状筒状、内箱(長さ6.2cm)	Ⅱ 2 (イ)	後期前半
96	57	45	RA011	壁土	漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
97	57	45	RA011	壁土	漆	11-底	底層	Ⅱ 2 (イ)	後期前半
98	57	45	RA011	壁土	漆	11-底	底層	Ⅱ 2 (イ)	後期前半
99	57	45	RA012	壁土	漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
100	57	45	RA012	壁土	漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
101	57	45	RA012	壁土	漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
102	57	45	RA012-013		漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
103	57	45	RA012-013		漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
104	57	45	RA012-013		漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
105	57	45	RA013		漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
106	57	45	RA013		漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
107	57	45	RA013		漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
108	57	45	RA013		漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
109	57	45	RA013		漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
110	57	45	RA013		漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
111	57	45	RA013		漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
112	57	45	RA013		漆	11-底	底層	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
113	57	45	RA014	女	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
114	57	45	RA014	女	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
115	57	45	RA015		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
116	57	45	RA015		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
117	57	45	RA015		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
118	57	45	RA015		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
119	57	45	RA015		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
120	57	45	RA015		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
121	57	45	RA015		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
122	57	45	RA017		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
123	57	45	RA018		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
124	57	45	RA019-0402	か	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
125	57	45	RA020	か	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
126	57	45	RA021	か	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
127	57	45	RA022		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
128	57	45	RA022		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
129	57	45	RA022		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
130	57	45	RA022		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
131	57	45	RA022		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
132	57	45	RA022		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
133	57	45	RA022		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
134	57	45	RA024		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
135	57	45	RA024		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
136	57	45	RA024		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
137	57	45	RA024		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
138	57	45	RA025	版	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
139	57	45	RA025	版	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
140	57	45	RA027		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
141	57	45	RA027		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
142	57	45	RA027		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
143	57	45	RA027		漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
144	57	45	RA028	版	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
145	57	45	RA028	版	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
146	57	45	RA028	版	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
147	57	45	RA028	版	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
148	57	45	RA028	版	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
149	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
150	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
151	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
152	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
153	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
154	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
155	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
156	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
157	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
158	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
159	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
160	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
161	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
162	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
163	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
164	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
165	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半
166	57	45	RA029	小型漆	漆	口	突起、指刺、平行沈積羽状斑文、ミガキ	Ⅱ 3 (特2)	後期前半

No	原題	邦題	著者	邦訳	文庫の特長ほか	地名・原形	分類ほか	備考
249	69 49	11014 V-1 児童	深井 洋	劇	沈黙国形に連続的変異と詞義文	LR	1.3 (前巻)	後期前巻
250	69 49	11014 V-1 児童	シムエフ 深井 洋	劇	新入り話(海軍)130cm 其律16cm 音高25cm		分類前巻	後期
251	69 49	11020 児童	深井 洋	劇	平行沈黙語目録、内形詞文付巻		1.3 (前巻)	後期前巻
252	69 49	11021 児童	深井 洋	劇	新入り話、ミガキ、平行沈黙文、内形詞義	LR	1.2 (1, 2)	後期前巻
253	69 49	11022 V-1 児童	深井 洋	劇	直訳口語、平行沈黙文、内形詞義	LR	1.2 (前巻)	後期前巻
254	69 49	11023 V-1 児童	深井 洋	劇	直訳口語、再訳、沈黙	LR	1.1 (1, 1)	後期前巻
255	69 49	11024 児童	台付巻	台	聲帯下に詞義文	LR (0段巻)	1.2	後期前巻
256	69 49	11025 児童	沈口十郎 作1	作1	基音に沈黙現象		V.2	後期前巻
257	70 49	11026-250 児童	小笠原 門一	詞	和文、ミガキ		V.1	後期前巻
258	70 49	11027 V-V1-1 児童	深井 洋	詞	突発、新判詞、平行沈黙文		LR 1.0 (段巻)	1.3 (前巻)
259	70 49	11028 V-V1 児童	深井 洋	詞	大波状口語、和訳文	LR 1.0 (段巻)	1.3 (前巻)	後期前巻
260	70 49	11029 児童	山十郎 作1	作1	沈黙、ミガキ		V.2	後期前巻
261	70 49	11030 児童	深井 洋	詞	平行沈黙文	LR 1.0 (段巻)	1.2 (1, 2)	後期前巻
262	70 49	11031 児童	作1 土郎 作1	作1			V.2	後期前巻
263	70 49	11032 児童	深井 洋	詞	沈黙と連続する詞義、語群	LR	1.2 (1, 2)	後期前巻
264	70 49	11033 児童	深井 洋	詞	直訳口語、平行沈黙文	LR	1.2 (1, 2)	後期前巻
265	70 49	11034 V-V1 児童	香月 口	詞	積音発音、平行沈黙、強弱沈黙		1.3 (前巻)	後期前巻
266	70 49	11035 児童	深井 洋	詞	大波状口語6単語、平行沈黙文、ミガキ	LR	1.2 (1, 2)	後期前巻
267	70 49	11036 V-V1 児童	深井 洋	詞	山形発音、平行沈黙文	LR (0段巻)	0.2 (1, 2)	後期前巻
268	70 49	11037 V-V1 児童	深井 洋	詞	平行沈黙に連続的変異、和訳文		0.2 (前巻)	後期前巻
269	70 49	11038 V-250 V 児童	深井 洋	詞	沈黙に完全変異、組みのある積音		1.3 (前巻)	後期前巻
270	70 49	11039 V-250 V 児童	深井 洋	詞	平行沈黙に連続的変異		1.3 (前巻)	後期前巻
271	70 49	11040-250 V 児童	深井 洋	詞	平行沈黙に連続的変異、S字状の連続		1.2 (1, 2)	後期前巻
272	70 49	11041 児童	深井 洋	詞	積音発音の高級文(標記)		V.3	後期前巻
273	70 49	11042 児童	香月口	詞	平行沈黙、コブ		1.3 (前巻)	後期前巻
274	70 49	11043 児童	山十郎 作1	作1	新判詞、平行沈黙、ミガキ	無題	1.3 (前巻)	後期前巻
275	70 49	11044 児童	深井 洋	詞	大波状口語、口語に突発、ミガキ	LR (0段巻)	1.2 (1, 2)	後期前巻
276	70 49	11045 児童	深井 洋	詞	人漢口語、平行沈黙		1.2 (1, 2)	後期前巻
277	70 49	11046 児童	水島高 志生	詞	和訳(英語32)		分類前巻	後期
278	70 49	11047 児童	深井 洋	詞	山形発音、平行沈黙、和訳(和訳)	LR	1.2 (1, 2)	後期前巻
279	70 49	11048 児童	深井 洋	詞	2部 射の山形発音、平行沈黙文	LR	1.2 (1, 2)	後期前巻
280	70 49	11049 児童	深井 洋	詞	平行沈黙文、内外両ミガキ、積音孔	LR	1.2 (1, 2)	後期前巻
281	70 49	11050 V-V1 児童	深井 洋	詞	直訳口語、新判詞	LR	1.1	後期前巻
282	70 49	11051 V-V1 児童	深井 洋	詞	大波状口語、平行沈黙、内外両ミガキ		1.2 (1, 2)	後期前巻
283	70 49	11052 V-V1 児童	土要店 土郎 作1	作1	女服(既存巻22cm)		分類前巻	後期
284	70 49	11053 児童	沈口十郎 作1	作1	和文、ミガキ		V.2	後期
285	70 49	11054 児童	深井 洋	詞	積音、和訳		V.1	後期前巻
286	70 49	11055 児童	シムエフ 深井 洋	詞	直訳口語、和訳		分類前巻	後期
287	70 49	11056 V-V1 児童	深井 洋	詞	平行沈黙文	LR	1.2	後期前巻
288	70 49	11057 児童	深井 洋	詞	平行沈黙文、同形詞文付巻、連続詞義		1.3 (前巻)	後期前巻
289	70 49	11058 児童	深井 洋	詞	和訳、和訳、和訳	LR	1.3 (前巻)	後期前巻
290	70 49	11059 児童	深井 洋	詞	和訳、和訳	LR	1.3 (前巻)	後期前巻
291	70 49	11060 児童	シムエフ 深井 洋	詞	和訳、和訳		分類前巻	後期
292	70 49	11061 児童	十輪松 土郎 作1	作1	左胸(既存巻23cm)		分類前巻	後期
293	70 49	11062 児童	台付巻	台	和文、ミガキ		1.3 (A)	後期前巻
294	70 49	11063 V-V1 児童	深井 洋	詞	小波状口語、平行沈黙	LR	1.2 (1, 2)	後期前巻
295	70 49	11064 V-V1 児童	深井 洋	詞	直訳口語、和訳		2.0 (1, 2)	後期前巻
296	70 49	11065 V-V1 児童	深井 洋	詞	直訳口語、和訳		2.0 (1, 2)	後期前巻
297	70 49	11066 V-V1 児童	深井 洋	詞	直訳口語、和訳		2.0 (1, 2)	後期前巻
298	70 49	11067 V-V1 児童	深井 洋	詞	直訳口語、和訳		2.0 (1, 2)	後期前巻
299	70 49	11068 V-V1 児童	深井 洋	詞	直訳口語、和訳		2.0 (1, 2)	後期前巻
300	70 49	11069 V-V1 児童	台付巻	台	和文、70mm程度の孔あり(既存前)		1.3 (A)	後期前巻
301	70 49	11070 児童	深井 洋	詞	和訳、和訳、和訳、和訳	LR (0段巻)	1.2 (1, 2)	後期前巻
302	70 49	11071 児童	深井 洋	詞	和訳、和訳、和訳、和訳		1.2 (1, 2)	後期前巻
303	70 49	11072 児童	深井 洋	詞	和訳、和訳、和訳、和訳		2.0 (1, 2)	後期前巻
304	70 49	11073 児童	小笠原 門一	詞	平行沈黙文、コブ		1.3 (前巻)	後期前巻
305	70 49	11074 児童	小笠原 門一	詞	直訳口語、和訳、和訳、和訳		1.1	後期前巻
306	70 49	11075 児童	深井 洋	詞	和訳、和訳		V.3	後期前巻
307	70 49	11076 児童	深井 洋	詞	和訳、和訳	LR	V.3	後期前巻
308	70 49	11077-2p V-V1-1 児童	深井 洋	詞	大波状口語、平行沈黙文、ミガキ	LR	1.2 (1, 2)	後期前巻
309	70 49	11078 V-V1 児童	深井 洋	詞	小波状口語、平行沈黙文、三又文	LR	1.1 (1, 1)	後期前巻
310	70 49	11079 V-V1 児童	深井 洋	詞	小山形発音、平行沈黙文	LR (0段巻)	1.2 (1, 2)	後期前巻
311	70 49	11080 児童	深井 洋	詞	直訳口語、平行沈黙文	LR	1.2 (1, 2)	後期前巻
312	70 49	11081 児童	深井 洋	詞	直訳口語、平行沈黙文	LR	1.2 (1, 2)	後期前巻
313	70 49	11082 児童	小笠原 門一	詞	和訳、和訳		V.1	後期前巻
314	70 49	11083 児童	和	和	平行沈黙、和訳の沈黙		1.3 (前巻)	後期前巻
315	70 49	11084 児童	深井 洋	詞	直訳口語、和訳、内外両ミガキ		1.2 (1, 2)	後期前巻
316	70 49	11085 2e 児童	山十郎 作1	作1	和文、和訳、和訳、和訳		V.2	後期前巻
317	70 49	11086 児童	深井 洋	詞	平行沈黙文、和訳文	LR	1.2 (1, 2)	後期前巻
318	70 49	11087 V-V1 児童	深井 洋	詞	同形詞文付巻、平行沈黙	LR (0段巻)	1.2 (1, 2)	後期前巻
319	70 49	11088 V-V1 児童	山十郎 作1	作1	和訳、和訳		V.2	後期前巻
320	74 51	11089 児童	深井 洋	詞	和訳、和訳		V.1	後期前巻
321	74 51	11090 児童	深井 洋	詞	和訳、和訳		V.1	後期前巻
322	74 51	11091 児童	和	和	和訳、和訳		V.1	後期前巻
323	74 51	11092 児童	和	和	和訳、和訳		V.1	後期前巻
324	74 51	11093 児童	深井 洋	詞	平行沈黙文	LR	1.2 (1, 2)	後期前巻
325	74 51	11094 児童	台付巻	台	和訳、和訳		1.2	後期前巻
326	74 51	11095 児童	山十郎 作1	作1	和訳、和訳		V.2	後期前巻
327	74 51	11096 児童	山十郎 作1	作1	和訳、和訳		1.2 (1, 2)	後期前巻
328	74 51	11097 児童	深井 洋	詞	和訳、和訳		V.1	後期前巻
329	74 51	11098 児童	深井 洋	詞	和訳、和訳	LR	1.3 (前巻)	後期前巻
330	74 51	11099 児童	深井 洋	詞	和訳、和訳	LR	1.2 (前巻)	後期前巻
331	74 51	11100 児童	深井 洋	詞	和訳、和訳	LR (0段巻)	1.2 (1, 2)	後期前巻

No.	原題	出土地	図種	部位	文種の特徴ほか	原文・原巻	分類ほか	時期	
416	80	日B54	V	巻頭	口 長い山形突起、細く長い通気筒状、平行沈積		目3(巻首)	後期前期	
416	80	日B4m	V	巻頭	巻? 口		目3(巻1中)	後期前期	
417	80	日B4n	V	巻頭	口 山形突起、それに沿う平行沈積	L.R	目1(巻頭)	後期前期	
418	80	日B14	V	巻頭	口 形状不明、平行沈積、沈積による崩壊	L.R	目1(巻頭?)	後期前期	
419	80	日B14	V	巻頭	口 山形突起	L.R	目1(巻頭?)	後期前期	
420	80	日B14	4s	巻頭	口 山形突起、内外面ミガキ、平行沈積、層状	L.R	目1(巻頭?)	後期前期	
421	80	日B14	V	巻頭	口 形状不明、平行沈積、交互層に内傾角	目1(巻頭多)	目2(目2)	後期前期	
422	80	日B4s	巻頭	口 内外面ミガキ、平行沈積、層状			目2(目2?)	後期前期	
423	80	日B4	V	巻頭	口 3ミガキ、先傾り		目2(巻頭?)	後期前期	
424	80	日B4	V	巻頭	口 コブ、平行沈積、大傾角	L.R?	目3(巻頭?)	後期前期	
425	80	日B4w	V	巻頭	口 層状に層状沈積の痕跡		V.3	後期前-中期	
426	80	日B4	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状、層状	R.L	目3(巻頭?)	後期前期	
427	80	日B4	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	R.L	目3(巻頭?)	後期前期	
428	80	日B4	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
429	80	日B4	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
430	80	日B5n	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
431	80	日B6	5p	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	V.1	後期前-中期	
432	80	日B5p	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目1(巻頭?)	後期前期	
433	80	日B5q	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目2(目2)	後期前期	
434	80	日B5	3u	V	巻頭	口 山形突起、内傾角	L.R	目3(巻頭?)	後期前期
435	80	日B5	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
436	80	日B5	6	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期
437	80	日B5	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
438	80	日B5w	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
439	80	日B5	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
440	80	日B5	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
441	80	日B5	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
442	80	日B5	5y	6s	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	V.2	後期前	
443	80	日B5	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
444	80	日B5	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
445	80	日B5	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
446	80	日B5	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
447	80	日B5m	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R?	目2(C1中?)	後期前期	
448	80	日B5r	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	R.L	目1(巻頭?)	後期前期	
449	80	日B6	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
450	80	日B6	7x	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期
451	80	日B6	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
452	80	日B6	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
453	80	日B6	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
454	80	日B6	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
455	80	日B6	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
456	80	日C10	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
457	80	日C10	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
458	80	日C10	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
459	80	日C10	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
460	80	日C10	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
461	80	日C10	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
462	80	日C10	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
463	80	日C10	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
464	80	日C11	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
465	80	日C12	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
466	80	日C12	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
467	80	日C12	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
468	80	日C12	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
469	80	日C14	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
470	80	日C15	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
471	80	日C15	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
472	80	日C15m	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R?	V.4	後期前	
473	80	日C15	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
474	80	日C15	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
475	80	日C15	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
476	80	日C15	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
477	80	日C15	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
478	80	日C16	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
479	80	日C16	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
480	80	日C16	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
481	80	日C16	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
482	80	日C17	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
483	80	日C18	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
484	80	日C18	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
485	80	日C18	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
486	80	日C18	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
487	80	日C18	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
488	80	日C18	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
489	80	日C19	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
490	80	日C19	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
491	80	日C19	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
492	80	日C19	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
493	80	日C19	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
494	80	日C19	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
495	80	日C19	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
496	80	日C19	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
497	80	日C20	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
498	80	日C20	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
499	80	日C20	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	
500	80	日C20	V	巻頭	口 突起、層状、層状、層状	L.R	目3(巻頭?)	後期前期	

No.	編年	別	出上地点	器種	形状	文様の特徴ほか	施文・唐草	分類ほか	時期
498	88	56	II C20	寶篋三尊	漆鉢	口一刷	横線, 口部彫彫		V3
499	88	56	II C20	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口内に染紙, 平行沈線	L.R	Ⅱ2(C1)
500	88	56	II C21a	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	彫彫, ミガキ		V3
501	88	56	II C21b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	窪込内筋横文	R.L	Ⅱ1
502	88	56	II C21c	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	沈線	R.L?	V1
503	88	56	II C21e	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	沈線に刺突	R.L	Ⅱ2?
504	88	56	II C21m	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	沈線	L.R	V3
505	88	56	II C21o	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	底 成部外面に刺?	横筋1	V3
506	88	56	II C21p	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	底	R.L	V3
507	89	56	II C22	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	横筋	横筋1	V3
508	89	56	II C22g	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	沈線内筋内筋横文	R.L	V3
509	89	56	II C22h	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口唇上に刺み, 平行沈線	L.R?	Ⅱ1か2
510	89	56	II C23	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	横筋	L.R?	V3
511	89	56	II C23.1	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	底	R.L	V3
512	89	56	II C25m	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	分類別
513	89	56	II C25n	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	Ⅱ2?
514	89	56	II C25o	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	Ⅱ1(Ⅱ)
515	89	56	II C3a-5d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	Ⅱ1(Ⅱ)
516	89	56	II C3a-5d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	Ⅱ1(Ⅱ)
517	89	56	II C3a-5d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	Ⅱ1(Ⅱ)
518	89	56	II C3a-5d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
519	89	56	II C3a-5d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
520	89	56	II C3a-5d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
521	89	56	II C4a	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	L.R
522	89	56	II C4b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	L.R
523	89	56	II C4b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	L.R
524	89	56	II C4b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
525	89	56	II C4b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
526	90	57	II C1b-5c	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	L.R
527	90	57	II C4b-5c	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
528	90	57	II C4b-5c	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
529	90	57	II C4b-5c	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
530	90	57	II C4b-5c	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
531	90	57	II C4b-5c	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
532	90	57	II C4e-5d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
533	90	57	II C4e-5d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
534	90	57	II C4d-5d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
535	91	57	II C4d-5d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
536	91	57	II C4d-5d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
537	91	57	II C5a	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
538	91	57	II C5b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
539	91	57	II C5b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
540	91	57	II C5b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
541	91	57	II C5b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
542	91	57	II C5b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
543	91	57	II C5c	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
544	91	57	II C5d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
545	92	58	II C5d-6f	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
546	92	58	II C6b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
547	92	58	II C6c	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
548	92	58	II C6d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
549	92	58	II C6d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
550	92	58	II C6d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
551	92	58	II C6d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
552	92	58	II C6d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
553	92	58	II C6d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
554	93	58	II C6d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
555	93	58	II C6e	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
556	93	58	II C6f-8h	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L?
557	93	58	II C6f-8h	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L?
558	93	58	II C6f-8h	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L?
559	93	58	II C6f-8h	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L?
560	93	58	II C7a	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
561	93	58	II C7b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
562	93	58	II C7d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
563	93	58	II C7d	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
564	93	58	II C7e	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
565	93	58	II C8c-8f	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
566	93	58	II C9b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
567	94	59	II C9e	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
568	94	59	II C9b	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
569	94	59	II C9c-10h	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
570	94	59	II C9i	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
F1	111	67	R6001	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L
F2	111	67	R6006	宝篋三尊	漆鉢	口一刷	口部, 突筋	横文(口径2.5cm, 底径1.0cm, 器高3.5cm)	R.L

第6表 石器・石製品観察表

〔C〕は複製、写は写真複製

品番	種別	出土地点	器種	形状	材質	長さ(mm)	幅	高さ	重量(g)	備考
S1	?	RA021	石鏃	尖形	頁岩	4.50	1.80	0.50	3.26	複製
S2	?	RA004 P1(土層)	石鏃	基部欠	頁岩	(2.50)	1.80	0.60	1.77	有体
S3	?	LA24a 埋-埋層	石鏃	尖形	頁岩	2.63	1.45	0.45	1.23	複製
S4	?	LA24a 埋-埋層	石鏃	尖形	頁岩	2.25	1.45	0.35	0.79	複製
S5	?	EC13 埋-埋層	石鏃	尖形	頁岩	29.70	11.81	4.83	19.83	石鏃(複製)
S6	?	EC13g 埋-埋層	石鏃	尖形	頁岩	28.65	16.07	4.56	1.51	石鏃(複製)
S7	?	BB1w-2w 埋-埋層	石鏃	尖形	頁岩	42.28	12.79	4.02	2.37	石鏃
S8	?	BB1e-u 埋-埋層	石鏃	基部欠	頁岩	(24.24)	17.14	3.78	0.50	石鏃(複製) 基部にアスファルト付
S9	?	BB1v 埋-埋層	石鏃	基部欠	頁岩	(2.20)	1.35	0.45	0.86	有体
S10	?	IF25a 埋層	石鏃	基部欠	頁岩	(2.15)	1.60	0.45	0.87	有体
S11	?	BB2-2y-TC3a 埋層	石鏃	1/2	頁岩	(15.81)	10.17	3.52	0.60	下層有体
S12	?	LA04 埋-埋層	石鏃	尖形	頁岩	3.63	1.30	0.35	1.16	複製
S13	?	BB2-3v 埋-埋層	石鏃	尖形	頁岩	25.94	11.99	5.11	1.39	石鏃(複製)
S14	?	RA001 埋層	石鏃	尖形	頁岩	2.45	1.80	0.45	1.32	有体
S15	?	RA001 埋層	石鏃	尖形	頁岩	30.25	23.35	5.98	2.86	石鏃(複製)
S16	?	RD101 埋層	石鏃	尖形	頁岩	6.70	2.80	1.30	17.77	複製
S17	?	BB2-3y-EC3a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	63.84	12.84	7.00	10.53	複製
S18	?	RA001 Q2埋F	石鏃	基部欠	頁岩	(4.00)	15.53	1.50	22.42	複製
S19	?	BB0z 埋層	石鏃	基部欠	頁岩	4.00	1.60	1.10	13.81	複製
S20	?	BB0z 埋-埋層	石鏃	基部欠	頁岩	3.60	1.50	1.35	13.70	複製
S21	?	BB0z 埋層	石鏃	基部欠	頁岩	4.20	(6.90)	1.00	20.18	複製
S22	?	BB17f 埋層	石鏃	2/3	頁岩	33.15	37.22	8.84	6.28	つまみ形にアスファルト付
S23	?	BB18f 埋層	石鏃	基部欠	頁岩	56.06	65.51	16.22	47.68	複製
S24	?	RA001 埋層	石鏃	基部欠	頁岩	33.39	45.44	10.82	16.20	複製
S25	?	RA001 埋層	石鏃	尖形	頁岩	5.30	2.65	1.15	12.24	石鏃(複製)
S26	?	RA001 Q1埋F	石鏃	尖形	頁岩	(2.60)	2.30	0.60	3.38	
S27	?	RA004 Q2埋上	石鏃	尖形	頁岩	4.30	3.30	1.00	12.47	
S28	?	RA004 Q2埋上	石鏃	尖形	頁岩	2.75	1.75	0.75	3.66	
S29	?	LA23a 埋-埋層	石鏃	尖形	頁岩	(6.00)	(5.00)	3.60	1.39	複製
S30	?	BB21g 埋層	石鏃	基部欠	頁岩	7.20	2.30	1.30	15.44	複製
S31	?	BB25n 埋層	石鏃	尖形	頁岩	50.22	11.61	12.26	21.01	
S32	?	IF101 埋層(埋層)	石鏃	尖形	頁岩	(2.45)	1.25	0.70	3.21	
S33	?	BB13w 埋層	石鏃	尖形	頁岩	28.42	(30.25)	6.16	4.42	
S34	?	IF211 V-V埋層	石鏃	尖形	頁岩	3.20	3.30	1.15	11.15	
S35	?	IF225a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	5.00	3.60	2.00	55.81	
S36	?	EC35a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	2.65	3.40	1.20	19.29	
S37	?	BB2-2y-EC3a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	41.29	27.97	12.62	8.72	1埋・2埋
S38	?	RA001 埋層	石鏃	尖形	頁岩	(30.50)	(20.51)	(12.77)	7埋	
S39	?	RA004 Q2埋上	石鏃	尖形	頁岩	2.25	3.80	0.90	5.58	
S40	?	IF191y 埋層	石鏃	尖形	頁岩	39.31	14.22	5.30	1.57	2埋
S41	?	RA000 埋層	石鏃	尖形	頁岩	4.55	2.65	1.05	12.78	
S42	?	IF20a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	5.42	3.83	1.50	24.79	
S43	?	IF21a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	5.70	2.20	1.10	10.21	
S44	?	IF24a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	2.50	1.70	1.15	10.31	
S45	?	BB2-3w-3v V埋層	石鏃	1/2	頁岩	29.55	(15.46)	12.59	5.49	内層 2埋
S46	?	BB11w-2w 埋層	石鏃	尖形	頁岩	13.35	21.70	20.14	5.72	中イロ灰・内層
S47	?	IF211 埋層	石鏃	尖形	頁岩	174.00	122.00	48.00	33.74	1埋
S48	?	EC13a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	241.10	133.54	112.08	233.56	
S49	?	RA002 s1	石鏃(複製)	尖形	頁岩	174.00	99.34	13.38	106.11	
S50	?	BB125a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	149.30	105.72	25.96	333.25	
S51	?	EC9 埋層	石鏃	尖形	頁岩	153.68	91.08	33.30	391.27	
S52	?	BB2a-v 埋層(埋層)	石鏃	尖形	頁岩	104.41	63.04	38.03	231.11	
S53	?	BB17v 埋層	石鏃	尖形	頁岩	41.50	7.50	3.75	403.90	複製
S54	?	BB161 埋層	石鏃	尖形	頁岩	125.32	62.66	30.43	223.66	
S55	?	BB17f 埋層	石鏃	尖形	頁岩	121.84	72.73	24.78	269.61	
S56	?	RA004 Q1埋上	石鏃	尖形	頁岩	7.60	4.55	2.80	121.46	
S57	?	BB161 埋層	石鏃	尖形	頁岩	132.88	56.25	27.88	319.81	
S58	?	LA22a 埋-埋層	石鏃	尖形	頁岩	8.10	4.30	1.80	90.81	
S59	?	IF24a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	(9.70)	7.23	2.25	129.31	
S60	?	IF25 V-V埋層	石鏃	尖形	頁岩	(10.40)	(4.20)	(1.30)	39.10	
S61	?	BB0z 埋層	石鏃	尖形	頁岩	10.00	5.15	2.99	138.12	複製
S62	?	埋層(不明)	石鏃	尖形	頁岩	15.00	(3.40)	1.80	43.68	複製
S63	?	IF231g V-V埋層	石鏃	尖形	頁岩	4.70	3.35	0.90	8.75	複製
S64	?	BB10c 埋層	石鏃	尖形	頁岩	130.04	119.14	43.40	1075.79	複製-片埋
S65	?	IF225a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	95.68	31.70	45.61	674.99	複製
S66	?	RA002 埋層(複製)	石鏃	尖形	頁岩	127.38	122.31	40.68	1094.15	複製
S67	?	RA004 Q1埋上	石鏃	尖形	頁岩	9.10	10.35	4.00	306.47	
S68	?	RA004 Q1埋上	石鏃	尖形	頁岩	10.25	7.70	7.80	756.37	
S69	?	RA003 埋層	石鏃	尖形	頁岩	108.11	86.71	36.00	597.30	複製
S70	?	BB2-3-4v 埋層(埋層)	石鏃	尖形	頁岩	163.00	80.20	47.80	759.89	複製
S71	?	EC3a-4d 埋層	石鏃	尖形	頁岩	79.94	29.86	30.43	241.48	3埋
S72	?	BB9d 埋層	石鏃	尖形	頁岩	139.94	55.47	32.97	370.14	複製は複製
S73	?	RA008 埋上	石鏃	尖形	頁岩	13.80	4.50	1.60	471.59	
S74	?	RA003 埋上	石鏃	尖形	頁岩	10.10	6.50	4.30	421.25	
S75	?	RD01 埋層	石鏃	尖形	頁岩	13.25	3.90	1.25	81.28	
S76	?	IF21 埋上(埋層)	石鏃	尖形	頁岩	128.51	75.30	31.37	479.39	片埋
S77	?	IF225 V-V埋層	石鏃	尖形	頁岩	(11.20)	5.40	2.50	167.05	
S78	?	LA22a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	11.60	6.30	2.50	254.67	
S79	?	IF23 埋層	石鏃	尖形	頁岩	19.10	11.30	6.50	759.89	
S80	?	RA004 Q2埋上	石鏃	尖形	頁岩	11.90	10.10	7.70	1223.58	
S81	?	RA008 埋上	石鏃	尖形	頁岩	9.20	7.10	4.80	460.37	
S82	?	RA008 埋上	石鏃	尖形	頁岩	9.05	7.85	5.10	519.58	
S83	?	RA008 埋上	石鏃	尖形	頁岩	10.15	8.00	4.85	573.23	
S84	?	RA008 埋上(複製)	石鏃	尖形	頁岩	10.40	9.05	5.10	829.81	
S85	?	RD04 埋層	石鏃	尖形	頁岩	8.80	6.65	3.85	336.19	
S86	?	IF21 埋上(埋層)	石鏃	2/3	頁岩	159.50	89.27	36.61	792.56	2埋
S87	?	LA25a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	7.10	6.35	4.30	233.28	
S88	?	IF225 V-V埋層	石鏃	尖形	頁岩	11.10	6.50	4.00	109.93	
S89	?	IF225a 埋層	石鏃	尖形	頁岩	10.59	8.00	4.60	368.10	
S90	?	IF231y-25a V埋層(複製)	石鏃	尖形	頁岩	170.60	107.47	36.11	973.67	1埋

図説(口) 記	出土地点	部 種	残存状態	石 質	長さ(mm)	幅	厚さ	重量(g)	備 考
S91	○ 地点不明	磨石(1.能石?)	劣劣	凝灰質砂岩	9.65	7.45	3.80	294.03	
S92	○ RA001 床面	石皿	1.3以下	花崗岩	667.70	64.15	36.46	117.82	
S93	○ RA002 床面w2	白石	劣劣	花崗	438.00	23.00	149.00	14490.00	
S94	○ RA003 床面w3	白石	劣劣	花崗	237.00	204.00	22.79	4500.00	
S95	○ RA004 (3層上)	白石	1.3以下	砂岩	13.10	18.55	17.10	619.35	
S96	○ RA004 床面	白石	劣劣	砂岩	23.65	28.15	7.10	13500.00	
S97	○ RA004 床面(四角あり)	白石	劣劣	砂岩	17.83	34.30	10.70	18000.00	
S98	○ RA008 床面	白石	劣劣	砂岩	37.70	19.05	11.10	10000.00	
S99	○ RA008	白石	劣劣	砂岩	32.50	30.00	3.90	2542.82	
S100	○ RA008 埋土上段	白石	1.3以下	砂岩	11.90	10.25	3.90	422.89	ね組の一部
S101	○ PP002	白石(磨面あり)	劣劣	凝灰質砂岩	23.75	14.10	10.40	2100.00	
S102	○ RA001 埋土	白石	3.4	花崗	27.25	16.70	9.10	6290.00	3分製
S103	○ RA021 1B21w-22w 埋土	白石	劣劣	砂岩	503.00	229.00	125.00	19800.00	
S104	○ RA021 1B1w-2w V層埋土(埋土層上?)	白石+能石?	劣劣	花崗	162.50	128.81	37.97	1252.81	
S105	○ RA021 埋土	白石	1.3以下	砂岩	7.30	16.10	13.00	48.41	
S106	○ RA021 V-埋土	白石	1.2	花崗	12.75	10.25	4.40	625.48	2+あり
S107	○ RA021 V-埋土	白石	1.2以下	砂岩	22.90	16.90	3.10	1680.70	表面四角大い
S108	○ RA021 V埋土	石割製	1.2	凝灰岩	132.97	41.65	9.92	84.85	
S109	○ RA021 V埋土(埋土層上?)	花崗	1.3以下	凝灰岩	156.50	136.00	14.37	76.36	

VI 自然科学的分析

1 平成 21 年度 小屋野遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

小屋野遺跡は、岩手県盛岡市川日第 5 地割 1122-82 (北緯 39° 40' 13", 東経 141° 13' 58") に所在し、築川左岸に形成された低位段丘と北上高地西縁からのびる小規模扇状地上に立地する。測定対象試料は、RA002 竪穴住居出土木炭 (No. 1 : IAAA-91971)、RF002 焼土遺構出土木炭 (No. 2 : IAAA-91972)、RF009 焼土遺構出土木炭 (No. 3 : IAAA-91973)、RF015 炭化物集申出土木炭 (No. 4 : IAAA-91974)、RF019 カマド状遺構出土木炭 (No. 5 : IAAA-91975)、合計 5 点である。

2 測定の意義

遺構の形成時期を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理 (AAA : Acid Alkali Acid) により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液 (80°C) を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°C で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500°C で 30 分、850°C で 2 時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO₂) を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを製作する。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

4 測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。
- (2) ¹⁴C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。¹⁴C 年代と誤差は、1 桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、¹⁴C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ¹⁴C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により ¹³C/¹²C を測定した場合には表中に (AMS) と注記する。

- (4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04データベース(Reimer et al 2004)を用い、OxCalv4.1較正プログラム(Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001)を使用した。

6 測定結果

小野野遺跡基本層序IV層下位で検出されたRA002堅穴住居出土木炭No1の ^{14}C 年代は $2680 \pm 30\text{yrBP}$ 、RF002焼土遺構出土木炭No2は $2490 \pm 30\text{yrBP}$ である。No1は縄文時代晩期中葉頃、No2は縄文時代から弥生時代への移行期頃に相当する年代値となっている。

基本層序IV層中位で検出されたRF009焼土遺構出土木炭No3の ^{14}C 年代は $2410 \pm 30\text{yrBP}$ 、RF015炭化物集中出土木炭No4は $2270 \pm 30\text{yrBP}$ である。No3は縄文時代から弥生時代への移行期頃に相当する年代値で、暦年較正年代 (1σ) はNo2に比べてやや新しい年代範囲の確率が高い。No4は弥生時代前期から中期頃に当たる。

基本層序III層上面で検出されたRF019カマド状遺構出土木炭No5の ^{14}C 年代は $580 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) で14世紀頃の範囲が示されている。

炭素含有率はすべて70%前後の十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-91971	No 1	RA002堅穴住居 伊1層	木炭	AAA	-30.29 ± 0.64	$2,680 \pm 30$	71.61 ± 0.29
IAAA-91972	No 2	RF002焼土遺構 1層	木炭	AAA	-26.82 ± 0.59	$2,490 \pm 30$	73.34 ± 0.28
IAAA-91973	No 3	RF009焼土遺構 1層	木炭	AAA	-27.82 ± 0.57	$2,410 \pm 30$	74.07 ± 0.29
IAAA-91974	No 4	RF015炭化物集中 1層	木炭	AAA	-24.43 ± 0.48	$2,270 \pm 30$	75.43 ± 0.29
IAAA-91975	No 5	1号カマド状遺構 最下位炭化物層	木炭	AAA	-27.83 ± 0.59	580 ± 30	93.07 ± 0.33

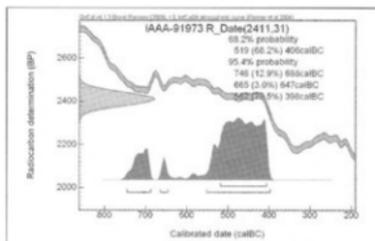
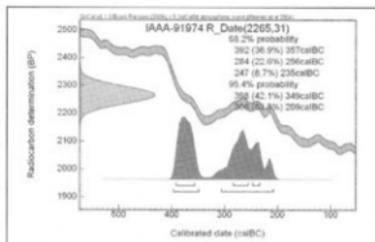
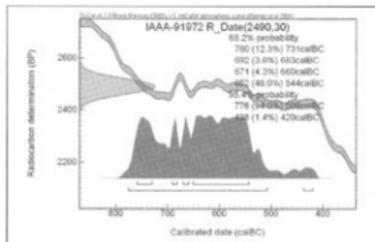
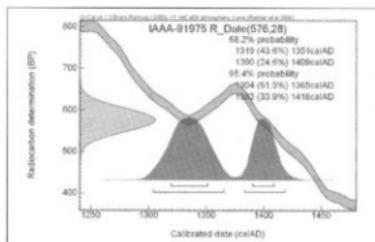
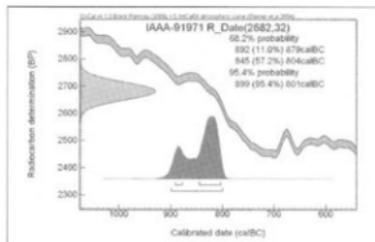
[#3291]

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-91971	$2,770 \pm 30$	70.83 ± 0.27	$2,682 \pm 32$	892BC - 879BCV 845BC - 804BC (57.2%)	899BC - 801BC (95.4%)
IAAA-91972	$2,520 \pm 30$	73.07 ± 0.27	$2,490 \pm 30$	760BC - 731BC (12.3%) 692BC - 683BC (3.6%) 671BC - 660BC (4.3%) 652BC - 544BC (48.0%)	776BC - 509BC (94.0%) 438BC - 420BC (1.4%)
IAAA-91973	$2,460 \pm 30$	73.64 ± 0.28	$2,411 \pm 31$	519BC - 406BC (68.2%)	746BC - 688BC (12.9%) 665BC - 617BC (3.0%) 552BC - 398BC (79.5%)
IAAA-91974	$2,260 \pm 30$	75.52 ± 0.28	$2,265 \pm 31$	392BC - 357BC (36.9%) 284BC - 256BC (22.6%) 247BC - 235BC (8.7%)	398BC - 349BC (42.1%) 306BC - 209BC (53.3%)
IAAA-91975	620 ± 30	92.53 ± 0.31	576 ± 28	1319AD - 1351AD (43.6%) 1390AD - 1409AD (24.6%)	1304AD - 1365AD (61.5%) 1383AD - 1418AD (33.9%)

[参考値]

参考文献

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37 (2) , 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43 (2A) , 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43 (2A) , 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058



[参考] 暦年較正年代グラフ

2 平成 22 年度 小屋野遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

小屋野遺跡は、岩手県盛岡市川目小屋野地内 (北緯39° 40' 12", 東経141° 14' 00") に所在する。測定対象試料は、5号住出土木炭 (1 : IAAA-101967)、53号土坑出土木炭 (2 : IAAA-101968) の合計2点である (表1)。

* 2~5は省略

6 測定結果

5号住床面出土木炭の¹⁴C年代は3070±30yrBPである。暦年較正年代 (1σ) は1395~1312cal BCの範囲で、縄文時代後期後葉~晩期初頭頃に相当する。出土土器の型式に比べて、やや新しい値となっている。試料となった木炭は床面から出土しているが、柱材のようなあり方ではないと考えられている。

53号土坑埋土中~下位出土木炭の¹⁴C年代は3420±30yrBPである。暦年較正年代 (1σ) は1754~1683cal BCの範囲で示され、縄文時代後期中葉頃に相当する。

試料の炭素含有率はいずれも60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1

測定番号	期別	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-101967	1	遺構: 5号住 層位: 床面	木炭	AAA	-26.63 ± 0.45	3,070 ± 30	68.24 ± 0.24
IAAA-101968	2	遺構: 53号土坑 層位: 埋土中~下位	木炭	AAA	-23.42 ± 0.7	3,420 ± 30	65.35 ± 0.24

[#3927]

表2

測定番号	δ ¹³ C補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-101967	3,100 ± 30	68.01 ± 0.23	3,070 ± 28	1395calBC - 1312calBC (68.2%)	1412calBC - 1268calBC (95.4%)
IAAA-101968	3,390 ± 30	65.56 ± 0.22	3,417 ± 29	1754calBC - 1683calBC (68.2%)	1871calBC - 1846calBC (4.8%) 1810calBC - 1804calBC (0.7%) 1776calBC - 1630calBC (89.9%)

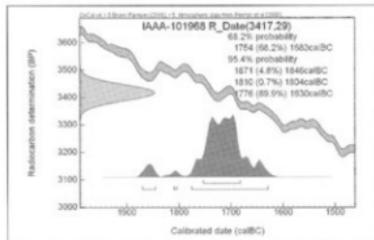
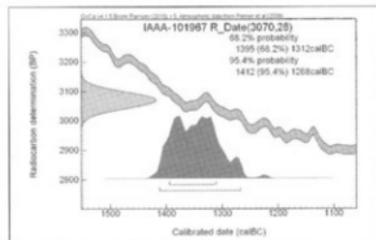
[参考値]

文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19 (3) , 355-363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1) , 337-360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51 (4) , 1111-1150



[参考] 暦年較正年代グラフ

3 岩手県盛岡市小屋野遺跡出土テフラの同定について

弘前大学大学院・理工学研究所 柴 正敏

岩手県盛岡市小屋野遺跡より採集された、火山ガラスを含むテフラサンプル2試料について、以下の観察・分析を行った。

これら試料について、超音波洗浄器を用いて水洗し、粘土鉱物など数マイクロメートル以下の粒子を除去した後、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの有無、火山ガラスが存在する場合にはその形態、構成鉱物の種類を観察・記載した。

火山ガラスは、その形態、屈折率、化学組成、共存鉱物などにより給源火山を推定することができる(町田・新井, 2003; 青木・町田, 2006)。火山ガラスの化学組成を決定する方法として、近年、電子プローブマイクロアナライザー(以下EPMA)が用いられるようになってきた。本報告では、2試料の火山ガラスについてEPMA分析を行った。使用したEPMAは弘前大学・機器分析センター所属の日本電子製JXA-8800RL、使用条件は加速電圧15 kV、試料電流 7×10^{-9} アンペアである。補正計算はZAF法に従った。

本遺跡より採集されたテフラより見出された火山ガラス及びその形態、構成鉱物は以下の通りである。

- (1) テフラサンプル①(ⅢC1nグリッド、Ⅲ層): 火山ガラス(軽石型、バブルウォール型)、褐色ガラス(オプシディアン)、斜長石、石英、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱。火山ガラスは主に軽石型よりなる。
- (2) テフラサンプル②(ⅡC7gグリッド、Ⅶb層): 火山ガラス(軽石型、バブルウォール型)、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱。火山ガラスは主に軽石型よりなる。

ガラスのEPMA分析値(表1及び2)に示されるように、青木・町田(2006)のガラス組成データベースとの比較から、テフラサンプル①のガラスは十和田aテフラ、一方、テフラサンプル②のガラスは十和田中掇テフラのそれに帰属される可能性が極めて高い。

(引用文献)

- 青木かおり・町田 洋 (2006)、日本に分布する第四紀後期広域テフラの主元素組成 — K2O-TiO2間によるテフラの識別。地質調査研究報告、第57巻、第7/8号、239-258。
- 町田 洋・新井房夫 (2003)、新編火山灰アトラス — 日本列島とその周辺。— 東京大学出版会、pp.336。

表1. 盛岡市小屋野遺跡、テフラサンプル①、ⅢC1nグリッド、Ⅲ層

	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total	N	EPMA
最小	75.72	0.22	12.01	1.43	0.04	0.34	1.81	3.36	1.2			
最大	78.06	0.49	13.28	2.06	0.14	0.54	2.35	4.39	1.42			
平均	77.53	0.33	12.47	1.71	0.09	0.41	2.01	4.16	1.3	99.7	1	WDS
標準偏差	0.5	0.1	0.3	0.1	0	0	0.1	0.3	0.1	7	9	

青木・町田(2006) To-a

Sample ID=35	77.75	0.36	12.73	1.62	0.09	0.38	1.81	3.9	1.37	98.4	1	WDS
Sample ID=36	77.69	0.36	12.74	1.68	0.09	0.35	1.8	3.99	1.31	98.5	3	WDS
Sample ID=37	76.17	0.42	13.41	1.89	0.09	0.38	1.99	4.08	1.56	92.8	9	WDS

* FeO* : 鉄はすべてFeOとした。WDS : 波長分散型EPMA、To-a : 十和田テフラ、N : 分析ポイント数を表す。

表2. 盛岡市小屋野遺跡、テフラサンプル②、ⅡC7gグリッド、Ⅵ層

	SiO ₂	TiO ₂	Al ₂ O ₃	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na ₂ O	K ₂ O	Total	N	EPMA
最小	75.34	0.34	12.92	2.04	0.04	0.47	2.37	3.23	1.13			
最大	75.97	0.56	13.63	2.36	0.15	0.67	2.88	4.24	1.44			
平均	75.7	0.43	13.26	2.2	0.08	0.59	2.62	3.89	1.22	99.7	1	WDS
標準偏差	0.2	0	0.2	0.1	0	0.1	0.1	0.3	0.1	6	8	

青木・町田(2006) To-Cu

Sample ID=38	75.36	0.43	13.65	2.35	0.11	0.52	2.35	4.01	1.22	98.3	1	WDS
標準偏差	0.6	0	0.3	0.2	0	0	0.1	0.1	0	8	1	

* FeO* : 鉄はすべてFeOとした。WDS : 波長分散型EPMA、To-Cu : 十和田中継テフラ、N : 分析ポイント数を表す。

4 小屋野遺跡から出土した炭化種実

吉川純子（古代の森研究会）

(1) はじめに

小屋野遺跡は盛岡市川目の粟川により形成された河岸段丘上に位置する縄文時代以降の遺跡であり、縄文時代後期の竪穴住居跡、中世のカマド状遺構などが検出されている。当時の植物利用状況を調査する目的で、11試料の炭化種実の分析を行った。

(2) 同定結果および考察

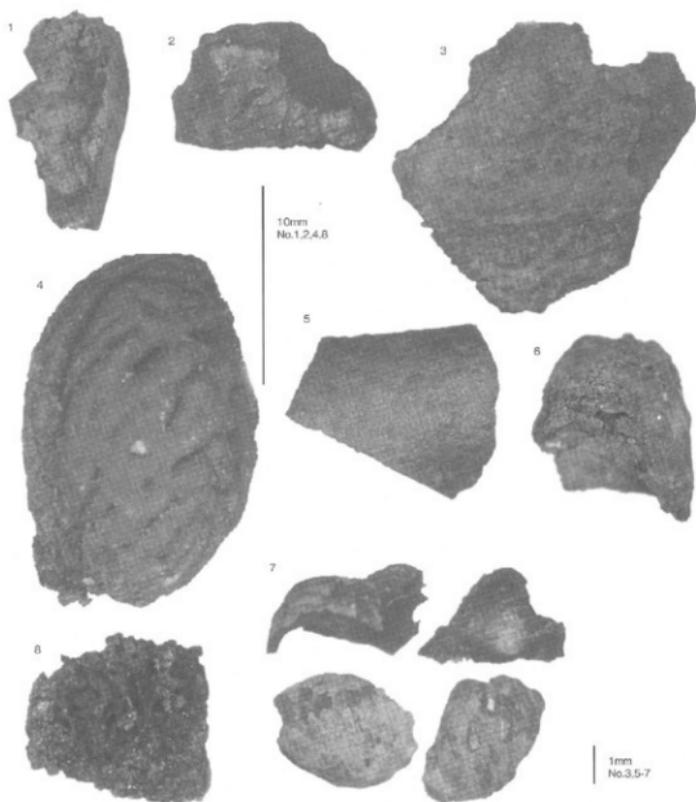
同定結果を表1に示す。縄文時代後期からはオニグルミ、トチノキ、クリ及びブナ科果皮、イタヤカエデを出土した。縄文時代後期の可能性がある焼土からはオニグルミ、トチノキ、ミズキを出土した。弥生時代の可能性がある焼上及び炭化物集中からはクリ及びブナ科、トチノキ、オニグルミを出土した。中世のカマド状遺構からはオニグルミ、トチノキとモモの完形核を出土した。

表1 小屋野遺跡から出土した炭化種実

分類群	時期 試料番号 遺構 出土部位・層位	縄文時代後期		縄文時代 晩期	縄文時代晩期～弥生時代						弥生時代	中世	
		RF001土器 竪穴住居跡	BC1 グリッド	RA002 竪穴住居跡	1	4	5	6	7	9	8	10	11
		1層	本遺跡1層内	加1層	1層	2層	1層	RF009 焼土遺構	RF010 焼土遺構	RF016 炭化物集中	RF015 炭化物集中	RF019 カマド状遺構	RF020 カマド状遺構
オニグルミ	炭化内果皮小破片	16	7	15	4	8	-	4	-	-	-	-	2
クリ	炭化果皮小破片	-	1	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-
	炭化丁嚢小破片	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
ブナ科	炭化果皮小破片	-	4	-	-	-	25	-	-	-	-	-	-
心毛	炭化粘完形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
トチノキ	炭化強度小破片	7	-	1	-	3	3	13	3	2	-	-	20
イタヤカエデ	炭化種子破片	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ミズキ	炭化内果皮破片	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
不明炭化物		-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	1	1

縄文時代後～晩期はオニグルミがやや多く、トチノキとクリ、ブナ科を少量出土したことからこれらの利用があったと考えられる。近隣の戸仲遺跡では縄文晩期の柱穴状遺構からコナラ属やトチノキの炭化種実が検出され、堅果類の利用という点において出土傾向がやや類似する。縄文時代中期後半頃からのトチノキの利用は東北を中心として出土例が増加しており（吉川ほか2005）、本遺跡でもオニグルミとともにトチノキが利用されていたと考えられる。

本遺跡では時代を問わずトチノキがほとんどの試料で確認されたため、穀類が利用される時期においてもトチノキは食料として一般的だった可能性がある。ただしこれらの遺構は住居と関連があるかどうか不明であり、当時の食料状況をそのまま反映するものではないことも考えられる。岩手県内の平安時代の住居跡からは、木戸井内遺跡や細谷地遺跡など穀類が多く出土する傾向にあるが、本遺跡の遺構から穀類をはじめとした草本種実を全く出土していない。これらの試料のクリやオニグルミはやや燃焼が進んだ状況が観察されることから、より燃焼しやすい草本などの種実が残らなかったとも考えられ、燃焼施設の種類や利用状況の違いが出土種類の違いに影響している可能性もある。



図版1 小屋野遺跡出土炭化種実

1. オニグルミ、炭化内果皮破片(RF002 1層) 2. クリ、炭化子葉破片(RF009 1層) 3. クリ、炭化果皮破片(RF009 1層)
 4. モモ、炭化核(RF019 最下位炭化物層) 5. トチノキ、炭化種皮破片(RF020 3層) 6. イタヤカエデ、炭化種子破片(RA002
 1層) 7. ミズキ、炭化内果皮破片(RF002 1層) 8. 不明(RF019 最下位炭化物層)

Ⅶ 総 括

1 遺 物

2カ年にわたる調査で出土した遺物は、P96に示したとおりである。ここでは、掲載土器の約1/3を占める縄文時代後期前葉から末葉の土器群についてまとめる。本書で「第Ⅱ群2類と3類」に分類した一群である。

<第Ⅱ群2類（後期前葉から中葉）>

この群に相当する型式は、東北南部の宝ヶ峯式、宮戸2式、新山権現式、同北部の「腰内2～4式、同中部の萩内B式、大湯Ⅲ式などが挙げられる。本群としたものはおよそ100点で、十腰内2式併行のものが目立つ。深鉢・浅鉢・壺・注口・香炉などの器種があり、大波状口縁を持つものや、装飾突起が付く深鉢がある。文様は平行沈線文から各種入組文へと変容する時期であるが、これも前者が大半を占めている。

<第Ⅱ群3類（後期後葉から末葉）>

本群には、東北南部の宮戸3式、新地式、金剛寺式、田柄Ⅳ～Ⅶ群、同北部の風張式、小井田などがあたる。第5表にはこれらの型式名ではなく、貼瘤が一般化した後の編年「痛付土器第Ⅰ～Ⅳ段階」で示した。全体的な出土量でみると、第Ⅱ・Ⅲ段階のものが多く次に第Ⅳ段階が続く。第Ⅰ段階のものは少なく、第Ⅴ群3類とした櫛歯状条線による曲線文を有する粗製土器（366）はこれに分類される可能性がある。器種は第Ⅱ群2類と変わらないが、特に深鉢では口縁の装飾や突起が穏やかなものになるようである。文様は貼瘤、刻目、刺突、人組帯状文などが特徴的であるが、各段階で消長が見られる。第Ⅳ段階の土器群（108～111・544・545など）は後期最終末に位置付けたが、106・168は晩期初頭とすべきものかもしれない。

2 遺 構

繰り返しになるが、2カ年にわたる調査で検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡9棟、土坑58基、陥し穴状遺構2基、土器埋設遺構2基、焼土遺構36基、炭化物集中区4箇所、カマド状遺構2基、小溝群（耕作痕跡）1箇所、溝跡6条、集石5箇所、柱穴状の小土坑が91個である。ここでは、縄文時代の遺構群について、竪穴住居跡と土坑を中心にまとめる。

これまで竪穴住居跡の所属時期は、後期前葉から後葉のいずれかに属するものが8棟、残りの1棟は晩期中葉としてきた。各時期における住居の占地はそれぞれ大きく異なり、後期の住居跡は崖線性堆積物の影響が及ばない微高地を中心に広がるが、晩期ではその東側に大きな沢を挟んだ緩斜面に存在するようである。また、後期においては竪穴住居だけでなく、貯蔵用と思われる大小数多くの土坑や、わずか2基ではあるが陥し穴状遺構も確認されており、当該期の遺構は、集中区西側の調査範囲外に展開しているものと思われる。この後期前葉から後葉とした住居群は、遺構同士が極めて接近しており同時に存在していたとは考えにくく、実際に住居間の重複はRA003と004などで認められている。

これらの竪穴住居から出土した遺物は、主に①第Ⅱ群2類と第Ⅴ群、②第Ⅱ群3類とⅤ群、③第Ⅲ群2類とⅤ群から構成され、大きく3つの時期に分けられる。それから想定される各竪穴住居の所属時期は、

- ① 後期前～中葉→RA003・RA004(拡張前?)・RA006・(RA008)・RA009
 ② 後期中～後葉→RA001・RA004(拡張後?)・RA005・(RA008)
 ③ 晩期 →RA007

となる。RA008は①か②のいずれかの可能性があるものとした。また、建て替え拡張されているRA004については、炉の形態が建て替え前後で変わっていないことから、拡張前においても縄文時代後期を遡らないものと判断した。

一方、土坑(RD)から出土した遺物を同様の区分で見ると、

- ① 後期前～中葉→RD003?・RD008?・(RD009)・RD010?・RD012・RD015・RD017～020・RD022?・RD027・RD036?・RD037・(RD039)・RD042～045・RD047・RD048・RD051・RD058・RD060
 ② 後期中～後葉→RD007・(RD009)・RD011・RD013・RD014?・RD026・RD035・(RD039)・RD041・RD053
 ③ 晩期 →RD057
 ④ 弥生時代以降あるいは時期不明→RD002・RD007・RD021・RD024

となった。RD009とRA039は①・②いずれの時期の土器も出土しているので、両方に記載し括弧を付した。RD026は副穴を持つ陥し穴であり、後期後葉の上器が出土した希有な例である。

次に、遺構集中区における①縄文時代後期前～中葉と②後期中～後葉の遺構の分布(第9図遺構配置図参照)を見てみる。これは、①・②それぞれに属する遺構が同時に存在した可能性のあるものとして捉えることとする。

まず①の前葉から中葉の遺構は、堅穴住居が等高線に直行する方向、標高196.0～198.2mの範囲に南西から北東方向に延び、土坑類はその中央部から北西に広がっている。一方②の堅穴住居は、標高197.0mの等高線付近に3棟が並び、土坑類は住居周辺からは一定の距離を置いた地点に分布する様子が窺える。このような遺構の配置から、後期の遺構群が西側の埋没沢を越えて広がることはなく、調査区東側の未調査区域に展開することはこれまで述べてきたとおりであるが、詳細に時期を検討した結果、後期前半(①の時期)と後半(②の時期)でも、集落内における土地利用に差異が認められるようである。

最後に縄文時代の集落構成について、一般的に中期と後期以降には大きな変化が認められると言われる。具体的には、縄文時代中期では一つの集落内において居住域で狩猟や祭祀、土器作りなどが一貫して行われるのに対し、後期にはそれらがそれぞれ分化して、居住域・狩猟域・祭祀場所を集落の構成要素として捉えた場合には、中期よりも全体の集落規模が大きくなる、ということである(註)。

柴川沿い約2km西方にある川目A遺跡は、縄文時代後期の祭祀遺跡として県内では著名であるが、主体となる時期は本遺跡と同じ後期前葉から中葉にあることから、正にこの縄文時代後期の集落のあり方を示す一例ではないか。川伝いに行き来する人が住む場所「小屋野遺跡」、その人々が祭祀を司る場所「川目A遺跡」。その可能性は小さくないと思われる。

(註) 平成22年度岩手県立縄文文化財センター主催「公開講座・遺跡報告会」における東京大学佐藤宏之教授の見解。

引用・参考文献

* 御岩文振は岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書の略

- 安孫子昭二 1989 「甗付土器」『縄文土器大観』4 小学館
- 橋村晃嗣 2008 「門前式土器」『総覧 縄文土器』(御アム・プロモーション)
- 小笠原善範ほか 1991 『風張(1) 遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書12
- 金子昭彦 1994 「十器内Ⅲ式とⅣ式の境界-東北地方北半部における縄文時代後期中葉から後葉への土器変遷」『岩手考古学』第6号
- 金子昭彦 1994 「東北地方北半部における縄文時代後期中葉の土器」『岩手県埋蔵文化財センター紀要』XIV
- 金子昭彦 1997 『新山権現社遺跡発掘調査報告書』岩文振報告書第345集
- 金子昭彦 2003 「墓と捨て場から見た東北北部縄文晩期の居住様式」『縄文時代』14号 縄文時代文化研究会
- 熊谷常正 1986 「門前式の検討」『岩手県立博物館研究報告』第4号
- 小林圭一 1999 「東北地方 後期(甗付土器)」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
- 小林圭一 2008 「甗付土器」『総覧 縄文土器』(御アム・プロモーション)
- 酒井宗孝 2000 「上野平遺跡発掘調査報告書」御岩文振第333集
- 佐川俊一ほか 1999 「キウス4 遺跡(3)」『北海道埋蔵文化財センター調査報告書第134集
- 鈴木克彦 1996 「東北地方北部における十器内式土器様式の編年学的研究」『考古学雑誌』81-4
- 鈴木克彦 2001 「東北地方北部の縄文時代後期の土器型式」『東北地方中・南部の縄文時代後期の土器型式』『北日本の後期編年体系』『北日本の縄文後期土器編年の研究』道山閣
- 鈴木克彦 2001 「岩手県の後期前葉土器の編年」『岩手考古学』第13号
- 鈴木克彦 2008 「宝ヶ基式・手堀式土器」『総覧 縄文土器』(御アム・プロモーション)
- 鈴木克彦 2009 「Ⅱ東北地方の縄文集落の社会組織と村落」『集落の変遷と地域性』シリーズ縄文集落の多様性Ⅰ 雄山閣
- 関根達人 2005 「十器内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ群土器」に関する今日的な理解『北奥の考古学』葛西勲先生遺稿記念論文集刊行会
- 高柳圭一 1988 「前台湾周辺の縄文時代後期後葉から晩期初頭にかけての編年動向」『古代』第85号 早稲田大学考古学会
- 中村絵美 2008 「板子屋敷3 遺跡発掘調査報告書」御岩文振第537集
- 成田滋彦 1989 「入江・十器内式土器様式」『縄文土器大観』4 小学館
- 福島県立博物館 1988 『三貝地貝塚』
- 藤沼邦彦・関根達人 2008 「亀ヶ岡式土器(亀ヶ岡式系土器群)」『総覧 縄文土器』(御アム・プロモーション)
- 藤沼邦彦ほか 1986 『田柄貝塚Ⅰ』宮城県文化財調査報告書111
- 星 雅之 2009 「川目A遺跡第6次発掘調査報告書」御岩文振第525集
- 本間 宏 2008 「南境式・網取式土器」『総覧 縄文土器』(御アム・プロモーション)
- 丸山浩治 2009 「戸付遺跡第3次発掘調査報告書」御岩文振第559集
- 丸山浩治 2010 「雨滝遺跡発掘調査報告書」御岩文振第562集
- 村木 淳 2005 「風張(1) 遺跡の縄文時代後期後半の土層と伴居」『北奥の考古学』葛西勲先生遺稿記念論文集刊行会
- 森 淳 2000 「池端遺跡発掘調査報告書」陸上町教育委員会
- 山岸英夫 2005 「福島県から十器内Ⅱ式土器を考えるー福島県北半部の資料を中心としてー」『北奥の考古学』葛西勲先生遺稿記念論文集刊行会

写 真 图 版



遺跡遠景



調査区近景



基本層序 1 (北西→)



南西部斜面 基本層序 (北西→)



中央南西壁 基本層序 (北東→)



平成22年度 調査前風景 (西→)



基本層序 2 (南→)



平成22年度調査区 作業風景 (北→)



基本層序 3 (北東→)

写真図版 2 調査前風景、基本層序



RA001 全景 (東→)



RA001 埋土 (南東→)



RA001 地床炉と遺物出土状況 (南東→)



RA001 遺物出土状況



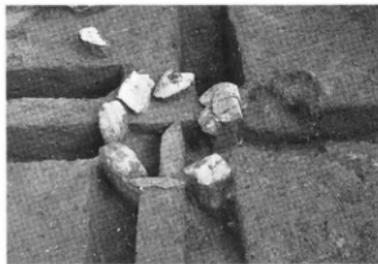
RA002 全景 (南→)



RA002 埋土 (南東→)



RA002 炉 (南東→)



RA002 炉断面 (西→)

写真図版 4 RA002竪穴住居



RA003 全景 (東→)



RA003 埋土 (北→)



RA003 遺物出土状況



RA003 炉 (北→)



RA003 炉断面 (東→)



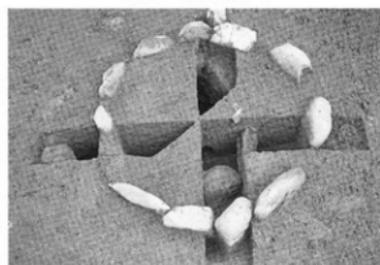
RA004 全景 (西→)



RA004 埋土 (南東→)



RA004 遺物出土状況 (北東→)



RA004 新旧炉断面 (南→)



RA004 拡張前の炉 (東→)

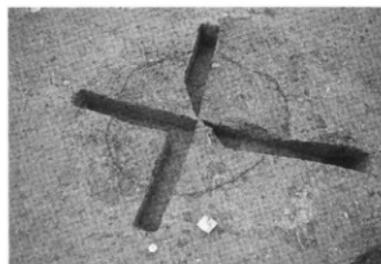
写真図版 6 RA004竪穴住居



RA005 全景 (南東→)



RA005 埋土 (北→)



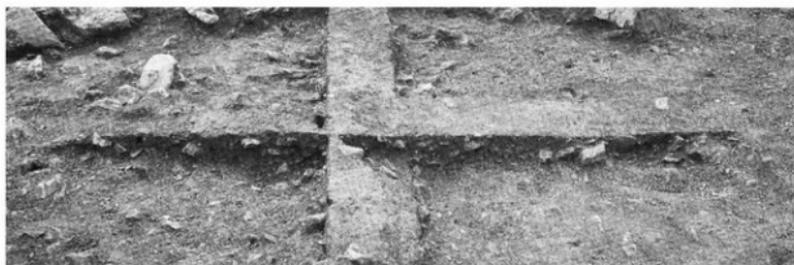
RA005 炉(北→)



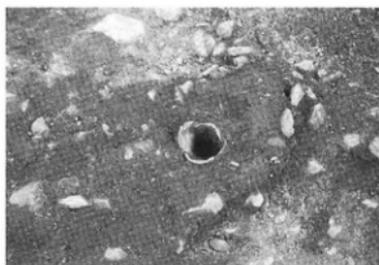
RA005 炉断面 (東→)



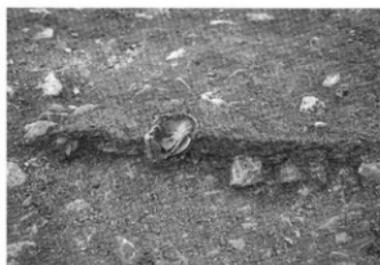
RA006 全景 (北→)



RA006 埋土 (北→)



RA006 炉 (北→)



RA006 炉断面 (東→)

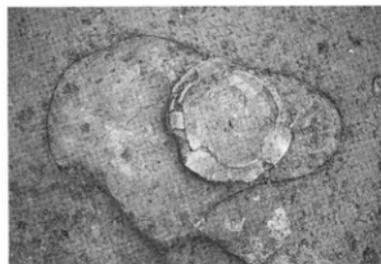
写真図版 8 RA006 竪穴住居



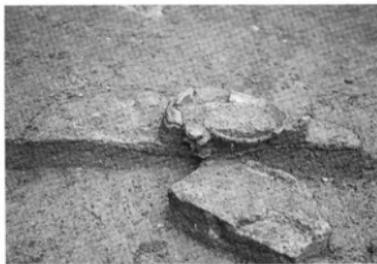
RA007 全景 (東→)



RA007 埋土 (北東→)



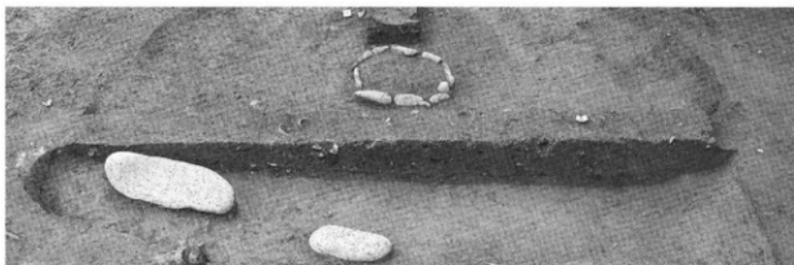
RA007 炉 (東→)



RA007 炉断面 (東→)



RA008 全景 (東→)



RA008 埋土 (南西→)



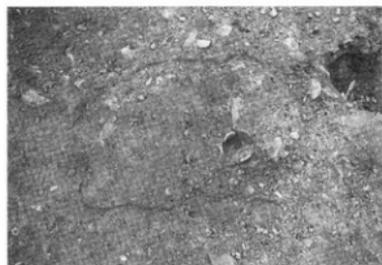
RA008 炉 (南→)



RA008 炉断面 (西→)



RA009 全景 (北→)



RA009 炉 (東→)



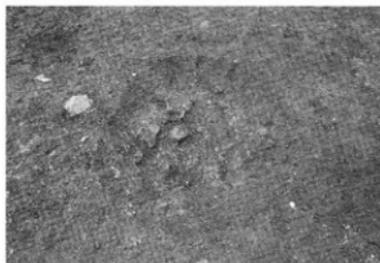
RA009 炉断面 (東→)



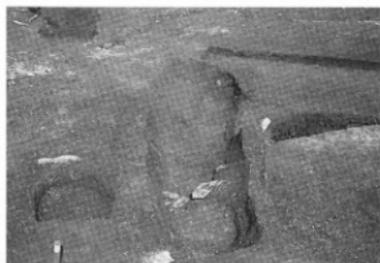
作業風景 (東→)



調査風景 (北西→)



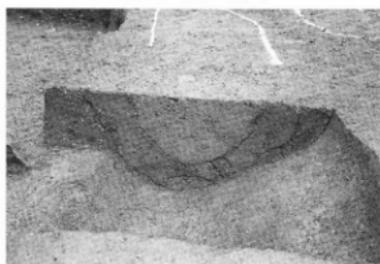
RD001 全景 (南→)



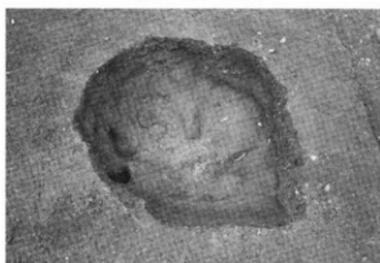
RD002 全景 (南→)



RD001 埋土 (西→)



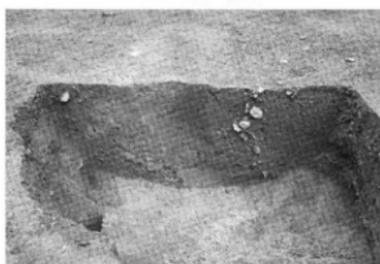
RD002 埋土 (北→)



RD003 全景 (南→)



RD004 全景 (南→)



RD003 埋土 (南西→)



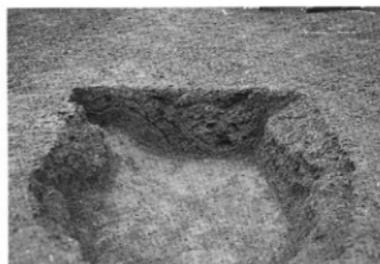
RD004 埋土 (南→)



RD005 全景 (北→)



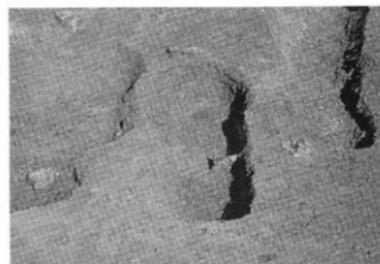
RD006 全景 (南→)



RD005 埋土 (南→)



RD006 埋土 (西→)



RD007 全景 (南→)



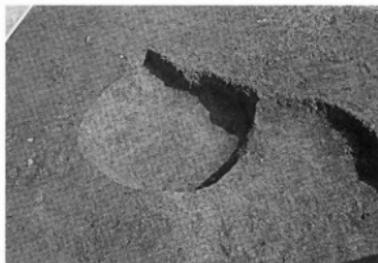
RD008 全景 (北→)



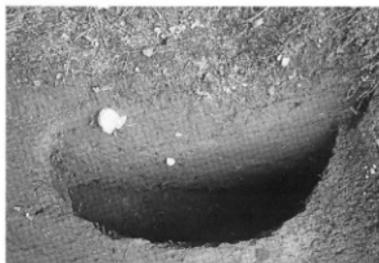
RD007 埋土 (北西) →



RD008 埋土 (西→)



RA009 全景 (西→)



RD010 全景 (北西→)



RA009 埋土 (西→)



RD010 埋土 (北西→)



RD011 全景・埋土 (北西→)



RD012 全景 (北→)

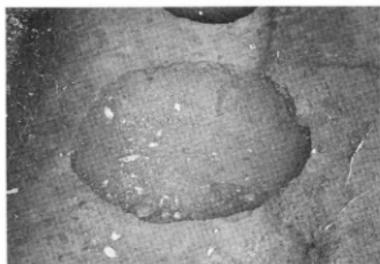


RD011 遺物出土状況 (北西→)

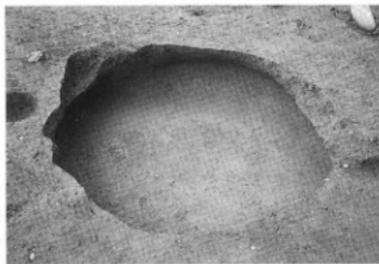


RD012 埋土 (北→)

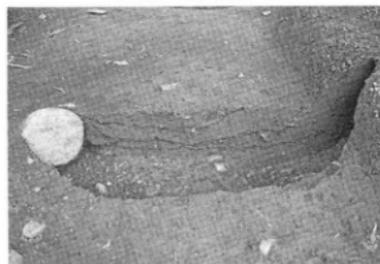
写真図版14 RD009~012土坑



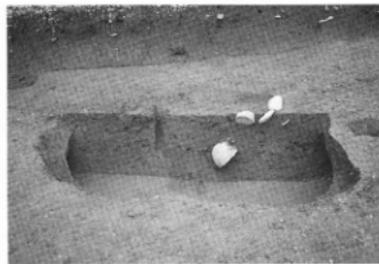
RD013 全景 (北西→)



RD014 全景 (南→)



RD013 埋土 (北西→)



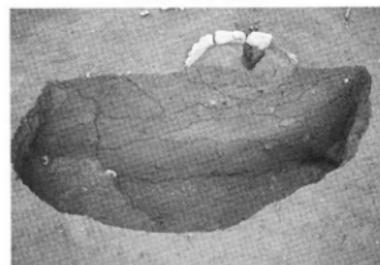
RD014 埋土 (北→)



RD015 全景 (東→)



RD016 全景 (西→)



RD015・RD032埋土 (西→)



RD016 埋土 (北→)



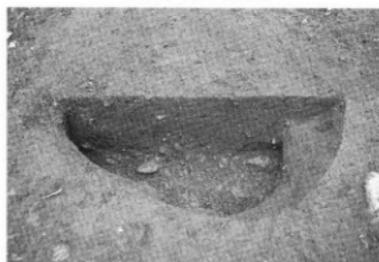
RD017 全景 (西→)



RD018 全景 (北→)



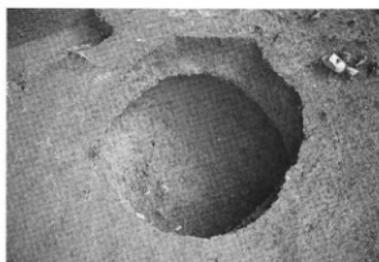
RD017 埋土 (北→)



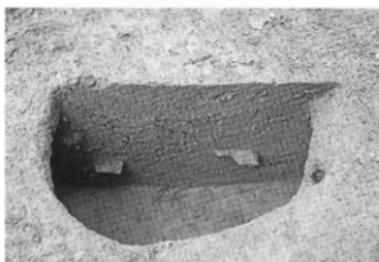
RD018 埋土 (北西→)



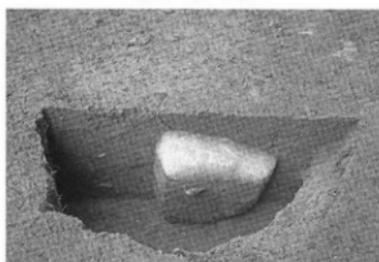
RD019 全景 (南→)



RD020 全景 (南→)



RD019 埋土 (南→)

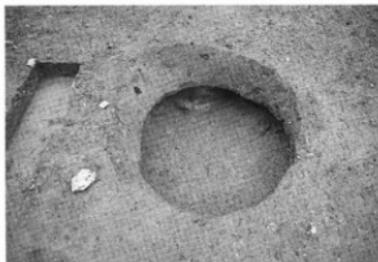


RD020 埋土 (南→)

写真図版16 RD017~020土坑



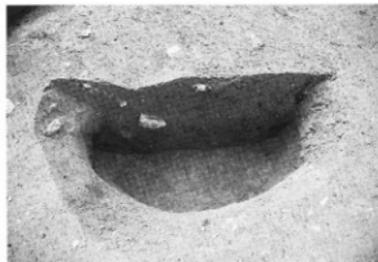
RD021 全景 (北→)



RD022 全景 (東→)



RD021 埋土 (北→)



RD022 埋土 (北西→)



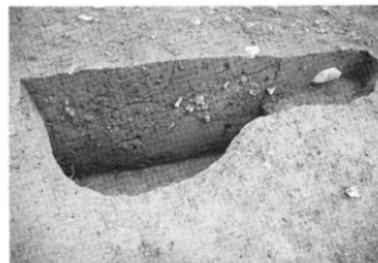
RD023 全景 (北→)



RD024 全景 (北→)



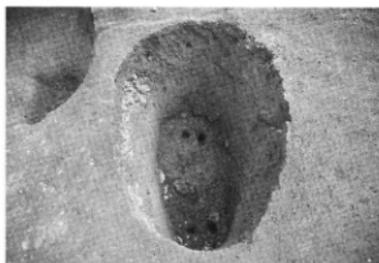
RD023 埋土 (北→)



RD024 埋土 (北→)



RD025 全景 (北→)



RD026縮し穴 全景 (北→)



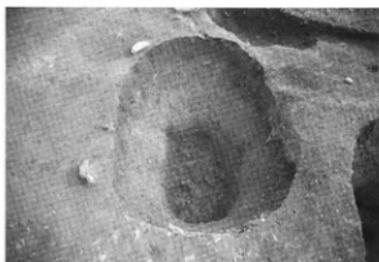
作業風景 (南→)



RD026縮し穴 埋土 (西→)



RD027 全景 (北→)



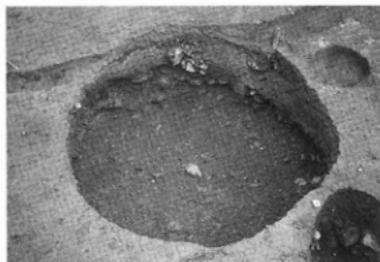
RD028 全景 (北→)



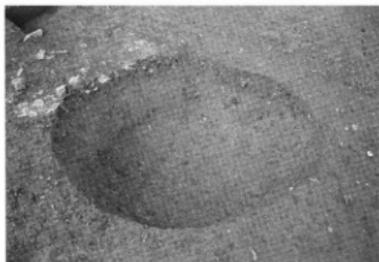
RD027 埋土 (東→)



RD028 埋土 (西→)



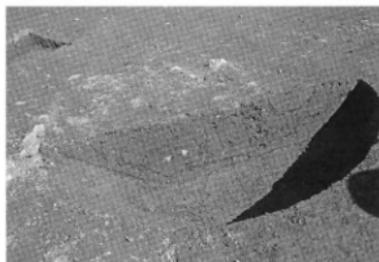
RD029 全景 (北→)



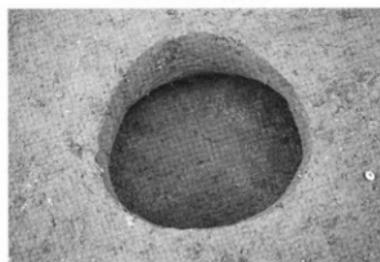
RD030 全景 (南→)



RD029 埋土 (北西→)



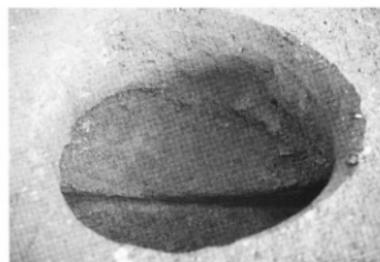
RD030 埋土 (南東→)



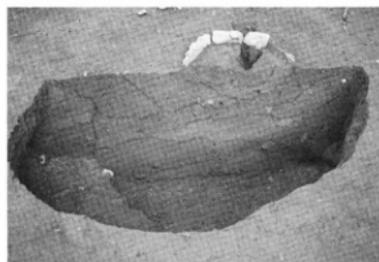
RD031 全景 (西→)



RD032 全景 (東→)



RD031 埋土 (西→)



RD015・RD032 埋土 (西→)



RD033 全景 (南→)



RD034 全景 (北東→)



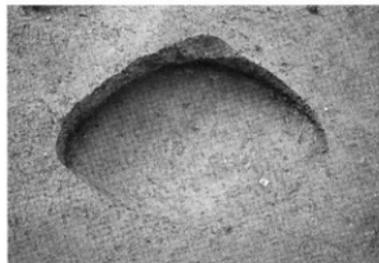
RD033 埋土 (北東→)



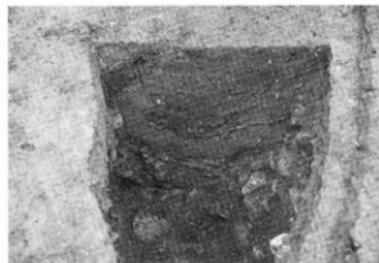
RD034 埋土 (北→)



RD035陥し穴 全景 (北→)



RD036 全景 (北→)



RD035陥し穴 埋土 (北→)



RD036 埋土 (北→)



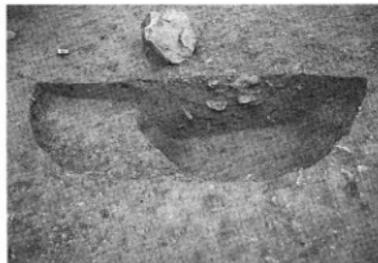
RD037 全景 (北→)



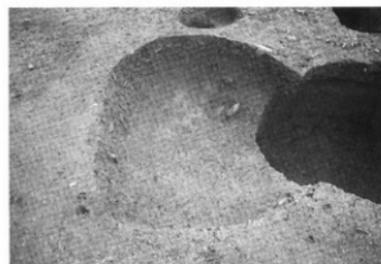
RD038 全景 (南東→)



RD037 埋土 (北→)



RD038 埋土 (北西→)



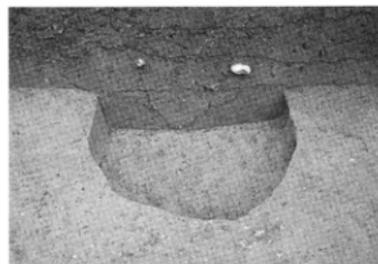
RD039 全景 (北→)



RD040 全景 (南西→)



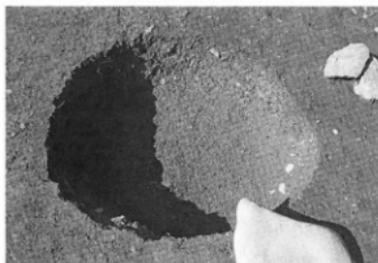
RD039 埋土 (北→)



RD040 埋土 (南西→)



RD041 全景 (東→)



RD042 全景 (東→)



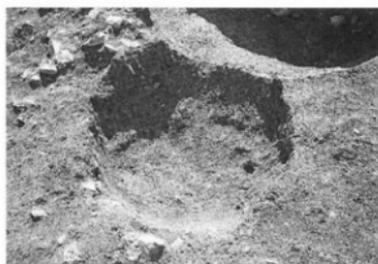
RD041 埋土 (東→)



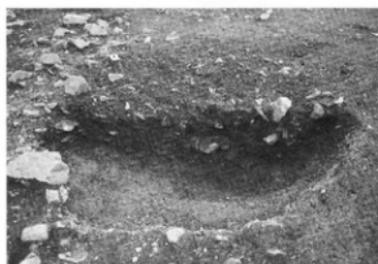
RD042 埋土 (東→)



RD043 全景 (北→)



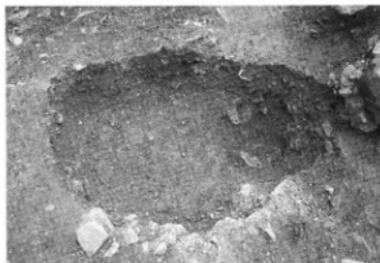
RD044 全景 (北→)



RD043 埋土 (北東→)



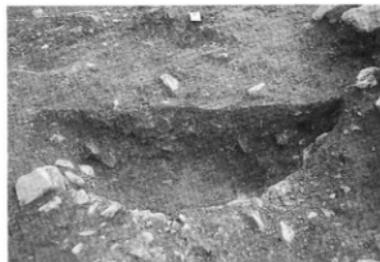
RD044 埋土 (北東→)



RD045 全景 (北西→)



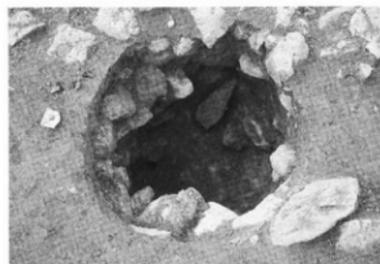
RD046 全景 (北→)



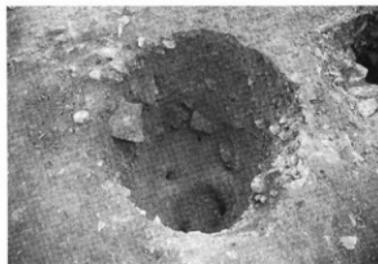
RD045 埋土 (北→)



RD046 埋土 (北→)



RD047 全景 (東→)



RD048 全景 (北→)



作業風景 (西→)



RD048 埋土 (北→)



RD049 全景 (東→)



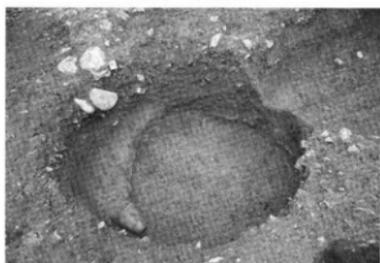
RD050 全景 (東→)



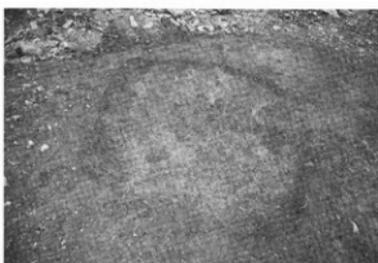
RD049 埋土 (北→)



RD050・RD051 埋土 (南→)



RD051 全景 (北→)



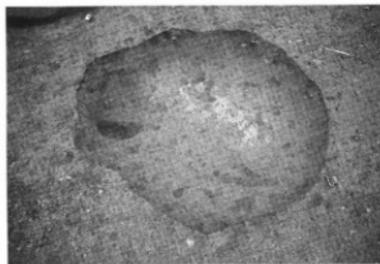
RD052 全景 (北西→)



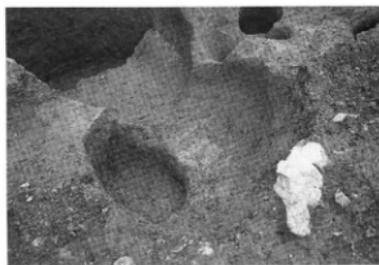
RD051 埋土 (南東→)



RD052 埋土 (北→)



RD053 全景 (北→)



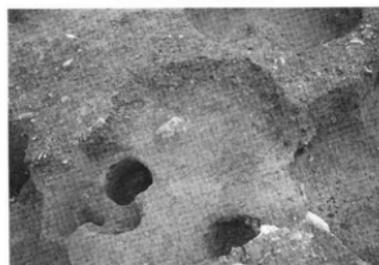
RD054 全景 (北→)



RD053 埋土 (北東→)



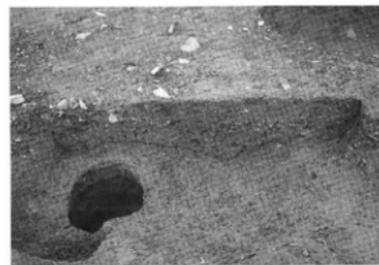
RD054 埋土 (南東→)



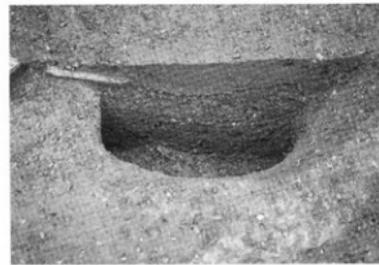
RD055 全景 (北→)



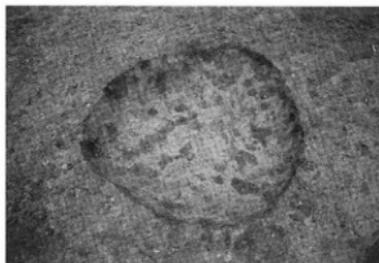
RD056 全景 (北西→)



RD055 埋土 (北西→)



RD056 埋土 (東→)



RD057 全景 (北東→)



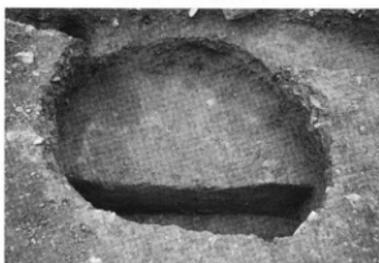
RD058 全景 (東→)



RD057 埋土 (北東→)



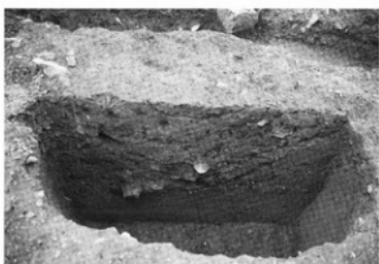
RD058 埋土 (南東→)



RD059 全景 (東→)



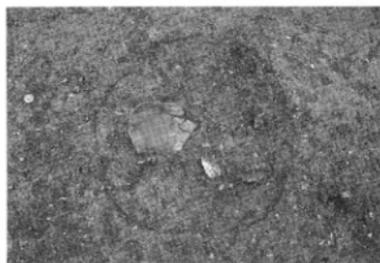
RD060 全景 (北→)



RD059 埋土 (東→)



RD060 埋土 (北→)



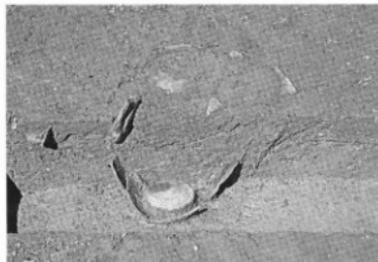
RP001 検出状況 (南西→)



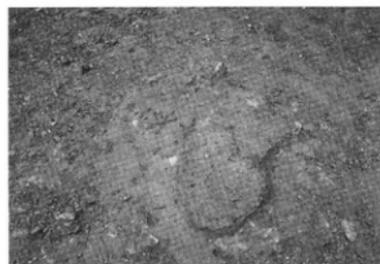
RP002 検出状況 (北→)



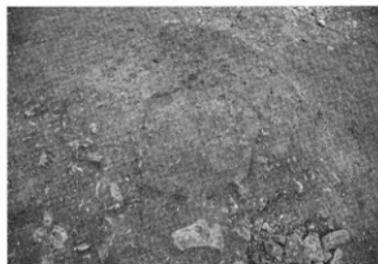
RP001 断面 (南西→)



RP002 断面 (南→)



RF001 検出状況 (南→)



RF002 検出状況 (南東→)



RF001 断面 (東→)



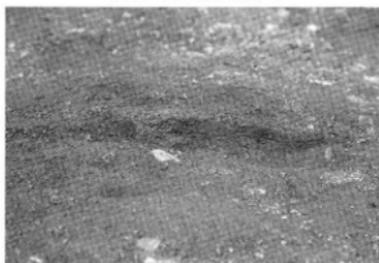
RF002 断面 (南西→)



RF003 検出状況 (南西→)



RF004 検出状況 (南東→)



RF003 断面 (南東→)



RF004 断面 (東→)



RF005 検出状況 (南西→)



RF006 検出状況 (南西→)



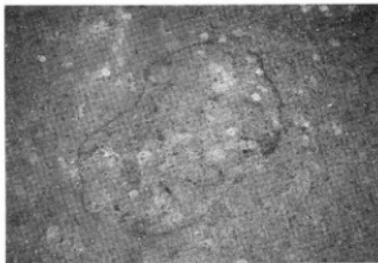
RF005 断面 (南西→)



RF006 断面 (北西→)



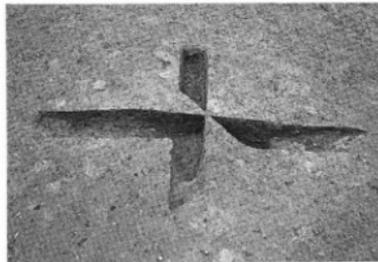
RF007 検出状況 (南→)



RF008 検出状況 (北西→)



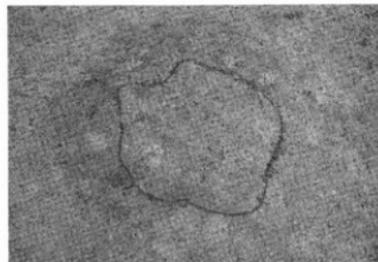
RF007 断面 (南→)



RF008 断面 (南東→)



RF009 断面 (北西→)



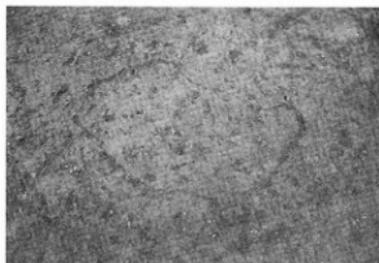
RF010 検出状況 (東→)



RF009 断面 (南西→)



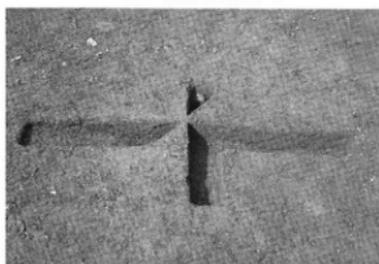
RF010 断面 (東→)



RF011 検出状況 (南西→)



RF012 検出状況 (東→)



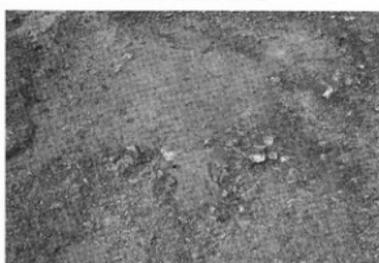
RF011 断面 (南東→)



RF012 断面 (南西→)



RF013 検出状況 (南西→)



RF014 検出状況 (東→)



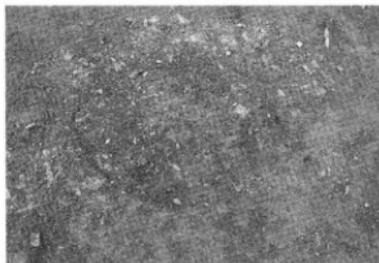
RF013 断面 (南西→)



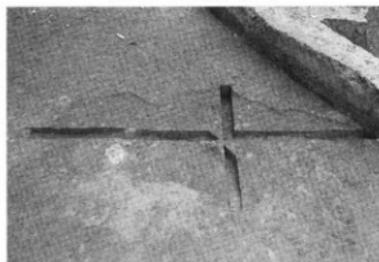
RF014 断面 (南→)



RF015 検出状況 (南→)



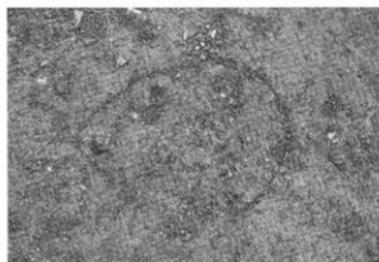
RF016 検出状況 (南東→)



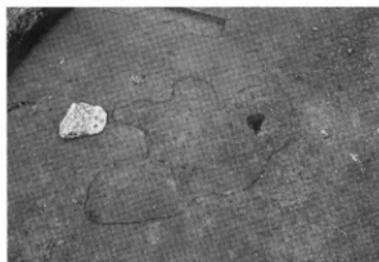
RF015 断面 (北西→)



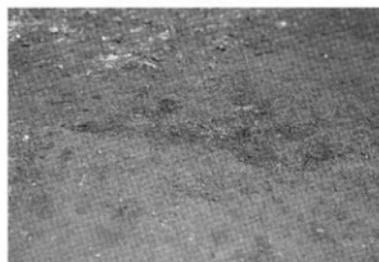
RF016 断面 (南東→)



RF017 検出状況 (南→)



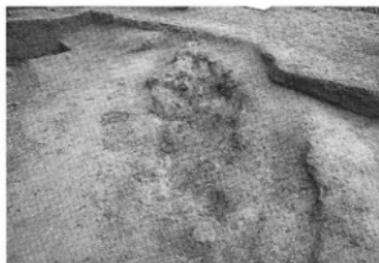
RF018 検出状況 SW→



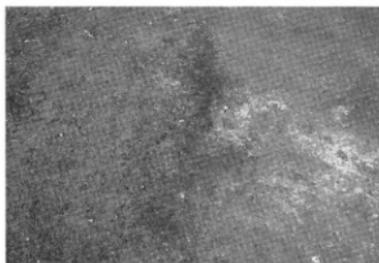
RF017 断面 (南→)



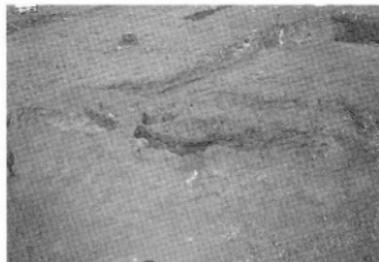
RF018 P1~3検出状況 (W→)



RF019 燃焼部平面 (E→)



RF020 検出状況 (東→)



RF019 断面 (南→)

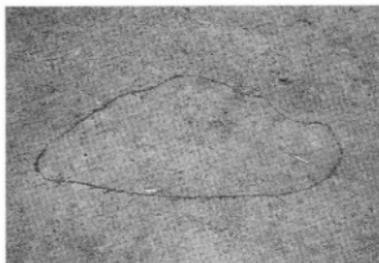


RF020 断面 (北西→)

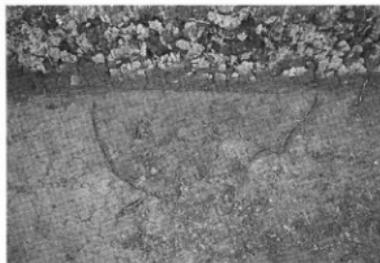


作業風景 (E→)

写真図版32 RF019~020カマド状遺構・作業風景



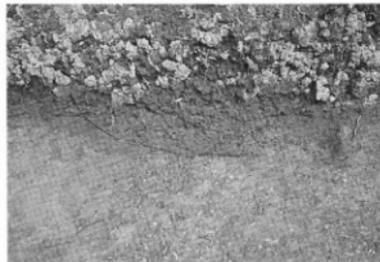
RF021 検出状況 (北→)



RF022 検出状況 (南西→)



RF021 断面(南→)



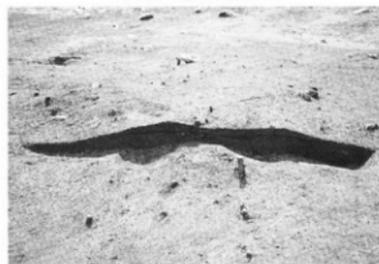
RF022 断面 (南西→)



RF023 検出状況 (東→)



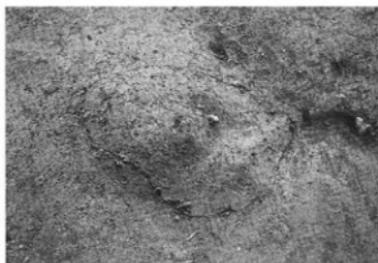
RF024 検出状況 (東→)



RF023 断面 (南東→)



RF024 断面 (東→)



RF025 検出状況 (南→)



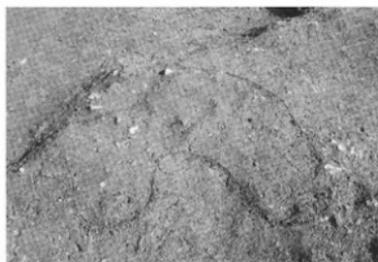
RF026 検出状況 (南→)



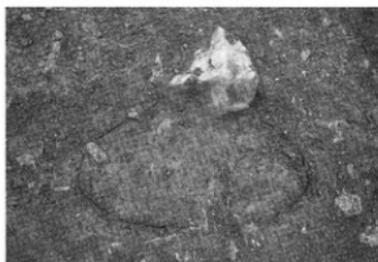
RF025 断面 (東→)



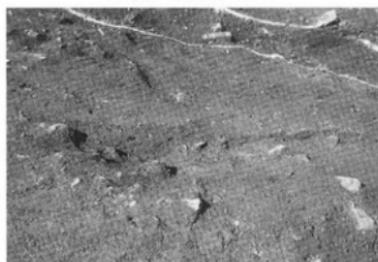
RF026 断面 (西→)



RF027 検出状況 (西→)



RF028 検出状況 (東→)



RF027 断面 (南東→)



RF028 断面 (東→)

写真図版34 RF025~028焼土遺構



RF029 検出状況 (東→)



RF030 検出状況 (北→)



RF029 断面 (東→)



RF030 断面 (西→)



RF031 検出状況 (北→)



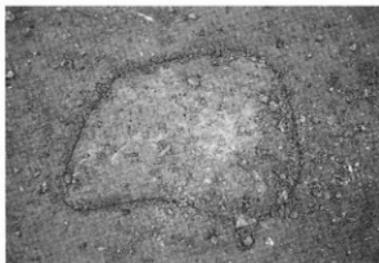
RF032 検出状況 (北→)



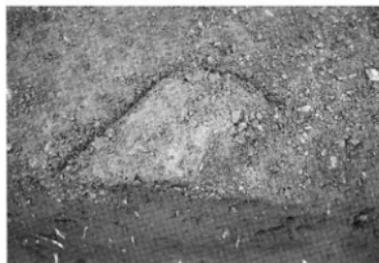
RF031 断面 (北→)



RF032 断面 (北東→)



RF033 検出状況 (北→)



RF034 検出状況 (北→)



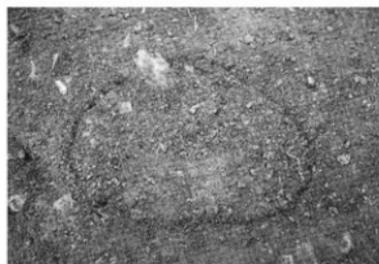
RF033 断面 (北→)



RF034 断面 (北→)



RF035 検出状況 (北→)



RF036 検出状況 (北→)



RF035 断面 (北東→)



RF036 断面 (北西→)



RF037 検出状況 (東→)



RF038 検出状況 (南→)



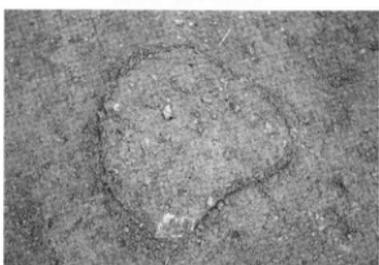
RF037 断面 (東→)



RF038 断面 (南東→)



RF039 検出状況 (南→)



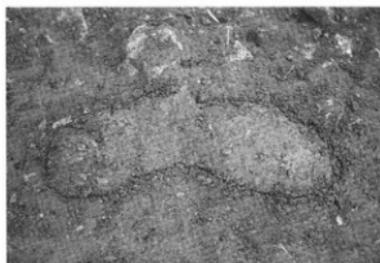
RF040 検出状況 (北→)



RF039 断面 (南東→)



RF040 断面 (北→)



RF041 検出状況 (東→)



RF042 検出状況 (南西→)



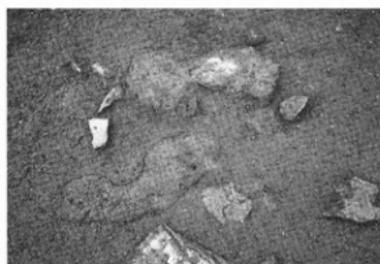
RF041 断面 (東→)



RF042 断面 (南西→)



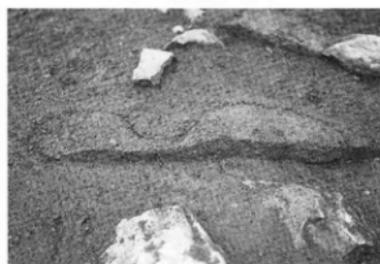
RF043 検出状況 (北東→)



RF044 検出状況 (北→)



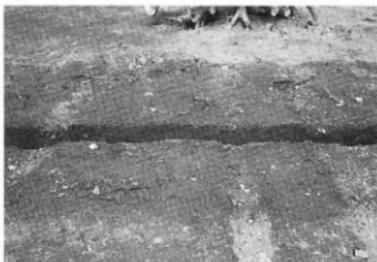
RF043 断面 (南東→)



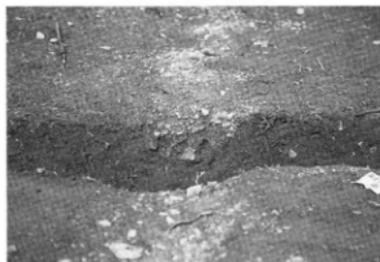
RF044 断面 (北西→)



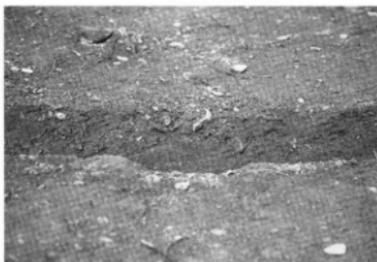
RG001 全景① (南西→)



RG001 断面① (南西→)



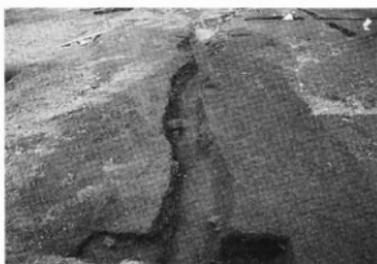
RG001 断面② (南西→)



RG001 断面③ (南西→)



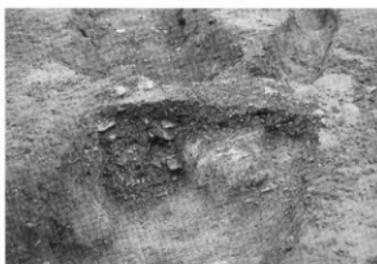
RG002 全景 (南→)



RG002南側全景 (南西→)



RG002 断面 (北→)



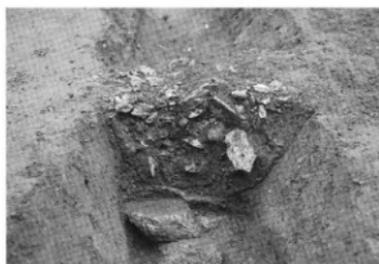
RG002 断面 (西→)



RG003 全景 (南→)



RG004 全景 (北東→)



RG003 断面 (西→)



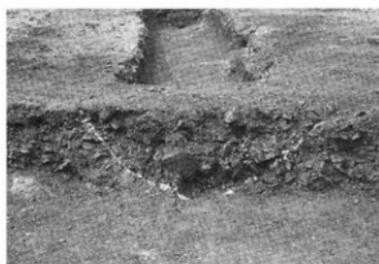
RG004 断面 (西→)



RG005南側全景 (南西→)



RG006 全景 (南西→)



RG005 断面 (北→)



RH001 検出 (北→)



RH002 検出 (北→)



RH001 断面 (南東→)



RH002 断面 (東→)



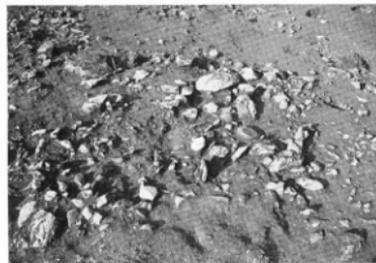
RH003 検出 (東→)



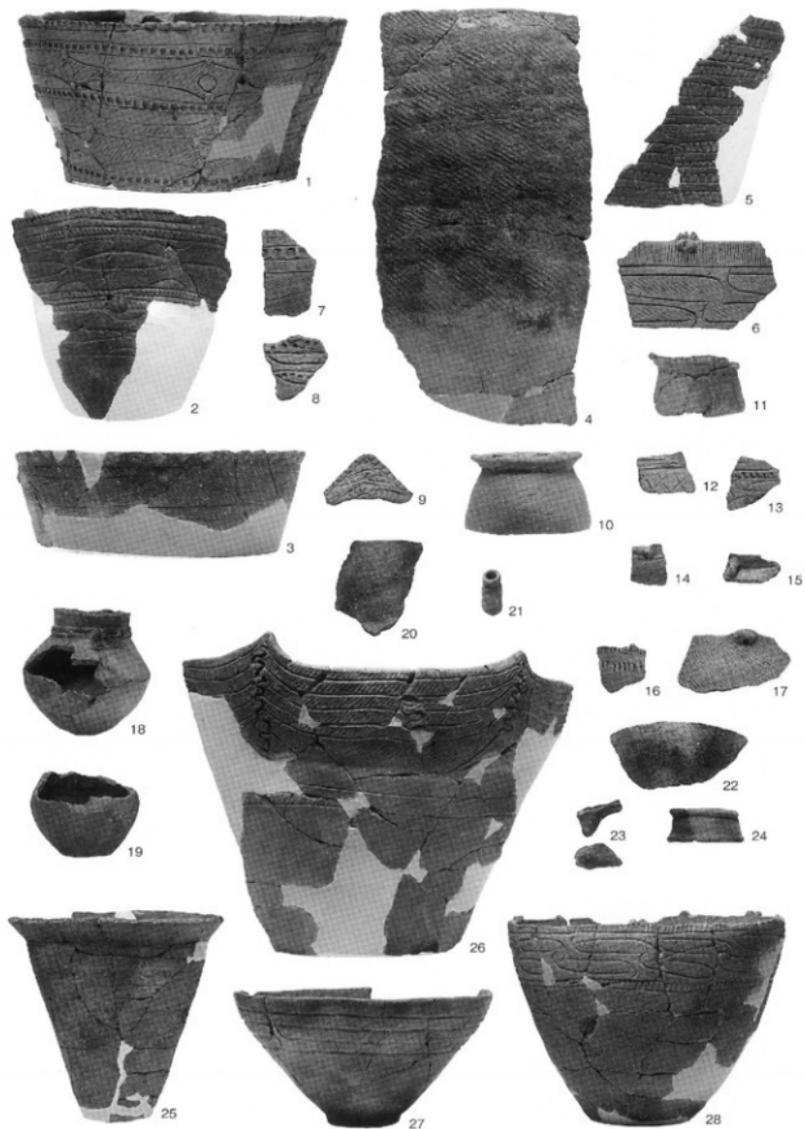
RH004 検出 (東→)



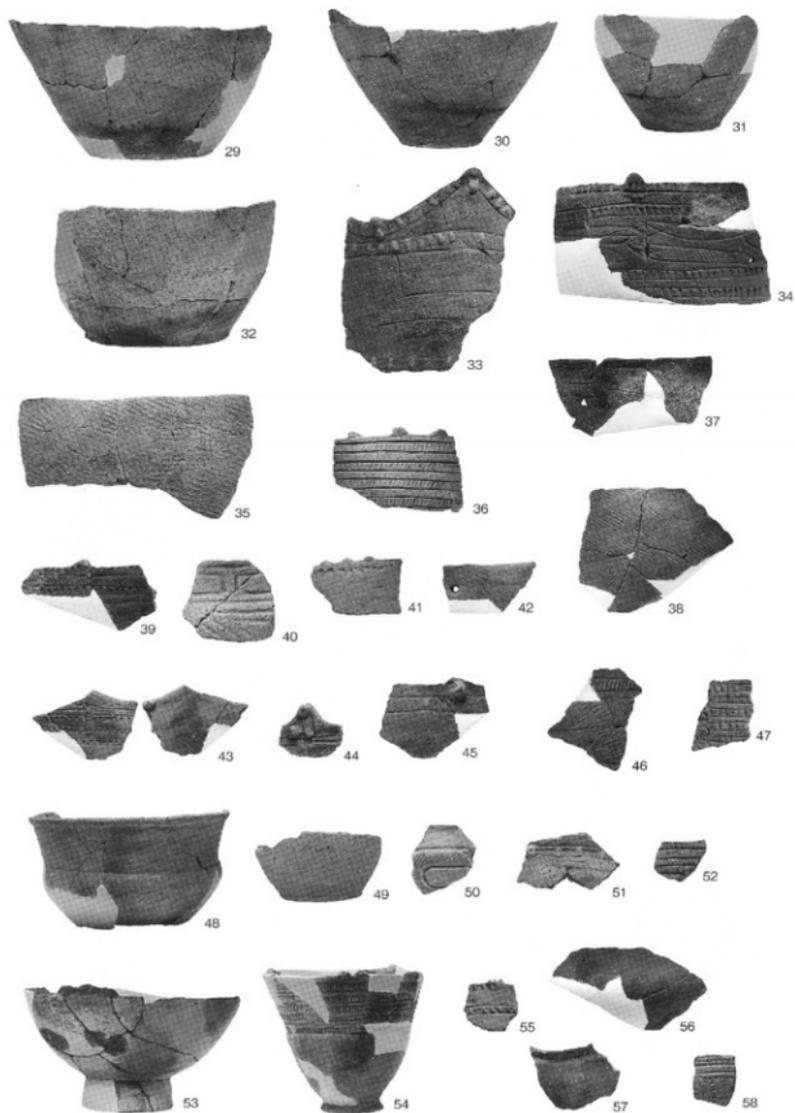
RH003 断面 (北西→)



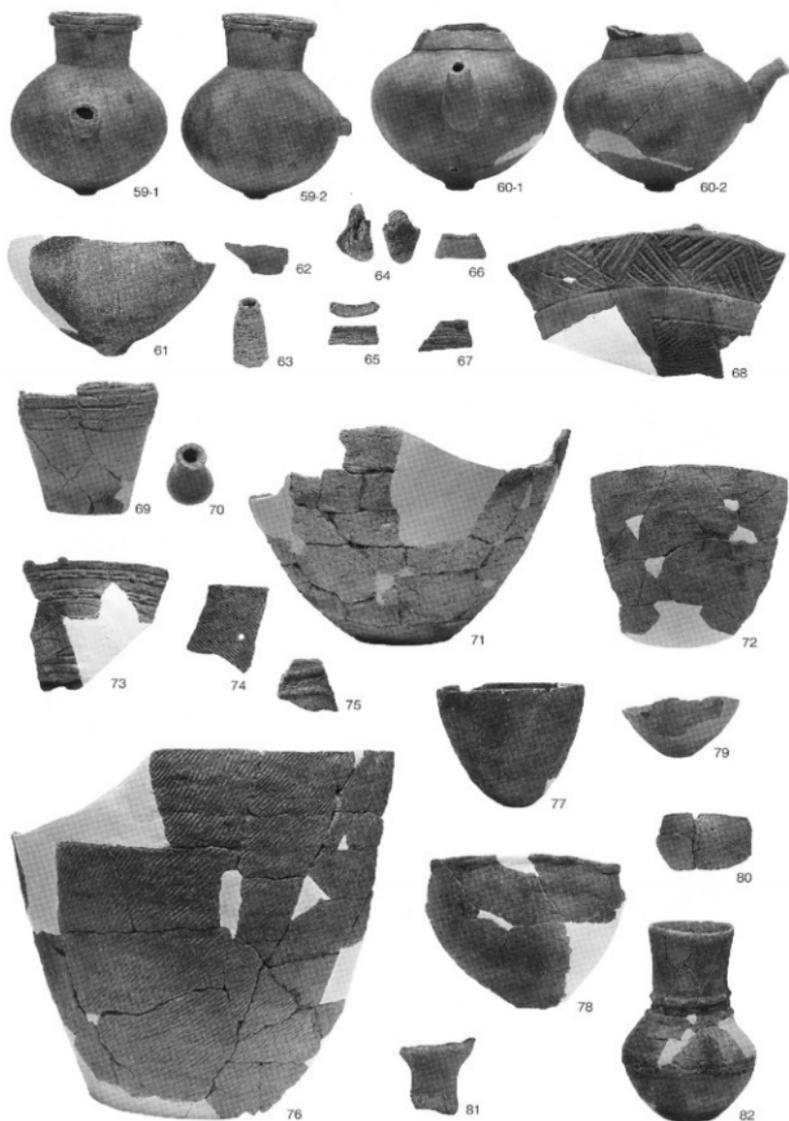
RH005 検出 (北東→)



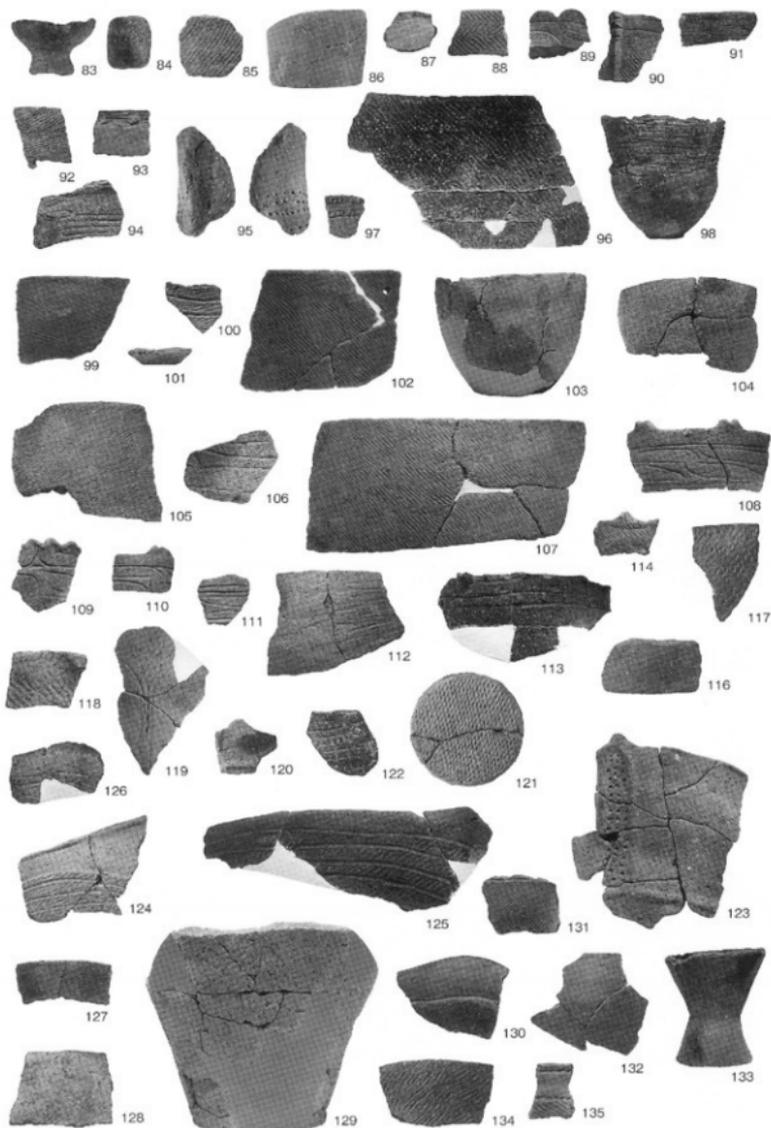
写真図版42 土器・土製品 (1)



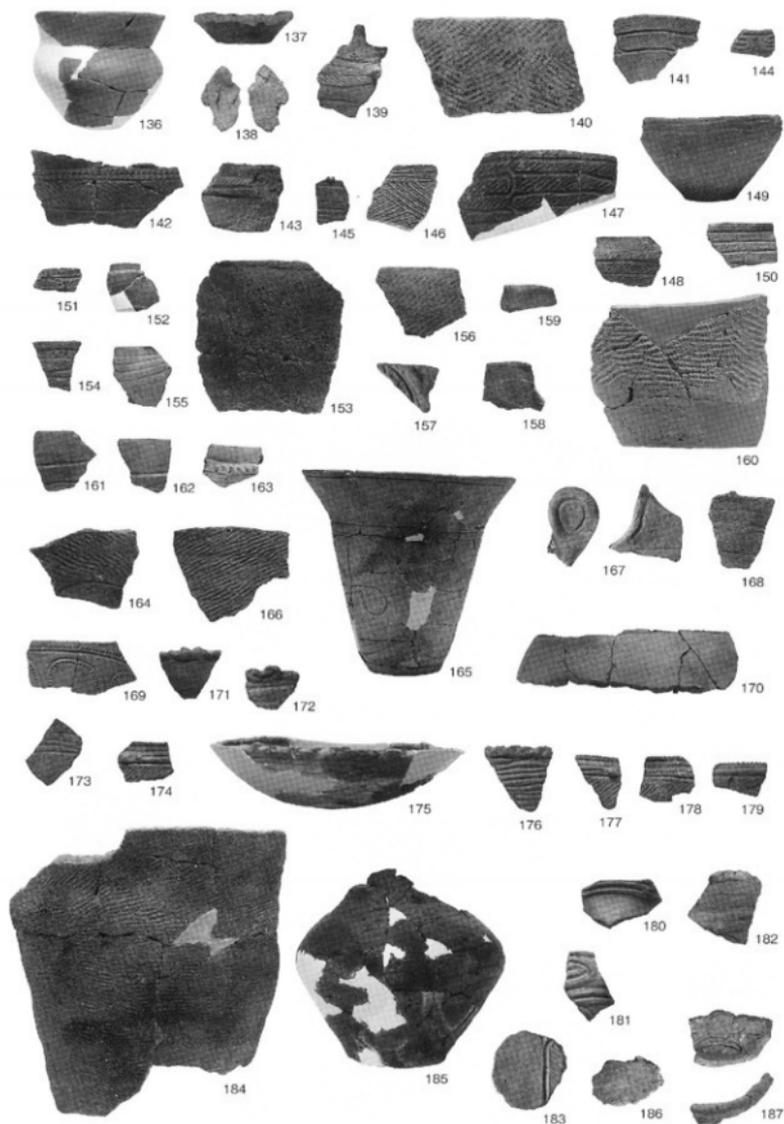
写真図版43 土器・土製品(2)



写真図版44 土器・土製品 (3)



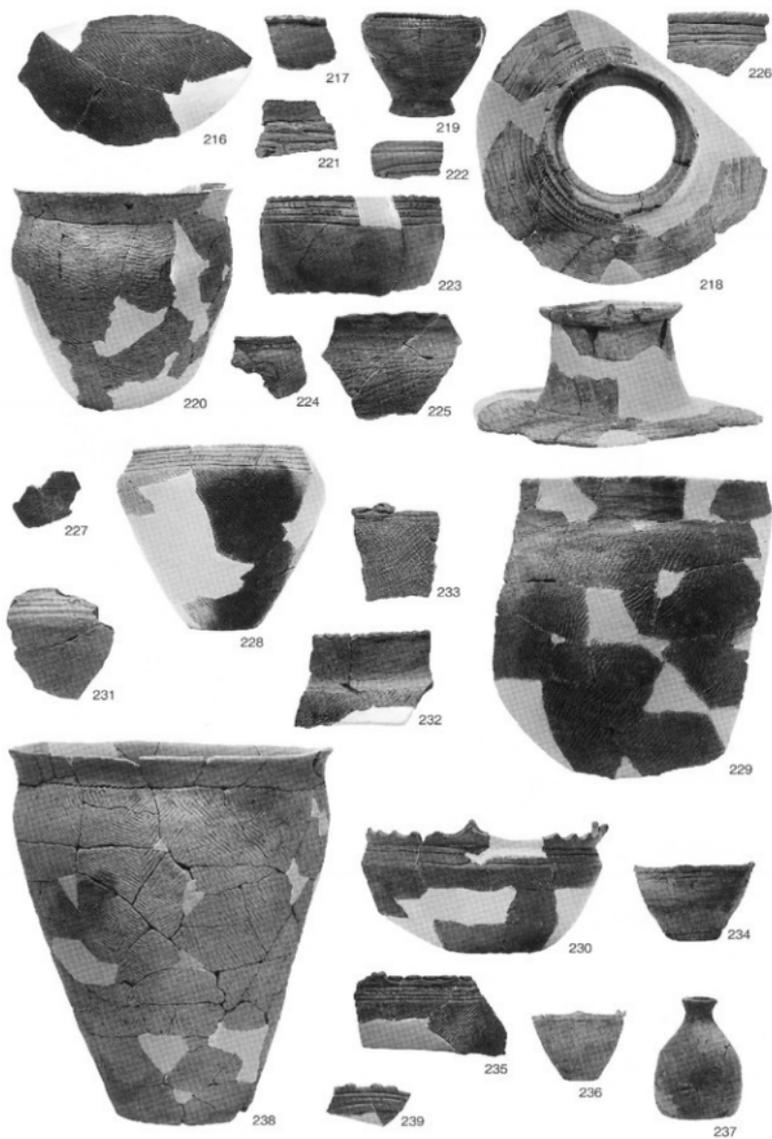
写真図版45 土器・土製品(4)



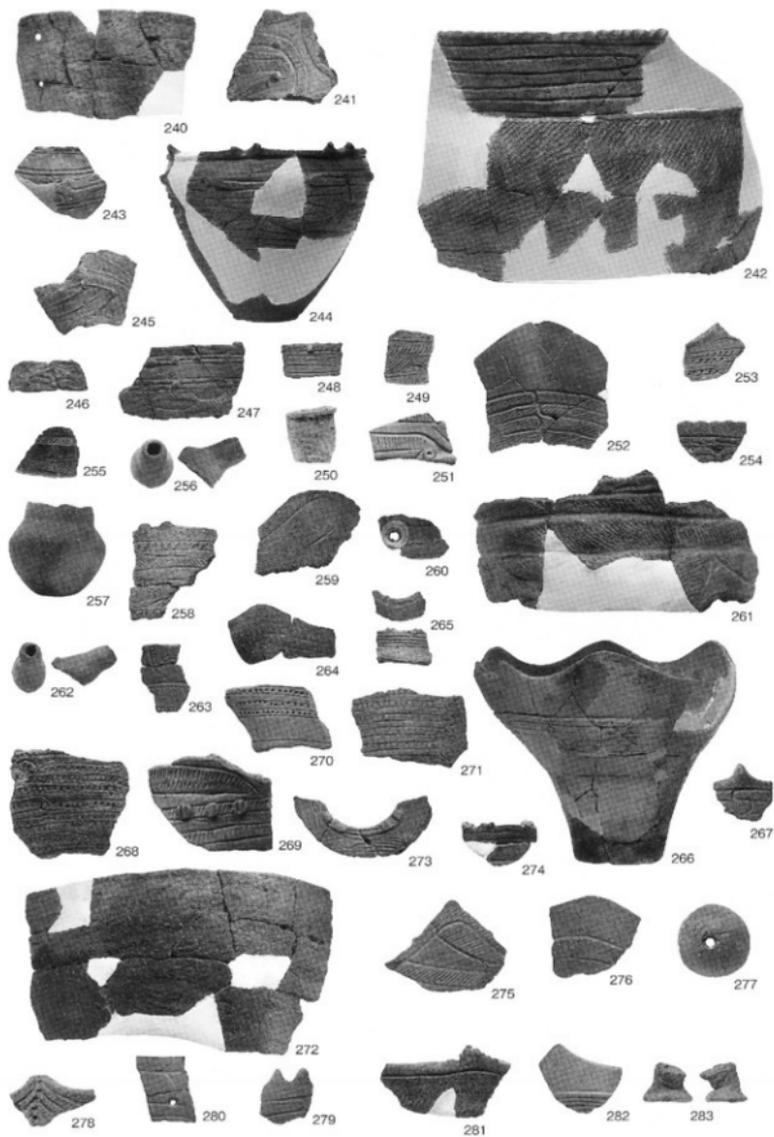
写真図版46 土器・土製品(5)



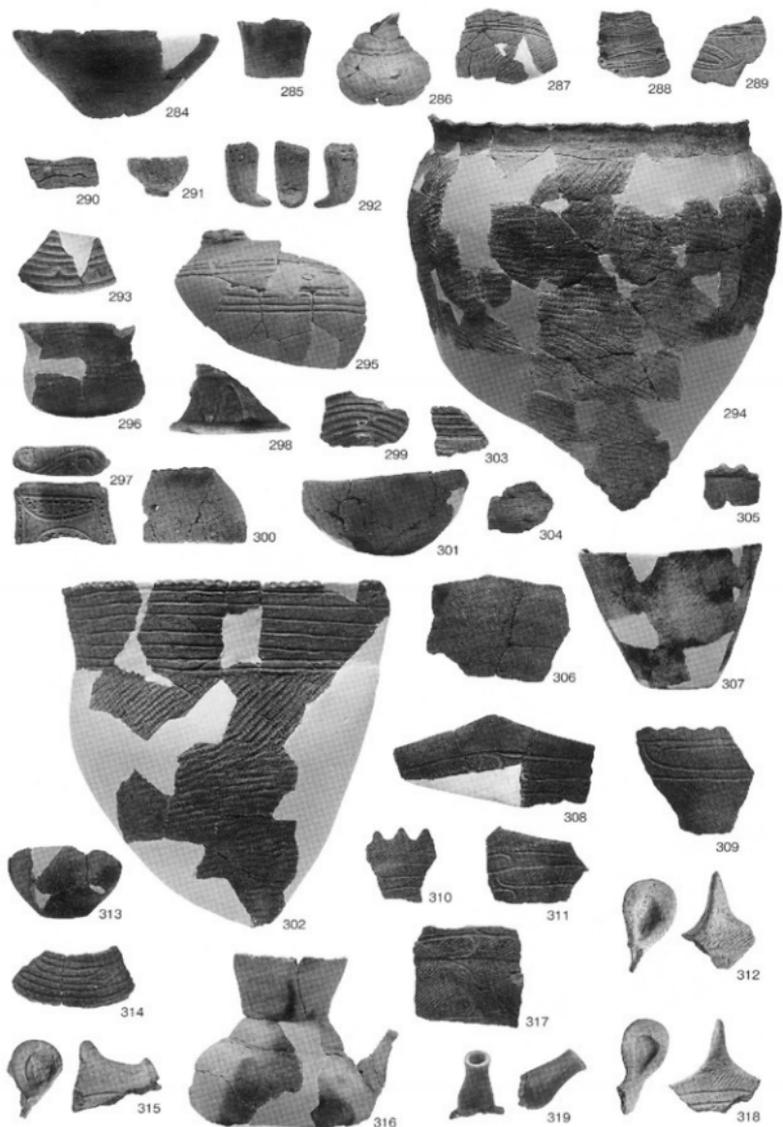
写真図版47 土器・土製品(6)



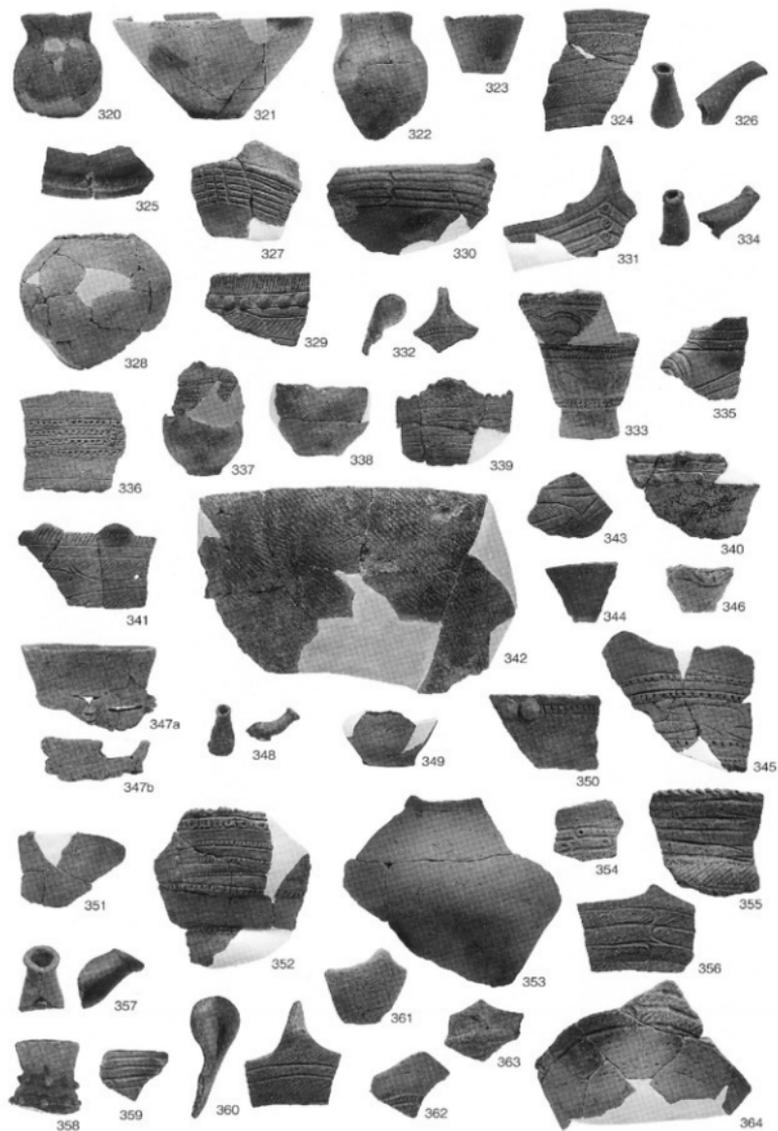
写真図版48 土器・土製品（7）



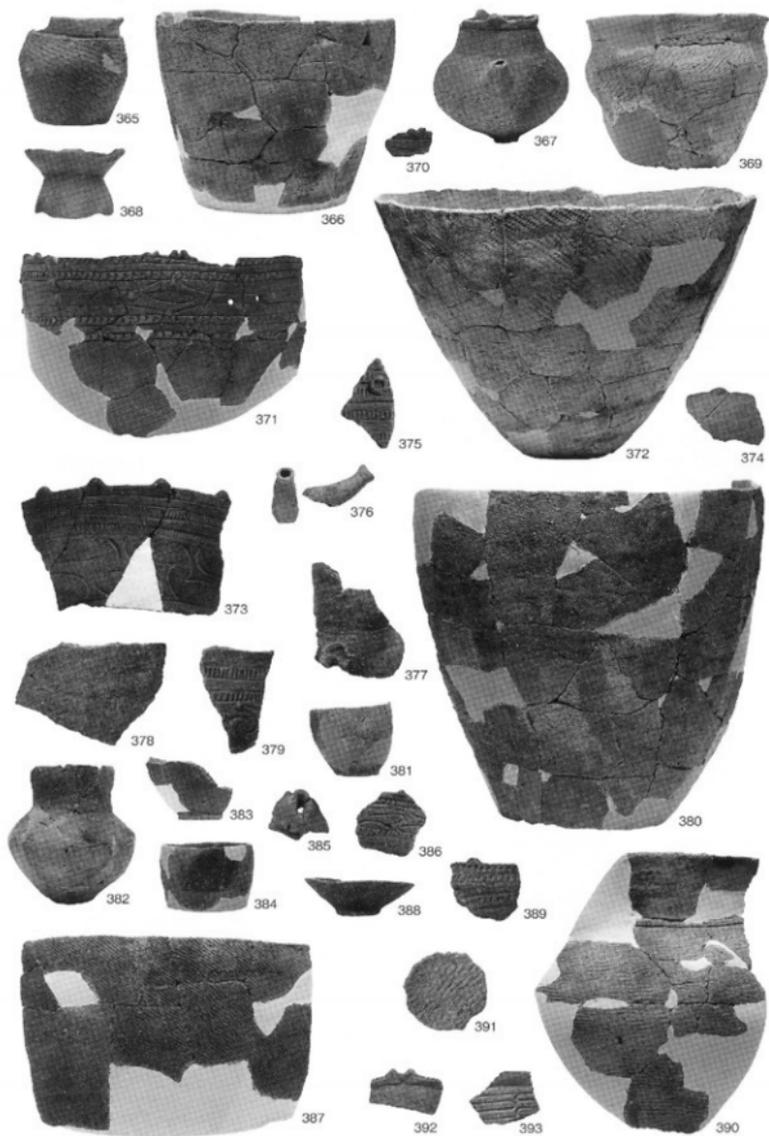
写真図版49 土器・土製品(8)



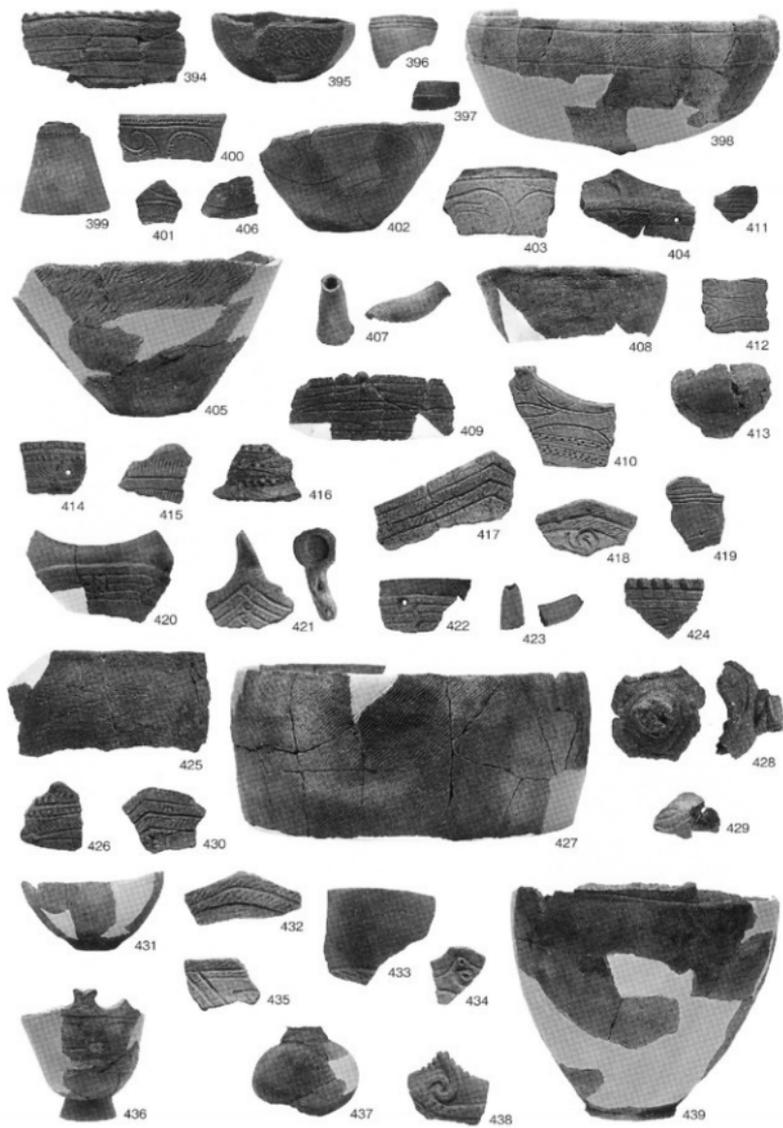
写真図版50 土器・土製品(9)



写真図版51 土器・土製品 (10)



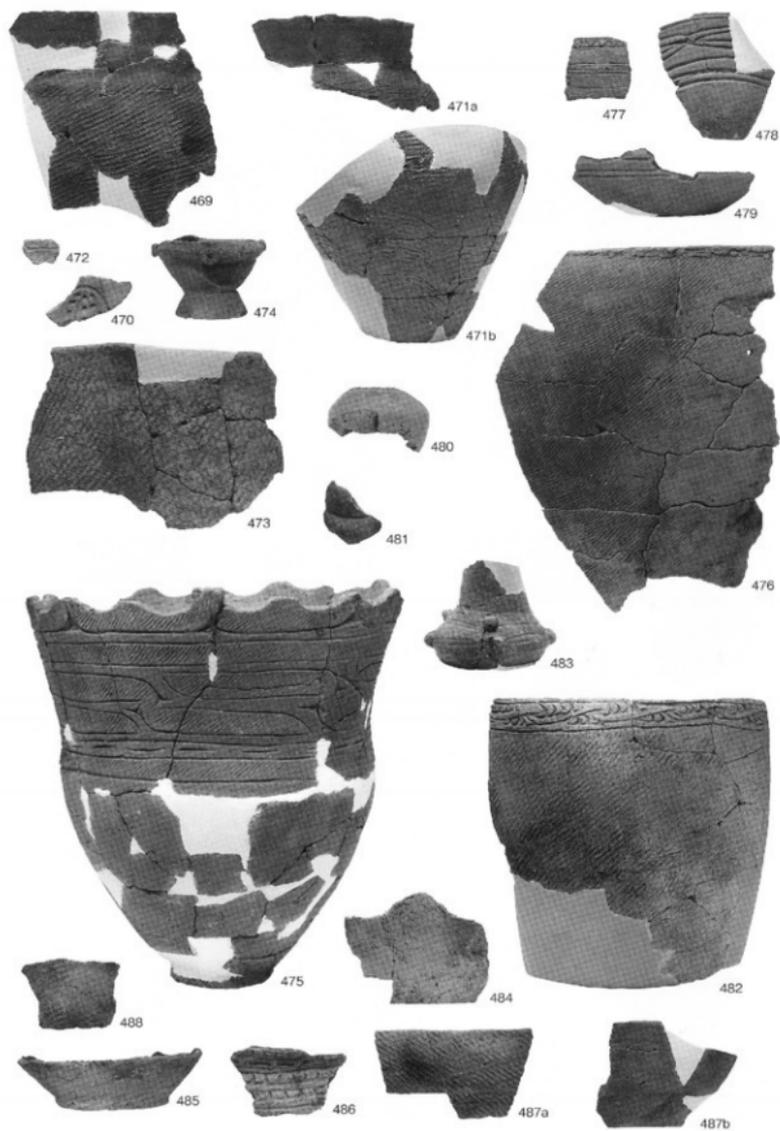
写真図版52 土器・土製品 (11)



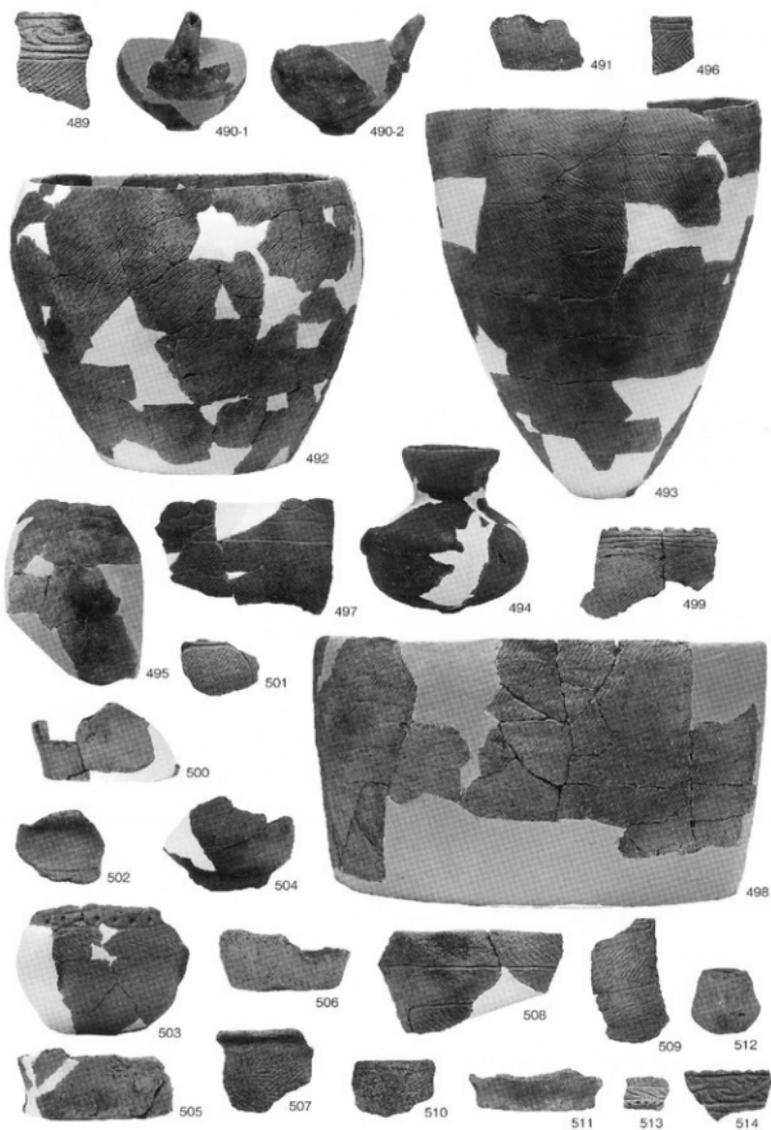
写真図版53 土器・土製品 (12)



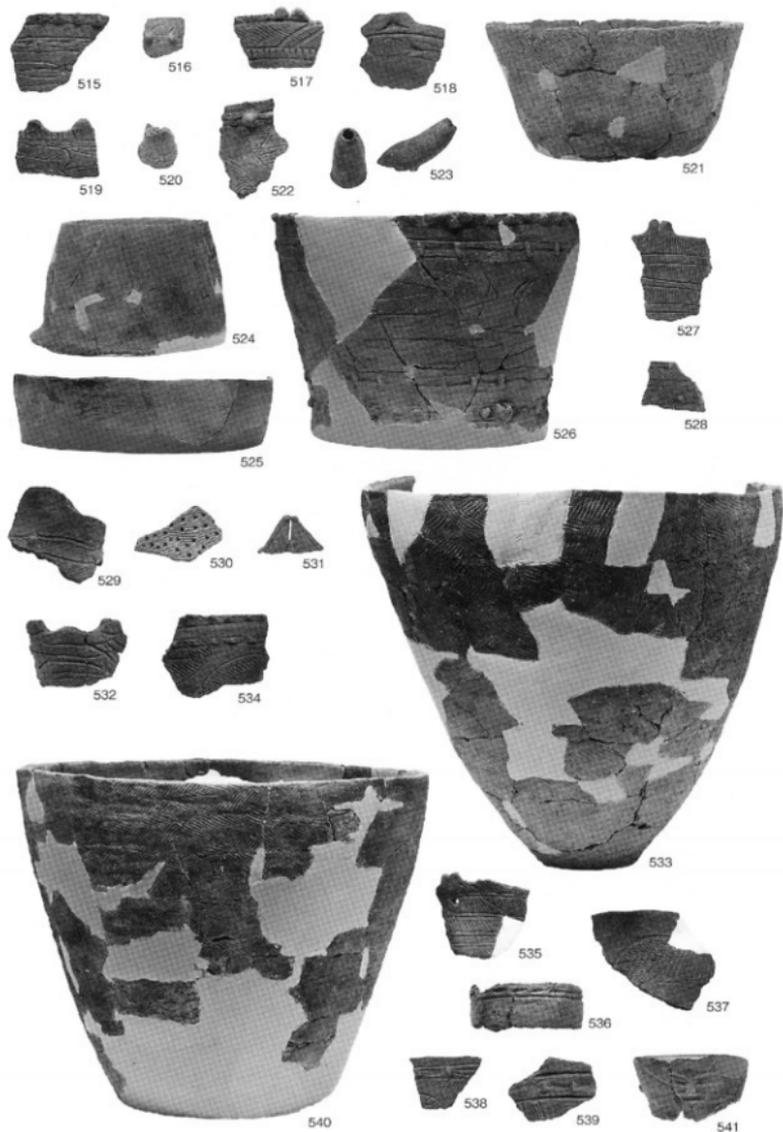
写真図版54 土器・土製品 (13)



写真図版55 土器・土製品 (14)



写真図版56 土器・土製品 (15)

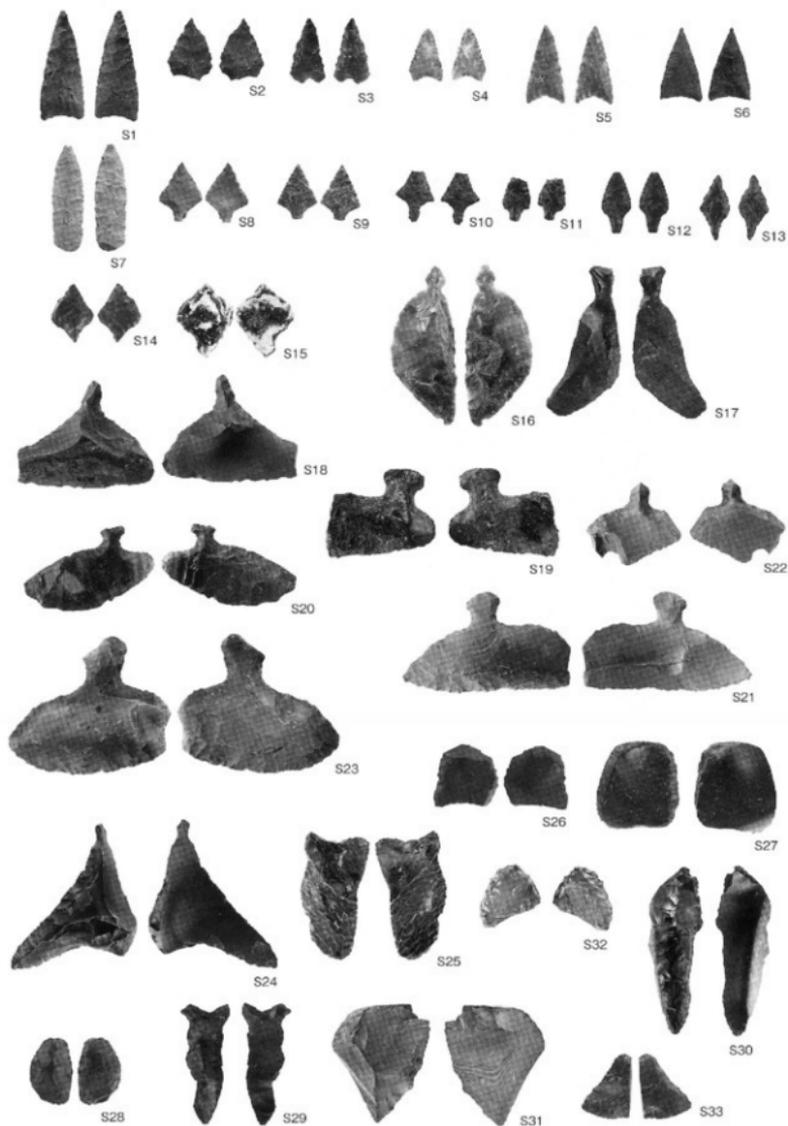


写真図版57 土器・土製品 (16)



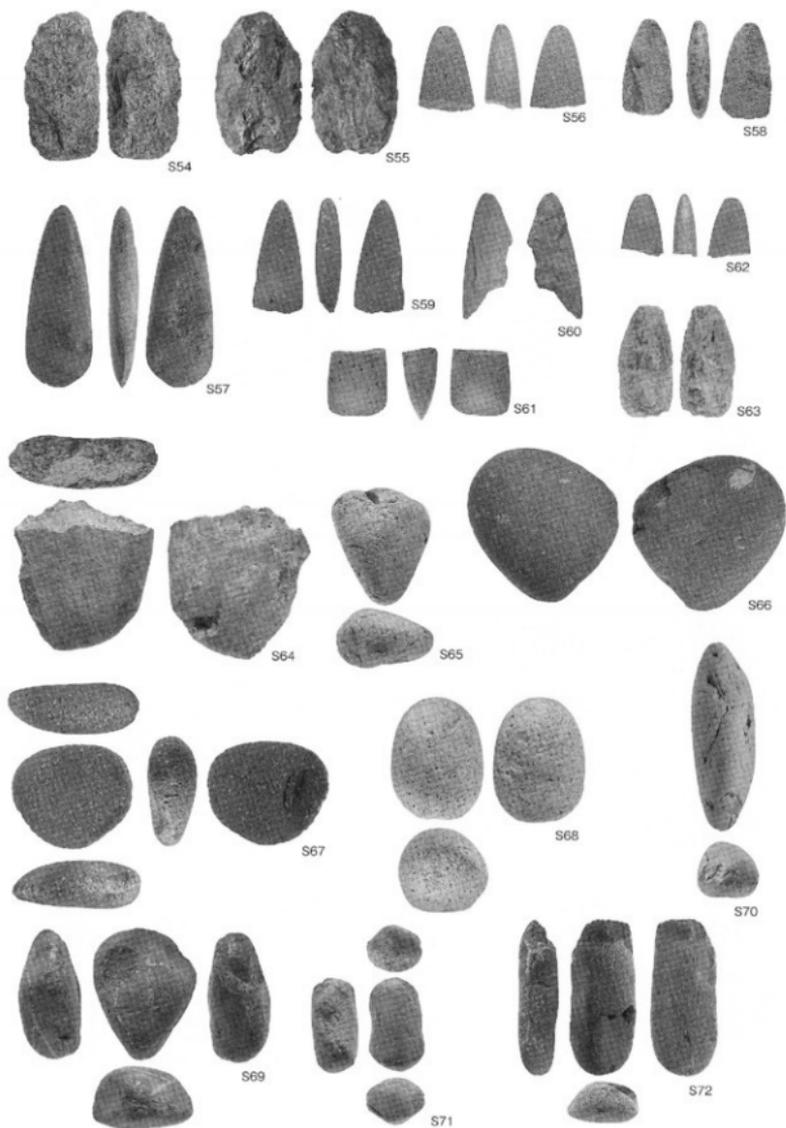
写真図版58 土器・土製品 (17)





写真図版60 石器 (1)





写真図版62 石器 (3)



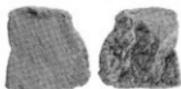
写真図版63 石器(4)



S90



S91



S92



S93



S94



S95



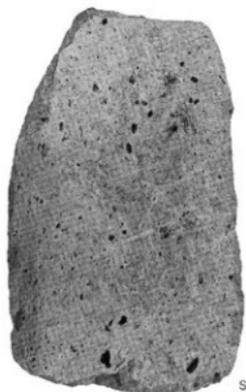
S96



S97



S98



S99



S100



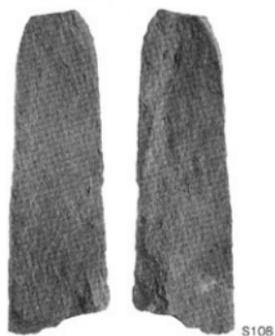
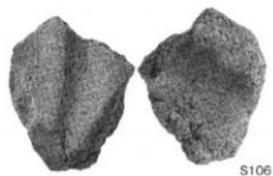
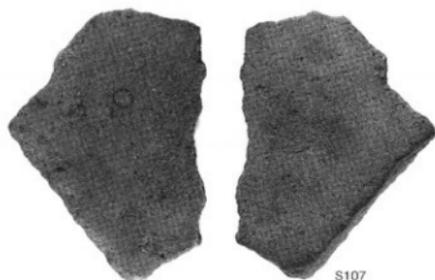
S103



S101



S102



報告書抄録

ふりがな	こやのいせきはくつちようさほうこくしょ							
書名	小屋野遺跡発掘調査報告書							
副書名	築川ダム建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第596集							
編著者名	濱田 宏・丸山浩治・丸山直美							
編集機関	(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2012年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
小屋野遺跡	岩手県盛岡市川目 第5地割122-82ほか	03201	LE28-0263	39度 40分 12秒	141度 14分 00秒	2009.08.03 ～ 2009.11.13 2010.07.20 ～ 2010.11.17	2,780㎡ 6,030㎡	築川ダム建設 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
小屋野遺跡	集落跡	縄文・ 弥生時代	竪穴住居跡 土器埋設遺構 土坑・陥し穴 焼土・か跡・炭化物集中 集石 柱穴状土坑	9棟 2基 60基 44基 5基 91個	縄文土器 土製品 石器 石製品 弥生土器			
		中世以降	カマド状遺構 小溝 溝	6基 1箇所 5条	鉄製品			
要約	遺跡は、築川左岸の河岸段丘上および丘陵から延びる小さな扇状地内に立地する。調査の結果、調査区中央部にある浅い埋没沢を挟み西側には縄文時代晩期中葉の、東側には後期前葉から後葉の集落が展開することが判明した。前者の集落は小規模であるが、後者は後期に所属する遺構間の重複が多くみられる。遺跡の西方約2kmにある当該期の祭祀遺跡である川目A遺跡との関連が窺われる。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第596集

小屋野遺跡発掘調査報告書

築川ダム建設事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成24年3月9日

発行 平成24年3月15日

編集 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019) 638-9001

発行 岩手県盛岡広域振興局土木部築川ダム建設事務所
〒020-0817 岩手県盛岡市東中野字沢田94番1号
電話 (019) 652-8821

(公財) 岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019) 654-2235

印刷 川口印刷工業株式会社
〒020-0841 盛岡市羽場10-1-2
電話 (019) 632-2211

